

平成24年度

生涯学習調査研究事業

『「無縁社会に立ち向かう」

新たな社会貢献の仕組みづくり』

についての調査研究報告書

茨城県水戸生涯学習センター

人と人とのきずなに支えられた地域社会の実現をめざして

東日本大震災を経験した私たちは、この未曾有の事態から様々な事を学びました。不安の中から人と人が手をつなぎ、励まし合いながら一步一步、歩み出しました。

震災から2年が経過し、ライフラインの復旧等、復興が少しずつではありますが、目に見えてきました。しかし、地域社会という視点で見ると、人と人とのつながりは震災以前のものとは比べ、依然として希薄な状態であるとか、或いは「ささえあい社会」が崩壊しているということが今なお叫ばれています。

これらを踏まえ、研究2年目となる今年度は、きずなで結ばれ、助け合い・ささえ合いが確立された、住民が主体となる地域社会の構築をめざして、「我がまちづくりを担う人材の発掘と育成を推進する。」「誰もが相互に人格と個性を尊重し合える地域社会をつくる。」「子育て支援や青少年教育を推進するまちづくりを推進する。」「地域を豊かにする共同の意識をもち、社会貢献を身近なものにしていく。」という4つの側面を意識しながら取り組むことにしました。

県内4つのセンターにおいては、「中間支援組織」として、それらの地域課題を地域住民の手で解決していけるように、リーダーとなる“人”を発掘し、育成していくプログラムを展開してまいりました。現在地域社会の課題に取り組んでいる方々が、このモデルプログラムを地域の実態に合わせてアレンジして活用していただくことにより、それぞれの地域における、人と人とのつながりが強くなり、「ささえあい社会」に少しでも近づくものと期待しております。

最後になりましたが、本調査研究の実施にあたりましてご協力いただきました茨城大学准教授長谷川幸介先生をはじめ、調査研究・モデルプログラム開発・実践に尽力されました生涯学習調査研究委員の皆様、モデルプログラム（各センター版）実践のためにご協力いただきました市町村職員やNPO法人等の合同協議会参加の皆様、議事録の作成や調査集計にご協力をいただきました水戸生涯学習センター施設ボランティアの皆様、そして、調査対象者としてご回答いただいた数多くの県民の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成25年3月

茨城県水戸生涯学習センター所長 高野 茂

平成24年度 生涯学習調査研究事業

『「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくり』についての調査研究報告書

1 事業概要

急激な社会の変化により、地域社会の構造が崩れ「無縁社会」と呼ばれる現象が発生している。社会教育の側面から、この「無縁社会に立ち向かう」ための新しい仕組みづくりを進める必要性を感じた。この課題の解決には、人づくりが必要不可欠であると考え、人材の発掘と育成をキーワードに本事業を進めている。本年度は3年計画の2年目である。

1年目は、茨城県水戸生涯学習センターが、人間関係が希薄になった地域コミュニティの補強と再生(人材の発掘と育成)に取り組むためのモデルプログラムを開発し、県内の4生涯学習センターにそのプログラムを展開した。

2年目である今年度は、県内の4生涯学習センターが中間支援組織となり、地域の特色にあったプログラムを推進する。また、発掘・育成した人材(団体)を支援していくとともに、実践したプログラムを他の地域に広め、人材の発掘と育成のスキルが広範囲に広がり、相互に連携し合いながらプログラムがより高次なものになるように働きかけていく。さらに、地域コミュニティの補強と再生(人材の発掘と育成)と、プログラムの進捗との相関を計るために、「活動人口」を算出し調査研究する。

(1) 研究の経過

ア 水戸生涯学習センターの実践

(ア) H23年度

各センターを対象に、新たな社会貢献の仕組みづくりのためのモデルプログラムを実践する。(モデルプログラム(県域版)の実践)

(イ) H24年度

各センター区の地域の特色にあったモデルプログラムのスムーズな推進のために、実行委員等のメンバーとなり、共に実践しながら各種課題に対応していく。(モデルプログラム(各センター版)への支援)

(ウ) H25年度

各センター区でまちづくりを推進している人材(第3次団体)を支援をしている各センターを、アドバイザーとして支援する。(モデルプログラム(コミュニティ版)への支援)

イ 県内4生涯学習センターの実践

(ア) H23年度

水戸生涯学習センターで、人づくりやまちづくりのためのプログラムを学び、モデルプログラム(各センター版)を開発する。(モデルプログラム(県域版)の実践と(各センター版)の開発)

(イ) H24年度

各センター区で、地域の特色にあったプログラムを推進し人材の発掘と育成を実践する。さらに、モデルプログラム(コミュニティ版)を開発する。(モデルプログラム(各センター版)の実践と(コミュニティ版)の開発)

(ウ) H25年度

モデルプログラム（各センター版）の実践の成果（人材の育成）を生かして、モデルプログラム（コミュニティー版）を実践するとともに、他地域への事業の拡大を図る。

a モデルプログラム（コミュニティー版）

(a) 鹿行生涯学習センター

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティーづくり」
～人・地域が輝く！！学校支援ボランティア～

(b) 県南生涯学習センター

土浦力をダス！～人がつながるまちづくり講座～

(c) 県西生涯学習センター

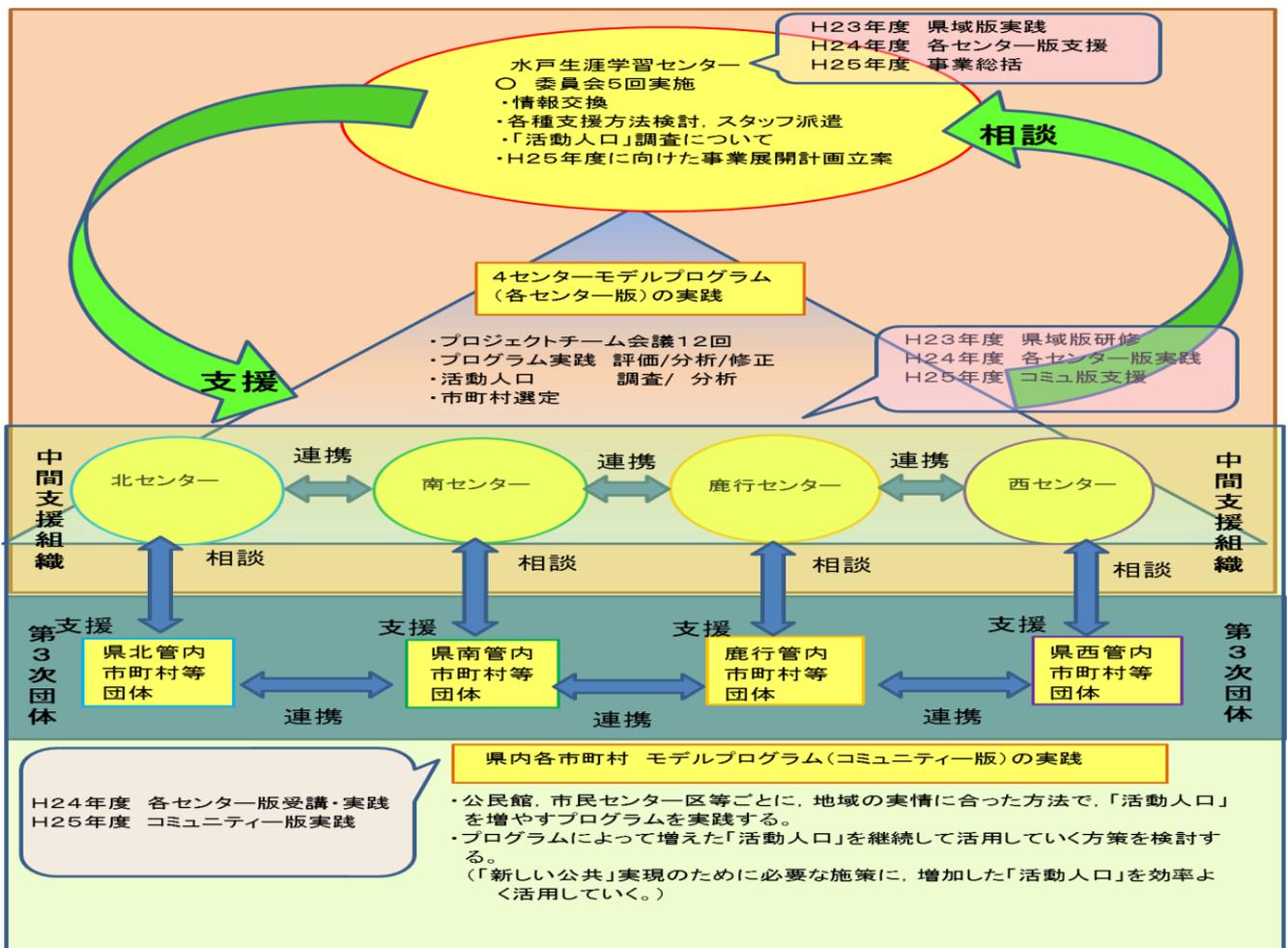
ふる里まちづくり塾

(d) 県北生涯学習センター

「コミュニティーを考える 城の丘のつながりを深めよう」

(2) 「活動人口」調査

ひとづくりやまちづくりを効果的に実践するために「活動人口」について調査・研究を実践した。



2 モデルプログラム（各センター版）の実践

(1) 鹿行生涯学習センター

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」

ア 目的

豊かな子育てコミュニティをめざし、地域の世代間交流や協働の心を深めることで、時代に合った深い絆の形成を図る。

イ 内容

学校の統廃合が計画されている地域で、子育て世代を対象に、新しい校区のネットワークづくりや家庭教育に関する支援について考える講座。

(ア) 講座・・・10回

(イ) 対象・・・旧麻生第一中学校区の保護者・地域の女性会等

(2) 県南生涯学習センターのモデルプログラム（各センター版）

土浦力をダス！～人がつながるまちづくり講座～

ア 目的

地域で生活する全ての人に居場所があり、人の役に立つ喜びが味わえる社会の構築をめざし、無縁社会に立ち向かうための地域力を育成する。

イ 内容

土浦に住んでいるが、土浦のことをよく知らない。土浦を元気にしたいけれど方法が分からない。仲間をつくりたいけれどきっかけがない。という方を対象に土浦のことを考える講座。

(ア) 講座・・・6回

(イ) 対象・・・土浦市周辺居住者

(3) 県西生涯学習センターのモデルプログラム（各センター版）

ふる里まちづくり塾

ア 目的

地域に新たな人と人とのつながりを実現するために、自分たちの居住する地域の歴史、自然、風土を学び、地域に貢献した先人の足跡をたどることによって、地域（郷土）に対する愛情と誇りを持つと同時に、事業をとおして人的つながりを深め、人材育成を図る。

イ 内容

三世代が共に活動することをキーワードに、地域を知り、地域の人と人とがつながり、コミュニティをリードする人材の育成を考える講座。

(ア) 講座・・・11回

(イ) 対象・・・筑西市太田地区居住者

(4) 県北生涯学習センターのモデルプログラム（各センター版）

コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう

ア 目的

大規模住宅団地である「城の丘団地」で、住民自らが地域に眠っている人材や資源を発掘し、地域の課題を解決する能力を高めるためのプログラム。

イ 内容

「城の丘団地」は、居住歴の浅い住民が多いため、住民同士の関係が希薄である。将来の高齢化対策や子育てに関する情報交換等、交流と助け合いのニーズは高い。そこで住民自治を強化するために、地域住民の意識の向上を図る講座。

(ア) ワークショップ・・・8回

(イ) 対象・・・城の丘団地住民

(5) 「活動人口」調査について

コミュニティでの活動状況を調査し、人と人とのつながりの状態を数値化することを試みた。

ア 「活動人口」の定義

「活動人口」を「みんなが元気になれるつながり力」と定義し、強さ弱さを表す。人々が日々の生活において、家族や地域、職場等において活動した回数を数値化して、固定化した定住人口と比較することにより、定住人口の多少に関係なく、「その地域の人々がどの程度元気に活動（生活）しているか」や「その地域の人々のつながり力の程度」を明らかにする。

イ 「活動人口」の積算の仕方

全回答者の活動頻度素数の合計		
「活動人口」 =	_____	× 定住人口
	回答者数	

※「定住人口」は、調査する地域の20歳以上の人口とする

(平成22年度国税調査による)。

※「活動頻度素数」は、「よく活動した」を2点、「活動した」を1点、「活動しなかった」を0点として、定住人口「1人」あたりの各活動項目（家庭や地域等での支えあい活動等）ごとの点数を合計したもの。定住人口「1人」に対し、「どの程度の頻度で活動しているか」を素点として表す。

ウ 「活動人口」調査を終えて

活動人口は「家族や親戚に関わることを中心に展開している傾向がある。これは血縁をベースにしたつながりを基本に生活をしている人の割合が多いということを表していると言える。また、「地域・まちづくり活動」については、職場の仲間や地域の方々と取り組んでいる様子もうかがえる。「非常災害時の協力や支援」や「高齢者や障がい者支援」に関わる事に関しては、家族や親戚の枠内に留まり、地域が主体となって活動するには至っていないと思われる。これらの傾向を把握し、モデルプログラムの展開に生かしていきたい。

3 今後の事業展開

- (1) モデルプログラム（コミュニティ版）の推進
- (2) センター間での情報の共有化を推進
- (3) 第3次団体への支援
- (4) 「活動人口」調査研究の継続展開
- (5) 新たな社会貢献の仕組みづくりの展開

生涯学習調査研究委員会の委員構成

委員長	長谷川幸介	茨城大学准教授
委員	小林 長正	水戸市生涯学習課みと好文カレッジ所長
	小野瀬武康	NGO茨城の会事務局長
	増田 雅一	茨城県立水戸南高等学校教頭
	永井 泰子	茨城県県北生涯学習センター事業グループリーダー
	佐藤 利枝	茨城県県北生涯学習センターボランティアコーディネーター
	大和田政博	茨城県鹿行生涯学習センター社会教育主事
	風間奈保美	茨城県鹿行生涯学習センター生涯学習ボランティアコーディネーター
	松岡 祐美	茨城県県南生涯学習センター社会教育推進委員
	片山 妙子	茨城県県南生涯学習センター社会教育推進委員
	安達 利明	茨城県県西生涯学習センター生涯学習指導相談員
	稲葉かおり	茨城県県西生涯学習センター事業担当
	赤津 剛義	茨城県水戸生涯学習センター施設ボランティア
	澤田紀代子	茨城県水戸生涯学習センター施設ボランティア
	平塚 寿夫	茨城県水戸生涯学習センター企画振興課長
	篠崎 昌子	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	熊谷 智仁	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	田山 善堂	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	寺門 義典	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	伊藤まゆみ	茨城県水戸生涯学習センター生涯学習推進員

平成24年度 生涯学習調査研究事業

「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくり

についての調査研究報告書

平成25年3月発行

編集・発行 茨城県水戸生涯学習センター

〒310-0011

茨城県水戸市三の丸1-5-38（茨城県三の丸庁舎3F）

TEL 029-228-1313

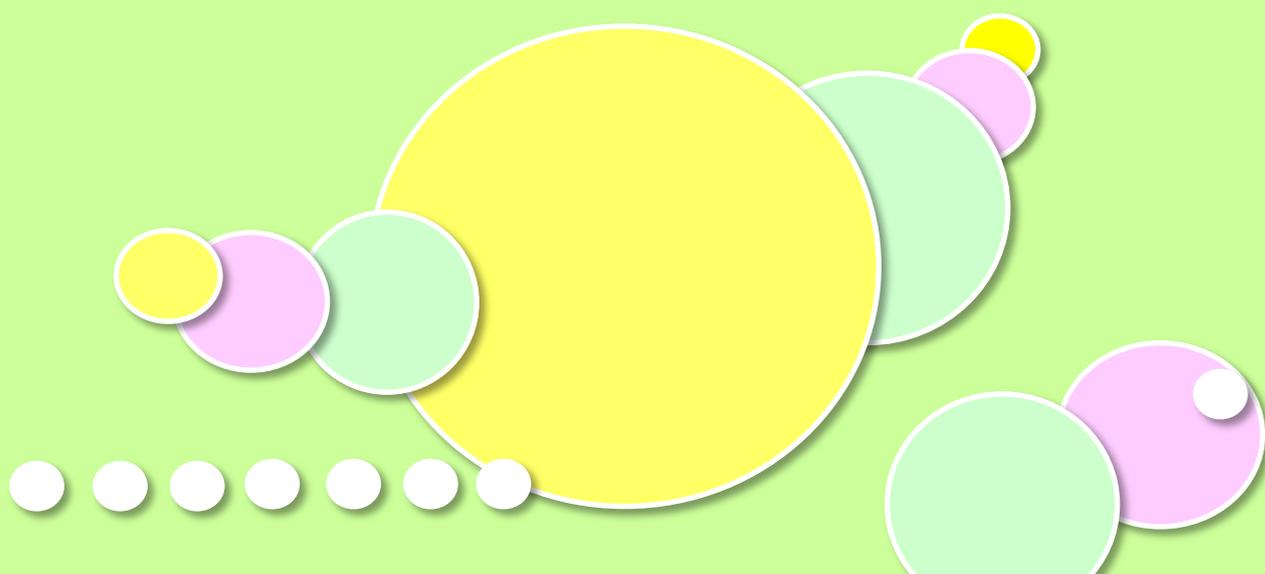
FAX 029-228-1633

URL <http://www.mito.gakusyu.ibk.ed.jp/>

E-mail gakusyu@gakusyu.ibaraki.ed.jp

平成24年度

生涯学習調査研究事業



『「無縁社会に立ち向かう」

新たな社会貢献の仕組みづくり』

についての調査研究実践事例報告書



茨城県水戸生涯学習センター

人と人とのきずなに支えられた地域社会の実現をめざして

東日本大震災を経験した私たちは、この未曾有の事態から様々な事を学びました。不安の中から人と人が手をつなぎ、励まし合いながら一步一步、歩み出しました。

震災から2年が経過し、ライフラインの復旧等、復興が少しずつではありますが、目に見えてきました。しかし、地域社会という視点で見ると、人と人とのつながりは震災以前のものとは比べ、依然として希薄な状態であるとか、或いは「ささえあい社会」が崩壊しているということが今なお叫ばれています。

これらを踏まえ、研究2年目となる今年度は、きずなで結ばれ、助け合い・ささえ合いが確立された、住民が主体となる地域社会の構築をめざして、「我がまちづくりを担う人材の発掘と育成を推進する。」「誰もが相互に人格と個性を尊重し合える地域社会をつくる。」「子育て支援や青少年教育を推進するまちづくりを推進する。」「地域を豊かにする共同の意識をもち、社会貢献を身近なものにしていく。」という4つの側面を意識しながら取り組むことにしました。

県内4つのセンターにおいては、「中間支援組織」として、それらの地域課題を地域住民の手で解決していけるように、リーダーとなる“人”を発掘し、育成していくプログラムを展開してまいりました。現在地域社会の課題に取り組んでいる方々が、このモデルプログラムを地域の実態に合わせてアレンジして活用していただくことにより、それぞれの地域における、人と人とのつながりが強くなり、「ささえあい社会」に少しでも近づくものと期待しております。

最後になりましたが、本調査研究の実施にあたりましてご協力いただきました茨城大学准教授長谷川幸介先生をはじめ、調査研究・モデルプログラム開発・実践に尽力されました生涯学習調査研究委員の皆様、モデルプログラム（各センター版）実践のためにご協力いただきました市町村職員やNPO法人等の合同協議会参加の皆様、議事録の作成や調査集計にご協力をいただきました水戸生涯学習センター施設ボランティアの皆様、そして、調査対象者としてご回答いただいた数多くの県民の皆様にご心より御礼申し上げます。

平成25年3月

茨城県水戸生涯学習センター所長 高野 茂

目 次

第 1 部 平成 2 4 年度調査研究事業の概要

第 1 章 調査研究の概要

- 1 調査研究のテーマ 1
- 2 調査研究のテーマ設定の理由 1
- 3 調査研究への期待 1

第 2 章 調査研究の方法

- 1 調査研究の方法 1
- 2 事業評価の方法 4
- 3 調査研究事業計画 5

第 2 部 社会貢献活動を担う人材の発掘・育成モデルプログラム（各センター版）の展開

第 3 章 モデルプログラム（各センター版）の概要

- 1 水戸生涯学習センターの実践 6
- 2 県内 4 生涯学習センターの実践 1 1
 - (1) 鹿行生涯学習センター 1 1
 - (2) 県南生涯学習センター 1 8
 - (3) 県西生涯学習センター 3 5
 - (4) 県北生涯学習センター 4 9

第3部 調査研究の結果と今後の展開

第4章 各センターのモデルプログラム（コミュニティ版概要）

- 1 鹿行生涯学習センターモデルプログラム・・・・・・・・・・ 60
- 2 県南生涯学習センターモデルプログラム・・・・・・・・・・ 62
- 3 県西生涯学習センターモデルプログラム・・・・・・・・・・ 63
- 4 県北生涯学習センターモデルプログラム・・・・・・・・・・ 64

第5章 「活動人口」調査の結果と考察・・・・・・・・・・ 65

- 1 「活動人口」の定義・・・・・・・・・・ 65
- 2 調査の実施経過・・・・・・・・・・ 65
- 3 調査結果と分析・・・・・・・・・・ 66
- 4 考察・・・・・・・・・・ 115
- 5 資料・・・・・・・・・・ 122

第6章 今後の展開

- 1 モデルプログラム（コミュニティ版）の展開・・・・・・・・・・ 128
- 2 「活動人口」調査研究の展開・・・・・・・・・・ 128
- 3 新たな社会貢献の仕組みづくりの展開・・・・・・・・・・ 128

第1部 平成24年度調査研究事業の概要

第1章 調査研究の概要

1 調査研究のテーマ

人と人とのつながりが希薄になったコミュニティの補強と再生のために、人づくりやまちづくりを通して「無縁社会に立ち向かう」ための新しい仕組みを、県内5つのセンターが開発し推進する。

2 調査研究のテーマ設定の理由

現代の日本は、民主化、都市化、少子高齢化という戦後日本の社会が抱えてきた社会問題に加えて、少子高齢化問題から派生した「無縁社会」という新しい社会問題に直面している。

人間関係の希薄化が進んだことによる新しい社会問題で、一部マスコミ等でも紹介された「孤独死」「無縁仏」の問題ばかりでなく、若者の引きこもりや独居老人の増加、幼児虐待や社会的サービスの受けられない人々の増加等、過疎化が進んだ地域ばかりでなく、定住人口の多い都市部でも大きな問題と捉えられている。

さらに「3.11東日本大震災」による、人々の「絆」への回帰は、被災した方々も含め、日本人全ての人々の心を揺さぶり、「縁」の見直しや「ボランティア活動」の参加へとつながり、大きなうねりとなって私たちに問題提起をしてきた。

そこで、今までも幾多の社会問題に立ち向かってきた社会教育が、この「無縁社会」にいかによれば立ち向かえるかを「人と地域」に着目して調査研究するために本テーマを設定した。

3 調査研究への期待

「無縁社会」に立ち向かうためには、人や地域を知り、地域に合った意図的・計画的な取り組みを推進していく。さらに、効果的な社会教育プログラムを開発し実践することで刻々と変化する社会の課題に対応していく必要がある。

その意味で、地域のつながりづくりに貢献する人材を育成するプログラムを、県内4センターにおいて展開することにより、地域の特性に合った「無縁社会」に立ち向かうことのできる人材が育成され、ネットワークの構築がされることが考えられる。

併せて、人材育成の指標として「活動人口」が算出できれば、地域のつながり力を探ることや、その担い手が育成される過程が把握でき、今後様々な社会教育の場面で活用できると期待される。

第2章 調査研究の方法

1 調査研究の方法

(1) 水戸センターの調査研究

ア 調査研究委員会及び合同研修会を開催する。対象者は、学識経験者及び県内4センター担当職員を委員に委嘱する。また、モデルプログラム(コ

- コミュニティー版)の展開に期待できる市町村やNPO法人等の団体を第3次団体とし会議に召集する。
- イ モデルプログラム(各センター版)の事業評価をOJTで作成し、各センター間で情報連携できるようにする。
- ウ 平成25年度に各センター管内の第3次団体がモデルプログラム(コミュニティー版)が展開できるように支援する。
- エ 平成24年度生涯学習調査研究事業を総括し、報告書を作成する。
- オ 「無縁社会に立ち向かう」ためには、人材の育成とネットワークの構築が必要不可欠であり、『活動人口』指標の算出が事業の達成度の判断に有効に機能することを調査研究の結果から考察する。
- カ 各センターへの支援
 (ア) 各センター担当社会教育主事を選定し、各センターのプロジェクトチームのオブザーバーとして派遣する。
 (イ) 各センター担当アドバイザーを選定し、モデルプログラム(各センター版)の推進のため派遣する。
 (ウ) 各センターがモデルプログラムを展開する上で必要とされる調整を茨城県教育庁生涯学習課とともに進行。
- キ モデルプログラムの各センター版からコミュニティー版への移行のために、茨城県教育庁生涯学習課とともに調整を行う。
- ク 活動人口についての調査表を作成し、各センターに調査を依頼する。

【資料1】

事業分析シート	
作成者	
1 事業概要	
事業名 A	
事業目標 B	
事業の内容 具体的な手だて C	
2 結果(アウトプット)	
アウトプット D	例:受講者数
3 成果(アウトカム)	
内容 E	指数 H
例:意識の変容 学習内容の 理解度	例:地域の問題を解決したいと思った人の数 学習内容を理解した人の数
中間アウトカム F	例:行動の変容 仲間づくり
	例:地域の人たちとの交流が深まった人の数
G	例:自主グループ化
	例:結成された自主グループの数
最終アウトカム K	例:自主的な活動の 展開
	例:活動を始めたグループの数、人数

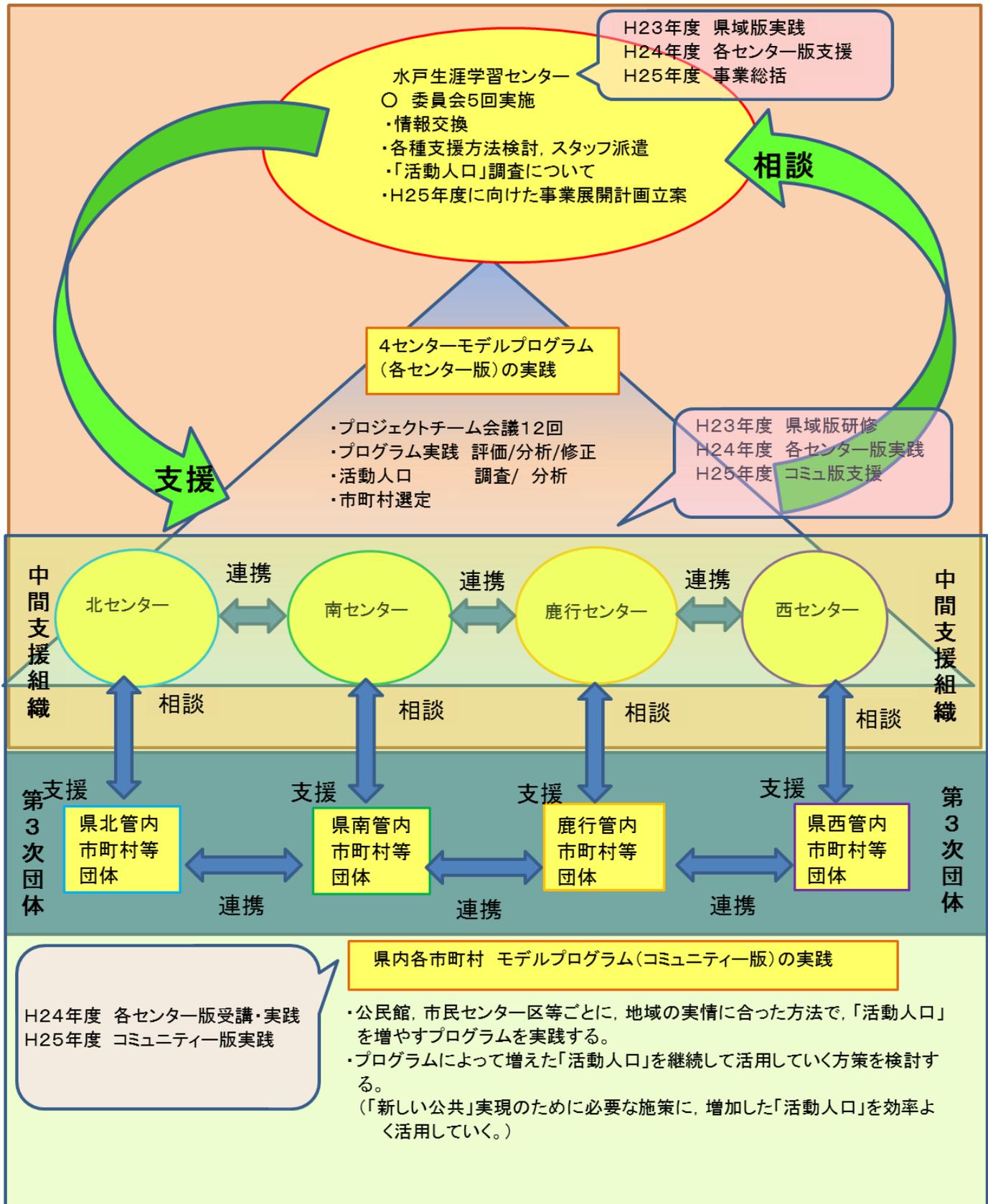
*事業目標と、中間アウトカム・最終アウトカムのリンク

【資料2】

事業評価シート Plan①		
期日	講座名	講座内容 実行(Do)①
結果(アウトプット) ※本日講座について	評価(Check)①	改善(Act)①
OJT…結果について考察(高い値、低い値それぞれについての背景等)		
成果(アウトカム)	評価(Check)①	改善(Act)①
計画(Plan)②		

事業分析シートを基に、PDCAをOJTで行う

調査研究の方法フロー



【資料3】モデルプログラム（各センター版）の事業評価について

～モデルプログラムで、地域や地域住民がもっと元気になるために～

1 事業分析シートの作成

ア 事業概要について
 (7) 事業名・・・A
 (4) 事業目標・・・B

イ 計画・予想している結果(アウトプット)について
 (7) 事業の内容, 具体的な手段(人材育成のための具体策)・・・C
 (4) 講座の開説実績(現実的な数値)・・・D

ウ 事業の成果(アウトカム)について
 (7) 中間アウトカム 内容(いくつかのステップを経てめざす姿)
 ……E, F, G ※事業目標とのリンク
 (4) 中間アウトカム 指数
 (変容の様子を見極めるための評価の観点・キーワード)・・・H, I, J
 (9) 最終アウトカム 内容(事業の目的とリンクした受講生の姿)・・・K
 (4) 最終アウトカム 指数
 (変容の結果を確認するための評価の観点・キーワード)・・・L

(2) 事業評価シートを使ったモデルプログラムの事業評価について

- ア 事業分析シートにある「中間・最終アウトカム」を意識した講座の実践 (do ①)
- イ 12回の各講座終了後ごとに、OJTを実施し評価シートを使って事業評価を実施 (check ①)
- ウ 課題の発見と対応策の検討 (act ①)
- エ 課題と対応策の反映 (plan ②)

事業評価は事業分析シートを基に行います

評価の技法には

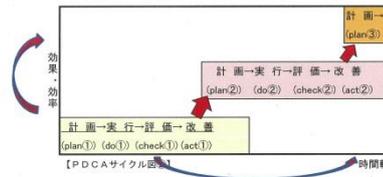
- a) 目標に対する百分率 (達成率、到達率、等)
 - b) 指数 (時系列、横断型、全体指数、等)
 - c) 効果測定 (アンケート)
 - d) 記述法 (利用者の反応等の記述)
- 等の利用があります



【資料4】



【PDCAサイクル図①】



【PDCAサイクル図②】

【用語解説】

アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> • 事業の実施によって直接的に生じる結果のこと • 例: 講座の実施回数, 講座の参加者数, 利用者数, など
アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> • アウトプットによって直接的に生じる事業の成果のこと • 例: 家庭教育講座の実施後, 受講者が家庭で子どもと会話をする時間が増えた
中間アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> • 目標状態が得られるまでの途中の段階で予想される変化や影響
最終アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> • 最終的に到達する目標状態

(2) 県内4センターの調査研究

- ア 水戸センターでの調査研究委員会に参加し、進捗状況の報告及び情報交換の実施と研修を受ける。
- イ プロジェクトチームの編成及びモデルプログラム（各センター版）を実施する。
- ウ 事業評価は委員会で示された評価シートを用いて、モデルプログラムの実践について各センター内でOJTを開催し実践する。
- エ 平成25年度モデルプログラム（コミュニティ版）を実践する第3次団体の育成及び選定をする。その方法は、各センターのプロジェクトチームにより展開されているプログラムについて分析を深め、当該管内で、どのようなプログラムを、どの団体で実施するかを検討する。併せて、どのような支援を展開するかを検討することとする。

2 事業評価の方法

プログラム計画の段階で、事業分析シートを活用し企画する。また、調査研究委員会及び合同協議会とモデルプログラム（コミュニティ版）開催後直ちに、各センターにおいてOJTを開催し、シートを用いて事業評価を実施する。

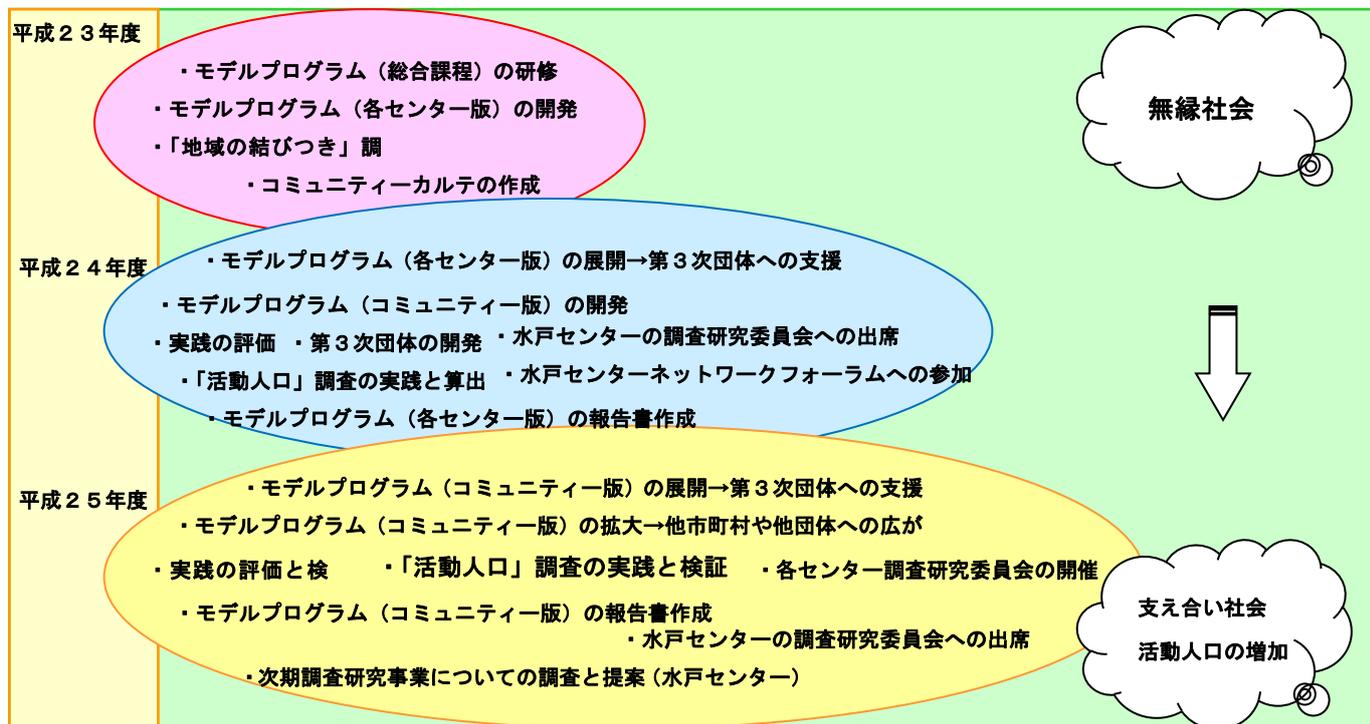
3 調査研究事業計画

3ヶ年計画ダイジェスト版

年度	県教育庁生涯学習課	水戸生涯学習センター	各生涯学習センター
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○指導・助言 ○進捗状況把握 ○広報 ○渉外 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTシートの作成とまとめ ○モデルプログラム（総合課程）の提供（10回） ●「活動人口」についての調査研究 ○フォーラムの企画・運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の成果のまとめと発信 ○ 報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様式の作成とまとめ ・ 発送 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTシートによる各センター内研修の実施 ○ モデルプログラムの受講 ○ 各センター区のプログラムを作成 ○ フォーラム運営と参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ パネラーとして各センターモデルを発表する。 ・ 運営への協力 ○報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな社会貢献の仕組みづくりについての報告書を作成する。
平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○指導・助言 ○進捗状況把握 ○広報 ○方向提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTシートの作成とまとめ ○各センターとの連絡調整 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各センター毎に担当社会教育主事を置く。 ●「活動人口」の算出についての調査・研究 ●次期生涯学習調査研究事業のための調査 ○各センターモデルプログラムの検証とまとめ ○平成25年度各センター区モデルプログラム実施団体の選定 ○報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様式の作成とまとめ ・ 発送 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTシートによる各センター内研修の実施 ○モデルプログラム（専門課程）の提供（10回） ●「活動人口」の算出についての調査・研究 ○各センターモデルプログラムの検証 ○平成25年度各センター区モデルプログラム実施団体の推薦 ○報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各センター区モデルプログラムについての報告書を作成する。
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○指導・助言 ○進捗状況把握 ○広報 ○渉外 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTシートの作成とまとめ ○「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりと人材育成の検証 ○モデルプログラム検証とまとめ ●「活動人口」についての提言をまとめる。 ○フォーラムの企画と運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の成果のまとめと発信 ○報告書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様式の作成とまとめ ・ 発送 ○ 次期事業について提案 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTシートによる各センター内研修の実施 ○「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりと人材育成の検証 ○モデルプログラム実施団体との連絡調整 ○モデルプログラムの検証 ●「活動人口」の算出データについて検証をまとめる。 ○フォーラム運営と参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営への協力 ○「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりと人材育成についての報告書をまとめる。

OJTとは、on-the-job training の略 職務遂行の課程で訓練すること。職場訓練，職場指導，職務上指導などともいう。

調査研究事業計画フロー



第2部 社会貢献活動を担う人材の発掘・育成モデルプログラム（各センター版）の展開

第3章 モデルプログラム（各センター版）の概要

1 水戸生涯学習センターの実践

(1) 調査研究委員会及び合同協議会の開催

ア 6/1, 7/25, 9/21, 11/28, 3/6月の5回開催した。
内容は、毎回モデルプログラム（各センター版）の進捗状況の報告と評価発表、次年度展開可能な第3次団体への趣旨説明を含めた広報及びスキル研修を実施した。さらに、「活動人口」調査のための研修を実施した。

イ 次年度に向けて、モデルプログラム（コミュニティー版）の広がりや定着のための研修会を実施した。

「無縁」時代のメディアとコミュニティー

～ラジオ番組の現場で得た実践知～ フリーディレクター山崎一希氏

ウ 常時プログラムについての検証を実施するために、OJTを毎回開催し、事業分析シートを用い評価を行った。



平成24年度調査研究事業実施計画 無縁社会に立ち向かう～新たな社会貢献の仕組みづくり～

茨城県水戸生涯学習センター

月日	持参物	10:00~	10:15~	11:00~	12:00~	13:00~	13:30~	15:00~	16:00~	成果
1 6/1 (金)		受付	全体協議 県生涯学習課長挨拶 水戸生涯学習センター所長挨拶 参加者自己紹介 委員会組織	協議Ⅰ 「活動人口」について 【講師】 茨城大学 准教授 長谷川幸介氏 【パネラー】 水戸生涯学習センター 企画課 課長 平塚寿夫	昼食・休憩	事業の概要説明 3年間を見通した事業説明	情報交換 ・モデルプログラム(各センター版)報告 ・モデルプログラム(各センター版)の概要 ・各センターのプロジェクトチーム組織 ・プログラムの進捗報告 ・質疑 ・助言	協議Ⅱ 評価表作成・活用について ワークショップ	諸連絡 本日のふりかえりと今後の展開を練る	成果 ・各センターの進捗状況の把握。 ・H25～26年度に向けた、事業ビジョンの把握。
2 7/25 (水)	事業進捗状況 事業評価表 (OJTシート)	受付	講話 「無縁」時代のメディアとコミュニティ～ラジオ番組の現場で得た実践知～ 【講師】 フリーディレクター 山崎一希氏	協議 ●H24年度の事業展開の概要説明 ●H25年度以降の事業展開の構想について説明・協議 【発表者】 県生涯学習課主任社会教育主事 長谷川幸介氏 水戸生涯学習センター担当社会教育主事	12:00~	13:00~	14:00~	16:00~	成果	
3 9/21 (金)	事業評価表 (OJTシート) 事業進捗状況	受付	協議 ●H24年度の事業展開の概要説明 ●H25年度以降の事業展開の構想について説明・協議 【発表者】 県生涯学習課主任社会教育主事 長谷川幸介氏 水戸生涯学習センター担当社会教育主事	情報交換 ●モデルプログラム(各センター版)報告 ●モデルプログラム進捗報告 ●モデルプログラム進捗報告 ●事業評価表を使った報告 ※質疑を含めフリー形式であるが、各センター担当者をパネリストにし、パネリスト、アドバイザーを助言者として設置する。 ※各センターごとに、そのセンター職員と県生涯学習課及び水戸生涯学習センター担当社会教育主事、センター管内団体で情報交換する。	12:00~	13:00~	15:00~	16:00~	成果	
4 11/28 (水)				事業評価表 (OJTシート) 事業進捗状況 モデルプログラム(コミュニティ版)(案)	13:15~	13:30~	16:00~	成果		
5 3/6 (水)				H25年度 モデルプログラム(コミュニティ版)プレゼン	13:30~	14:00~	16:00~	16:30~	成果	

事業分析シート		作成者	山田善堂
1 事業概要			
事業名	生涯学習調査研究事業		
事業目標	急激な社会の変化に伴い、人と人のつながりが希薄化し、互いに支え合うことができる社会が求められている。無縁社会が広がっているという現実がある。この課題に対応するためには、住民の社会貢献への意識を高めていくことが求められる。つまり、社会貢献の新しい仕組みづくりについて考えていかなければならぬ。そこで、水戸生涯学習センターは生涯学習課とともに、県内4生涯学習センターに「理解・協力」を求めながら、プログラム開発・実施・支援を展開する。また、「地域の人が元気になるつながり」を数値で表す「活動人口」調査を行う。さらに、開発したプログラムを小学校低学年の範囲で展開できるように広げていくことを目的とする。		
事業の内容 具体的な手立て	水戸生涯学習センター 【活動人口調査】 【モデルプログラム(コミュニティ版)】 【モデルプログラム(コミュニティ版)】	県内4生涯学習センター 【活動人口調査】 【モデルプログラム(コミュニティ版)】 【モデルプログラム(コミュニティ版)】	県立実践校(自治体・NPO等) 【活動人口調査】 【モデルプログラム(コミュニティ版)】 【モデルプログラム(コミュニティ版)】
2 予想される・期待される結果(アウトプット)			
アウトプット	3ヶ年の継続調査研究を、水戸生涯学習センターと県生涯学習課が先導的な役割を担い、県内4生涯学習センター及びセンター管内の各種社会教育関係団体等を対象に、地域の特性に合った人材育成プログラムを開発し実施すると、新たな社会貢献を担う人材が育成され、「人と人のつながり」の力を示す活動人口が増加する。		
3 成果(アウトカム)			
中間アウトカム	内容	指標	
中間アウトカム	「無縁社会」を検討する	「無縁社会」に関する社会的背景が理解できた人の数	
	「地域を知る」手立てを習得する	「無縁社会」に立ち向かうための協力(支援)組織の存在や手法が理解できた人の数 地域との密接な関係づくりのための必要「ネットワーク分析」が理解できた人の数 「活動人口」の調査方法が理解できた人の数	
	「モデルプログラム(各センター版)」を開発する	「モデルプログラム」が開発できたセンターの数	
	「活動人口」の調査を行う	「活動人口」の定義が理解できた人の数 「活動人口」の調査方法が理解できた人の数 「活動人口」の算出方法が理解できた人の数	
	「モデルプログラム(コミュニティ版)」の実践団体を選定する	「モデルプログラム」を展開する各種社会教育関係団体等を選定できたセンターの数	
最終アウトカム	「モデルプログラム(コミュニティ版)」を開発する	「モデルプログラム」が開発できた各種社会教育関係団体等の数	
	「モデルプログラム(コミュニティ版)」を実施する	「モデルプログラム」を実施する各種社会教育関係団体等の数 や支援者の数	
	新たな社会貢献を担う人材が育成され、人と人がつながりあう力が拡大された。	「活動人口」の数	

事業評価シート		作成者	山田善堂
期日	講座名	講座内容	
6月1日	生涯学習調査研究委員会	①全体協議・委員会についてのインフォメーション ②講話「活動人口」について シンポジウム 茨城大学長谷川幸介准教授 水戸生涯学習センター平塚寿夫企画課長 ③事業概要説明 ④情報交換 ⑤事業評価についてインフォメーション ⑥本日の振り返り	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
参加者・・・24名 実施時間・・・7時間	センター管内自治体の参加率60% 自治体への事業説明が不足していた 情報交換で、各センターのプレゼンが時間オーバー	参加者を増やすため、センター管内で、興味を示している自治体部署の拡大とNPO団体への呼びかけ実施。 委員会の進行について再考する	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
全体協議	水戸生涯学習センターとしての役割と県生涯学習課との連携が、受講者(各センター)が理解できた。		
活動人口	活動人口の定義や捉え方の再提案により、さらに具体的な数値化への基礎が築かれた。 主に、市町村生涯学習課対象の事業概要説明であったが、市町村に対しては2年度以降の具体的な数値が明確でないため、積極的な参加は見えなかった。	今回をベースに、さらに具体化できるように、「アンケート調査項目」の検討や調査方法の検討の時間を設ける。 呼びかける対象を拡大する。	
事業説明	各センターは、自分のプログラムと対比しながら、意欲的にプレゼンしていた。どのセンターにも共通して、受講生の年齢に幅が広がった。	継続実施 新規受講生獲得のため、講座の構成の新たな取り組みのため、講義的なプログラムを追加する。	
事業評価	各センターとも、プログラム実施ごとに詳細な振り返りを実施していることから、新たな試みと言うよりも、今までのものをベースに落としこみ感覚が良く伝えた。理解は得られた。	各センターには実施ごとに毎回提案をお願いした。	
計画Plan	25年度実施団体を見据え、委員会参加者を構成する。プログラム参加者を増やすため若者層への働きかけができる。また、コミュニティづくりのための若者層からの定型的な内容の講話を取り入れた。プログラムとする。		

事業評価シート			作成者	田山善堂
期日	講座名	講座内容		
7月25日	生涯学習調査研究委員会	①講話「無縁」時代のメディアとコミュニティー(講師 山崎一希) ②協議「活動人口」について 調査の実態 ③情報交換「モデルプログラム」報告		
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)		
※本日講座について 参加者数・・・21名 実施時間・・・5時間	参加者21名中、市町村の参加は4人。	今後、市民協働課、NPO法人等にも参加を促す。		

成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
講話	常陸太田市からは、山崎氏を講師として招きたいとの声が出た。 若者の目線による切り口、展開、人の集め方などが聞けたのは、有意義であった。	
協議	昨年度より、調査研究についての理解が、各センターに深まっていると感じた。また、前向きに発問の項目を具体的に考え、主体的に調査研究に関わるという意欲が見られた。	今後、細かい部分(調査の流れ、ヒヤリング、等)についての説明が必要。
情報交換	それぞれのセンターの取り組み、実態(予算、市町村との関わり)なども分かり良かった。	予算委について今後の流れ(市町村との連携)実績がないと予算化できないという実情から、今後4年間のプランで考えていく必要がある。
計画 Plan	①本課から、再度事業の説明 ②活動人口調査の詰め ③情報交換(各センターと水戸センター担当の懇談を含む)・OJTにより、内容・講師の再考 ④市町村におろしていく手立て(市町村の育て方)	

事業評価シート			作成者	田山善堂
期日	講座名	講座内容		
9月28日	生涯学習調査研究委員会	①協議「研究事業の概要」茨城大学 長谷川幸介先生②協議「活動人口」について 調査方法の実態③モデルプログラムの報告情報交換「モデルプログラム」(各センター版)報告④各センター職員と水戸担当者の情報交換⑤調査研究事業についての次年度以降の構想について		
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)		
※本日講座について 参加人数・・・ 実施時間・・・		案内を出しても来ない市町村等がある。次回に向け、各センターが一掃に組む取り組みを行うように働きかける。		

OJT・・・結果について考察(高い値、低い値それぞれについての背景等)

成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
協議 研究事業の概要	事業概要が明確となる話であった。	
協議 「活動人口」について 調査方法の実態	各センターの意欲が高く、理解が得られた。 活動人口についての調査を、事業評価として生かそうという意欲の変化が見られた。 郵便の送付方法、クロス計算、などの資料が、ためになったという声が出た。	調査方法についての質問が出た場合的確に答えられるよう、活動人口について明確にしておく。
情報交換 モデルプログラム 報告	参加人数により、センターの情報交換では差が出た。	県西については、次のプログラムでリーダーを養成していく。 情報交換では、各センターが一回に集まることにより、お互いに高めあうことも目的とする。
協議 「調査研究事業」についての次年度以降の構想について	県がバックアップするということを再確認することができた。	事業をより明確にイメージするための時間を確保する。
計画 Plan	・11月28日の次の委員会で、じっしの方法を反省し、共有する。 ・案内を出した市町村等が委員会で参加するよう促す。 ・各センターの報告書のフォーマットを作成する。	

事業評価シート			作成者	田山善堂
期日	講座名	講座内容		
11月28日	生涯学習調査研究委員会	①情報交換 ○モデルプログラム(各センター版)報告 ○モデルプログラム(コミュニティ版)実施について ②茶話会 ・各の平成24年度提出用広告所について(フォーマットの提示) ・水戸のネットワーキングについて(参加確認と方法) ・本日の振り返りと今後の展開を語る		
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)		
※本日講座について 参加人数・・・ 実施時間・・・	参加人数 28名 (各センターの実践者の参加があった) ・各センターの実態発表、質疑等適切な時間配分であった。	今後も内容によって実施時間を柔軟に考えていく。		

成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
情報交換	各センターの報告では、他のセンターの取組を知る事ができたこと、そのノウハウを共有できたことが有意義であった。	次回までに、来年度の話合いが具体的に進むよう各センターに今後の展開(モデルプログラムのコミュニティ版・連携する市町村、等)を明確にすることを伝えておく。
茶話会	県北、県南生涯学習センターでは、来年度連携する担当者が参加できた。 モデルプログラム(コミュニティ版)実施についての報告では、各センターによって進捗状況の違いがあった。	連携する市町村等には、事前に連絡を取り、次回の委員会への出席を促す。
計画 Plan	3月の委員会までに、水戸センターとして来年度のビジョン(来年度の調査研究の進め方、水戸センターの各センターとの関わり方、活動人口について)を明確にしておくこと、そのビジョンを早急に各センターに伝えることで、十分な準備時間を確保できるようにしておくことが必要。	

事業評価シート			作成者	田山善堂
期日	講座名	講座内容		
3月6日	生涯学習調査研究委員会	①H25年度実施に向けて、モデルプログラム(コミュニティ版)プレゼンテーション ②協議・・・平成24年度調査研究事業報告について、平成25年度生涯学習調査研究事業概要について		
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)		
※本日講座について 参加人数・・・ 実施時間・・・	参加人数・・・25名 14:00～17:00	各センターが呼んでいる市町村が来ていない。 来年度、県西のアドバイザーについては、要確認。		

成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
H25年度実施に向けて、モデルプログラム(コミュニティ版)プレゼンテーション	各センターとも、今年度の成果と来年度の構想を発表することができた。 各センターごと、地域の実情や参加者の実態に合わせた手法でコミュニティづくりとなった。	活動人口の調査については、各センターでは変更を見るための指標とし、水戸センターは全センターの取組をアトラクションに見ることで、茨城県全体の課題を知るための指標とした。平成26年度からの調査研究に生かせるようにする。
計画 Plan	・活動人口の変化を見る(各センターごとの特徴) ・調査研究の推進に有効な組織作り	

モデルプログラム（各センター版）の展開のための研修会 資料

「無縁」時代のメディアとコミュニティ～ラジオ番組の現場で得た実践知～

「無縁社会に立ち向かう」新しい社会貢献の仕組みづくりについての調査研究

「無縁」時代のメディアとコミュニティ——ラジオ番組の現場で得た実践知
フリーディレクター 山崎 一 希

2012年7月25日 水戸生涯学習センター

1. 自己紹介

1983年 茨城県常陸大宮市出身 慶應義塾大学環境情報学部卒業
2006年 茨城放送入社

『映画鑑賞のアットマーク』『特ノ介のココロは誰か』などワイド番組のディレクター、プロデューサーのほか、ラジオドラマの脚本・演出やステージイベントのディレクションなど担当

2011年 茨城放送を退職 フリーディレクターに
あわせて茨城大学大学院に入学し、社会心理学を専門に学ぶ
【その他の活動】

路上生活者・生活困窮者の自立支援活動、県立高校の通学支援教室ボランティアスタッフ、共著書『往復書簡・学校を語りなおす—「学び、遊び、逸れていく」ために』（新耀社）



2. 茨城放送「Notes（ノーツ）」という試み

- 現在担当している茨城放送の番組「Notes（ノーツ）」
毎週土曜日1300～1800生放送
【パーソナリティ】山田タボシ（WEBディレクター）
/ ayako_HaLo（シンガー）



【アシスタント】 木村さおり

- 「参加型」の追究
・フェイスブックなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用
・参加型番組会議の開催、そこでの議論を軸を番組につけていく



1

5. リスナー主体のコミュニティが登場

- 2011年6月開催、第二回の参加型番組会議（サークルノーツ）で参加者Oさんが提案
：「リスナー主体のグループをつくって、そこで番組のことを自主的に話し合い、いろいろ活動してみたい」
⇒ その後Oさんは、実際に「フリーノーツ」という名前前でグループを発足
番組でもその動きを紹介し、メンバーが集まる
- リスナーが自主的に立ち上げたコミュニティ「フリーノーツ」
＝ 単なる「ファンクラブ」ではなく、地域メディアのプロジェクトとしての「notes」
のコンセプトに共感・賛同してくれた上で、それをどう活かすのか、というミッション
をもち、実際に行動するコミュニティ
- 印象的なエピソード：番組で紹介した風力発電施設を見学レポート

10/29 番組で神西の風力発電施設を紹介
↓
興味をもったフリーノーツメンバーが見学を希望
↓
12/31 実際に見学⇒番組で電話レポート



6. 信頼できる情報ネットワークの構築のために

- 市民活動としての「番組参加」：地域メディア活用のための実践
ボランティアな住民との協働優勢＝信頼できる情報ネットワーク
⇒ その構築のためにフェイスブックが有効だが、その使い方が重要なポイント
- notesにおけるフェイスブックの使い方
・番組パーソナリティ、制作スタッフが実名で書き込む
⇒ コミュニケーションが放送だけで完結しない
※ 他のラジオ番組のフェイスブックページとの大きな違い
・参加型番組会議で出会ったリスナーとSNS上の「友だち」になり
互いのプライベートを公開しあいがら、密なコミュニケーションを日常的におこなう
・フェイスブック上のさまざまな「グループ」に参加し、直接情報のやりとりを
おこなう

3

3. ラジオ×震災 明らかになった課題

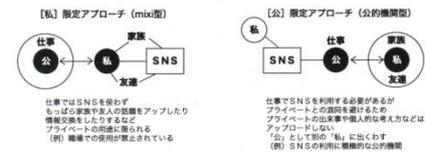
- 3.11東日本大震災 茨城放送：24時間緊急報道態勢
「走りながら考える」…今必要な情報は？パニックを起こさないか？情報はどこに？
- いくつかの課題
① 取材人員の限界：キメ細やかな地域情報を積みきれないジレンマ
災害対策本部からの情報の質・量が中町村によってバラバラ
⇒ 地域情報に偏りが生ずる「どうしてうちの地域の情報だけ流れないの？」
② 曖昧、不確実な情報の扱い方：「希望」の観測をどう伝えるか
たとえば電力会社からの停電復旧情報「〇〇地域で〇〇戸の電気が復旧しました」
⇒ 強断で欲しいのは、どこが復旧したかという完了形の情報はなく、
「うちの地域はいつ復旧するのか」という未来形の情報
↑ 「その後の不安・トラブル」考えると電力会社は出せない情報
⇒ 「希望的観測」「見通し」のような情報をどうシェアするのか？
③ ソーシャルネットワーキングの活用可能性
ツイッターやフェイスブックなどSNSに貴重な情報
⇒ これらを使える人/使えない人の間に情報格差
一方でツイッターなどで流れている情報を、クチコミや回覧板で伝える人も

4. 信頼できる住民情報ネットワークの構築

- 上記の課題にどう取り組みはいいの？＝第一回の参加型番組会議（2011.5）の議題
⇒ 各地域に住む住民が、それぞれの地域の情報を取材し、放送局がハブステーション
となって発信・共有するジョイン&シェアの住民情報ネットワークをつくるべき？
- 問題は情報の信頼性：情報発信の「素人」にどう頼る？緊急時どう組織できる？
⇒ （緊急時だけでなく）平時から地域住民情報ネットワークを構築しておく
- 参加型番組会議も重要なきっかけになり得る？
⇒ 放送局のスタッフと、住民の「代表」としての会議参加者が顔を合わせ、
情報交換できる場を積み重ねていくことで、信頼性確保のコストは低くなる

2

7. 「公」と「私」を軸としたSNSへのアプローチの違い



- SNSについてはプライベート限定での利用、あるいは仕事限定での利用…という形で
領域を区切って利用することで、「公私混同」が避けられる
cf. 機密情報の漏えい問題、仕事のストレスの解消としての利用
※ 通常、公共性の高い「放送」という現場でも、このいずれかのアプローチが
採用されている（視聴者・リスナー・ファンとは「友だち」にならない！）
- 一方 notes. の考え方は…

【公=私】 アプローチ (ハイブリック型)



マスメディアに関わる個人として地域の活動にも参加し、一方で地域の活動に関わる
個人としてマスメディアに参加する「公」としての「私」という考え方は
⇒ 「当事者性」が高まる cf. あるリスナーの「カミングアウト」

<懸念されること>

- 「公平性」は保たれるのか？ 偏向的・感情的な報道にならないか？
仕事とプライベートの区別がつかなくなり、悪化しならないか？
⇒ 21世紀の新たな「公」概念へのシフト
SNSへの登場によって、「公/私」「仕事/プライベート」という区別の
問い直しを迫られる

4

7. 密なコミュニティの排他性について～次なる展開へ

- 番組実践コミュニティの実現→見てきた「負の側面」
 - =密なコミュニティは基本的に排他的になりがち
 - ・「フリーノーツの人たちと距離を感じる」「なれあいじゃないか」という声
 - ・フリーノーツ自体もメンバー間でのすれ違い起こり、脱退するメンバーも
 - ・参加型会議「サークルノーツ」も顔ぶれが同じになってくる
- ⇒ 新たな作戦：番組に集ってもらうのではなく、人が集う場へ番組が出向く

【例1】 大子をめぐる！屋台でラジオ



一日で大子町内の3つのスポットをめぐる、それぞれの場所で開催の「屋台スタジオ」を設置。そこにいる人たちとのトークを収録、後日放送した。
(協力：大子町屋台研究会)

【例2】 サスガ☆カミスガ



フェイスブックでつながった市民有志が企画・運営する、JR上菅谷駅(郡岡市)前でのイベント。私たちもブースを出店。ここでも即興のスタジオをつくり、進行人たちと他愛もないトークをおこなった。

- 「マイク」があることで「対話」が起こる：統一的な「テーマ」はむしろ不要

8. 対話を促す象徴としてのメディア

【例3】 北茨城「あすなる集会所」座談会
地震や津波で住まいを失った人たちが移り住む雇用促進住宅。もともとあった集会所を拠点に「あすなる会」が発足。ここで座談会形式のインタビューを行った。
参加者のひとりが、「あすなる会」のようなコミュニティ活動に参加できない家族がいることを表明。テーマを設けず、ただマイクがあるという状況が、そこに参加しうる立場の幅を大きく広げる。

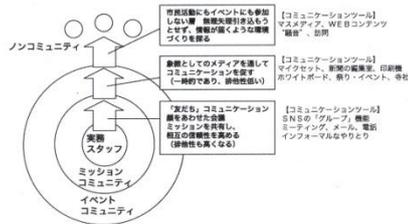
【例4】 北条街かど新聞



電巻被害を受けたつくば市北条地区に登場した「北条街かど新聞」。当時吹き出しがおこなわれていた商店街の中心地に掲示された壁新聞。編集局のメンバー曰く、「新聞そのものはどうでもいい。むしろ新聞をつくる、という場があることで地域の情報を集める動きが具体的に生まれる、それが大事」とのこと。

- ⇒ 具体的な「テーマ」や「ミッション」が先行するのではなく、「マイク」や「壁新聞をつくる場所」といった象徴的なメディアが用意されていることで、多様性をもった参加と対話が生まれる
- ※ 寺や神社のお祭りにはもともとそういう要素がある？

9. 関係のグラデーション～正しいコミュニケーションツールを選んでいるか



【コミュニティの区分とそれぞれの特徴】

コミュニティ段階	説明	notesの場合	寺社の場合
実践スタッフ	コミュニティ実践に取り組み、そのプログラムをコーディネート・運営するスタッフ	番組スタッフ パーソナリティ、ディレクター	寺社スタッフ 神職、住職など
ミッションコミュニティ	実践スタッフと密な連携をとり、スタッフとともに当事者として実践に参加するコミュニティ テーマやミッションを実践スタッフと共有しているが排他性が高い	フリーノーツ (リスナーの自主的コミュニティ)	檀家など
イベントコミュニティ	イベントや象徴的なメディアを通して生まれる一時的なコミュニティ 排他性が強く、意思さえあれば参加できる	公開収録の参加者	寺社の祭りに参加する地域の民たち
ノンコミュニティ	市民活動やイベントに参加できない「無縁」になりがち	純粋にラジオを聴いている、と想定	祭りに不参加 お喋りの音が家に漏れ聞こえる

10. 「無縁」時代のメディアとコミュニティ

- 「リア充」という言葉の流行
= 「リア充」じゃないと感じている人たちが多いことを示している？
- SNS、地域のイベント、マスメディア…いずれのコミュニケーションツールも、「無縁」になりがちなたちの力になることもあるが、反対にますます孤独にさせるような働きをすることも
⇒ 使い方に注意、それぞれの段階を見極め、適切なメディアアプローチを

2 県内4生涯学習センターの実践

(1) 鹿行生涯学習センター

平成24年度指定事業生涯学習調査研究事業

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」実施要項

1 目 的

近年、少子高齢化や国際化、高度情報化の急速な進展に伴い、地域における人のつながりが希薄化しつつある。互いに支え合うことができる社会の実現を図るためには、地域住民の社会貢献への意識を高めていくことが求められている。そこで、平成23年度作成のモデルプログラムの実施と平成25年度実施のプログラムの開発、「活動人口」の調査研究を行い、県生涯学習課・水戸生涯学習センター他関係機関や施設と連携・協力を図りながら、先導的に調査・研究に取り組み、「新しい公共」を目指した生涯学習社会の構築に取り組む。

2 主 催

茨城県教育委員会・公益財団法人茨城県教育財団・茨城県鹿行生涯学習センター

3 実施時期

平成24年5月～平成25年1月 ※講座開講時間は講座内容によって異なる。

4 場 所

<レイクエコー>

茨城県鹿行生涯学習センター・茨城県女性プラザ 講座室1 他

〒311-3824 行方市宇崎1389

電 話 0299-73-3877 FAX 0299-73-3925

5 テ ー マ

男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり

6 内 容

裏面に実施計画を掲載してあります。

7 参加対象及び人数

運営委員、地域づくり推進員及び一般参加者（40名）

※地域づくり推進員とは、旧麻生第一中学校学区の幼稚園保護者・子ども会保護者・小中学校PTA・行方市社会福祉協議会・学校支援ボランティア・NPO等の各代表者で構成される。一般参加者は、研究テーマに応じ、その都度募集する。

8 参加料

無 料（材料費等は別途徴収する。）

9 申込方法

電話による。

10 申込締め切り

定員になり次第、締め切る。（各講座の参加状況により、追加募集する。）

11 申込先 <レイクエコー>

茨城県鹿行生涯学習センター・茨城県女性プラザ

〒311-3824 行方市宇崎1389

電話 0299-73-2300 (生涯学習相談コーナー直通)

FAX 0299-73-3925

E-mail: lakeecho@lakeecho.gakusyu.ibk.ed.jp

http://www.lakeecho.gakusyu.ibk.ed.jp/

12 その他

報告書を作成する。

(1) 調査研究の成果は、調査結果をもとに分析・考察し、報告書にまとめる。

(2) 報告書の作成は、モデルプログラム運営委員会が行う。

(3) 報告書は水戸生涯学習センターへ提出し、次年度のプログラム作成に向け、検討を行う。

平成24年度生涯学習調査研究事業 地域モデルプログラム

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」

※受付は開始30分前とする。 H24.11現在

主な日程・内容等										
回数	期日	時間	研究テーマ	事業内容	目的	19:00～	19:30～	20:00～	20:30～	イベント内容
1	5/16 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	豊かな子育てコミュニティづくりの一步を踏み出そう	①自己紹介 ②アイスブレイク ③みんなであつおう ④事業説明アンケート説明 ⑤事例紹介・質疑 ⑥ワークショップ	子育てコミュニティづくりに向けた目的及び取り組みの方向性について共通理解を深める。	①自己紹介 ②アイスブレイク 社教・VC	③みんなであつおう ④事業説明・アンケート説明 菅 陽一・社教	⑤事例紹介 「里山のたまり場 御前山」 小野瀬武康	⑥ワークショップ「私たちの地域での子育ての課題」 ●次回の連絡 小野瀬武康・社教	○アイスブレイク ○合唱
2	6/20 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	ママ友から始まる子育て環境作り	①アイスブレイク ②フォローアップアレンジメント ③子育て支援事例紹介 ④ワークショップ	ママ間の相互協力により、育児に関する不安をなし、楽しんで育児をできる環境作りを考える。	①アイスブレイク VC	②フォローアップアレンジメント 神成田	③子育て支援事例紹介 和田みゆき	④ワークショップ「楽しい子育てでサロンを作るために」 ●次回の連絡 和田みゆき	○アイスブレイク ○フォローアップアレンジメント
3	7/18 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	イクメン講座(父親が楽しく育児に参画するには)	①風船アート ②講義 ③ワークショップ	イクメンの実情・楽しさなどを学び、実践事例から生まれるイクメンの姿を考察する。	①風船アート実習 大森 佑樹	②講義「笑っているパパが社会を変える」 長友 英哲	③ワークショップ「父親が楽しく子育てに参画するには」 ●次回の連絡 長友英哲・社教	○風船アート	
4	8/8 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	おはあちゃんの知恵袋	①朗読を楽しもう ②ワークショップ ③パネルディスカッション ④つるしびな作成	おはあちゃんのこれまでの育児に関する苦労や喜びを知るとともに、食事や日常生活の知恵を学ぶ。	①朗読を楽しもう VC	②ワークショップ I「おはあちゃんに子育てに協力してもらおう」 レイクエコーボランティア	③パネルディスカッション「つるしびな作成」 ●次回の連絡 神原 乙子	○朗読鑑賞 ○つるしびな作成	
5	8/22 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	おじいちゃんから学ぼう	①昔遊び体験 ②講義 ③ワークショップ	おじいちゃんから、昔遊びや郷土の歴史を知って、日常生活での知恵を学ぶ。	①昔遊び体験 (けん玉) 子安 三彦	②講義「おじいちゃんとの歴史〜どぶろく祭り〜」 子安 三彦	③ワークショップ「おじいちゃんを子育てに協力してもらおう」 ●次回の連絡 横山 喜延	○けん玉・竹細工	
6	9/9 (日)	10:00～ 12:00 (午前)	自然環境をいかした子育て	①講義「野外体験活動の大切さ」 ②講義・施設見学「白浜少年自然の家」 ③実技研修「焼杉板」	地元を自然を改めて見直すとともに、子育てにおける自然体験活動の重要性を学ぶ。	①講義「野外体験活動の大切さ」 松浦 康典	②施設及び施設見学「白浜少年自然の家」 ●次回の連絡 松浦 康典	③実技研修「焼杉板」 ●次回の連絡	○焼杉板	
7	10/7 (日)	8:30～ 17:00 (全日)	地域協働による子育ての在り方①「子育てネットワーク先進地区から学ぼう」	①施設見学・講話「御前山ツリーハウス」 ②施設見学・講話「わんぱく・みと」	世代間交流が根付いている子育て先進地域を視察することで、自分の地域の課題や今後必要な手立て等を学ぶ。	8:30～ 移動 社教	①施設見学・講話「御前山ツリーハウス」 小野瀬 武康	②施設見学・講話「わんぱく・みと」 ●次回の連絡 桐原由紀恵	○御前山ツリーハウス施設見学 ○わんぱく・みと施設見学	
8	10/27 (土)	10:00～ 15:00 (全日)	生涯学習ネットワークフォーラムに参加しよう	①開会行事 ②公開講演 ③分科会 ④シンポジウム ⑤閉会行事	生涯学習ネットワークフォーラムに参加し、子育てや地域コミュニティの在り方等の事例発表から研修を行う。	10:00～ ①開会行事 ②公開講演 社教	③分科会 (子育て事例発表、サロン事例研修等) 小野瀬 武康	④シンポジウム 桐原由紀恵	⑤閉会行事 ●次回の連絡	○生涯学習ネットワークフォーラムに参加
9	11/21 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	地域協働による子育ての在り方②「高校生と子育て討論会」	①コミュニケーションゲーム ②ワークショップ I「高校生と子育て」 ③ワークショップ II「来年度私たちにできること」	世代間協働の在り方について意見交換することで、自分の地域に必要な点や課題について考察する。	①高校生とのコミュニケーションゲーム VC・高校生ボランティア	②ワークショップ I「高校生と子育て」 高校生ボランティア	③ワークショップ II「来年度、私たちにできること」 ●次回の連絡 社教・VC	①高校生とのコミュニケーションゲーム	
10	12/19 (水)	19:00～ 21:00 (夜間)	さあ出番だ！地域で子育て	①ワークショップ I「来年度の計画について」 ②ワークショップ II「来年度の計画内容の課題と役割分担について」 ③講話・質疑「来年度の計画案への取り組みについて」	これまでの講座を通して、今後の子育てを目的としたコミュニティづくりの進め方について意見交換を行う。	①ワークショップ I「来年度の計画について」 社教・VC	②ワークショップ II「来年度の計画内容の課題と役割分担について」 小野瀬 武康	③講話・質疑「来年度の計画案への取り組みについて」 ●来年度の継続	○来年度の計画案への取り組みについて	

※講師の都合等により、期日・時間・会場・内容等の変更になることがあります。
※5/2(水)・2月にモデルプログラム運営委員会を実施。

事業分析シート

作成者 レイクエコー 茨城県鹿行生涯学習センター
生涯学習課 大和田 政博

1 事業概要

事業名	男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり
事業目標	社会貢献の新たな仕組み作りに向けての調査研究により立案されたモデルプログラムにより、プロジェクトチーム(運営委員)を組織し、地域コミュニティの「補強」「再生」のための人材育成プログラムを展開する。
事業の内容 具体的な手だて	地域モデルプログラムの実施及び調査結果の検証

2 予想される・期待される結果(アウトプット)

アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティづくりに関する講座を10回実施。 ・地域づくり推進員及び一般参加者の受講。(約40名参加予定) ・平成25年度における子育てコミュニティサロンの自主的運営の計画。
--------	--



3 成果(アウトカム)

	内容	指数
中間アウトカム	①コミュニティづくりに対する意識の変容 ②受講生自身の学習内容の理解 ③受講生自身の行動の変容 ④仲間作りの意識 ⑤自主的サークル結成の意識	・意識の変容は高まっているものの、急務という意識は低い。 ・少子高齢による社会構造の変化への危惧や、地域の結びつきの大切さを感じ取っている。 ・広報等の協力を行った。 ・学区合併による仲間作りの必要性を感じ取っている。 ・協力的である一方、主体性は低い。



	内容	指数
最終アウトカム	①子育て支援に係わる人の増加 ②活動人口の増加 ③子育てコミュニティサロンの計画、運営 ④他地域へのモデルプログラムの提供	・広報等により意識は高まった。 ・活動人口アンケートからは、高まっているとはいえなし ・学校支援ボランティアとして組織化、運営を進める。 ・統合が進む地域へのモデルプログラム提供を進める

事業展開事例報告

平成24年度生涯学習調査研究事業 地域モデルプログラム
 テーマ：「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」

【鹿行生涯学習センター】

1 年間計画

月	内容	月	内容
4月	行方市生涯学習課・教育委員会・社会教育主事会福祉協議会・NPO・PTA協力依頼	10月	地域モデルプログラム⑦・⑧(生涯学習ネットワーク)
5月	運営委員会①・地域モデルプログラム①	11月	地域モデルプログラム⑨, 活動人口調査
6月	地域モデルプログラム②	12月	地域モデルプログラム⑩
7月	地域モデルプログラム③	1月	運営委員会②
8月	地域モデルプログラム④・⑤	2月	行方市生涯学習課・教育委員会・社会教育主事会福祉協議会・NPO・PTA協力依頼
9月	地域モデルプログラム⑥	3月	

2 各事業状況

ア 運営委員会の様子

前年度の3月21日、行方市役所生涯学習課職員(2名)及び行方市役所市長公室企画政策課職員(2名)を含め、平成23年度調査研究事業の経過報告及び本事業の趣旨を説明し、平成24年度モデルプログラムにおける運営委員・地域モデルプログラムに参加する地域づくり推進委員、さらには事業内容や平成24年度モデルプログラムの課題について協議を行った。

また、本年度第1回運営委員会として5月2日、上記の職員に茨城県教育庁生涯学習課及び水戸生涯学習センターの担当者を加え、本年度の事業計画について検討を行った。課題として地域づくり推進委員の積極的な参加方法や呼びかけ、また、事業内容及び日程について調整を行った。さらには本事業の本年度の活動から自主的運営への支援や来年度の計画案等の検討を行った。



イ 地域モデルプログラムの様子

①第1回(5/16・夜間)テーマ「事業紹介・子育ての現状について」

参加者同士初めての顔合わせであったことから、交流を兼ねたアイスブレイク、演習「みんなで歌おう」から始めた。また、パワーポイントを使い、地域アンケートの結果や地域の実態を説明した。さらに、事例紹介として「里山のたまり場」の活動報告、ワークショップとして「地域の子育ての課題」を話し合った。夜間にもかかわらず多数の参加があったが、2時間の中に、多彩な内容を詰め込みすぎたという反省があった。



【アイスブレイクの様子】

②第2回(6/20・夜間)テーマ「ママ友から始まる子育て環境作り」

「ママ友をつくる」という視点から、実技演習としてワークショップを実施し、事例発表では、鹿嶋市で活躍するNPOニューライフカマの和田氏に講演いただいた。また、ワークショップとして「子育てカギ」について話し合った。テーマから参加者は女性が多数を占めた。また、参加者間の交流が進んでいないこともあり、話し合いの場を設けたものの、具体的な計画を立てるような積極的な話し合いには発展しなかった。



【ワークショップの様子】

③第3回(7/18・夜間)テーマ「イクメン講座(父親が楽しく育児に参画するには)」

実技演習として、子ども会の行事やイベント等で簡単にできる「風船アート」を行った。また、テーマに合わせた講義として「笑っているパパが社会を変える」という演題でNPO法人ファミリーサポートより長友英哲氏を講師に迎え、現在の日本の子育て事情や本人の子育てへのスイッチが入った理由などを詳しく説明いただいた。内容は素晴らしかったが、前回同様に女性中心の参加であったことから、募集案内等において男性参加の呼びかけを行うこととした。



【長友氏講演の様子】

④第4回(8/8・夜間)テーマ「おばあちゃんの知恵袋」

三世代の交流を目指し、おばあちゃんの視点から子育てへの提案をする講座を実施した。実技演習として「つるしびな」を作り、昔ながらの手芸の楽しさを味わった。また、パネルディスカッションとして「今と昔の子育ての違い」の意見交換を行った。家庭環境や家族構成が異なるものの、それぞれの立場での悩みや課題を共有し、考察することができた。



【パネルディスカッションの様子】

⑥第5回（8/22・夜間）テーマ「おじいちゃんから学ぼう」

前回同様、三世代の交流を目的とした講座であり、「昔遊び（けん玉・竹細工）」体験するとともに、地元の祭事で活躍する横山氏に「どぶろく祭」の歴史的な背景や郷土を愛する心について講演いただいた。また、ワークショップとして、世代を超えた交流の大切さや、地域で活躍する人の人材バンクの活用法を協議した。反省として、今後話し合う場面を増やし、意見を交換できるようにしたい。



【竹とんぼづくりの様子】

⑥第6回（9/9・午前）テーマ「自然環境・自然体験を生かした子育て」

これまで夜間で実施してきたが、日曜日午前に白浜少年自然の家で講座を実施した。地域の行事等の理由で参加者が少なかった。演習Ⅰとして、ボーイスカウト茨城県連盟の講師を迎えて、「野外活動・体験活動の大切さ」を講義いただいた。自然体験が子育てに重要な意義があることなどデータを使い詳しくお話しいただいた。また、演習Ⅱとして白浜少年自然の家の特色の説明や実技演習（焼杉板）を実施した。地元の施設の効果的な利用法も考察することができた。



【戸舘氏講演の様子】

⑦第7回（10/7・一日）テーマ「子育てネットワーク先進地域から学ぼう」

地域づくり推進委員の参加者が少なく、一般参加やレクリエーションボランティアの参加者が中心となった。子育て支援先進地域の「里山 御前山ツリハウス」、「わんぱく・みと」を視察した。ツリハウスでは小野瀬氏に「里山は生命の知恵と宝庫」というテーマで講演いただくとともに、子どもたちを実際に遊ばせることができた。わんぱくみとでは、施設利用の状況や施設の特徴を学び、担当職員との意見交換等も実施し、今後地域で必要とされる施設を考察することができた。



【ツリハウス視察の様子】

⑧第8回（10/27・一日）テーマ「豊かな子育てネットワークフォーラム（生涯学習ネットワークフォーラム）」

生涯学習ネットワークフォーラムでの第4分科会として実施した。NPO法人「ままとーん」の野島氏に事例発表いただき、人と情報の子育てネットワークの形成の必要性を学んだ。また、「子育てコミュニティを活性化させるには」というテーマで研究協議を行い、父親の子育てに係わる時間を増やすことや地域を結びつけるイベントへの参加を増やすことなど具体的な話し合いが行われた。また、実際にあるコミュニティが認識されていない点や生かされていない点などの課題も挙がった。



【ままとーん事例発表の様子】

⑨第9回（11/21・夜間）テーマ「高校生と子育て討論会」

「高校生と子育て討論会」というテーマのもと、地元の高校生に参加いただき、コミュニケーションや高校生を交えたワークショップ「高校生と話し合おう」を行った。現役高校生の将来の夢、地域を活性化するための施策や施設などの意見交換を積極的に行った。また、「来年度私たちにできること」をテーマに、模造紙に書き込みを行った。活発な意見は出るものの、来年の小学校の行事等の見通しが立たないことから、計画立案までは進まなかった。



【高校生との話し合いの様子】

⑩第10回（12/19・夜間）テーマ「さあ出番だ！！地域で子育て」

「さあ出番だ！！地域で子育て」というテーマのもと、小学校統合にかかわる利点及び課題について話し合いを行った。登校に関する問題や三世代交流事業の減退、さらには親同士の交流の必要性が課題として挙げられた。課題解決に向け、PTA活動の活性化及び地域全体で子育てに関わってほしいとするイベントの企画・実施も大切であることを確認した。

今後の展開として、積極的に学校に係わる「学校支援ボランティア」の組織や三世代交流や親子が顔を合わせるイベントを自主的に企画していくサークル結成を進めていきたいという意見が出た。



【課題解決に向けた話し合いの様子】

3 今後の方向性について

10回の講座を通して、参加者は地域を元気にするために、人と人・人と地域が結びつきを強める絆の大切さや地域一体となって子育てに取り組む大切さを学んできた。同時に、今あるコミュニティを再確認することができ、改めてコミュニティの大切さに気づくことができた。

来年度は、4つの小学校が一つに統合され、今まで以上に地域の結びつきが必要とされる場が増えてくることが考えられる。そこで、これまで学んできたことを生かし、学校やPTA活動に協力できる「学校支援ボランティア」を組織化し、学校・親子・地域が密接に関わり合い、共に協力し合うとともに三世代交流等を通して、より絆が深まるコミュニティ形成に取り組んでいけるよう、活動を深めるとともに、これから進むであろう学校統合による無縁化（薄縁化）に歯止めを掛け、地域の結びつきを強めるモデルプログラムを実践し、他地域にも広められるような調査を進められるようにしたい。

事業評価シート

作成者		
レイトン 茨城県農産生産学センター 生涯学習課 大和田 敬博		
期日	講座名	講座内容
平成24年 5月18日 (水)	豊かな子育てコミュニティづくりの歩みを見よう	①自己紹介 ②演習Ⅰ「アイスブレイク」③演習Ⅱ「みんなであらう」④演習Ⅲ「事例紹介：地域アンケート結果より」⑤演習Ⅳ「事例発表：里山のみどり」⑥演習Ⅴ「ワークショップ：私たちの地域における子育ての課題」
結果(アウトプット)	評価	改善
・参加人数・・・30名 ・参加男女比・・・男:女=10:20 ・実施時間・・・2時間(夜間) ・講座内容・・・5項目	・満足な人数だが、一般の層より参加者はほとんどなかった。 ・男性が多く、有意義な話し合いができた。 ・夜間実施において、好都合の人もいれば、不都合の人もいた。 ・充実している」という意見もあれば、「時間があついでない」という意見もあった。	・一般参加者が増えるよう、広報に努力したい。 ・男性が参加しやすい講座内容を実施するとともに、参加しやすい雰囲気作りをしたい。 ・計画通り夜間を中心に実施するが、広報に努力し、昼間のみ講座に参加できる人も募集する。 ・内容を振り返り、より有意義で、充実した内容の講座にできるようにする。
成果(アウトカム)	評価	改善
・演習Ⅰ「アイスブレイク」の実施 ・演習Ⅱ「みんなであらう」の実施 ・演習Ⅲ「事例紹介：地域アンケート結果より」の実施 ・演習Ⅳ「事例発表：里山のみどり」の実施 ・演習Ⅴ「ワークショップ：私たちの地域における子育ての課題」の実施	・時間を十分に評価。自己紹介及びアイスブレイクを実施し参加者相互の交流を図った。受講者は笑顔で参加し、交流が深められた。 ・講師に「里山中学校PTA管理一係」を迎え、参加者全員で大きな声で歌を取ったことで、交流を図るとともに、みんなで活動する楽しさを知った。 ・地域の事例アンケートの結果を通じて、参加者に地域の課題や今後の事業の必要性を感じ取ってもらえた。 ・自然環境を生かした特徴的な事例である「里山のみどり」の活動報告を行うことで、受講者に、地域に根ざした活動や子育て支援の大切さを知ることができた。 ・講師の資料や説明は適切であったが、質疑応答の時間をとることができなかった。講師に余裕をもてるようにしたい。また、講師と受講生の交流の場を設けたい。 ・「6人程度でグループをつくり、話し合いを行ったが、発言する回数が少ない受講生もいたため、4人程度のグループにし、役割分担を促していきたい。また、今後は課題への対応を考えるようにしたい。	・今後、参加者の家(追加等)が考えられるので、参加者の状況に応じたアイスブレイク等の交流の場を作りたい。 ・講師の内容に応じ、会場を変えるなど、参加者全員で大きな声で歌を取ったこと、また、学んだ活動を、受講者が次のイベント等に生かせるようにしたい。 ・アンケート結果を地域に広め、意識の高揚を図るようになりたい。 ・講師の資料や説明は適切であったが、質疑応答の時間をとることができなかった。講師に余裕をもてるようにしたい。また、講師と受講生の交流の場を設けたい。 ・「6人程度でグループをつくり、話し合いを行ったが、発言する回数が少ない受講生もいたため、4人程度のグループにし、役割分担を促していきたい。また、今後は課題への対応を考えるようにしたい。
計画	・参加者同士がより交流を深められるよう、情報交換や楽しいイベントを実施できるようにしたい。また、誰もが自分の意見を発表し、情報交換ができるよう工夫をしていきたい。受講者がより主体的に課題に向き合い、自分たちの身近な課題としてとらえ、主体的に活動していく意識が高められるようにしたい。	

事業評価シート

作成者		
レイトン 茨城県農産生産学センター 生涯学習課 大和田 敬博		
期日	講座名	講座内容
平成24年 7月18日 (水)	イカダ講座(父親が楽しく育児に参画するには)	①演習Ⅰ「風船アート」②演習Ⅱ「講義：笑っているパパが社会を支える」③演習Ⅲ「ワークショップ：父親が楽しく育児に参画するには」
結果(アウトプット)	評価	改善
・参加人数・・・26名 ・参加男女比・・・男:女=12:14 ・実施時間・・・2時間(夜間) ・講座内容・・・4項目	・お父さん及び行政関係者の方々の参加が減少したが、呼びかけ合いがあり、夫婦での参加があった。 ・父親への参加依頼をしたが、女が中心であった。 ・短い時間の中、効率よく活動できたが、内容が盛り込めなかった意見があった。 ・前回に比べ、余裕をもって活動することができた。	・まちづくり推進の行政関係者等への参加依頼をする。参加者が友人等より呼びかけていただけるといい。 ・PTA及び関係者にお父さんに協力をお願いし、お父さんが気軽に参加できるようにしたい。 ・今後夜間を中心に実施するが、受講者の意見を反映していきたい。 ・ワークショップなどに時間をかけ、話し合いの場を多くしたい。
成果(アウトカム)	評価	改善
・演習Ⅰ「風船アート」の実施 ・演習Ⅱ「講義：笑っているパパが社会を支える」の実施 ・演習Ⅲ「ワークショップ：父親が楽しく育児に参画するには」の実施	・講師に余裕を持ったつもりだったが、受講者にとっては負担感も多かった。 ・「ファザリング」の活用の報告や現在の日本の子育て事情及び課題をパワーポイントを使って丁寧に説明していただき、受講者も大変満足した様子であった。 ・短い時間の中、講師との質疑応答の形でのパネルディスカッションのように感じた。個々の意見を受け入れ、実施した対応の大切さもお話しいただき、受講者も大変参考になった。 ・参加者も満足しつづあり、受講者の中には「楽しい講座なので、お友達も誘います。」と好意的に受け止めてくれる受講者もいた。しかし、自主的な活動を展開していく意識や行政と協力して新しい事業を興したいという率先的な意見は生まれていない。様々な組織(NPO等)の活動内容を学び、「自分たちでできること」の意識が高まるよう、講座の中で働きかけたい。	・子ども会のイベントや行事などで生かされるよう、資料の準備や時間の設定、言葉かけ等の配慮が必要である。 ・「ファザリング」の活用の報告や現在の日本の子育て事情及び課題をパワーポイントを使って丁寧に説明していただき、受講者も大変満足した様子であった。 ・「ファザリング」の活用の報告や現在の日本の子育て事情及び課題をパワーポイントを使って丁寧に説明していただき、受講者も大変満足した様子であった。 ・短い時間の中、講師との質疑応答の形でのパネルディスカッションのように感じた。個々の意見を受け入れ、実施した対応の大切さもお話しいただき、受講者も大変参考になった。
計画	・参加者も満足しつづあり、受講者の中には「楽しい講座なので、お友達も誘います。」と好意的に受け止めてくれる受講者もいた。しかし、自主的な活動を展開していく意識や行政と協力して新しい事業を興したいという率先的な意見は生まれていない。様々な組織(NPO等)の活動内容を学び、「自分たちでできること」の意識が高まるよう、講座の中で働きかけたい。	

事業評価シート

作成者		
レイトン 茨城県農産生産学センター 生涯学習課 大和田 敬博		
期日	講座名	講座内容
平成24年 10月7日 (日)	子育てネットワーク先遣地区から学ぼう	①演習Ⅰ施設見学①「里山 御前山ツリーハウス」②演習Ⅱ施設見学②「わんぱく〜み〜」
結果(アウトプット)	評価	改善
・参加人数・・・28名(幼児・小学生7名含む) ・参加男女比・・・男:女=11 ・実施時間・・・4時間(夜間) ・講座内容・・・2項目	・地元参加者として、大和地区から2名、大和地区から2名の保護者の方であった。体験活動ができたこと、児童・小学生の参加が多かった。 ・講師の準備ができたものの、小学校関係者が少なかった。また、来年度の計画に向けての意識の高揚が十分に図れていない。 ・雨天の中での移動講座であったが、受講者は講義・実技研修と集中して取り組み、有意義な研修を実施することができた。 ・時間的に余裕をもって有意義な研修できた。	・土日祝日になるとのイベントと重なり、参加しづらい傾向がある。また、今後の展開に市の協力も必要になることから、積極的な市のまちづくり関係者に呼びかけたい。 ・事業の必要性と来年度の展望を丁寧に説明し、参加者の協力を促す。 ・遠距離移動のため、時間を効率的に生かさない部分もあった。アンケートは行ったものの、話し合いの場を取り入れられなかった。次回から話し合いができる十分な時間を確保したい。 ・時間配分を再検討し、受講生が負担を感じないよう、来年度の準備に意欲を喚起するための構成にしていきたい。
成果(アウトカム)	評価	改善
・演習Ⅰ「施設見学①「里山 御前山ツリーハウス」 ・演習Ⅱ「施設見学②「わんぱく〜み〜」	・里山は生命と知恵の宝庫というテーマで話し合いができた。里山の必要性・意義を学ぶことができた。また、実例ツリーハウスを見学し、いきいきと遊ぶ子どもたちの姿から、子育てにおける自然体験がいかに重要かを認識することができた。 ・「わんぱく〜み〜」の業務及び施設利用状況の説明。また施設の特徴を説明いただき、受講者は子育て支援施設への必要性を学ぶことができた。現在の課題や今後の展開などについて意見交換でき有意義な研修となった。	・本事業の趣旨を十分理解した上で講義をしていただいた。講師に次回の内容等も理解していただきたい。講師よりつながりがある講座になるようにしたい。 ・自分たちの住む地域と比較しながら、意見交換をすることができ、受講者の意識が高まった。今後意見交換や話し合いの場を多く設けられるようにしたい。
計画	今回参加していただいた方に、アンケート形式で来年度に向けた組織作りや企画案を検討していただいた。今回いただいた意見をもとに来年度の活動内容(体験場、サロン等)などを計画できるように、今後も支援していきたい。また、行方市役所生涯学習課と主体的に活動できる団体等との協力体制を考えていきたい。	

事業評価シート

作成者		
レイトン 茨城県農産生産学センター 生涯学習課 大和田 敬博		
期日	講座名	講座内容
平成24年 12月19日 (水)	さあ出番だ!! 地域で子育て	①演習Ⅰワークショップ「小学校統合における課題を考えよう」 ②演習Ⅱ「課題解決に向けてできることは何だろう」
結果(アウトプット)	評価	改善
・参加人数・・・11名 ・参加男女比・・・男:女=6:5 ・実施時間・・・2時間(夜間) ・講座内容・・・2項目	・参加者は少く、女性のみであったが、少人数のため、意見交換がしやすい、話し合いは進んだ。 ・地域づくり推進員の男性の参加者はなかった。 ・協議の時間を十分取ることができ、活発な協議ができた。 ・時間的に終了することができ、次回への意欲を高めることができた。	・学校関係者(PTA)、さらには各市の担当者さらに呼びかけたい。 ・イベント等開催については、父親の力は必要不可欠であることから、男性が気軽に参加できる雰囲気や広範等の努力をする。 ・時間内で、参加者自身で司会など自主的に活動できるように支援する。 ・協議の時間内で意見が活発に出る雰囲気作りや支援方法を考察する。
成果(アウトカム)	評価	改善
①演習Ⅰ「ワークショップⅠ「小学校統合」における課題を考えよう」 ②演習Ⅱ「課題解決に向けてできることは何だろう」	・小学校統合後、長くなる話や課題となる点を出し、意見交換を行った。課題として、倉下校の問題、児童・保護者等の人間関係の希薄化やPTA活動の活性化。さらには、地域住民との関わりが薄れなどが挙げられた。 ・「統合後」学校を核として地域交流を高めるために、話し合いの場を設けた。イベントで高齢者が参加しやすい環境や、父親が積極的に活動できる雰囲気作り、また地域の人材を活用した人材バンクの必要性などが話し合われた。	・少人数の参加のため、講師が全員が積極的に話し合うことができた。都合により一部の学校関係者が参加できなかったため、今回の情報交換会での議事録を伝え、情報を共有できるようにしたい。 ・「統合後」学校を核として地域交流を高めるために、話し合いの場を設けた。イベントで高齢者が参加しやすい環境や、父親が積極的に活動できる雰囲気作り、また地域の人材を活用した人材バンクの必要性などが話し合われた。 ・実際に活動するには、核となる人材の育成。さらには、会の組織化が必要になるが、教育委員会を核とした関係者(生涯学習課)のPTA担当者との協力が重要である。今回の受講者の声をまめ、協力を依頼する準備が必要である。
計画	今回参加していただいた方は、現在所属する学校と密接につながりがある。統合への不安を多く抱えている。現在ある地域コミュニティが、統合により薄れた。新たな課題が生み出されると考えられる。今回の講座で、地域を元気にするために三世代交流を軸とした交流を目的としたイベントや、学校の課題をともに考える組織をつくりたいという、共通の願いがうまれた。この気持ちを大切にし、児童・保護者・地域が一体となるコミュニティができる。または継続する部を考察していくことも、他の地域のモデルとなるよう、活動記録や広報を努力していきたい。	

男女共同参画に支えられた

参加者募集

豊かな子育てコミュニティづくり

忙しい日々、育児に困っているママ、お孫さんとどう接したらよいか悩んでいるおじいちゃん・おばあちゃん・・・
子育ては家庭・地域みんなで協力し合うことが大切といわれています。このつどいは、子育てに関する楽しいイベントや、生活に役立つ講話、さらには子育て懇話会も実施します。
地域一体となった子育てコミュニティづくりに参加してみませんか。

★ **うれしい3つの特典** ★

- ①参加費無料
- ②託児サービス(3歳以上)
- ③好きな回だけ参加OK!

実施日 **5/16(水)～17/16(木) 19:00～21:00**
10回講座 ※詳しくは裏面をご覧ください。

これなら、参加できそう・・・

★対象：子育てに興味のある方(16歳以上)
★定員：40名(定員に達したら締め切らせていただきます。)
★申込み：5/17(火)～電話でお申し込みください。
★申込先・会場：レイクエコー 茨城県産行生涯学習センター・茨城県女性プラザ
TEL:0299-73-2300 FAX:0299-73-3925
主催：茨城県委員会・公益財団法人茨城県教育財団(レイクエコー)茨城県産行生涯学習センター・茨城県女性プラザ

男女共同参画に支えられた

参加者募集

豊かな子育てコミュニティづくり

VOL. 7

◆レイクエコーで「子育てコミュニティ」に関する楽しいつどいを行っています。あなたと一緒に活動してみませんか？

●実施日 H24. 5. 16
●時間 19:00～21:00
●会場 レイクエコー 講座室1

活動の様子

【アイスブレイク】 【みんなで歌おう】
【事業紹介】(地域アンケート) 【ワークショップ】(テーマ：私たちの地域における子育ての課題)
【事務発表】(望山のたまり場)

参加者の感想(パートより)

- 初めて顔を合わせた方も、仲良く話せてよかったです。
- 発表しましたが、すぐに打ち解けられました。貴重な2時間でした。
- 久しぶりに大きな声で歌えて楽しかったです。
- 自分たちの住む地域の課題を再認識でき、考えさせられる点が多かったです。
- 子どもたちが遊ぶ場を作る大切さを感じました。
- 懇話会をもつことが大切だと感じました。今後が楽しみです。

次回は・・・

●実施日：6月20日(水)
●時間：19:00～21:00
●会場：レイクエコー 講座室
●テーマ：ママ友から始める子育て(無償づくり)
●イベント：フラワールンズフェスティバル(無料)

参加者大募集!!
途中からの参加や1回だけの参加もOKです。
お申し込みお待ちしております。

※お問い合わせ・お申し込みは、裏面をご覧ください。

男女共同参画に支えられた

参加者募集

豊かな子育てコミュニティづくり

今回のテーマ：自然環境・自然体験を

VOL. 6

◆レイクエコーで「子育てコミュニティ」に関する楽しいつどいを行っています。あなたと一緒に活動して、地域の中の「子育てコミュニティづくり」をしてみませんか？

●実施日 H24. 9. 9
●時間 10:00～12:00
●会場 白浜少年自然の家

活動の様子

講演「野外体験の大切さ」
戸籍 善敬氏 (体・心・知・茨城県生涯学習センター)

実技研修「リサイクル焼杉板を作ろう」

バーナーを使って焼杉板を作成中。

託児*ラッパも活躍中!!

講演「白浜少年自然の家の特色」
松浦 康典(白浜自然の家 活動課長)

子どもと一緒に散歩や自然体験の大切さ学びました。
●1日間の活動が青少年育成につながっていることを知りました。
●身近な白浜少年自然の家の特色を知り、利用したいと思いました。
●焼杉板作成は初めての体験で、楽しかったです。バーナーの扱いには注意が必要なので、親子一緒に作成したいと思います。

男女共同参画に支えられた

参加者募集

豊かな子育てコミュニティづくり

今回のテーマ：さあ出番だ!! 地域で子育て

VOL. 10
(本年最終回)

◆レイクエコーで「子育てコミュニティ」に関する楽しいつどいも最終回を迎えました。地域を結びつける「子育てコミュニティづくり」への参加、ご支援ありがとうございます。

●実施日 H24. 12. 19
●時間 19:00～21:00
●会場 レイクエコー 講座室2

活動の様子

地域の結びつきを強める活動とは・・・?

☆PTA活動が活発だといいな。
☆親の意見が伝わる開かれた学校になるといいな。
☆地域の結びつきを強めるイベントがあるといいな。
☆三世代交流として、おじいちゃん・おばあちゃん子どもたちが交流してもらいたい。
☆お父さんも活躍してもらいたい。
☆地域の人が生き生きする人材バンクが必要なのは。

小学校統合における課題とは・・・?

★登下校の安全は・・・
★送迎バスが家の近くを通ればいいけど、新しい交差点は大丈夫かな。
★通っている先生がいればいいけど・・・
★PTAの負担は軽くなるけど、全く参加しない人も出てくるかも。
★運動会や学校のイベントに、地域のお年寄りも参加してくれるかな?
★三世代交流はできるかな?
★地域の結びつきが薄くなるのでは?
★もっと情報が欲しいね。

【ワークショップの様子】

参加した方の感想

- 来年開校する麻生小学校について考えるよい機会となりました。子どもたち高齢化など社会の変化が中心で、妻白太事案が、改めて「地域の絆」の大切さが感じられた方も多かったと思います。「地域を結びつける絆が薄れている」との声が高まっている中で、参加された方々の意見から「地域コミュニティは目に見えないものの、しっかりと地域に根づき、地域みんなで守ろうとしている」こと改めて気づかされました。
- 最後にありますが、本年参加した皆さまの地域づくり推進委員の皆様をはじめ、講師・御支援くださったボランティアの方々に深く感謝申し上げます。また、来年に繋げていきたいと思っております。

レイクエコー地域モデルプログラム事業事務局

参加者大募集!!

途中からの参加や1回だけの参加もOKです。
お申し込みお待ちしております。

※男性の方、大歓迎!!

●実施日：10月7日(日)
●テーマ：子育てネットワーク先進地域から学ぼう
●集合時間：8:00 ●出発時間：8:30
●解散時間：16:30(予定)
●集合場所：レイクエコー 駐車場・・・バスで移動します。
●準備物：昼食の準備(途中での購入可能です。)
●研修会場：①脚前山ツリーハウス ②わんぱく・みと

※お問い合わせ・お申し込みは、裏面をご覧ください。

あとがき

5月から始まった地域モデルプログラム「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」も本年度最終回を迎えました。家族構成の多様化・超高齢化など社会の変化が中心で、妻白太事案が、改めて「地域の絆」の大切さが感じられた方も多かったと思います。「地域を結びつける絆が薄れている」との声が高まっている中で、参加された方々の意見から「地域コミュニティは目に見えないものの、しっかりと地域に根づき、地域みんなで守ろうとしている」こと改めて気づかされました。

最後にありますが、本年参加した皆さまの地域づくり推進委員の皆様をはじめ、講師・御支援くださったボランティアの方々に深く感謝申し上げます。また、来年に繋げていきたいと思っております。

レイクエコー地域モデルプログラム事業事務局

(2) 県南生涯学習センター

平成24年度生涯学習調査研究事業実施要項

1 目的

近年、少子高齢化や国際化、高度情報化の急速な進展に伴い、人と人とのつながり、地域と人とのつながりが希薄化し、互いに支え合うことができる社会の実現を図るためには、住民の社会貢献への意識を高めていくことが求められている。23年度に行った生涯学習調査研究事業のモデルプログラムの実施を中心に、その運営に係るプロジェクトチームを組織し、地域コミュニティの「補強」「再生」のための人材育成プログラムを展開する。

2 内容

モデルプログラム（地域版）の運営等に係るプロジェクトチームを設置し、モデルプログラムの（地域版）の実施と25年度に実施するプログラム（コミュニティ版）の開発及び「活動人口」の調査を行う。

3 プロジェクトチーム組織委員会

(1) 開催期間 平成24年4月～11月 全9回

(2) 開催場所 茨城県県南生涯学習センター

(3) プロジェクトチーム組織委員

ア 組織員の役割…モデルプログラムの推進、地域住民に対して「無縁社会に立ち向かう」ための施策の実践を行う。

イ 組織員…市町村職員1名、NPO等団体職員2～3名、学識経験者、当センター職員等（県庁生涯学習課1名、水戸生涯学習センター職員1名）

	所属	職名	氏名
1	土浦市教育委員会生涯学習課	主査兼生涯学習係長	来栖 信吉
2	つくば市民大学(ケーブルつくば)	代表幹事	徳田 太郎
3	土浦商工会議所 中小企業相談所	所長兼商工振興課長	稲葉 豊実
4	NPO まちづくり活性化土浦	事務局長	小林 まゆみ
5	茨城大学	准教授	長谷川 幸介
6	県南生涯学習センター	社会教育推進員	片山 妙子
7	県南生涯学習センター	社会教育推進員	松岡 祐美
	教育庁 生涯学習課	社会教育主事	阿部 裕美
	水戸生涯学習センター	社会教育主事	熊谷 智仁

(4) 内容

第1回 4月17日 プロジェクトチームの計画

第2回 5月29日 準備確認

第3～8回 6月～10月 モデルプログラムの実施及び検証

第9回 11月 報告書の作成とプログラム（コミュニティ版）作成

4 モデルプログラム

(1) 開催期間 平成24年6月～10月 全6回 10時～15時

- (2) 開催場所 茨城県県南生涯学習センター
 (3) 参加者 一般県民 30 名程度及びプロジェクトチーム組織委員
 (4) 内容

東日本大震災の体験から地域住民の意識を刺激し、地域で生活するすべての人に居場所があり、人の役に立つ喜びが味わえる社会の構築を目指し、無縁社会に向かうための地域力を育成する。

- ア 支縁社会の意識付け（現在の問題の把握）
 イ 知る（歴史，資源，人，活動など）
 ウ 学ぶ（思いを共有するための手法を学ぶ）
 エ つながる（ネットワーク作り）
 (5) 広報 チラシの配布，広報誌・ミニコミ紙への掲載，ホームページなど

平成 24 年度 人がつながるまちづくり講座 計画書

講座名	土浦力をダス！	時間	10：00～15：00	回数	6 回
		会場	中講座室 2	定員	30
内容	土浦に住んでいるけれど、土浦のことをよく知らない。土浦を元気にしたいけれど、方法がわからない。仲間を作りたいけれど、きっかけがない。そんなあなたにピッタリの講座が始まります！みんなで真剣に、そして楽しみながら、土浦のことを考えていきましょう。				

日 程

回数	月 日	曜	講 義 内 容	備 考
1	6 月 1 9 日	火	はきダス ～みんなの“想い”を交換しよう～	
2	7 月 1 0 日	火	おもいダス ～土浦のことを知ろう～	<特別講師> 木塚 久仁子さん 他
3	8 月 7 日	火	うごきダス ～現在の土浦力を考えよう～	<特別講師> 土浦一中生徒会 他
4	8 月 2 1 日	火	つくりダス ～みんなのできることを考えよう～	
5	9 月 1 1 日	火	つくりダス ～みんなのできることを考えよう～	
6	9 月 2 5 日	火	あるきダス ～実際になにかやってみよう～	

<ファシリテーター>
 徳田 太郎

<アドバイザー>
 茨城大学准教授 長谷川 幸介
 土浦市教育委員会 来栖 信吉
 土浦商工会議所 稲葉 豊実
 NPO 法人まちづくり活性化土浦 小林 まゆみ

<センター担当職員>
 片山 妙子
 松岡 祐美



事業分析シート	作成者	県南生涯学習センター 片山・松岡
----------------	-----	---------------------

1 事業概要

事業名	土浦力をダス！～人がつながるまちづくり講座～
事業目標	地域で生活するすべての人に居場所があり、人の役に立つ喜びが味わえる社会の構築をめざし、無縁社会に立ち向かうための地域力を育成する。
事業の内容 具体的な手だて	モデルプログラムの実施

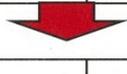
2 予想される・期待される結果(アウトプット)

アウトプット	講座回数：全6回 参加者数：30名
---------------	----------------------



3 成果(アウトカム)

	内容	指数
中間アウトカム	はきダス 土浦について、みんなの“想い”を交換する	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦をもっと知りたい、元気にしたいという気持ちになっている人が増えている。 ・みんなが、このメンバーと一緒に活動に取り組んでいこうという気持ちになっている。
	おもいダス 土浦のことを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦の“過去”について知っていることが増えている。 ・土浦の“過去”を“未来”に活かすためのヒントがつかめている。
	うごきダス 現在の土浦力を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦の“現在”について知っていることが増えている。 ・土浦の“現在”を“未来”に活かすためのヒントがつかめている。
	つくりダス みんなでできることを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・土浦の“理想の未来”が見えている。 ・“理想の未来”に対応する、自分たちの“ありたい姿”が描けている。
	つくりダス みんなでできることを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・“ありたい姿”を実現するために自分たちが“できること”が見えている。 ・“できること”を具体的な“活動”として表現できている。
	あるきダス 実際にやってみる	<ul style="list-style-type: none"> ・“活動”を実現するための“計画”ができている。 ・“計画”を発表するための準備ができている。



	内容	指数
最終アウトカム	自ら気づき学ぶことを通じて「人」が育ち、その「人」によって、地域の人たちがつながる「ネットワークとたまり場」がつけられている。「土浦力=人と人がつながる力」が生まれ、高まっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の中から1つ以上のグループができ、「ネットワーク」と「たまり場」をつくっている。

「土浦力をダス！～人がつながるまちづくり講座～」連続ワークショップ プロセスデザイン&プログラムデザイン(案)

2012.05.29 徳田太郎

事業の目的 地域で生活するすべての人に居場所があり、人の役に立つ喜びが味わえる社会の構築を目指し、無縁社会に立ち向かうための地域力を育成する。
WSのねらい 自ら気づき学ぶことを通じて「人」が育ち、その「人」によって、地域の人たちがつながる「ネットワークとたまり場」がつけられている。
それにより、「土浦力=人と人がつながる力」が生まれ、高まっている。

対象者 一般市民30名

コピー 土浦に住んでいるけれど、土浦のことをよく知らない。土浦を元気にしたいけれど、方法がわからない。仲間をつくりたいけれど、きっかけがない。そんなあなたにピッタリの講座が始まります！ みんなで真剣に、そして楽しみながら、土浦のことを考えていきましょう。

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
実施日	6月19日(火)	7月10日(火)	8月7日(火)	8月21日(火)	9月11日(火)	9月25日(火)
テーマ	はきダス みんなの“思い”を交換しよう	おもいダス 土浦のことを知ろう	うごきダス 現在の土浦力を考えよう	つくりダス みんなでできることを考えよう	つくりダス みんなでできることを考えよう	あるきダス 実際になにかやってみよう
アウトカム	土浦をもっと知りたい、元気にしたいという気持ちになっている このメンバーと一緒に活動に取り組んでいこうという気持ちになっている	土浦の“過去”について知っていることが増えている 土浦の“過去”を“未来”に活かすためのヒントがつかめている	土浦の“現在”について知っていることが増えている 土浦の“現在”を“未来”に活かすためのヒントがつかめている	土浦の“理想の未来”が見えている “理想の未来”に対応する、自分たちの“ありたい姿”が描けている	“ありたい姿”を実現するために自分たちが“できること”が見えている “できること”を具体的な“活動”として表現できている	“活動”を実現するための“計画”ができている “計画”を発表するための準備ができている
10:00	事務連絡	事務連絡	事務連絡	事務連絡	事務連絡	事務連絡
10:15	ワークショップ全体についてのインストラクション	チェックイン	チェックイン	チェックイン	チェックイン	チェックイン
10:30	インストラクション	インストラクション	インストラクション	インストラクション	インストラクション	インストラクション
10:45	チェックイン	話題提供	話題提供	ワールドカフェ:土浦の“理想の未来”は？	オープンスペース①:“ありたい姿”を実現するために、何ができるだろう？	ディスカッション①:“活動”を計画に落とし込もう！(上)
11:00	インストラクション					
11:15	インテグレーション①:土浦について知っていること					
11:30	は？	視点の整理	視点の整理			
11:45	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩
12:00						
12:15						
12:30						
12:45						
13:00	インテグレーション②:土浦について知りたいことは？	フィールドワーク	フィールドワーク	ハーベスト:土浦の“理想の未来”に対応する、私たちの“ありたい姿”は？(フリンプスピーチ→未来新聞)	オープンスペース②:“できること”を具体的な“活動”にすると？	ディスカッション②:“活動”を計画に落とし込もう！(下)
13:15						
13:30						
13:45	インテグレーション③:土浦を元気にするためにできそうなことは？	ふりかえり&わかちあい	ふりかえり&わかちあい	ふりかえり&わかちあい	ふりかえり&わかちあい	ふりかえり&わかちあい
14:00						
14:15	ふりかえり&わかちあい					
14:30	チェックアウト	チェックアウト	チェックアウト	チェックアウト	チェックアウト	チェックアウト
14:45	事務連絡	事務連絡	事務連絡	事務連絡	事務連絡	事務連絡
15:00						

～人がつながるまちづくり講座～

「土浦力...それは、人と人がつながる力！」

土浦に住んでいるけれど、土浦のことをよく知らない。土浦を元気にしたいけれど、方法がわからない。仲間をつくりたいけれど、きっかけがない。そんなあなたにピッタリの講座が始まります！ みんなで真剣に、そして楽しみながら、土浦のことを考えていきましょう。

全6回を通して、みなさんと一緒に進んでいく参加体験型の講座です。

あるきダス 実際になにかやってみよう！

つくりダス みんなでできることを考えよう。

うごきダス 現在の土浦力とは...？

おもいダス 土浦のことを知ろう。

はきダス みんなの“思い”を交換しよう。

通年 6月19日(火) 7月10日(火) 8月7日(火) 8月21日(火) 9月11日(火) 9月25日(火)

6回講座 10:00～15:00

県南生涯学習センター講座室 ほか

先着 30名 お申し込みは、電話・来所にて！

参加無料 来所：茨城県県南生涯学習センター (昼食代別途) 土浦市大和町9番1号(ウララビル5階)

※初回の昼食については、各自ご持参ください。 電話：029-826-1101

あなたは土浦のまちをもっと活性化したい。そうおもいませんか？

緑がほしい

商店街が賑わってほしいな

花いっぱいな街がいいな

思いの場があったらな

土浦がこんが谷街だったらしいのにな

子どもたちはどんなまちに住みたいのかな

お花を植えている人を見たよ

小学生がまち探検していたよ！

商店街に「おかみさん会」ができたよ

中学生がゴミ拾いしていたよ

土浦のことだけ知っていますか？

かんぼって人がいるね！

「まち」づくりしてる人がんぼって人かももってるともいえるかもしれない

歴史 史跡 文化 観光 人物

亀城公園 霞ヶ浦 レンコン キララちゃんバス 商店街

知ろたいこといっぱい！

もっと知りたい

一緒に何かやってみようよ！

私に何が出来るかな？

私にも谷にか出来るかも知れない

はきダス おもいダス うごきダス つくりダス あるきダス

この「まち」のために出来ること 私たちに何が出来るか一緒に考えてみませんか？

平成 24 年度 生涯学習調査研究事業展開事例報告書

茨城県県南生涯学習センター

4月17日 第1回 組織委員会

- ・組織委員顔合わせ
- ・プロジェクトチームの計画と役割分担
- ・モデルプログラム日程の決定
- ・モデルプログラム内容の検討
- ・講師の選定
- ・チラシ内容の検討
- ・広報手段と広報先の決定

5月29日 第2回 組織委員会

- ・プログラム案の検討
- ・講師の決定
- ・役割の確認
- ・資料の検討

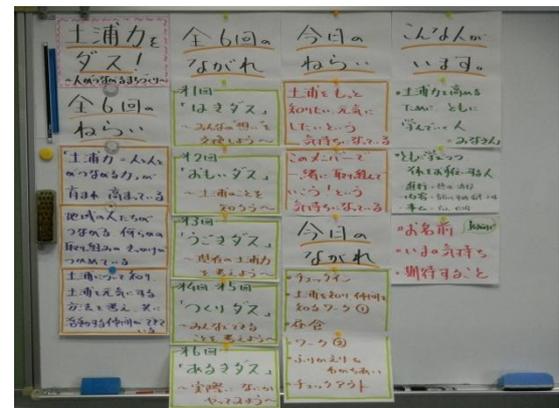


6月19日 第1回 「土浦力をダス！」 第3回 組織委員会 プログラムの説明

受講生が同じ思いで参加できるように、全6回のねらいと進め方を説明
チェックイン（今日、どんな想いで講座を受けに来たか）から始まる。

「はきダス みんな『想い』を交換しよう」

- ① 土浦について知っていること
各自ポストイットに自分の知っていることを書いて模造紙に貼り付けていく。
- ② 土浦について知りたいこと
①と同様に行うが、その中で「知りたいこと」の半分以上が解決する。
- ③ みんなに知っておいてほしいこと
お互いのことを知ってもらうことで、今後一緒に学んでいく仲間意識を高める。



チェックアウト 今日の振り返り（今どんな気持ちか）で終了

組織委員会では、モデルプログラム終了後、その日の反省と次回へ向けての検討を行う。（毎回）

7月10日 第2回 「土浦力をダス！」 第4回 組織委員会
 チェックイン（今日はどんな想い）

「おもいダス 土浦のことを知ろう」

- ① 土浦の昔を知る（講師：土浦市博物館学芸員 木塚久仁子さん）
 商業で栄えていた、まちの人ががんばり・元気だったとされるころの土浦について学ぶ。
- ② 土浦まち探検
 午前中の歴史の講座を踏まえて、3グループに分かれてまちを歩き、自らの目でさまざまな事柄に触れる。

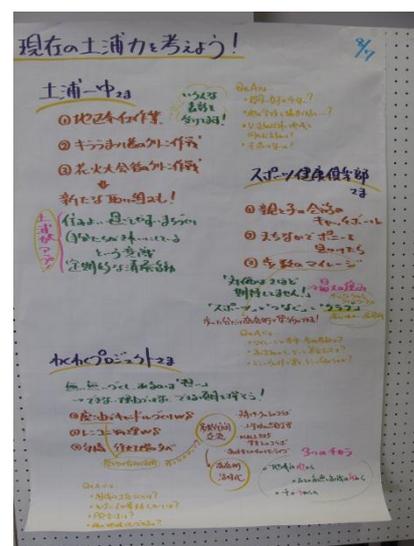


チェックアウト（今どんな気持ち）

8月7日 第3回 「土浦力をダス！」 第5回 組織委員会
 チェックイン（今日どんな想い）

「うごきダス 現在の土浦力を考えよう」

- ① 土浦の今を知る（3者から今行っている活動について話題提供）
 土浦第一中学校生徒会
 スポーツ健康倶楽部
 わくわくプロジェクト



- ② 過去・現在の整理

前回の講座で学んだ「過去」と今回の講座で学んだ「現在」についての知識や思いを整理することで、「未来」に活かすための「ヒント」を考える。

チェックアウト（今どんな気持ち）

9月25日 第6回 「土浦力をダス！」 第8回 組織委員会

チェックイン（今日どんな想い）

「あるきダス 実際になにかやってみよう」

① 名前を決める

プロジェクトの名前…土浦力（人と人とのつながり）を高める。その手段としてイベント
やコミュニティカフェを展開するプロジェクト …「プロジェクト土浦力」

土浦について考える会または茶話会やカフェの名前

…蓮の花の開く音＝ポン…土浦ポン Cafe

② 今後の方向性

土浦市役所移転にむけて、市役所庁舎の中に情報発信基地となりうる（コンシェルジュサ
ービスなどができる）コミュニティカフェを展開していけるように働きかけをしていく。

- ・ 講座だけで終わらせない。
- ・ 自分たちの体力を付けていく活動も行う。
- ・ まずは、活動をいろいろな人に知ってもらうことから、そして仲間集めから始めよう。

以上の3点を踏まえて企画

10月26日～28日の「まなびフェスタ」にて、今まで講座の中で学んだことや、今後
やりたいことなどを多くの人に知ってもらうため展示発表と茶話会をおこなう。



今後も続けていきたい！

：

『プロジェクト土浦力』 発足！

チェックアウト（今どんな気持ち）

今後は講座としてではなく一つのプロジェクトとして受講生が中心となり、まちづくりに積極的に
企画参加していくものとする。生涯学習センターはその活動の協力・支援をする。

☆『プロジェクト土浦力』の活動

10/2 …①これから進めていくことの確認

②「まなびフェスタ」(県南生涯学習センターの学習団体の発表会) 参加にあたって

・“趣意書”の作成

プロジェクト土浦力発足までの経緯, 土浦力の定義, 会の目的, 活動目標を盛り込む。

・「まなびフェスタ」発表内容

趣意書・講座の成果物をパネル展示, 解説する。

第1回「土浦について考える会」(茶話会)を実施する。

来た人が“土浦への想い”を付箋に書いて模造紙に貼れるようにする。

※メーリングリストの立ち上げ

10/16 …①趣意書を完成させる ②発表準備

・趣意書の完成 別紙参照のこと

・「まなびフェスタ」発表準備

スケジュール・人員配置の決定

茶話会 10月28日 15:00~16:00 に開催

プロジェクターで講座の写真を流す。

看板や掲示物を分担して作成

講座の仲間や話題提供者に参加を呼びかける。

・フェス以降の日程と方向性

次回 10月30日 にフェスの振り返りを行う。

10/25 …「まなびフェスタ」準備日

・会場準備

机・いす・パネル等の配置, 展示



10/26~28 …「まなびフェスタ」にて発表 28日は茶話会「土浦ポンCafé」を開催

・展示・説明

通行人に呼びかけ, 参加者には講座の説明や展示の解説をする。

・茶話会「土浦ポンCafé」

始めに, 講座受講生から講座を受講した感想, 会発足のいきさつ及び趣意書の説明

参加者ひとりひとりから土浦に対する想いをきく。

今後一緒に活動してくれる仲間を募る。

・参加者数

26日 35人

27日 28人

28日 57人

(内, 仲間になってくれた人 7人!)



10/30 …①「まなびフェスタ」のふりかえり ②今後の活動の具体策を検討する

・ふりかえり

よかったこと…メンバーの絆が深まった, 仲間が増えた, 期間・場所が良かった…など
反省点…説明が難しかった。特に「土浦力」について

・年間目標

楽しみながら仲間を増やす
「土浦力」を浸透させる

・今後の活動を決める

季節ごとの「ポン Café」の開催…市の行事などにも参加する。

はすの花の音を聴く会

「まなびフェスタ」参加

・定例会

月1回 毎月第2火曜日 午前10:00～

11/13 …①役割分担

②ウィンターフェス（土浦商店街連合会等主催）への参加について

③年間計画

・役割分担

代表, 副代表, 連絡係, 書記を決定

・クリスマス ポン Café 開催（商店街の中に場所を借りて行う）

目的…「土浦力」をアピール（私たちの存在をアピール） 仲間の「絆」を強める。

内容…展示説明, 交流会の開催

場所…まちなか交流ステーション ほっとOne(土浦市川口町1-3-132 モール505内)

日時…12/21(金) 午前～準備 午後～展示

22(土) 展示・説明

23(日) 15:00～16:00 交流会

・年間計画

前回の年間計画 + 既存のグループとの連携

市役所移転に関する働きかけ

→じっくり時間をかけて考える。

・ひなまつりポン Café

2/29～3/3の土浦市ひなまつりイベント期間中, 空き店舗活用「土浦繁盛記」に参加する方向で検討

・視察

地域の情報発信の拠点となっている「かしわインフォメーションセンター」を視察にいきたい。

・次回 現場確認と検討をかねて

日時: 12月11日(火) 10:00～12:00

場所: ほっとOne

内容: クリスマスポン Café の準備

12/11 …①クリスマスポン Café の計画

②ひな祭りポン Café の計画

③視察について

- ・クリスマスボン Café について

日時：12月21日（金）12:00～準備 14:00～19:00 展示（まなびフェスタ同様説明）

22日（土）14:00～19:00 展示

23日（日）14:00～18:00 展示 15:00～クリスマスパーティー（交流会）

広報：チラシ、ケーブルテレビ

スケジュール：準備・展示の分担、準備物などの確認

目標：多くの人とつながり、土浦についての「想い」を聴きダス。仲間を増やす。

- ・ひな祭りボン Café について

出店決定

1) 土浦について話し合える場の提供

2) クラフトや手芸等のイベント

3) 飲み物又は食べ物の提供 以上3点をコラボレート

日時：平成25年2月9日～3月3日（この間の土日祝日の9日間）

経費：2,000円×9回＝18,000円（家賃・電気代・水道代など）

お金の捻出については後日相談→助成金

- ・視察について

かしわインフォメーションセンター視察決定

日程：1月15日（火）

12/21～23 …クリスマスボン Café



仲間を増やせた（5人増えた！） 親睦を深めることができた！ 土浦を語れた！

1/8 …①クリスマスボン Café の振り返り

②かしわインフォメーション視察について

③ひな祭りボン Café について

④助成金申請について

- ・クリスマスボン Café 振り返り

活動をPRするにあたって展示方法の工夫が必要，端的にわかるツールが必要。見やすいチラシはよかったが，MAPが必要だった。目玉となるアトラクションやいきたくなるような仕掛けが必要，活動に対して仲間になってもらう人にわたす「スターターキット」が必要，等多くの今後に対する改善点が出た。

- かしわインフォメーション視察

日時：1月15日13:00~15:00

目的：情報の集約・発信の実状を見てくる。

コンシェルジュサービスを参考にする。

見学することで自分たちのやりたいことを明確にする。

市役所新庁舎の中に開設したい「コミュニティカフェ」のヒントを得る。

行政とどのように関わっているのか知る。(人・もの・金)

- ひな祭りボンCafé

日時：2月9, 10, 11, 16, 17, 23, 24, 3月2, 3の9日間
(10時~15時)

会場：土浦各店街(旧いこい店)土浦市川口1-1-28

内容：詳細と担当を決める

- 1) 土浦について話し合える場の提供…清水さん, 薄井さん
- 2) クラフトや手芸等のイベント…井口さん
- 3) 飲み物又は食べ物の提供…猪股さん
- 4) 広報…小林さん

- 助成金について

今後の活動経費について、中央ろうきん助成プログラムに申請することが決定、申請書類を作成する。

申請書を作成する上で「趣意書」「スターターキット」など「想い」を見直すことが必要であると判明。要検討

1/15 …かしわインフォメーションセンター視察研修 10名参加

- インフォメーションセンターの経緯
- 業務内容とボランティアについて
- 経営について…行政の役割と経営(収入支出)について

1/16 …①報告事項 ②ひな祭りボンCaféについて

- 報告事項

かしわインフォメーション視察研修について(全員で情報を共有する。)

助成金について…申請書提出

- ひな祭りボンCafé

交渉：ちぎり絵, マジック同好会, 土浦二高茶道部, 音レンコン, 福祉の店, 保健所など

展示：組紐, ちぎり絵, おひな様, つるし雛など

販売：組紐, 福祉の店(クッキー), ツェッペリンカレー, ブルーベリーカレー, コーヒー, ケーキなど

広報：ポスター, チラシ, ホームページ, FMラジオ

1/22 …ひな祭りボンCaféについて

- 広報：ポスター・チラシの検討
アンケートの実施
- 展示：コラボする相手との打合せ, 価格の交渉
- スケジュール：イベントの相手との交渉と担当者(お当番)の決定

1 / 30 …ひな祭りポン Café

- 日程：最終決定
- 販売品：価格とマージンの決定
- イベント：決定
- 広報：ポスター・チラシ作成配布
- 現地：清掃準備

※空店舗利用の他のイベント

他の出展者，商店街の店主等との交流…茶話会・交流会の実施

土浦コミュニティカフェ
ひなまつりポンCafe
2月9日～3月3日
土・日・祝日
10:00～15:00

クマのストラップをつくろう！
2月4日 8:00開

ちぎり絵紙
2月17-24日 8:00開

土浦二高茶室部 ☉お茶会
2月24日 一般300円

その他、毎週イベント！！
自レコン ☉コンサート
クラフトいろいろ販売
お抹茶・コーヒーの提供

最終日3/3(日)！
13:00～ 茶話会
みんなの土浦のことについて
語りあひましょ！

土浦製菓記

OPENスケジュール

2/9 土	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート	2/23 土	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート
2/10 日	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート	2/24 日	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート
2/11 月	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート	3/2 土	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート
2/18 土	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート	3/3 日	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート
2/17 日	10:00～ せきまの餅屋 13:00～ 土浦のコンゴカート		

土浦名店街の中にある「お茶み道」で、土浦のことを売りにしたい！と思っている『プロジェクト土浦力』のメンバーが、コミュニティカフェをOPENします。親子で楽しめるクラフト教室や、おまんこケーキ・クッキー等の販売もあります。ゆっぴりのんが楽しんでください。

MAP

土浦市大町1番1号
029-826-1101

2 / 9～11 …ひな祭りポン Café の実施



2 / 12 …3 日間の振り返り

- 振り返り

各自反省点を出し，改善点を共有

朝礼・終礼・申し送りなどそれぞれ確認

イベント内で「土浦力」のアピールをすること，一人でも多くの人に「土浦に対する『想い』」を語っていただくように心がけることを確認

2 / 16～3 / 3… ひな祭りポン Café の実施



3/12 …①ひな祭りポンCafé 振り返り②報告事項③ハスの花の開く音を聴く会について

• ひな祭りポンCafé 振り返り

来場者数 626名 総数816名(スタッフ協力者含む)

収支 239,159円-191,876円=47,283円…黒字

よかったことの抽出…共有, 悪かったことの抽出…改善事項の確認共有

• 報告事項

生涯学習ネットワークフォーラム, 生涯学習調査研究事業での発表について

まちづくり市民会議での取り組み

※今後「土浦力」を継続していくためにはどのようにしていくべきかを考える。

• ハスの花の開く音を聴く会

近隣農家と連絡をとり, 3月中に打合せを行う。

☆次年度の計画

(1) コミュニティカフェの実施

• まなびフェスタへの参加

生涯学習センターでの講座終了後の1年間の活動成果を発表すると同時に行政・商工会議所など他団体との交流の場を持つ。

• クリスマスポンCafé

• ひな祭りポンCafé

(2) 助成金の申請

• 現在申請中の「ろうきん助成プログラム」に引き続き申請を行う。

(3) インフォメーションセンターに関わる研修会の実施

(4) まちづくり会議への参加

(5) まちなかイベントの実施

• ハスの花の開く音を聴く会の実施…7月下旬

ハス田地域を訪ねポンCaféの由来であるハスの花の開く音を聴くと共にレンコン農家の土浦への想い, 観光資源としての可能性などを話し合う。

• 船上ポンCaféの実施…9月下旬

湖上から見た土浦の夕景を楽しみつつ, 水運で栄えた土浦, 水質の汚れた霞ヶ浦の現状を学びつつ土浦や霞ヶ浦の観光資源について話し合う。



「土浦力」ってなんだろう？

「土浦力」とは、人と人がつながる力、すなわち土浦市民の力であり、コミュニケーションの力です。

◆ 「土浦力」へのいきさつ

茨城県県南生涯学習センターの講座「土浦力をダス！」に参加した私たちは、6回にわたって土浦の歴史や現状、その長所と短所、これからの展望・希望などを話し合ってきました。しかし、このテーマは広大であり、当然6回の中に納まるわけもなく、引き続きグループを結成し、さらに仲間を募り、学習と活動をしてはどうかという結論に達しました。

◆ なぜ、いま「土浦力」？

近年の社会現象として、都会の人間関係の希薄化、無縁社会化が問題視されています。地方都市である土浦にも、少なからずその傾向はみられます。

私たちは、少しでもそれを食い止め、活気あふれる住みよいまちをつくるためには、世代を超えた新しいコミュニケーションの形を生みだし、「土浦力」をうまく引き出し活用することが大切だと考えます。

◆ 「土浦力」を通じてめざすまち

- あちこちに市民が自由に集い、つながる場があるまちをめざします。
- 歴史的資産や自然を大切にし、それらを誇れるまちをめざします。

◆ 「土浦力」を高めるための活動

- 同じ目的意識を持つ仲間やグループを募り、メンバーが定期的集まる場を持ちます。
- コミュニティカフェづくりや、まちなかイベントの企画・実施をしていきます。
- 市役所の移転にあわせて拠点となるスペースを確保するための働きかけを行います。

さあ、あなたも一緒に「土浦力」を高めていきましょう！

2012年10月26日

プロジェクト土浦力（仮）発起人一同

土浦力アンケート 平成24年 9月 25日

今後の講座開設の参考とさせていただきますので、あなた自身について、それぞれの項目のあてはまるものに○を付けてください。

1 性別 1 男性 2 女性

2 職業 1 会社員 2 自営業 3 公務員 4 学生 5 専業主婦 6 パート・アルバイト 7 無職 8 その他

3 年代 1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代 7 70代 8 80代以上

4 市町村名 1 土浦市 2 石岡市 3 龍ヶ崎市 4 取手市 5 牛久市 6 つくば市 7 守谷市 8 稲敷市 9 かすみがうら市 10 つくばみらい市 11 美浦村 12 阿見町 13 河内町 14 利根町 15 その他

5 会場までの交通手段 1 徒歩 2 自転車 3 オートバイ 4 公共交通機関 5 自家用車 6 その他

6 本講座をお知りになった情報 (あてはまるものすべてに、○を付けてください。)

[1] チラシ 1 公民館・図書館 2 病院 3 銀行 4 当センター 5 その他

[2] チラシ以外 1 ホームページ 2 市町村の広報誌 3 知人・友人 4 ミニコミ誌 5 新聞 6 その他

7 受講目的 (あてはまるものすべてに、○を付けてください。)

1 健康増進のため 2 有意義な余暇を過ごすため 3 趣味にあった講座のため 4 教養を高めるため 5 仲間を得るため 6 社会参加のため 7 職業で必要のため 8 その他

8 講座を選択する基準 (あてはまるものすべてに、○を付けてください。)

1 内容 2 開設時期 3 講師 4 講座回数 5 金額 6 その他

9 受講料 1 安い 2 やや安い 3 適当 4 やや高い 5 高い

10 本講座の内容について、満足度 評価の理由 をそれぞれお書きください。

満足度: 1 満足 2 ほぼ満足 3 やや不満 4 不満

評価の理由:

11 今後開設してほしい講座、講師の御希望がありましたらお書きください。

ア 講座

イ 講師

12 その他(問10以外)で、御意見がありましたらお書きください。

13 これまで講座で学んだことを生かしてみたいとお考えの方は、次のうち、あてはまるものすべてに、○を付けてください。

ア 幼稚園(保育園)や小・中学校などで子どもたちの学びの手伝いをしてみたい。

イ 公民館など地域で講座の講師やアシスタントをしてみたい。

ウ グループをつくるなどして継続した学習をしてみたい。

エ その他

御協力ありがとうございました。

土浦力をダス!

性別	市町村	情報	目的	受講料
男 7	1 土浦市 11	チラシ	1.健康増進 0	1.安い 4
女 6	2 石岡市 1	1.公民館 1	2.やや安い 0	2.やや安い 0
13	3 龍ヶ崎市 0	2.病院 0	3.趣味 1	3.適当 1
	4 取手市 0	3.銀行 0	4.教養 4	4.やや高い 0
	5 牛久市 1	4.当センター 3	5.仲間つくり 4	5.高い 0
	6 つくば市 0	5.その他 2	6.社会参加 8	6.満足 5
	7 守谷市 0		7.職業必修 2	
	8 稲敷市 0	チラシ以外	8.その他 2	
	9 その他 0	1. HP 1		
	10 その他 0	2. 広報誌 4		
	11 龍ヶ崎市 0	3. 知人 1		
	12 阿見町 0	4. ミニコミ 0		
	13 河内町 0	5. 新聞 0		
	14 利根町 0	6. その他 2		
	15 その他 0			
	13			

年代	交通手段	満足度	将来
1.10代 0	1.徒歩 1	1.満足 8	1.幼稚園や小中学校 1
2.20代 0	2.自転車 2	2.ほぼ満足 5	2.公民館講師 4
3.30代 1	3.オートバイ 0	3.やや不満 0	3.グループ学習 3
4.40代 1	4.公共交通機関 3	4.不満 13	4.その他 1
5.50代 3	5.自家用車 3		
6.60代 5	6.その他 0		
7.70代 2			
8.80代以上 0			
12			

評価理由

一期一会で仲間作りができた。「絵に描いたモチ」ではなく実行力を付けられ来期講座だった！
考えられ話し合えた。
内容を確認して臨むのもでした。
現実活動できそうだから。
成果を出せるかも？仲間作りができた。
多くの人の出会い、色々な事を考え合い語り合ったこと。
1つ方向がみえたこと。
自分の住んでいる街を良くするために、学び直し実行するよう講座になった。
大満足！

希望講座
長谷川教授(茨大)
街づくりシンポジウム 市行政の地方都市づくりの大学の先生などにより

その他のご意見
PRを広く！
市民と一緒に頑張って働くこと。

事業評価シート		作成者	県南生涯学習センター 片山・松岡
期日	講座名	講座内容	
6月19日	土浦力をダス!	はきダス〜みんなの"想い"を交換しよう	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
※本日講座について 募集人数30名 ↓ 参加者9名	・ 広報誌の反応がよかった。 ・ チラシの文言では、 講座内容が伝わりやすかった。	・ 途中増員可の周知 ・ 追加募集一参加者にTEL 一友人・知人を誘ってもらう	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
土浦をもっと知りた い、元気になりたい という気持ちになっ ている。	なっている(O.K.)		
活動に取り組んで いこうという気持ち になっている。	一人一人は取り組む意欲があるが、 まだ一緒にやる気にはなっていない。	一緒に何か共通作業を行う。 ↓ 少しずつ少しずつ、一緒にやっていく ことができるようになる。増えている。 ↓ 一緒にやっていくという気持ちを 育む	
計画 Plan	次回...フィールドワーク「まち探検」 グループ分け(一緒にお昼を取りながら)何を見ているか明らかに一言書いてい く。帰って他グループと共有する		

事業評価シート		作成者	県南生涯学習センター 片山・松岡
期日	講座名	講座内容	
8月21日	土浦力をダス!	つくりダス〜みんなのできることを考えよう〜	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
※本日講座について 参加者 23名	・ 途中参加者からも意見が出ていた。 ・ 新規参加者への事前説明が活きていた。 ・ 会場のセッティングが良かった。 ・ 時間配分が上手だった。	・ 次回も事前に会場設置をしておく。 ・ 時間配分に気を付ける。	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
土浦の"理想の未来"が 見えている。	見えている(O.K.)		
"理想の未来"に対応 する、自分たちの "やりたい姿"が描け ている。	・ 手段に先走りがある。 ・ まだ自分がやろうと思っていない人がいる。 ・ 他人任せな部分がある。 ・ 「土浦力を高める」という一つの方向には 向かっている。 ・ 不満や不安を言う場所ではない。 ・ 夢は夢と割り切っている。 ・ 「やりたい姿」、自分が関わっている イメージは出来た。 ・ 目的意識は出た。	・ テーマから逃れないように、 焦点と軌道の 修正 をその都度行っていく。 ・ 連鎖的に出て来る話、良い連鎖になるよ い。 ・ 自分ひとりではない! 仲間をつくる。人を巻き込んでいく手段を 教える。 ↓ ・ やらうよ!に持って行く。 気づかせる ・ 自分のできることを。 ・ 自分のできないことを誰かにつけてくる。 ・ 何のため、誰のため?一自分のため ・ やりたいこと、できることをひとつにする ために何が出来るか。	
計画 Plan	次回までに...外食場所の予約。 次回...今回の未来新聞をベースに...やりたい姿のためにやることを具体的な方法に落とし込んでいく。		

事業評価シート		作成者	県南生涯学習センター 片山・松岡
期日	講座名	講座内容	
9月11日	土浦力をダス!	つくりダス! みんなでできることを考えよう	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
21名の出席	セッティング 良 時間配分 良 食事 良 概ねスムーズな展開	特になし	

成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
<p>「やりたい姿を実現するために自分たちが『できること』が見えている</p> <p>「できること」を具体的な「活動」として表現できている</p>	<p>具体的な構想は出ている。 「できること」は見えている</p> <p>「できること」は雑多に出てきている。 シンプルなものにはなっていない。 不安がある(自分たちがやるのか?他に誰かやるのか?)</p> <p>「自分たちができること」ではなくまだ現実的ではない要望で終わっている。</p>	<p>自分たちがやるという気持ちになってもらう。</p> <p>みんなで同じ事をやるのではない、自分の得意な分野で参画、又はお手伝いができればよい。</p>

<p>事前 このプロジェクトを展開していく上で、情報収集発信の基地、活動の場、として、カフェを市役所に併設、市役所の移転に伴い、カフェ併設を市役所へ要望。(生涯学習課と市民活動課に働きかける)</p> <p>次回 宿題... プロジェクトの名前と、カフェの名前を考えてくる。 3年後5年後を見据えて、プロジェクトを考える。土浦市に働きかける。 どのように継続していくのかを決める。 発表会をどうするか決める</p>

事業評価シート		作成者	県南生涯学習センター 片山・松岡
期日	講座名	講座内容	
9月25日	土浦力をダス!	あるきダス 実際になにかやってみよう	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
19名の出席	出席率 良好 セッティング 良 →空間のデザイン	特になし	

成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
<p>「活動」を実現するための「計画」ができている</p>	<p>ネーミング 次回の日程 世話役 方向性 決定</p> <p>→2本の路線で行く。 ①自分たちの体力を付けていく活動 ②市役所の移転に伴うウラビルの活用について</p>	<p>☆発表...意識を高める。 ・発表に向けて...projectの中身 何を? どう? 誰が? 無理のない範囲で ・発表の仕方...何を使って? ・パブリックコメントを書いてくる? ☆ファシリテータや職員に頼らなくても、自分たちでできるようになる。</p>

<p>計画 Plan ・自分たちでできるようになるように。 →ノウハウを身につける。→やっている人(メンバー)に教わる。 ・存在価値を見出す。 ・学んだ人たちがつなぐところまでお手伝いする。 →他団体や行政とつなぐ。やっていることをいろんな所で言う。 ・圧力団体にならない。 →言うだけでなく、自分たちで実行する団体に。</p>



(3) 県西生涯学習センター

平成24年度 生涯学習調査研究事業「ふる里まちづくり塾」実施要項

1 趣 旨

近年、少子高齢化や国際化、高度情報化の急速な進展に伴い、人と人とのつながり、地域と人とのつながりが希薄化し、互いに支え合うことができる社会の実現を図るためには、住民の社会貢献への意識を高めていくことが求められている。本年度は23年度作成のモデルプログラムの（地域版）実施と25年度実施のプログラム（コミュニティ版）の開発、「活動人口」の調査研究を行う。本事業において、県生涯学習課・水戸生涯学習センターとともに、本県生涯学習の推進を図るという立場から、理解・協力をし、先導的に調査・研究に取り組む。

2 主 催

茨城県県西生涯学習センター

3 開講場所

茨城県県西生涯学習センター

〒308-0843 筑西市野殿1371番地 TEL 0296-24-1151 FAX 0296-24-1450

4 ふる里まちづくり塾の目的

地域に新たな人と人とのつながりを実現するために、自分たちの居住する地域の歴史、自然、風土を学び、地域に貢献した先人の足跡をたどることによって、地域（郷土）に対する愛情と誇りを持つと同時に、事業を通じて人的つながりを深め、人材育成を図る。

5 実施期間及び内容

第1回、2回	5月	プロジェクトチームの1年間の見通しとモデルプログラム（地域版）実施準備確認
第3～11回	6月～11月	モデルプログラム（地域版）の実施及び、調査結果と併せての検証
	12月～1月	報告書の作成とプログラム（コミュニティ版）作成

6 組織員

市町村職員2名、NPO等団体職員1名

水戸生涯学習センター職員1名、各生涯学習センター職員等

7 受講対象者及び定員等

(1) 受講対象者 大田地区の住民、地域づくりに関係する団体や長など

(2) 定 員 60名程度

8 申込み

(1) 期間 平成24年4月25日（水）～5月16日（水）

(2) 方法 往復はがき・Eメール・来所・電話による。

受講の可否については申込方法に合わせて、返信用はがき・Eメール等で連絡する。

(3) 申込先 茨城県県西生涯学習センター 〒308-0843 筑西市野殿1371番地

相談コーナー(TEL) 0296-24-1389 (FAX) 0296-24-1450

info@kensei.gakusyu.ibk.ed.jp

9 報告書の作成

(1) 調査研究の成果は、調査結果をもとに分析・考察を加え、報告書にまとめる。

(2) 報告書の作成は、モデルプログラム運営プロジェクトチームが行う。

(3) 報告書は水戸生涯学習センターへ送付する。

事業分析シート

作成者

県西生涯学習センター

1 事業概要

事業名	生涯学習調査研究事業 ふる里まちづくり塾
事業目標	地域に新たな人と人とのつながりを実現するために、自分たちの居住する地域の歴史、自然、風土を学び、地域に貢献した先人の足跡をたどることによって、地域(郷土)に対する愛情と誇りを持つと同時に、事業を通じて人的つながりを深め、人材育成を図る。
事業の内容 具体的な手だて	地域の歴史について学び、三世代が参加出来る「地域づくり三世代歴史ウォーキング」を企画、実施することによって、地域に新しい繋がりを作り、絆の深化に寄与する。

2 予想される・期待される結果(アウトプット)

アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関する講座を11回実施予定 ・大田地区自治会長、地域住民の参加(50~60名) ・平成25年度におけるまちづくり活動団体の設立
--------	--



3 成果(アウトカム)

	内容	指数
中間アウトカム	<ul style="list-style-type: none"> ①無縁社会に対する理解が深まっている。 ②参加者が活動内容の理解している。 ③参加者が地域で行われている活動に対して理解している。 ④参加者自身が地域の歴史に対する理解を深めている。 ⑤参加者同士が一体となり、自主的に事業(ウォーキング)を計画・運営する。 ⑥まちづくり活動団体結成に向けて意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢による社会構造の変化や、地域の結びつきの大切さを感じ取っている。 ・協力的であるが、まだ主体性が低い。 ・里山づくりや自然環境保護活動について理解が深まっている。 ・地域の地誌、自然環境、先達者、歴史的名所について理解が深まっている。 ・参加者が主体となり、担当を決めたり、広報資料や当日配布資料などの準備をする等、主体的な運営が出来た。 ・次年度も継続して活動をしたいという気持ちになっている。



	内容	指数
最終アウトカム	まちづくり活動団体の設立	次年度も継続して活動することが決定

事例展開実例報告「ふる里まちづくり塾について」

1 生涯学習調査研究事業の目的

- ・人と人のつながり，地域と人とのつながりをより深め，互いに支え合う地域社会の深化
 - ・地域の人々の地域における社会貢献意識の高揚
 - ・新たな社会貢献の担い手としての人材育成
- 「茨城県教育庁生涯学習課より」

現代の社会的な課題としては人と人との結びつきの縁が薄くなり，解け・途切れ・見えない状況となり，「無縁社会」という名で社会的活動の根底を揺るがす問題として私達の前につきつけられている。課題に立ち向かう為には，様々な資源を活用したり十分に整理したりしながら，新たな仕組みづくりや人材育成を想像していく必要がある。本事業では，コミュニティの「再生」「補強」を図る人材の発掘・育成のために，地域の特性や課題を把握し分析しながら新たな仕組みづくりを探ろうとするものであることと社会教育の意義の再認識を図るものである。

(『「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりについての調査研究』報告書より抜粋)

2 県西生涯学習センターにおける取り組み「ふる里まちづくり塾」

茨城県県西生涯学習センターが所在する筑西市大田地区は，首都 70km 圏にあり，関東平野の北部，茨城県の西部に位置し，東に筑波，北に日光，西には富士山が望める河川にはぐくまれた緑豊かな地区である。これまでは，広く県西地区において学習機会の提供を中心に活動してきた当センターであるが，地域に関わる事業を立ち上げるということで，対象地区を大田地区とし，共にふる里を盛り上げる為，事業名を「ふる里まちづくり塾」と設定した。

まず，本事業の目的にあった事業を立ち上げるために，大田地区の住民，200 戸を無作為に抽出し，アンケートを実施した（有効回答数：67 名）。このアンケート結果と筑西市や大田地区で既に行われている事業内容との明確な棲み分けを行う為，地域に関わる取り組みについて分かる範囲で調査をした。多くの事業や催しが地域や市民の為に行われている中で，「ふる里まちづくり塾」の企画にあたり，県西生涯学習センターのテーマを，「地域をもっと知って貰う」とことと「地域の人と人とのつながりをより深めてもらう」ことに定め，三世代で一緒に活動が出来る事業を参加者と共に作り上げることにした。

次に，事業を行うに際して，大田地区の自治委員の皆様方に推進委員を担って頂き，自治委員の皆様方から，この事業の協力者を推薦して頂いた。地域に関わる事業を展開する為，一般市民の方にも広報活動をし，この事業を通して地域のつながりを深める事業に賛同する方を募集した。（推進委員は 40 名，自治委員から推薦頂いた協力委員 54 名，一般募集により賛同頂いた方 38 名，計 132 名の賛同者を得た。）

以上から，地域に新たな人と人とのつながりを実現するために，自分たちの居住する地域の歴史，自然，風土を学び，地域に貢献した先人の足跡をたどることによって，

地域（郷土）に対する愛情と誇りを持つと同時に、事業を通じて人的つながりを深め、人材育成を図ることを目的として事業を進めていく。

（１）アンケート調査の実施（大田地区 200 戸の抽出による実施）

ア 調査結果から

- ・ 家族構成
- ・ 就業状況

夫婦だけ	34%	親と子	37%	親と子と孫	21%
------	-----	-----	-----	-------	-----

自営及び会社員	45%	就いていない	55%
---------	-----	--------	-----

- ・ 現在地での居住年数

30年以上	55%	20～30年	24%	11年～20年	17%
-------	-----	--------	-----	---------	-----

- ・ 近所付き合い

挨拶や立ち話程度	78%	生活面で協力している	18%
顔を知っている程度	10%	全く知らない	0%

- ・ これから地域のつながりを深めていくためには

三世代による活動	26%	子どもと大人の活動	26%
大人同士の活動	26%	子どもと高齢者の活動	20%

- ・ つながりを深めるための具体例

- ・ 子ども会を通じた大人の参加
- ・ 親同士の交流
- ・ 地域の歴史など文化的資源を知って周知すること
- ・ 自治会の諸行事への参加促進

- ・ 自由記述欄から

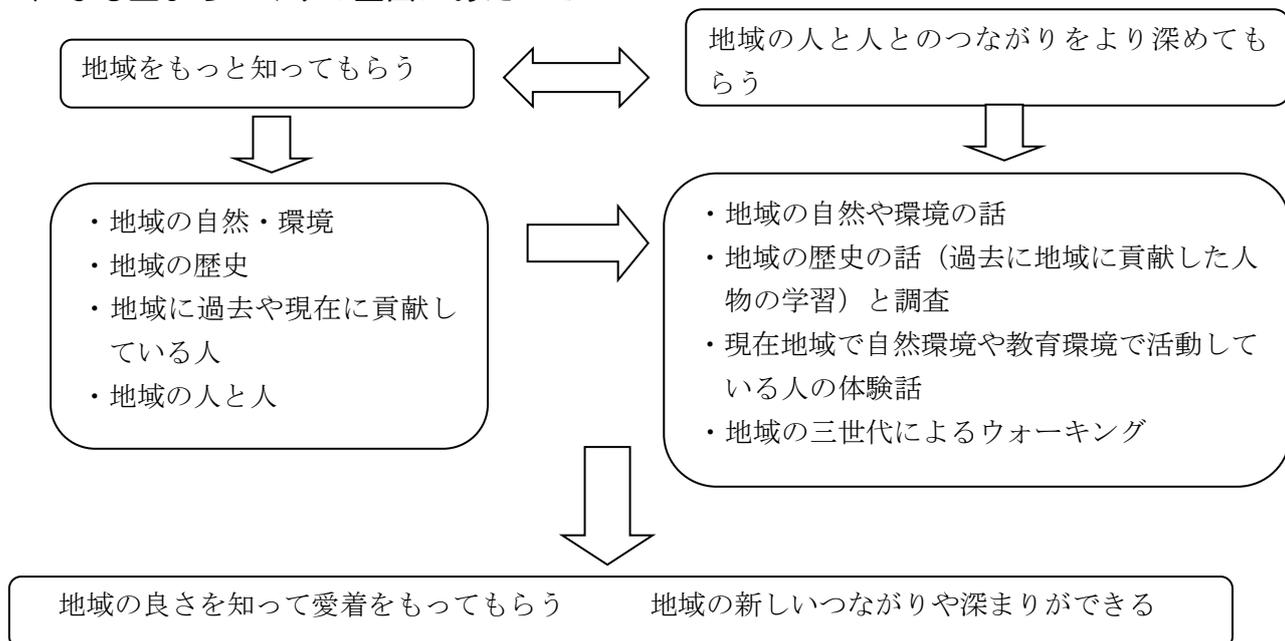
- ・ 住んでいる地域を大切にして、住民が愛する地域にしていく
- ・ 地域での絆を深めるきっかけになる行事を企画して欲しい
- ・ 色々なことに参加していないので参加したい
- ・ 地域の意見が取り入れられた学習センターの活動をして欲しい

（２）筑西市や各地区における取り組み

生きがいづくり（公民館）	福祉	環境
子育て支援	悩み相談	（筑西市）

夏祭り	秋祭り	運動会	環境整備
子ども会行事			（各地区）

(3) ふる里まちづくりの企画にあたって



(4) モデルプログラム実施計画

回	期日	時間	項目	活動内容	指導者	会場
1	5/20(日)	13:30	事業内容説明 (30分間を予定)	結成式・事業説明	センター職員 茨大長谷川 准教授	県西 生涯 学習 センター
2	5/20(日)	14:00	地域がめざすもの	これからの地域がめざすもの	地域づくり 実践者	
3	6/16(土)	13:30	地域がめざすもの	地域への社会貢献	中川行夫氏	
4	7/7(土)	13:30	地域を知る	地域の自然や環境を知る	古澤諭氏 桐原光明氏	
5	7/21(土)	13:30	地域を知る	地域の歴史を知る	桐原光明氏	
6	8/18(土)	13:30	地域を調べる	地域に貢献した先達者を調べる		
7	9/1(土)	13:30	地域を調べる	ウォーキングマップの 作成活動 (三世代で活動を観点 に)		
8	10/27(土)	13:30	地域を歩く 活動内容の設	事業参加者による事前 体験	現地協力者 桐原光明氏	

			定			
9	11/2 (金)	13:30	活動内容の吟味	反省会・まちづくりワークショップ	桐原光明氏	県西生涯学習センター
10	11/18(日)	9:00	地域を歩く	地域の参加者によるウォーキング	現地協力者 桐原光明氏	現地
11	12/15(土)	13:30	まとめと反省	活動の振り返りと資料の完成	モデルプログラム組織員	県西生涯学習センター

(5) ふる里まちづくり塾 組織委員・推進委員・協力委員について

- (組織委員) 大島荘八(大田公民館長) 谷口 明(筑西市生涯学習課)
 田中衛八(八俣ふきの芽会会長) 篠崎昌子(水戸生涯学習センター)
 法堂泰明(県西生涯学習センター) 計 5 名
- (推進委員) 大田地区の自治委員, 大田小学校 PTA 会長, 大田地区子ども会現
 前会長 計 40 名
- (協力委員) 大田地区をはじめとする地域住民 計 92 名

※推進委員とは, ふる里まちづくり塾を普及・推進する為に協力をしてくださる方々
 ※協力委員とは, 推進委員から趣旨説明を受け, 事業に賛同してくれることとなった方々

(6) 協力及び関係機関

- ・大田地区内各自治区の自治委員の方々への協力依頼
- ・大田公民館の協力・支援
- ・筑西市教育委員会生涯学習課・市長公室広報広聴課・企画部企画課, 坂東市企画部市民協働課の協力・支援

3 各回の様子

(1) 第一, 第二回

平成24年5月20日(日) 13:30~15:00 結成式及び講演会

テーマ:「結成式・事業説明, 無縁社会に立ち向かう為には

~これから地域が目指すもの~」

講師:茨城大学 長谷川幸介 准教授

ふる里まちづくり塾の参加者73名が出席し, 地域づくりに関して多方面でご活躍をされている, 茨城大学の長谷川先生を講師としてお招きし, 無縁社会(単身世帯が増えて人と人との関係が希薄となりつつある日本の現状)についてご講演をして頂いた。

今後, 地域において新しい絆を作る為に必要な事項として, ①人は独りでは生きられないことを認識し, ②4つの縁(血縁・地縁・友縁・職縁)を大切にして, ③自分が

住んでいる地域（ふるさと）についてよく知る必要があると、貴重なご助言を頂くことが出来た。地域が抱える課題について考え、誰もが誇れるふるさとを作る為に今何が必要か、参加者全員が真剣に考える非常に有意義な機会となった。

【講演の様子】



熱心に耳を傾ける参加者



長谷川幸介先生のご講演



質問をする参加者

【第一・二回のアンケートより（一部抜粋）】

Q 「今、地域のつながりを深める為に何が必要だと感じていますか？」

（自由記述）※一部抜粋

- 1) 高齢者が若い人の意見を聞くこと。高齢者が一番正しいと考えていては何もはじまらない
- 2) 地域の埋もれた資源を掘り起こし、それを元に資源マップを作成する。その作業を通して参加者同士、また、地域のつながりを深める
- 3) 子供たちに地域を知ってもらう教育の継続、地元の愛着を深める活動 . . . 等

Q 「他の受講生の方々とどのような交流を持ちたいですか？」

（自由記述）※一部抜粋

- 1) 地域のまつりや行事
- 2) 私達の町づくりとの相手方の町づくりの交流会がしたい
- 3) 若い人たちに定着してもらう為にはどうしたらいいかを話し合いた . . . 等

Q 「参加された目的・理由について」

（自由記述）※一部抜粋

- 1) 先の震災後「地域の絆」が叫ばれており、この塾の進み方や成果について興味があった
- 2) 退職して5年、地域の事をもっと知りたい、地域貢献したい
- 3) 孫が今年生まれ、大田地区の歴史を私から話したい
- 4) 人と人との繋がりを大切にしたい . . . 等

(2) 第三回

平成24年6月16日（土）13:30～15:00

テーマ：「これからの地域が目指すもの」

講師： 特定非営利活動法人 里山を守る会 代表 中川行夫 先生

里山「五郎助山・丸山」作りの体験談を中心にお話し頂いた。子供達が室内でパソコンやテレビゲームなどに夢中になっていることに危機感を持ち、「子ども達を自然の中で遊ばせたい」との思いがきっかけとなり、里山作りに着手した経緯、並びにその後の活動を紹介して頂いた。参加者の中には、自分が住む学区内に里山が無いということで、どのように企画・運営をしていったらよいか、熱心に質問する者もいた。



里山の維持・管理方法について



自分達だけで里山づくりを始めるには？
と質問をする参加者

(3) 第四回

平成24年7月7日(土) 13:30~15:00

テーマ：「地域の自然や環境を知る」

講師：特定非営利活動法人 未来につなごう鬼怒川・小貝川の会代表 古澤諭先生，
郷土史家 桐原光明 先生

特定非営利活動法人未来につなごう鬼怒川・小貝川の会代表の古澤諭先生には、勤行川での鮭の放流活動を中心にお話し頂き、汚れてきた地域の河川五行川の環境改善を行い、稚魚の放流活動を通して、地域の市民・子供達に自然環境の重要性を訴えてきた事例をご紹介頂いた。

郷土史家桐原光明先生には、「地域を知る」をテーマに、大田地域の自然・歴史を中心とした、大田地区の成り立ち(旧大田村について)と自然環境の特徴についてご講話頂いた。



鬼怒川・小貝川の鮭の放流について



大田地区の自然・環境について

(4) 第五～七回

平成24年7月21日, 8月18日, 9月1日(土) 13:30~15:00

テーマ:「地域の歴史を知る, 地域に貢献した先達者を調べる, 先達者の足跡調査」

講師: 郷土史家 桐原光明 先生

第五～七回は, 歴史を活かしたまちづくりという観点のもと, 大田地区の歴史について知る為, 大田地区の各集落名の興り, 郷土の生んだ偉大な人物である野殿の郷土史研究家「杉山三右衛門」, 歴史的名所である「下館飛行場」や「三所線」について学んだ。また, 親子三世代の交流やふれあいを目的とした, 歴史を活かしたまちづくりウォーキングのコースについても話し合い, 「下館飛行場」や「三所線」を巡る, 往復約5kmのコースを選定した。



大田地区の歴史的名所「三所線」「大田飛行場」跡や, 先達者「杉山三右衛門」, ウォーキングコースの選定等

(5) 第八回

平成24年10月27日(土),

テーマ:「事業参加者による事前体験」

講師: 郷土史家 桐原光明 先生

参加者(推進委員・協力委員)によるコースの下見を行った。第五～七回で選定したコースを歩くことにより, コースの安全性, 距離, 内容など本番へ向けた事業の改良, 改善点の発見に努めた。



下見ウォーキング

(6) 第九回

平成11月2日(金) 13:30~15:00

テーマ:「反省会・まちづくりワークショップ」

講師: 郷土史家 桐原光明 先生

前回の下見ウォーキングでの新たな発見や改善点を話し合ったり, 参加者が主体となったまちづくりワークショップを行った。ワークショップでは, 今後自分達が「どんなまちだったら暮らしたいか」というテーマもふまえ, グループ毎に意見を出し合った。

(次ページ参照)



下見ウォーキングの反省会・まちづくりワークショップ

【ワークショップ「どんなまちに暮らしたいか」で出た意見】

- ◆筑波山が見えるまち
- ◆笑顔の絶えないまち
- ◆年代を越えて行事が出来るまち
- ◆近所付き合いがあるまち
- ◆自然に恵まれたまち
- ◆里山が沢山あるまち
- ◆ごみの無いまち・綺麗なまち
- ◆歴史のある美しいまち
- ◆子どもたちの声が聞こえるまち
- ◆お互いに声かけられるまち
- ◆日本ハムを応援するまち（日本ハムの工場があることから）
- ◆樹木・草花の多いまち
- ◆活力のあるまちづくりをする団体があるまち
- ◆高齢者がのんびりいきいき暮らせるまち
- ◆趣味の同好会が多く、外に出られるまち
- ◆心の交流があるまち

等

(7) 第十回

平成24年11月18日(日) 9:00~12:00

テーマ:「地域の参加者によるウォーキング(地域づくり三世代歴史ウォーキング)」

講師: 郷土史家 桐原光明 先生

秋晴れのもと、地域住民75名が参加し、大田地区内の歴史的名所を回る地域づくり三世代歴史ウォーキングを行った。ふる里まちづくり塾内で学んだ地域の歴史や知識を活かし、受講生が主体となり、名所案内を行ったり、安全の為引率を行った。ふる里まちづくり塾の受講生が地域住民の為に、これまで学んできた知識を活かして、企画・運営等をしたウォーキングとなり、ふる里まちづくり塾の集大成とも言えるイベントとなった。



秋晴れのもと、開会式



子ども達、ご高齢の方のペースに合わせて



目的地「靖空神社」に到着



途中、まちづくりに対する想いを話す参加者



参加者が作成した
手作り名所案内看板



親子三世代の参加



熱心に話を聞く、
75名の参加者



縄文人の「足跡」が発見された
西原遺跡 跡地にて説明をする受講生



約2時間かけて往復約6km,
全員無事にゴールした

(8) 第十一回

平成24年12月15日(日) 13:30~15:00

テーマ:「ふる里まちづくり塾の振り返り」

講師: 郷土史家 桐原光明 先生

一年の振り返りと、次年度の方向性を話し合った。

(反省点) ※一部抜粋

- ・大田地区に関する理解が深まり、この地域に住み続けたいと思うようになった。
- ・歴史的な名所以外にも、地域にある、景観が素晴らしい場所が発掘出来た。
- ・今までしたことはなかったが、近所の荒れ果てた公園を初めて整備した。始めは呼びかけても誰も手伝ってくれなかったが、自分が整備している姿を見て、仲間が出来た。ふる里まちづくり塾がきっかけとなった。

- ・若い世代への参加を強く呼び掛ける必要があると思う。
- ・普段何気なく考えている，ちょっとしたアイデアを口に出していくことが必要だと感じた。
- ・地域の歴史を学んだ上でウォーキングを計画したことにより，理解が深まったと思う。
（次年度にむけて）※一部抜粋
- ・自分たちだからこそ出来るものを，子ども達に残せる活動をしていきたい。
- ・今年度は「三世代」というテーマのもと行ってきたので，来年度も同じく三世代で参加出来る行事を企画したい。
- ・今年度は三世代の参加が思わしくなかったため，もう少し集客したい。
- ・高齢者が集まれるたまり場を作り，交流を深めたい。



今年度の反省を話し合う参加者



次年度の方向性について想いを語る参加者

4 成果と課題

【成果】

- ・地域づくり三世代歴史ウォーキングでは，先導・案内・交通整理・看板作りなど，参加者が自主的に動いた。
- ・地域の歴史を学び，ウォーキングをすることにより，地域について新しい発見をすることが出来た。
- ・学んだ歴史を，地域の人が地域の人に伝えることにより，事業を通し，自治区を越えた新しいつながりが出来た。
- ・事業の前半は受動的活動が多かったが，後半は主体性の高まりが見られた。特に最後まで参加した人達は地域における活動に対して実践力がついたように感じる。
- ・ふる里まちづくり塾がきっかけとなり，公園の整備や里山づくりに取り組み始めた参加者が生まれた。

【課題】

- ・講座とワークショップを交互に取り入れ，参加者同士が交流出来る時間をより多く設けるとよかった。
- ・若い世代の参加が少なかったため，次年度は開催する曜日や時間に配慮をする。
- ・地区の小学生在籍家庭へ参加を呼びかけたが，趣旨が十分に把握されず子ども達の参加が少なかった。
- ・参加者のねらいである祖父母と孫世代の三世代参加を期待したが十分でなかった。

- ・ウォーキング自体は、健康面で重視されて地域でも実施されているが、地域を只歩くのではなく、深く知り地域の大切さを知って、祖父母・両親・子ども世代が一緒になって行うという面を工夫するの必要を感じた。

5 むすび

(1) 地域コミュニティの再生 (2) 人と人とのつながりの深化 (3) 学校・家族・地域の連携を目指し、無縁社会を解決する為に、地域で人が安心・安全に暮らし、共に支え合い、助け合う社会の創造を目標に行ってきた。本事業で行った、地域づくりについての学習・実践を通して、地域社会に貢献する人が生まれ、それが次のまちづくりに繋がることと思う。

また、次年度はセンターのコーディネート機能を向上させることが重要である。本事業を通して得た、地域のデータ(ヒト・モノ)を整理し、ストックを高めると共に、地域の人々が主体となる、新しい社会づくりをどう進めたら良いかを再度考える必要がある。地域の人々が元気になり、住み続けて良かったと感じる為にはどのような活動が必要か。自分の地域を良くする為に住民一人一人が自らの力を発揮し、いきいきと元気になる社会づくりが出来るよう次年度以降も取り組んでいきたい。

平成24年度 茨城県東西生涯学習センター

生涯学習調査研究事業 ～ふる里まちづくり塾～

自分が住んでいる地域のひとや、歴史、自然・環境のこと、どれくらい知っていますか？「ふる里まちづくり塾」では、地域に新たな人と人とのつながりを実現するために、自分たちの居住する地域の歴史、自然、風土を学び、地域に貢献した先人の足跡をたどることによって、郷土に対する愛情と誇りを持つと同時に、事業を通じて人的つながりを深めることを目標としています。地域活性化の為に何かしたい！という気持ちが少しでもある方、地域のつながりを強める為に、今、何が必要なのか、一緒に考えてみませんか？
今後地域を盛り上げる為に共に活動をしてくださる方を募集いたします。まずは第一回目の説明会【5月20日(日)13:30～】へのご参加、お待ちしております。

場 所
東西生涯学習センター

講 師
・長谷川 幸介 先生(茨城大学)
・郷土史指導者
・自然環境指導者
・地域活動団体実践者

期 間
平成24年5月～12月
全11回予定

参加費 無料

事業予定
旧下館市大田地区を「地域活性化プログラム」のモデル地域とし、地域で活躍する諸先生方にご指導頂き、地域の歴史や自然環境について学びます。
また、「歩いて地域を知ろう！」というテーマのもと、ウォーキングをしながら地域に貢献した先人の足跡等を探ります。
※詳細は裏面をご覧ください。

お申し込み・お問い合わせ
◆電話・FAX・はがき・電子メール、または来所にてお申し込みください。
TEL: 0296-24-1389
FAX: 0296-24-1450
住所: 〒308-0843 茨城県筑西市野殿1371 (午前9時～午後9時/月曜日休館)

◆メール: info@kensei.gakusyu.ibk.ed.jp

◆お申し込みの際に、①氏名、②電話番号、③年齢(何十歳代)④ご住所をお聞かせします。はがきの場合は以上を明記の上、ご送付願います。届って決定事項通知書をお送り致します。

アクセス
JR水戸線下館駅下車 タクシー10分
関東鉄道常総線大田駅下車 徒歩8分



平成24年度 茨城県東西生涯学習センター

地域づくり三世代歴史ウォーキング ～下館飛行場跡を訪ねよう～

家族みんなで歩きながら、自分のまちについて、魅力を再発見しませんか？

参加費 無料

募集期間: 10月24日(水)～11月14日(水)

◆と き 11月18日(日)
9:00～12:00
※小雨決行、雨天の場合は24日(土)に延期します。

◆集合場所 東西生涯学習センター
8:30から受付開始

◆コース 下館飛行場・三所線跡コース(往復約5km)

◆持ち物 飲み物・タオルは各自でご用意をお願いします。

◆申 込 お電話にてお申し込みください。

◆その他 動きやすい服装でお越しください。

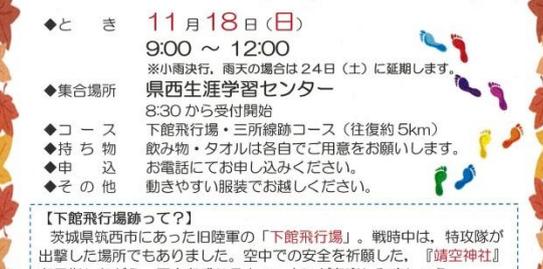
【下館飛行場跡って?】
茨城県筑西市にあった旧陸軍の「下館飛行場」。戦時中は、特攻隊が出撃した場所でもありました。空中での安全を祈願した、『靖空神社』を目指しながら、歴史を感じるウォーキングを楽しみましょう。

【内容】
8:30～9:00 受付
9:00～9:30 コース説明・体操
9:30 出発
10:30 中間地点到着
11:45 到着・解散
各歴史的名所では、地域に眠る歴史についてご説明します。自分のまちについて、もっと詳しくなりましょう!

【お申し込み・お問い合わせ】
お電話にてお申し込みください。
電話: 0296-24-1389
※申込みの際に、
①氏名
②性別
③住所
④電話番号
⑤年代をお伺いします。

茨城県東西生涯学習センター (担当: 稲葉)
〒308-0843 筑西市野殿 1371
0296-24-1389 (午前9時～午後9時/月曜日休館)

11月18日 いばらき教育の日
11月18日 いばらき教育月間



事業評価シート		
期日	講座名	講座内容
5月20日	結成式	事業説明
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)
・第1回講座 ・参加者:82名 ・講師:東西生涯学習センター職員	・事業について理解することが出来た。 ・結成式前に直接参加を呼び掛けた為、参加率が良かった。	・次回以降も参加して貰えるように働き掛ける。

事業評価シート		
期日	講座名	講座内容
10月27日	活動内容の吟味	・事業参加者による事前体験(下見ウォーキング)
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)
・第8回講座 ・参加者:33名 ・講師:郷土史家 桐原光明先生	・初めての現地研修で、講座中にはあまり話さなかった参加者同士が積極的に意見を交換し合ったり、地域に対する新しい発見があったりと、気持ちが1つになる回となった。	・まちづくりに対する意欲が高まったので、この気持ちを保つために、下見の反省会の後にまちづくりに関するワークショップ(意見交換会)を行う。
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
・生涯学習調査研究事業「ふる里まちづくり塾」についての事業説明	・事前に参加者には事業説明を行っていたが、確認の意味も含めて、再度生涯学習調査研究事業について説明をした。事業に対する理解が深まった。	・地域づくりに参加しやすくなる働きかけをする
計画 Plan	・地域づくり活動実践者の話を聞きながら、まちづくりに関心を持ち、意識を高める。	

事業評価シート		
期日	講座名	講座内容
10月27日	活動内容の吟味	・事業参加者による事前体験(下見ウォーキング)
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)
・第8回講座 ・参加者:33名 ・講師:郷土史家 桐原光明先生	・初めての現地研修で、講座中にはあまり話さなかった参加者同士が積極的に意見を交換し合ったり、地域に対する新しい発見があったりと、気持ちが1つになる回となった。	・まちづくりに対する意欲が高まったので、この気持ちを保つために、下見の反省会の後にまちづくりに関するワークショップ(意見交換会)を行う。
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
・ウォーキングルートの下見 ・参加者同士の交流	①初めての現地研修で、講座中にはあまり話さなかった参加者同士が積極的に意見を交換し合い、気持ちが1つになる回であった。 ②下見の時間がかり、予定時間を越えてしまった。 ③各歴史的な名所の説明が長くなってしまった為、本書での説明について再検討する。 ④約二時間歩く為、参加者が飽きない工夫が必要である。 ⑤初めて歩く人にも分かりやすい、コース内にある歴史的な名所に関する資料があった方が良いという声があった。 ⑥これまで事業参加者は地域の歴史や環境について学び、ウォーキングコースの選定、広域内容の吟味、下見ウォーキングの実施をしてきた。自分達の地域(大田地区)について知識を深め、郷土愛を育ててきたものをどのような形で地域に還元していくか検討する。	①下見の際に出た反省を、参加者同士で確認する為のワークショップを行う。 ②次回はタイムスケジュールをきちんと組み、予め設定した時間通りに進行出来るよう注意する。 ③説明時間を短縮するか、ポイント毎に人員配置し、固定の説明者を設けるか検討する。 ④参加者が楽しめる工夫を考える(大田地区に関する歴史のクロスワード、穴埋め問題、スタンプラリー、大田地区歴史検定問題などを作成する)。 ⑤ウォーキングコースが記されたマップと、各歴史的な名所の説明や写真が掲載された資料を作成する。 ⑥アドバイザーとも連絡を取り合い、次年度に向けて計画をする(浜西市の大田地区で事業を行っている為、次年度も浜西市内での活動を検討中)。
計画 Plan	・想定したウォーキングルートを実際にも歩き、危険箇所の確認、参加者同士の交流、自分が住んでいる地域に対して再発見が出来た。 ・本書に向けて、①コースの再検討、②当日の配布資料、③先導者及び説明者の決定、④参加費について相談。 ・まちづくりに対する意識が高まったので、次回反省会の後に「どんなまちに暮らしたいか」というテーマのもとワークショップを行う。	

事業評価シート		
期日	講座名	講座内容
11月2日	活動内容の吟味	・事業参加者による事前体験の反省会 ・まちづくりワークショップ(どんなまちに暮らしたいか)
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)
・第9回講座 ・参加者:18名 ・講師:郷土史家 桐原光明先生	・初めてのワークショップ形式で、参加者がまちづくりに対する自分を思いを話す機会となった。	・最終回(12/15)にも話し合いの時間を設け、参加者が取り組みたいまちづくりについて引き出し、次年度の方角を定められるようにする。
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
・ウォーキングルートの下見の反省 ・まちづくりワークショップ	①グループを分けて、ワークショップ形式を取った。 ②前回の反省を踏まえ、時間配分を行ったが、下見の反省会が長引き、ワークショップの時間が短くなってしまった。 ③活動内容の吟味において、参加者から意見が出た。 (1)名所毎に全員が集まってから説明となると時間がかかってしまう。 (2)写真係が良い方が多い。 (3)まちづくり塾参加者だと分かるように、ユニフォームがあった方が良い。 (4)想定したコースだと交通量が多いので、変更した方が良い。等 ④初めて「どんなまちに暮らしたいか」のテーマのもとワークショップを行い、それぞれの思いを共有することが出来た。	①今までは講師主体のまちづくり塾であったが、初めてワークショップを行い、様々な意見を聴くことが出来た。 ②話し合いの時間を長めに取れるように設定すること。 ③参加者から出た改善点 (1)グループから選れ、説明を聞きもした場面でも、きちんと学べるように名所毎に看板を設置することになり、参加者二名が看板を製作してくれることとなった。 (2)参加者の中で写真が得意なお願する(看板、講師・説明者のアップ、参加者のアップ、全体写真を名所毎に撮影)。 (3)東西生涯学習センターのポランディアジャンパーを着用する。 (4)後日、参加者4名と再度下見をし、コースを再選定。 ④12/15に来年度の方角性を定める際に、これらの意見を参考にすると共に、参加者が望むことを企画化出来るようにする。
計画 Plan	・交通量が多く危ない箇所がある為、11/14に再度下見を行い、安全なルートを選定する。 ・当日配布する、行程表・歴史的名所ワンポイント説明・ウォーキングマップを作成する(内容は参加者が考える)。 ・手作り看板の作成及び設置する。	

事業評価シート		
期日	講座名	講座内容
12月15日	まとめと反省	ふる里まちづくり塾講座
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)
・第11回講座 ・参加者:18名 ・講師:郷土史家 桐原光明先生	・今年度の感想を1人ずつ発表して貰い、次年度の方角性をある程度打ち出せた。という思いがある。	・アイデアをまとめる為、付箋などを活用して可視化する
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)
・活動内容の振り返り ・反省や改善点を発表 ・次年度の方角性について協議	・地域のことを知れて参加してよかった、という意見が多くあげられた。 ・若い世代の参加がやはり重要であり、次年度は若い世代の参加を強く呼び掛ける必要があるという反省が出た。 ・ウォーキング事業の際、看板を自主的に作成した参加者が「最近、近所の荒れ果てた公園を整備した。はじめは呼びかけても誰も手伝ってくれなかったが、自分が整備する姿を見て、仲間が出来ました。ふる里まちづくり塾がきっかけになりました。」という感想を述べられた。地域で活躍をしていく、新たな人材の発掘が出来たように思える。	・本年度中のプログラムは終了したが、参加者がまた集まって、自分たちだからこそ出来ることを行いたいという意識が高まっているので、来年度の実行委員会を発足させる為の集まりを持つ。 ・ウォーキング事業の際、看板を自主的に作成した参加者が「最近、近所の荒れ果てた公園を整備した。はじめは呼びかけても誰も手伝ってくれなかったが、自分が整備する姿を見て、仲間が出来ました。ふる里まちづくり塾がきっかけになりました。」という感想を述べられた。地域で活躍をしていく、新たな人材の発掘が出来たように思える。
計画 Plan	・次年度に向けて実行委員会を立ち上げ、活動内容を吟味、選定する。	

(4) 県北生涯学習センター

平成 24 年度生涯学習調査研究事業 実施要項

地域モデルプログラム「コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう」

1 目的

近年、少子高齢化や国際化、情報の高度化が進み、それに伴い、住民同士の関係の希薄化による地域活力の衰退など、「無縁社会」と呼ばれる現象が起きている。このような時代にあって、住民の孤立化を防ぎ、住民の社会貢献活動への参加を促進することが求められている。そこで、平成 23 年度生涯学習調査研究事業の中で城の丘団地を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、子育て世代が中心の団地であり活力はあるが、将来の高齢化を見据えた方策が今から必要であること、また住民同士の交流と助け合いを求めていることが判明した。団地内に「新しい公共」の担い手としての住民自治を強化するために、地域住民の意識の向上を図るプログラムを展開する。

2 主催

茨城県県北生涯学習センター

3 期間

平成 24 年 5 月～平成 25 年 2 月

4 場所

茨城県県北生涯学習センター・城の丘団地集会所

5 テーマ

コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう

6 内容

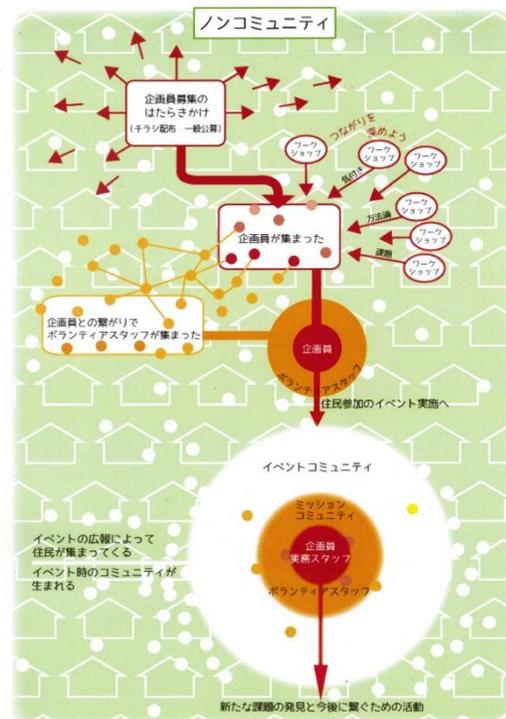
事業計画書のとおり（別紙）

7 参加対象

城の丘団地住民 20 名

8 参加料

無料



事業分析シート

作成者

永井 泰子・佐藤 利枝

1 事業概要

事業名	コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・無縁社会に立ち向かい、一人ひとりが他者を支え行動する『支援』が息づくコミュニティの成立 ・より明るく住みやすい城の丘団地を作ることを目指す ・城の丘団地の住民が、自分たちで子どもたちを育み、高齢者に手を差し伸べることを目指す。
事業の内容 具体的な手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・講座 ・イベントの企画、運営

2 予想される・期待される結果(アウトプット)

アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティづくりに関する講座及びグループワークを8回実施 ・コミュニティを活性化させるイベントを1回実施 ・広報紙発行 ・参加者のネットワークづくり
--------	---

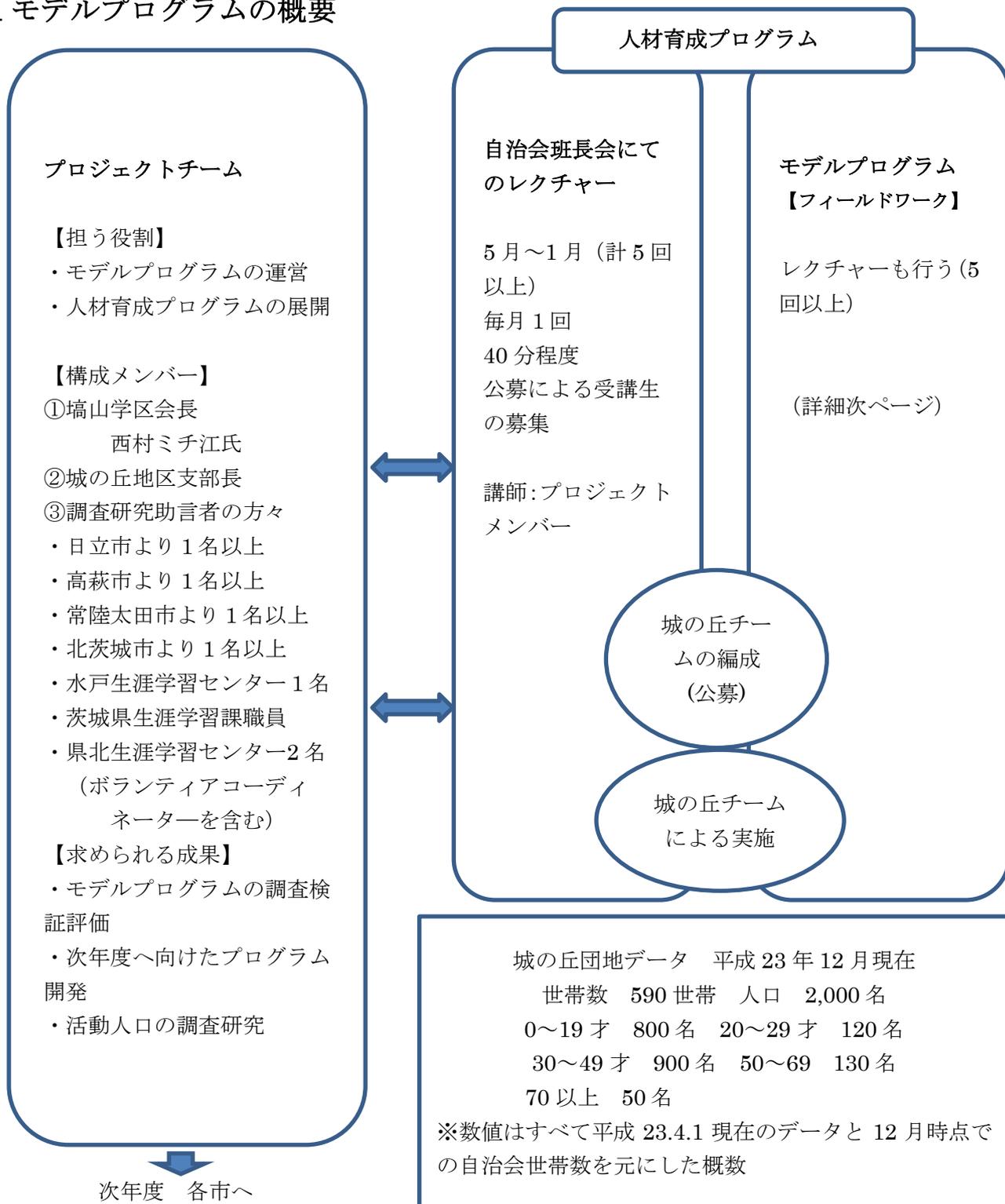
3 成果(アウトカム)

	内容	指数
中間アウトカム	①事業内容の把握・理解度	①現状把握 ・城の丘団地全体にアンケート調査をかける。 630通のアンケートに対し167通の回答
	②目的の明確化	②組織づくり ・企画員募集に際し8名の希望者 実際の受講生と捉え、活動を開始
	③現状組織を活性化する方策	③未来予測 ・企画員会議をすることでイベントを企画運営する ボラン ティアを募り企画員のネットワークを広げる。 ・地元企業との連携を図り、協力を得た。

	内容	指数
最終アウトカム	企画員から絆プロジェクト委員会の発足	<ul style="list-style-type: none"> ・活動人数 6名 ・城の丘絆フェスティバルの開催 参加人数 約530名 ・絆プロジェクトNewsの発行

県北生涯学習センター モデルプログラム実施計画書

1 モデルプログラムの概要



城の丘コミュニティ モデルプログラム 【ワークショップ】

回数・日時	テーマ	内 容
事業説明 5/27 (日) 9:30~12:00	企画員(受講生)募集 塙山方式の紹介 チラシ配布	(プロジェクトチームの結成) 先進事例発表 西村ミチ江氏 (人材育成) これからの楽しいことを始めるので来てみて! 事業説明・受講生募集 (人材発掘)
第1回 6/24 (日) 9:30~12:00	はじめの一歩 城の丘でこれから目指すこと かわら版で全世帯に状況を知らせる	結成式 (講座開講) 講座① (人材育成) 顔なじみになろうゲーム アンケート結果から ・分析から見えること (現状把握) ・何が必要か 意見交換 (ワークショップ) 理念の設定 理念を達成する方法を検討! いつ・どこで・何を・分担
第2回 8/31 (金) 9:30~12:00	踏み出そう 1/2 歩 参加者全員が役割を持ち、 存在を求められていることを伝える	講座② (人材育成) 具体的な方法 (イベント等) を決める キーマンを見つけよう・仲間作り(ボランティアスタッフ等)
第3回 9/22 (土) 9:30~12:00	準備できたかなの集い 子どもを巻き込む!	講座③ (人材育成) イベントに向けた確認・ボランティアスタッフの募集 自治会との関係・資金・広報・スケジュール
第4回 10/5 (金) 18:30~ 20:00	準備できたかなの集い! 子どもをお客にしない!	講座④ 記録→広報 コメント (大人・子ども)・参加人数 子どもスタッフ大活躍!
第5回 10/20 (土) 9:30~12:00	最終確認	講座⑤ (人材育成) 役割分担の最終確認・地域への広報
第6回 11/11 (日) 9:00~18:00	イベント開催	講座⑥ (人材育成) 実践
第7回 12/4 (火) 18:00~20:00	二歩目の踏み出し (反省会)	講座⑦ (人材育成) 次に向けてステップアップ 気づきを促す
第8回 2/23 (土) 9:30~12:00	振り返り ステップアップ!	講座⑧ (人材育成) まちづくりに必要なスキルを学ぶ コーディネート、ファシリテーション等

無縁社会に立ち向かう新たな社会貢献の仕組みづくり
コミュニティを考える
城の丘のつながりを深めよう
事業展開事例報告書

1 はじめに

地域の繋がり(絆)の大切さは、2011年3月11日の東日本大震災以降、益々重要度を増している。しかし、地域の繋がりとは、正に地域に住む住民一人ひとりの意識の総体であるため、まちづくりの方向性や実施には細やかな調査が必要であり、本事業では特定の地域に限定して検証することにした。

そこで県北生涯学習センターでは、平成23年度生涯学習調査研究委員会が「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりを展開する中、日立市内の最も新しい大規模住宅団地「コモンステージ・十王城の丘」(以下、城の丘団地)を対象に、調査研究事業を開始した。

2 「コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう」の概要

(1) 開講の動機

対象の「城の丘団地」は、県北地域で新しく大規模開発された団地(入居開始：平成10年)であり、祖父母世代が少なく30~40代の核家族子育て世代が多いのが特徴である。また、段階的に販売し、一気に高齢化しないような工夫がなされている。そのため、新しいコミュニティとしての自由な雰囲気を持っているが、コミュニティ組織としての在り方等確立の途上であると言える。

さらに20年、30年と時間を積み重ね、住民が高齢化する前に、そこに暮らす住民自らが地域に眠っている人材や資源を発掘し、地域の課題解決する能力を高める事が求められると考え、城の丘団地を対象に事業を実施する。

(2) 事業主体

主催 茨城県県北生涯学習センター

・プロジェクトメンバー

西村 ミチ江 (塙山学区住みよいまちをつくる会会長)

前原 仁 (茨城県生涯学習課 社会教育主事)

佐々木 英治 (日立市立久慈小学校教頭)

山形 哲司 (城の丘団地自治会支部長)

日立市生涯学習課職員

日立市市民活動課職員

高萩市生涯学習課職員

北茨城市まちづくり協働課職員

寺門 義典 (水戸生涯学習センター 社会教育主事)

佐藤 利枝 (県北生涯学習センター職員・ボランティアコーディネーター)

永井 泰子 (県北生涯学習センター職員・社会教育主事有資格者)

(3) 目的

無縁社会に立ち向かい、一人ひとりが他者を支え行動する『支援』が息づくコミュニティの成立を目指す。

(4) 調査研究のストーリーと手法

ア 社会教育調査

平成23年12月に城の丘団地に全戸配布でアンケート調査を行った。

配布：630世帯

回収：167通（回収率26.5%）…団地内の約1/4の回答を得た。

イ 現状把握

アンケート結果から、城の丘団地に対するプラス要素、マイナス要素を抽出し、実状を把握する。また、今後の城の丘団地に対する意向も把握する。

- ・～してほしい。
- ・もっと交流を深めたい。
- ・20年後30年後にも幅広い年齢層の住民が暮らす団地…など
実情から読み取れることとして
- ・行政で担うべきものと地域と行政と一緒に解決すべきもの、そして地域で解決すべき事がある。
- ・アンケートの結果をフィードバックして住民の意識啓発を行った。

ウ 組織づくり（受講生募集）

3 講座の実施状況

(1) 事業説明および受講生募集 「プロジェクト会議」（5月27日）

自治会の班長会議に合わせ、会議出席者に事業概要の説明と先進地事例発表を実施した。

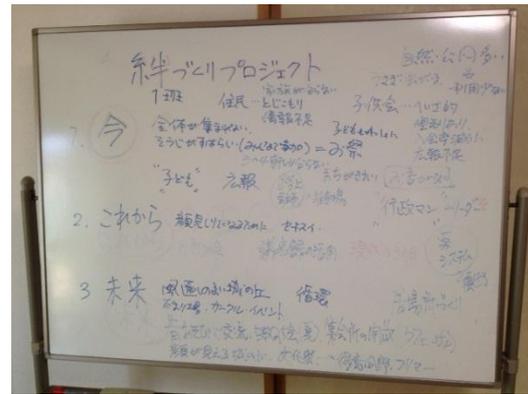
また、城の丘団地全世帯に「城の丘絆づくりプロジェクト企画員募集」のチラシを配布した。この企画員が、プログラムの受講生となる。その結果8名の応募があり、企画員としての活動が始まった。



(2) 第1回講座 講座開講 「プロジェクト会議及び企画員会議」（6月24日）

「何のためのまちづくりか」という最も根本的・究極的な目的となる「理念」を明確にし、ぶれることのない指針を確立する。この「理念」が根幹であり判断基準となるので、これを参加者が共有することが重要である。この「企画員会議」のなかで3班に分かれグループワークを行い、

【顔が見える城の丘 風通しの良い城の丘を目指して】という理念が設定された。



- (3) 第2回講座 「プロジェクト会議及び企画員会議」(8月31日)
「つながりを深めるために何をやればよいのか」という課題について、具体的な方策を考えることで企画員の意見がまとまってきた。
次回までに何をすれば良いのか課題が見え、自発的に考える機運が高まった。
- (4) 第3回講座 「プロジェクト会議及び企画員会議」(9月22日)
団地の実情をベースに、まちの未来像を予測する。明るい兆しを伸ばしていく可能性のある将来と、気になる現状を放置した成り行きの将来を考えながら、まちづくりのコンセプト導き出しランドデザインを描く。 ➡ イベント企画
「第1回 城の丘絆フェスティバル」の開催 11月11日(日)
イベントを通して“つながる”一歩を踏み出すことを確認し、まず企画員たち自身がつながることを意識し出した。
- (5) 第4回講座 「プロジェクト会議及び企画員会議」(10月5日)
イベントの進捗確認：分担ごとの進捗確認をした。全体としてあまり進んでいない。
- (6) 第5回講座 「プロジェクト会議及び企画員会議」(10月20日)
今回は11月11日の絆フェスティバルに向けて、当日のボランティアスタッフも参加してイベントの確認を行った。テントの設営から自分たちの手で行うことを確認し、手際よく進んでいった。
この背景には企画員会議の他、自主的に企画員が集まり、各々の担当するブースの進捗を確認するなど主体的に自分たちの課題を捉え、自発的な行動があった。このことは、本講座の中での一番の成果と言える。
- (7) 第6回講座 「第1回 城の丘絆フェスティバル」開催(11月11日)
この日を迎えるまでに講座以外に合計11回の自主会議を開いて当日に臨んだ。各企画員がこのイベントの柱となり、準備段階から地域と連携し、協賛のお願いや各種届出、またイベント会場の近隣へのあいさつ等、積極的に動いた。企画員が持っているネットワークを駆使して“つながる”の実践を体験した。
まちづくり、地域づくりは県北生涯学習センターがやるのではなく、企画員が主体的に動く。イベントありきのプログラムではなく、イベントは目的を達成するための手段である。と講座時に毎回確認をしてからワークショップをしてきた結果が今回のイベントに反映されたと思われる。



(8) 第7回講座 「プロジェクト会議及び企画員会議」(12月4日)

今回は絆フェスティバルの反省会を行った。企画員はこの反省会の前に事前に反省会を自主的に開き、意見をまとめるなど、フェスティバル終了後も活発な活動が続いている。良かった点、反省点、今後の課題点に分け、反省会に提出してくれた。

これを受けてワークショップを行った。今回の一連の講座を受講し、企画員という名の受講生は、漠然としたまちづくりから課題を明確にして理念や目標を持ったまちづくりが見えてきた。それは城の丘団地の住民自治に関する新たな課題を見つけ出したからである。今回のテーマ【顔が見える城の丘 風通しの良い城の丘を目指して】は理念と捉えて、住みよい城の丘を作っていくための組織を固めていこうというのである。そのためには、実践を通して得たスキルを確固たるものにするための学習会をしたいという意識が変わってきた。コーディネートの仕方、ファシリテーターとしての役割等、すべて実践を通して行ってきたことを確認できる講座を受講したい。という気持ちが出てきた。これは本講座の大きな成果である。

(9) 第8回講座 「プロジェクト会議及び企画員会議」(H25年2月23日)

今年度講座のまとめとして「まちづくり研修会～1年を振り返って～」を、宮崎道名、佐藤智香両講師を招いて、ワークショップを行った。

4 今後の展開

平成23年度、24年度と2年間、「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりとして、地域住民の意識の改革に取り組んで感じることは、いかに地域と馴染むことができるかである。1年間実践を通して活動してきたことが、次年度は学習会と実践との両面からレベルアップが図られる。そして大きな目的の「新たな仕組み」となる城の丘団地内の自治組織の改編がゆっくりではあるが、確実に進んでいくことにつながるであろう。今回の受講生からネットワークを広げ、「無縁社会に立ち向かう」セーフティネットが広がり、そのネットの繋がりがゆるゆると、しかし広くすることが真の地域住民自治組織の構築につながると推測される。その過程で人材発掘、人材育成が繰り返されていく。

自主運営の割合が大きくなる平成25年度が、県北生涯学習センターとしての関わり方が問われる1年となる。5年後、10年後の自治組織を見据えた展開を考えていかなければならない。また、1年間、企画委員として関わったメンバーはそれぞれに自分ができることで地域とどう関わっていくかを考えている。これは人材育成という観点では大きな一歩となる。各々が得意とする分野で緩やかな結びつきを広げることで、平常時には穏やかに、有事には固い絆で、というような使い分けのできる組織を意識して次年度の企画に取り組もうとしている。これは十分に支援していくところである。このような繰り返しのサイクルや、振り返りをしながら前進していくことが「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくりになることを願っている。

第1回 絆フェスティバル in 城の丘

11月11日(日) 10:00am~3:00pm
(キャンドルは、4:00pm点灯~6:00pmまで)

★会場:水の公園集会場前広場

雨天・荒天等による中止の場合は、当日6:00amに集会場に掲示します

イベントインフォメーション

- ・いも煮会 先着約400食 なくなったらおわり~♪
- ・メガスマートボール
- ・手作り紙ヒコーキ飛ばし
- ・ちびっ子ゲームコーナー
- ・お楽しみ抽選会
- ・フリーマーケット
- ・朝どり野菜の即売会...等々



Illustration: © "Kashimaru Tada"

子供から大人まで、みんなで楽しもう！
夜はキャンドルナイトをともします

～協賛(敬称略、カナ順)～

- ・鶏喜鶏喜、鶏来来の湯、かもめガス、
- ・コープ、高速印刷、JWAY、セイブ、
- ・積水ハウス、八方寿司、吉田組

～ボランティアスタッフ当日まで随時募集～
詳細は各班長さんまで

絆プロジェクトスタッフ一同
絆プロジェクト実行委員会事務局:TEL0294(39)0012



(お願い)
・駐車台数に限りがございますので、城の丘住民の皆様は徒歩にてお越しくださいますよう、ご協力のほどお願い致します。
・会場付近の駐車は近隣住民の迷惑になりますので、絶対におやめください。

第1回 絆フェスティバル in 城の丘 アンケート

平成 24年 11月 11日
絆プロジェクト実行委員会

今後の絆プロジェクトの参考にしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

☆下記項目で当てはまるものに、○をつけてください。

- 1 性別 男性 女性
- 2 年齢 10歳未満 10代 20代 30代 40代
50代 60代 70代 80代以上
- 3 絆フェスティバルはいかがでしたか? (いくつでも可)
- ア とても楽しかった イ おもしろかった ウ おいしかった エ 得した気分
オ 知り合いが増えた カ また参加したい キ つまらなかった ク 参加したくない
ケ その他 ()
- よろしければ、その理由を具体的に聞かせてください。

- 4 今回のイベントは何で知りましたか?
- ア チラシ・回覧 イ 城の丘の友人知人 ウ 城の丘以外の友人知人
エ その他 ()
- 5 今後の絆プロジェクトについてお聞きします (いくつでも可)
- ア イベントがあれば参加したい イ カフェやサロンのように人が集まれる場所が欲しい
ウ 実行委員会のスタッフとして活動してもよい エ イベント等の当日のお手伝いなら出来る
オ 自分がやりたい活動ができるならスタッフになってもよい
カ 具体的には分からないけど絆が深まる活動をしてみたい(やっても欲しい)
キ 自分の特技をいかしたサークルや講座などをやってみたい(やっても欲しい)
ク 特になし ケ その他 ()

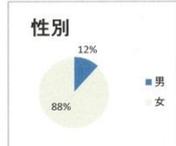
- 6 今回のイベントでお気づきの点がありましたら、ご自由にお書きください。
- ご協力ありがとうございました!**

第1回絆フェスティバルin城の丘アンケート結果

回答数51件

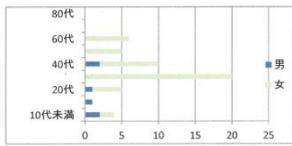
1 性別内訳

男	6
女	45



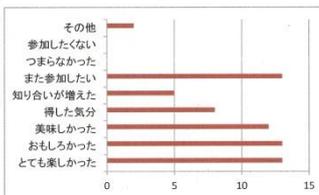
2 年齢別

年齢	男	女
10代未満	2	2
10代	1	0
20代	1	4
30代	0	20
40代	2	8
50代	0	5
60代	0	6
70代	0	0
80代	0	0



3 絆フェスティバルはいかがでしたか? (複数回答可)

ア とても楽しかった	13
イ おもしろかった	13
ウ 美味しかった	12
エ 得した気分	8
オ 知り合いが増えた	5
カ また参加したい	13
キ つまらなかった	0
ク 参加したくない	0
ケ その他	2

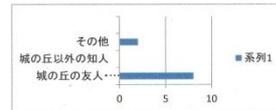


・上記回答の理由を具体的に聞かせてください。

- ・うかる君がいたから
- ・引越して初めて城の丘のイベントに参加して、大人と子供も楽しめた。
- ・美味しい芋煮をありがとうございました。スタッフのみなさんありがとう。
- ・子どもも賑やかな場所でゲームなどが出来て楽しんでいた。
- ・最初は休みの日に面倒くさいなあと思ったが、お手伝いするうちに、色々な年代層の人と機会が出来てよかった。
- ・当日のお手伝いとして参加し、スタッフの皆さんがとても優しくしてくれたのでとてもやりやすかった。

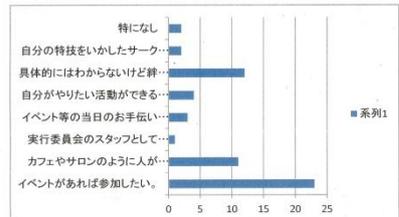
4 今回のイベントは何で知りましたか?

ア チラシ・回覧	29
イ 城の丘の友人・知人	8
ウ 城の丘以外の知人	0
エ その他	2



5 今後の絆プロジェクトについてお聞きします。

ア イベントがあれば参加したい	23
イ カフェやサロンのように人が集まれる場所がほしい	11
ウ 実行委員会のスタッフとして活動しても良い	1
エ イベント等の当日のお手伝いなら出来る	3
オ 自分がやりたい活動ができるならスタッフになってもよい	4
カ 具体的にはわからないけど絆が深まる活動をしてみたい	12
キ 自分の特技をいかしたサークルや講座などをやってみたい	2
ク 特になし	2



ケ その他

- ・PRしても参加しない。休日は家庭優先が多い。商工祭りとばかり残念
- ・他のイベントとかならぬように開催日を検討してほしい。

- 6 今回のイベントでお気づきの点がありましたら、ご自由にお書きください。
- ・1回目ということで、どのようなイベントになるかと思いましたが大成功だったと思う。
 - ・近隣のお店の活性化のためにも、大げさではなく、時々、出店してほしい。
 - ・係の方、大変お疲れ様でした。

事業評価シート		作成者	永井 奏子・佐藤 利枝
期日	講座名	講座内容	
5月27日	コミュニティを考える 親の丘のつながりを深めよう	事業説明及び受講生募集	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
※本日講座について 正副班長33名 プロジェクトメンバー6名 センター職員3名	アンケートの集計があり具体的な数値を示せたのがよかった	班長として参加しているだけで自発的な意見がでてこない 託児を考える	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
先進地事例としての報告を聞いた。	隣山のコミュニティが遠い存在から少し近くなった。	山形支部長とセンターの打ち合わせをきっかけにする	
チラシによる企画員募集を行った。	アンケートはまちづくりに意見を言えるツールで大切である。 予算をかけたりに知恵と工夫ががんばる。	企画員がファミリーータとなるためにはグループワークをする前にグループワークの意味や手法を説明した方がよい。 次回からワークショップを通して人材育成の講座を仕掛けていくので受講生主導で意見を言える場づくりに注意する。	
計画 Plan	次回	トータルプロセスデザインの目的 具体的なイベントの実行に向けての計画設定。	

事業評価シート		作成者	永井 奏子・佐藤 利枝
期日	講座名	講座内容	
6月24日	コミュニティを考える 親の丘のつながりを深めよう	第1回企画員会議	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
※本日講座について 企画員 6名 プロジェクトメンバー6名 センター職員1名	チラシ配布で6名は良い人数である 若い母親が集まれるようにするには工夫が必要	班長の参加を呼び掛ける。 人数を増やしていく 託児を考える	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
簡易KJ法を使ったグループワーク	図解図を作成できた。	山形支部長とセンターの打ち合わせをきっかけにする	
今後のやりたいことを考えることができた。	企画員の目標が見えてきた。	具体的なプランの作成 具体案の決定をする。	
計画 Plan	次回	情報発信の仕方 企画員の引き継ぎ募集 具体案の決定 集会所の使い方	

事業評価シート		作成者	永井 奏子・佐藤 利枝
期日	講座名	講座内容	
6月31日	コミュニティを考える 親の丘のつながりを深めよう	第3回企画員会議	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
※本日講座について 企画員 4名 プロジェクトメンバー2名 センター職員3名	企業の夏季日程に合わせて企画したが参加率が悪かった 若い母親が集まれるようにするには工夫が必要	あまり企業の日程にとらわれず講座日をセンターで決めるようにする 託児を考える	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
前回のワークショップで作成した図解図3枚を基に情報生産のまとめをした。	3グループの情報まとめることによりテーマに関する情報を幅広く捉えることができた。 抽象的な表現から具体的な方向性が見えてきた。 具体案の大枠を決定することができた。 企画員の目標が見えてきた。	山形支部長とセンターの打ち合わせをきっかけにする 企画員がファミリーータとなるためにはグループワークをする前にグループワークの意味や手法を説明した方がよい。	
計画 Plan	次回	トータルプロセスデザインの目的 具体的なイベントの実行に向けての計画設定。	

事業評価シート		作成者	永井 奏子・佐藤 利枝
期日	講座名	講座内容	
9月22日	コミュニティを考える 親の丘のつながりを深めよう	第4回企画員会議	
結果(アウトプット)	評価(Check)	改善(Act)	
※本日講座について 企画員 4名 プロジェクトメンバー2名 センター職員3名	前回の講座日の設定結果を踏まえ、土日に戻した結果、人数が増えた。	あまり企業の日程にとらわれず講座日をセンターで決めるようにする 夜の講座にしたらどうだろうか	
成果(アウトカム)	評価(Check)	改善(Act)	
前回のワークショップを受け、具体的なイベント実行に向けて計画設定をする。	イベントを通して“つながる”の意識が共有できた。 具体案が確立して、さらに細かいところを意図した計画が立てられた。 企画員の担当も決まった。	イベントをすることが最終目標となってしまうようにする。 何のためのイベントかを毎回意識する。	
計画 Plan	次回	各ブース担当で次まかな計画を立てる 子どもどう巻き込むか 企画員以外の協力者の確保	

第3部 調査研究の結果と今後の展開

第4章 各センターのモデルプログラム（コミュニティー版概要）

1 鹿行生涯学習センター

平成25年度指定事業生涯学習調査研究事業 茨城県鹿行生涯学習センター
無縁社会に立ち向かう新たな社会貢献の仕組みづくり

「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり

～人・地域が輝く！！学校支援ボランティア～」実施計画（案）

1 目的

近年、少子高齢化や国際化、高度情報化の急速な進展に伴い、人と人とのつながり、地域と人とのつながりが希薄化が課題となっている。

そこで、鹿行生涯学習センターでは、平成23年度に計画し、平成24年度に実施した「男女共同参画に支えられた豊かな子育てコミュニティづくり」で参加された地域づくり推進員を中心に、「学校支援ボランティア」を組織し、地域を結びつける活動やイベントを実施する。そして、学校支援ボランティアの継続的な活動から、地域に必要とされる人材の発掘・育成を図るとともに、人と人、地域と人が深く結びつき、地域住民が社会貢献への意識を高め、自主的に活動をしていこうとする意識を高めることを目的とする。

2 事業主体

主催 麻生東小学校学校支援ボランティア

後援 茨城県鹿行生涯学習センター

行方市生涯学習課・行方市市長公室企画政策課

3 実施期間

平成25年4月～平成26年3月

4 調査研究のストーリーと手法

(1) 現状の課題把握

ア 活動人口の調査及び広報による意識変化の調査

イ 麻生東小学校保護者及び地域住民の意識調査

(2) 運営委員会の開催

ア 麻生東小学校学校支援ボランティアの自主的な活動に向けた支援について

イ 行政における支援の在り方についての協議

ウ 人材育成・発掘に向けた事業展開の検討

(3) 課題解決に向けてのワークショップ（6回実施予定）

ア 人と人、人と地域を結びつけるためのイベント開催に向けたワークショップ

イ 地域での人材発掘に向けた協議

(4) 地域活性化に向けたイベントの開催

ア 年2回（予定）学校を核とした交流イベントを企画・開催し，4つの小学校の児童・保護者・地域住民・高齢者等の交流の促進に繋げる。

イ イベントを通して，地域で活躍する人材の発掘及び学校支援ボランティアにおける人材育成に繋げる。

(5) 地域の結びつきの強化や社会貢献・家庭教育に関する学習会

ア 地域に必要とされる講座や学習ニーズを把握し，講師及び学習機会を提供する。

5 目指す成果

平成24年度では小学校の統合に向けた地域の動きやレイクエコーの特色を生かした地域モデルプログラムを実践し，地域の結びつきを強めるための意識高揚や人材育成・発掘に向けた講座を実施した。その中で，男女共同参画の視点を取り入れながら，三世代交流の大切さや子ども・学校を核とした組織作り，地域コミュニティの再確認，新たなまちづくりなど課題がより浮き彫りになった。

平成25年度では，地域づくり推進員を中心とした「学校支援ボランティア」の活動を通して，地域のため，自主的・主体的に活動できる人材の発掘や育成に取り組んでいく。また，今後，行政との連携を深めることで活動の定着化（イベントの企画・運営）や継続化に結びつけることができると考えられる。この取り組みが，学区統合における県内のモデルプログラムとして普及できるプログラムになることを目指していく。



2 県南生涯学習センター

平成 25 年度指定事業 生涯学習調査研究事業 茨城県県南生涯学習センター
「無縁社会に立ち向かう」～新たな社会貢献の仕組みづくり～

1 目的

地域教育力の向上のためには、住民一人一人が主体的に参画することのできる地域コミュニティの再生が必要である。このためには、学びを媒介として、地域の人間関係を構築するとともに身近な問題に自ら対応する能力を育成し、住民の自立的な取組を基盤とする地域コミュニティの再生を図る。

2 事業主体

主催 プロジェクト土浦力

後援 茨城県県南生涯学習センター

3 実施期間

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

4 内容

(1) コミュニティーカフェの実施

ア 平成 25 年 10 月 25 日（金）～27 日（日）まなびフェスタにおいて

イ 平成 25 年 12 月 クリスマスポン Café

ウ 平成 26 年 2 月～3 月 ひな祭りポン Café

(2) 助成金の申請

ア 現在申請中の「ろうきん助成プログラム」に引き続き申請を行う。

(3) インフォメーションセンターに関わる研修会の実施

(4) まちづくり会議への参加

(5) まちなかイベントの実施

ア ハスの花の開く音を聞く会…7 月下旬

イ 船上ポン Café…9 月下旬

5 その他

(1) 平成 27 年 5 月土浦市新庁舎開設に向けての取り組み

ア 《人が集まる場》としてのコミュニティカフェ「土浦ポン Café」の開設が可能となるよう要望を行う。

イ まちの情報を集約・発信するコンシェルジュ機能を持った「インフォメーションセンター」の設立の要望を行う。

3 県西生涯学習センター

平成 25 年度指定事業 生涯学習調査研究事業 茨城県県西生涯学習センター
「ふる里まちづくり塾」

1 趣旨

近年、少子高齢化や国際化、高度情報化の急速な進展に伴い、人と人とのつながり、地域と人とのつながりが希薄化してきている。互いに支え合うことができる社会の実現を図るためには、住民の社会貢献への意識を高めていくことが求められている。

2 事業主体

・ふる里まちづくり塾 ・茨城県県西生涯学習センター

3 開催場所（予定）

・茨城県県西生涯学習センター ・筑西市大田地区内 里山候補地内
・筑西市立大田小学校 ・筑西市五所地区

4 ふる里まちづくり塾の目的

子どもを核として地域の大人が一体となった地域コミュニティの再生を目的に活動し、三世代の絆を深める。

5 実施内容

(1) 地域づくり三世代歴史ウォーキング

ア 目標

三世代で、ウォーキングしながら地域の歴史を理解し、地域に新しい繋がりをつくり絆を深める

イ 開催予定日 平成 25 年 11 月下旬開催予定

ウ 内容

平成 24 年度「地域づくり歴史ウォーキング」の開催経験を活かし、他地域で開催

エ 候補地区

筑西市五所地区（二宮尊徳が下館藩財政再建をした、縁のある地区について学ぶ）

(2) 昔遊びイベントの実施

ア 目標

子育て支援の一環として、昔遊びの実践を通し、我慢強さや挫折にめげない心、感情のコントロールなど、人間の基礎的能力を遊びながら身につけさせる

イ 開催予定日 平成 25 年 9 月～11 月開催予定

ウ 内容

昔遊び（めんこ、あやとり、鬼ごっこなど）

エ 開催協力校

筑西市立大田小学校

(3) 里山づくり

ア 目標

荒廃している里山を整備し、子ども達の遊び場や地域の人の憩いの場にし、地域の絆を深められる場所をつくる

・内容

筑西市玉戸地区にある里山の整備

7 目指す成果

(1) 自治会の一体化

「地域で生きる子どもの為に」という目標のもと、共に里山づくりに取り組むことにより、自治会の垣根を超え、より強固な絆をつくる。

(2) 防災力の向上

繋がりが深い地域ほど、防災力が高い地域であると言える為、活動を通して、何か起きたときに深める絆ではなく、何か起きる前に絆を深めることが出来る。

4 県北生涯学習センター

平成 25 年度指定事業 生涯学習調査研究事業 茨城県県北生涯学習センター
無縁社会に立ち向かう新たな社会貢献の仕組みづくり

「コミュニティを考える 城の丘のつながりを深めよう」実施計画（案）

1 目的

地域の繋がりの大切さは 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災以降、重要だと認識されている。しかし、2 年という月日の経過が住民の一人ひとりの意識の変化をもたらしている。平成 23、24 年度から引き続き城の丘団地と関わっているが、大震災直後の意識と現在ではだいぶ違ってきているのが読み取れる。その中で、これからの繋がりについて昨年度の受講生が主体となって取り組んで、さらにつながりをもつことを目的とする。

2 事業主体

主催 城の丘絆プロジェクト

後援 茨城県県北生涯学習センター

3 実施期間

平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月

4 調査研究のストーリーと手法

(1) 現状把握

平成 24 年度第 1 回絆フェスティバルから読み取れる課題を把握する。

(2) 課題解決に向けてのワークショップ（10 回予定）

理念【顔の見える城の丘 風通しの良い城の丘を目指して】

この理念に沿って繋がりを深めるワークショップを実施する。

(3) まちづくり学習会

講師を囲んでまちづくりのための学習会を開く（3 回予定）

(4) 第 2 回絆フェスタの開催及び防災訓練によるつながりの深化

前回の絆フェスタの反省等を踏まえ第 2 回絆フェスタを企画・運営する。

班長会主催の自主防災炊き出し訓練に付随して住民に向けての防災研修を行う。

5 目指す成果

第 1 回絆フェスタでは、顔見知りをつくることを目的として多くの住民に参加していただいた。その結果、参加する側に役割を持っていただくことの必要性を感じた。一つの施策として、各人が役割を担う自主防災を意識した防災研修を取り入れ、平常時は緩やかな結びつきだが、有事には固い結びつきができる組織づくりを目指していく。

第5章 「活動人口」調査の結果と考察

1 「活動人口」の定義

「活動人口」を「みんなが元気になれるつながり力」と定義し、人々が日々の生活において、家族や地域、職場等において活動した回数を数値化して、定住人口と比較することにより、定住人口の多少に関係なく、「その地域の人々がどの程度元気に活動（生活）しているか」や「その地域の人々のつながり力の程度」を明らかにする。

さらに、地域間の比較をすることにより、「人々の活動」という新たな視点からの地域の特徴が明らかにされるものとする。

「活動人口」の積算の仕方

$$\text{「活動人口」} = \frac{\text{全回答者の活動頻度素数の合計}}{\text{回答者数}} \times \text{定住人口}$$

※「定住人口」は、調査する地域の20歳以上の人口とする

(平成22年度国税調査による)。

※「活動頻度素数」は、「よく活動した」を2点、「活動した」を1点、「活動しなかった」を0点として、定住人口「1人」あたりの各活動項目（家庭や地域等での支えあい活動等）ごとの点数を合計したもの。定住人口「1人」に対し、「どの程度の頻度で活動しているか」を素点として表す(P.122 資料アンケート参照)。

2 調査の実施経過

(1) 調査の期間

質問紙による留め置き調査 平成24年11月15日～11月30日

(2) サンプルの回収状況

実施された調査のサンプル回収状況は、表1のとおりである。

1,230の調査票配付数に対して520票が有効票として回収された。

有効回収率は42.3%であった。(表1)

表1 サンプル回収状況

調査対象		合計		有効回答率
		配付数	有効回収数(n)	
①	県北	630	123	19.5%
②	鹿行	200	169	84.5%
③	県南	200	165	82.5%
④	県西	200	63	31.5%
計		1,230	520	42.3%

(3) 調査の実施経過

本調査は、生涯学習調査研究委員会（以下委員会）が企画・実施したものである。

調査実施にあたっては、平成24年7月の第2回委員会で調査票の原案を作成し、9月の第3回委員会で修正を加えて調査票を完成した。11月の第4回委員会で入力シートデータ提出までの流れを確認した。

各センターにおいて調査票にコーディングを行い、11月15日から、各生涯学習センターがアンケートを実施する地区①県北：城の丘団地（日立市十王町城の丘町1丁目～7丁目）②鹿行：行方市立大和第一、第二、第三の小学校区③県南：土浦駅北口中心市街地（中央1、2丁目、大和町他 全7地区）④県西：筑西市立太田小学校学区において実施した。

調査票は、①県北：手持ちで配付、郵便で回収、②鹿行：小学校を通して配付・回収、③県南：手持ちで配付（センター利用者を含む）、郵便で回収、④県西：手持ちで配付、郵便で回収と自治会長を通して配付・回収を行った。

データ入力作業はセンター毎に行い、資料として次年度の計画に役立てることとした。また、それぞれの入力シートデータを12月上旬に水戸センターで取りまとめ、県全域のデータとして結果をまとめた。

（注1 パーセントの表示値は、少数第2位を四捨五入し少数第1位で表した値である。）

（注2 nの値は、有効サンプル数を表す。）

3 調査結果と分析

(1) 調査対象地域のプロフィール

1 性別

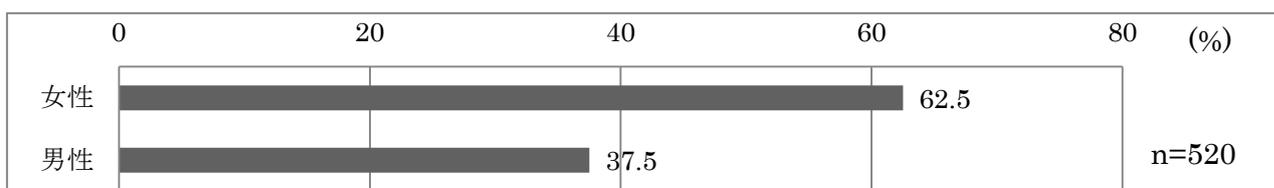


図 1.1 性別(全体)

回答者全体の男女比は、「女性」62.5%、「男性」37.5%で、「女性」が回答している家庭が多いことが分かる(図 1.1)。

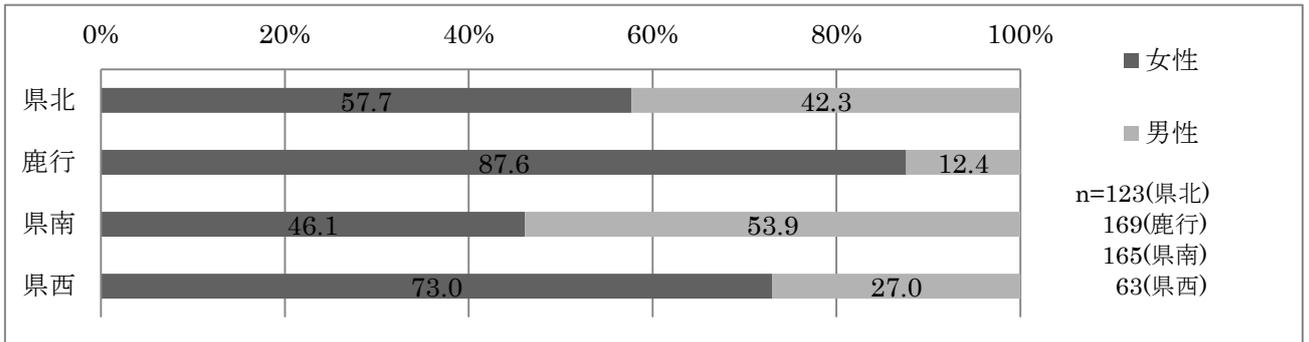


図 1.2 性別(地域別)

地域別で見ると、鹿行 87.6%、県西 73.0%で「女性」が多い。比較的「男性」の回答が多いのは、県南 53.9%である(図 1.2)。

2 年代

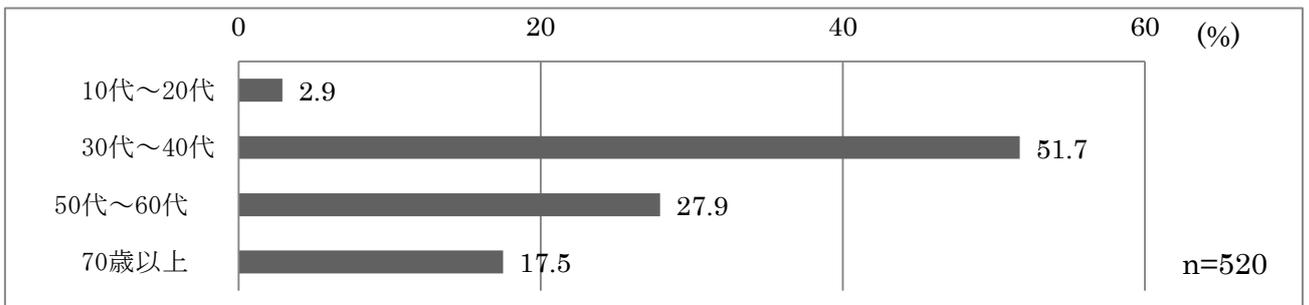


図 2.1 年代(全体)

年代は、「30代~40代」51.7%、「50代~60代」27.9%を合わせると約8割を占め、「10代~20代」は2.9%で非常に低い(図 2.1)。

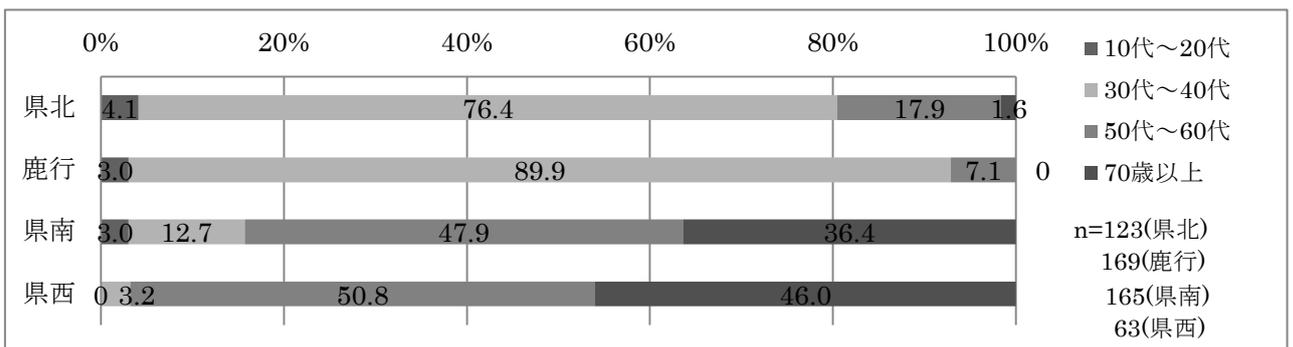


図 2.2 年代(地域別)

地域別で見ると、鹿行 89.9%、県北 74.6%において「30代~40代」の子育て世代が最も高い割合を示している。県南は、「50代~60代」が47.9%で、次に、「70歳以上」が36.4%で高い。県西は、「50代~60代」50.8%、「70歳以上」46.0%で、より高齢者の割合が高い(図 2.2)。

3 家族構成

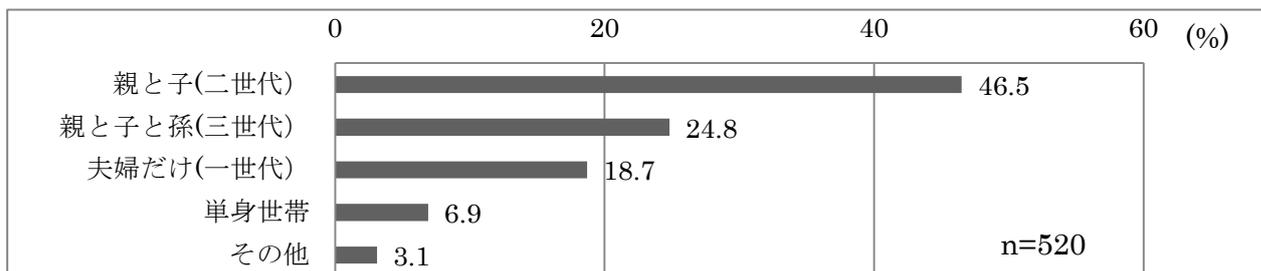


図 3.1 家族構成(全体)

同居している家族の構成は、「二世代(親と子)」が 46.5%、「親と子と孫(三世代)」24.8%、「夫婦だけ(一世代)」18.7%の順で、「単身世帯」は 6.9%で非常に低い(図 3.1)。

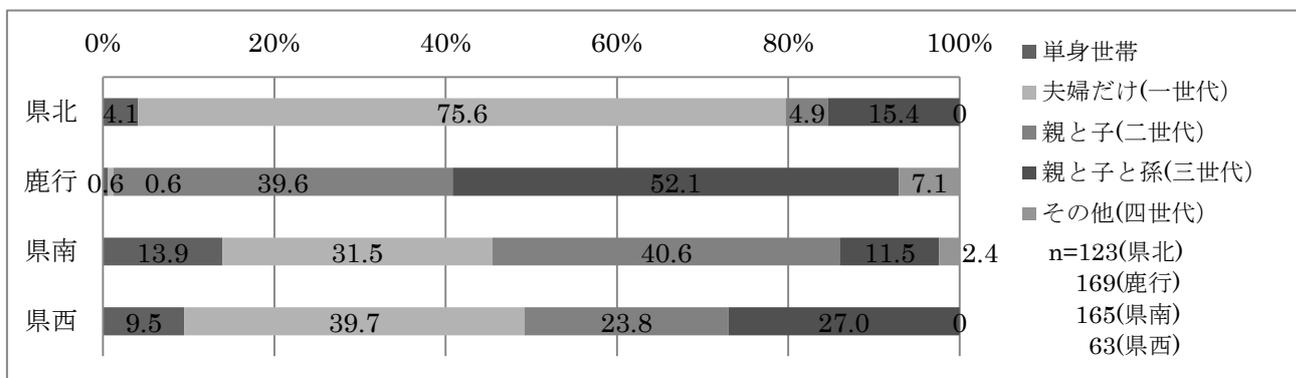


図 3.2 家族構成(地域別)

各センター区別にみると、県北は「夫婦だけ(一世代)」が7割以上を占めている。鹿行は、「三世代」52.1%で最も高く、次に、「親と子(二世代)」39.6%である。県南は、「二世代」が40.6%、「一世代」31.5%で併せると7割を超える。県西は、「一世代」39.7%が最も高く、「親と子と孫(三世代)」27.0%、「二世代」23.8%と世代に幅があることが分かる。鹿行や県南は、少数ではあるが「四世代」が含まれている(図 3.2)。

4 就業状況



図 4.1 就業状況(全体)

就業状況は、「仕事をしている」56.3%、「仕事をしていない」43.7%で、仕事をしている人の割合がやや高い(図 4.1)。

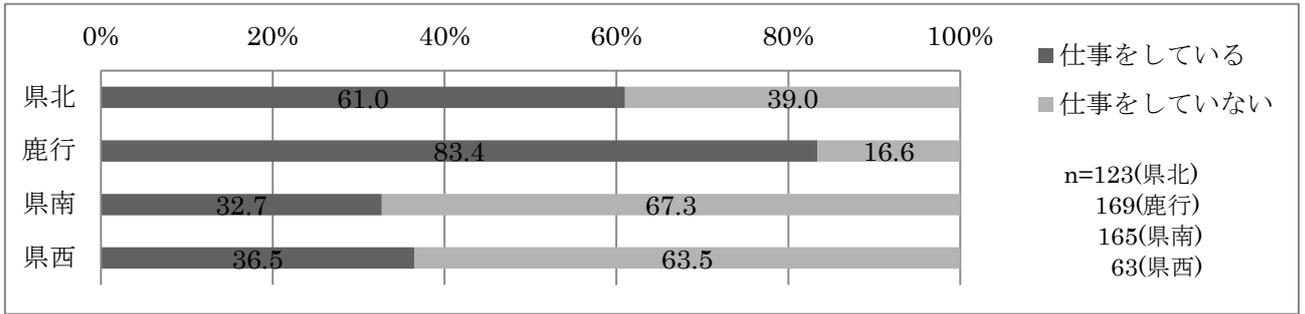


図 4.2 就業状況(地域別)

地域別でみると、「仕事をしている」の割合が高いのは、鹿行 83.4%、県北 61.0%である。「仕事をしていない」の割合が高いのは、県南 67.3%、県西 63.5%である(図 4.2)。

5 居住年数

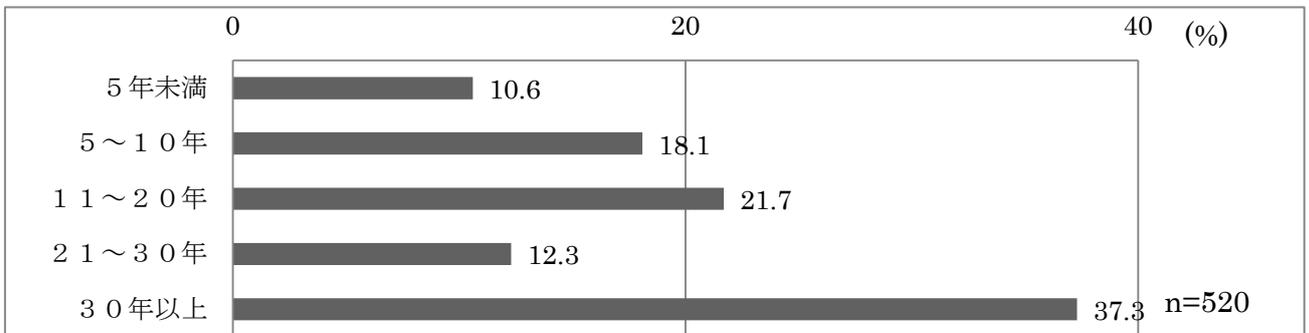


図 5.1 居住年数(全体)

現在の地域での居住年数は、「30年以上」37.3%で最も高い。次に、「11~20年」21.7%、「5~10年」18.1%で、居住年数が長くなるほど割合が高い(図 5.1)。

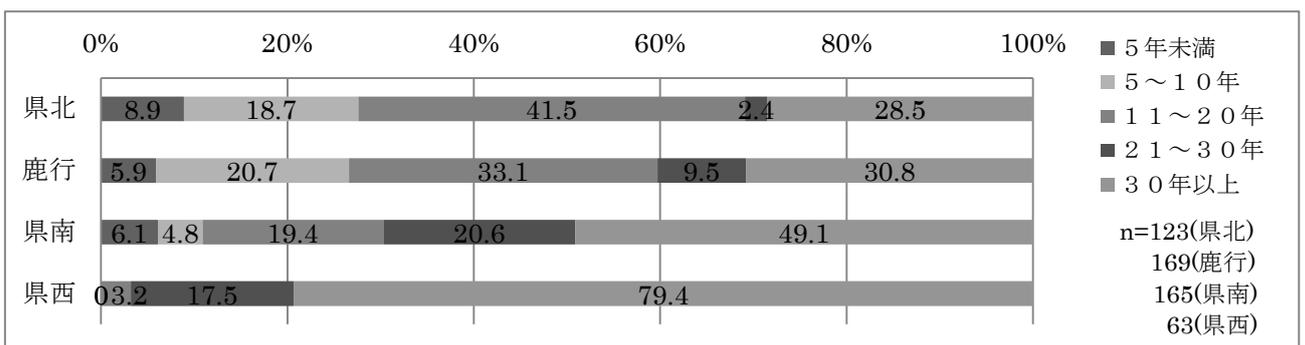


図 5.2 居住年数(地域別)

地域別にみると、県西の「30年以上」79.4%が最も顕著である。同様に、県南も「30年以上」が約半数を占める。県北と鹿行は、「11~20年」の割合が高いが、「30年以上」も約3割を占めている(図 5.2)。

6 定住意向

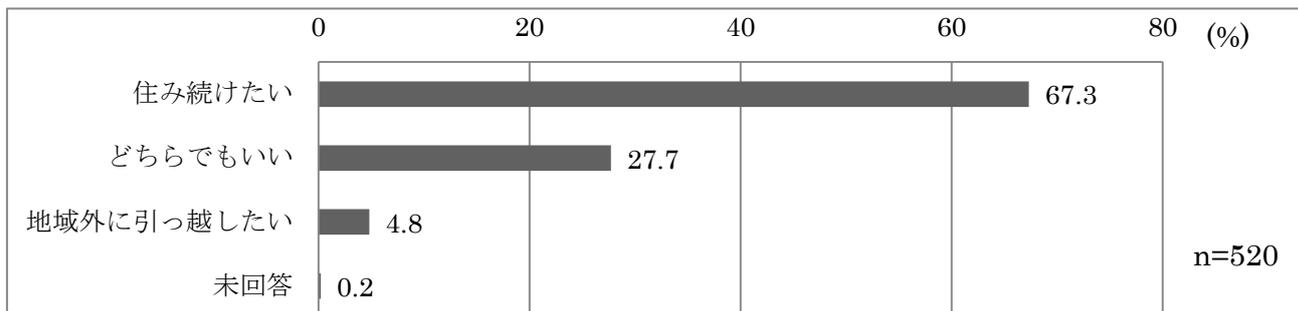


図 6.1 定住意向(全体)

現在居住地域への継続定住意向は、「住み続けたい」が 67.3%で最も高く、「地域外に引っ越したい」は 4.8%で非常に低い(図 6.1)。

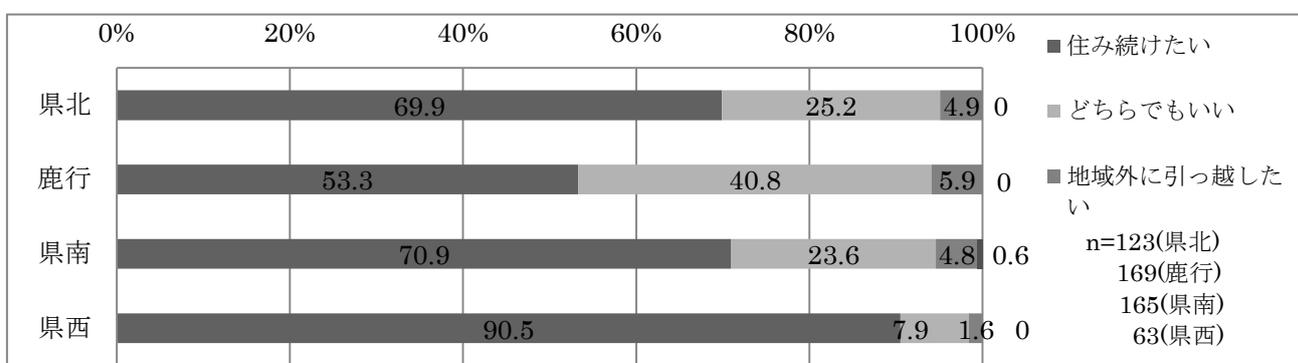


図 6.2 定住意向(地域別)

地域別にみると、どの地域も「住み続けたい」が圧倒的に高く、県西 90.5%、県南 70.9%、県北 69.9%、鹿行 53.3%の順である(図 6.2)。

(2) 各センター区における活動人口 (表2)

表2 各センター区の活動人口 (全体)

調査対象	全回答者の活動頻度素数の合計	回答者数	1人当たりの活動頻度素数	定住人口	活動人口数
① 県北	1,628	123	13.2	1,089 (日立市城の丘町)	14,374.8
② 鹿行	3,468	169	20.5	31,584 (行方市)	647,472
③ 県南	2,879	165	17.3	116,896 (土浦市)	2,022,300.8
④ 県西	1,186	63	18.8	13,156 (筑西市太田地区)	247,332.8
計	9,161	520	17.5		

※ 定住人口は、平成22年国勢調査に基づく

表3 各センター区における4つの縁別活動人口

活動内容	家族や親戚に関わること【血縁】	地域に関わること【地縁】	友人に関わること【友縁】	職場に関わること【職縁】	計
① 県北 (123)	596 (4.8)	467 (3.8)	281 (2.3)	284 (2.3)	1,628
② 鹿行 (169)	1,271 (7.5)	997 (5.9)	540 (3.2)	660 (3.9)	3,468
③ 県南 (165)	916 (5.6)	1,122 (6.8)	591 (3.6)	250 (1.5)	2,879
④ 県西 (63)	371 (5.9)	489 (7.8)	253 (4.0)	73 (1.2)	1,186
計 (520)	3,154 (6.1)	3,075 (5.9)	1,665 (3.2)	1,267 (2.4)	9,161

※ 調査対象の()内の数値は、各センターごとの回答者数

※ 4つの縁(血縁, 地縁, 友縁, 職縁)に係る()内の数値は、1人当たりの活動頻度素数

(3) 調査結果と活動内容及び縁別考察

7-① 活動状況（活動内容別）

ア 日常生活における助け合い・支え合い活動について

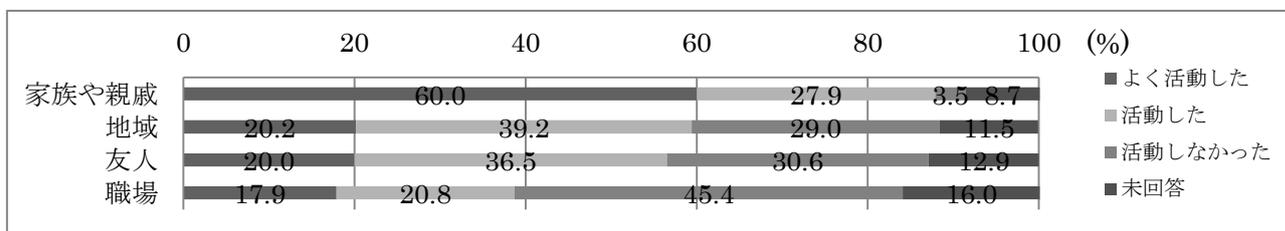


図 7.1.1 日常生活における助け合い・支え合い活動（全体）

「家族や親戚と活動した」（以下「家族や親戚」）が最も高い数値を示している。「よく活動した」60.0%、「活動した」27.9%を併せると約9割を占める。「地域で活動した」（以下「地域」）「友人と活動した」（以下「友人」）は「よく活動した」と「活動した」を併せると、どちらも約6割、「職場で活動した」（以下「職場」）は約4割で、どの縁によるつながり方においてもよく活動していることが分かる（図 7.1.1）。

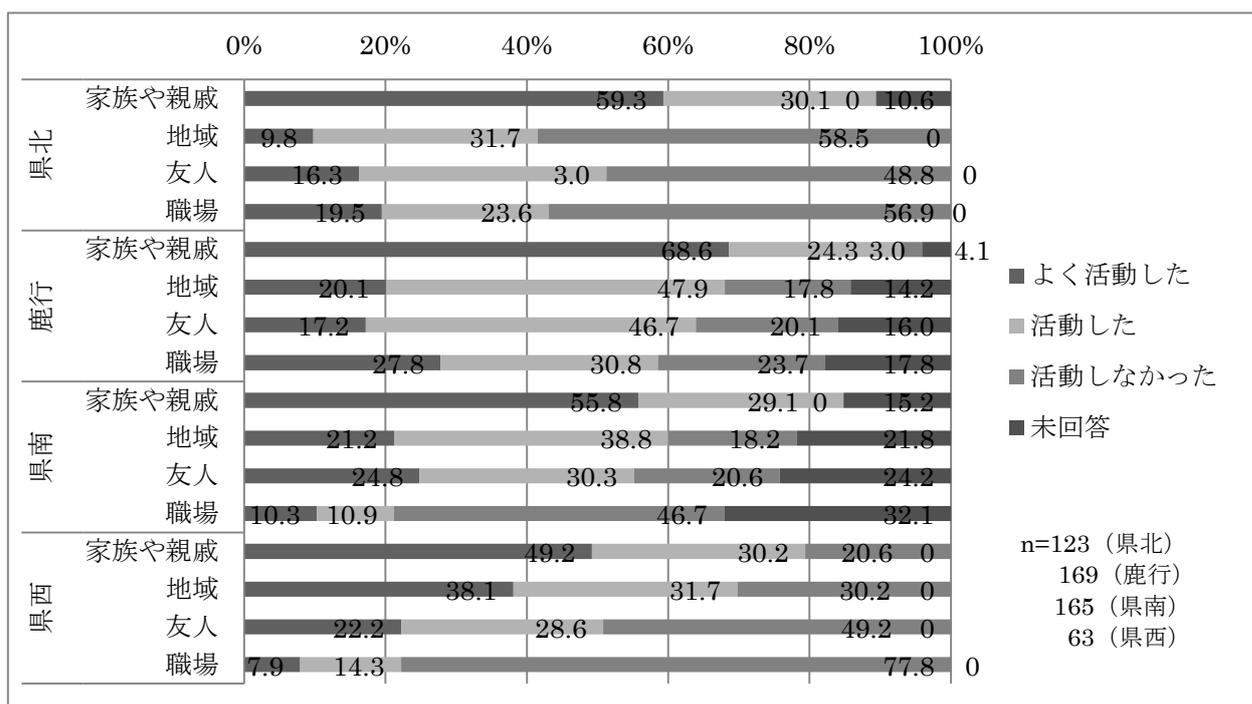


図 7.1.2 日常生活における助け合い・支え合い活動（地域別）

各センター区別にみると、「家族や親戚」の割合が高く、「よく活動した」は「鹿行」68.6%、次に「県北」59.3%であり、日常生活における助け合い・支え合い活動によく取り組んでいる。「県北」は、「地域」は低いが、「職場」がやや高い。「鹿行」は、「地域」、「友人」よりも「職場」が「よく活動した」27.8%で高い。「県南」は、「職場」が非常に低く、他は比較的高い割合である。「県西」は、「職場」は低いが、「地域」は「よく活動した」が38.1%で高い（図 7.1.2）。

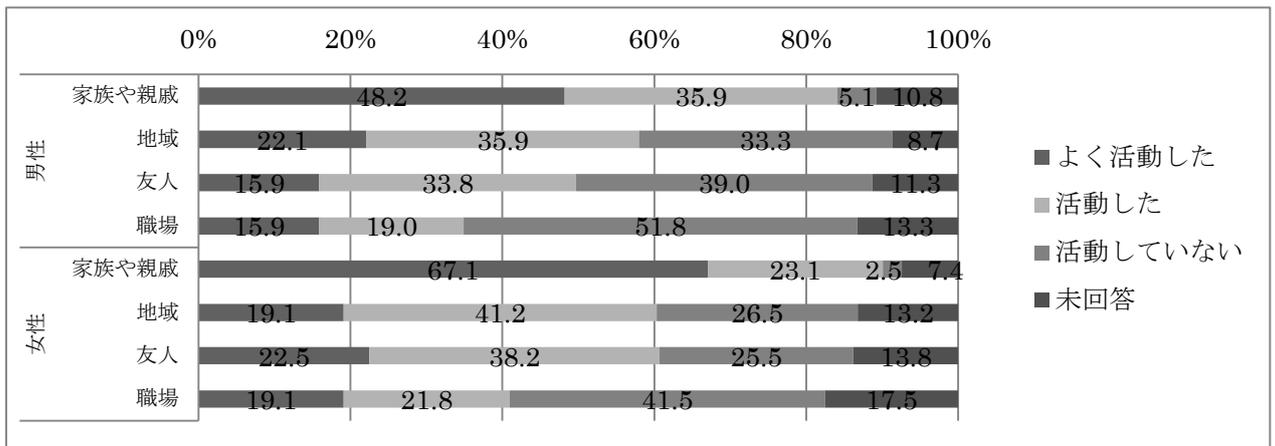


図 7.1.3 日常生活における助け合い・支え合い活動（男女別）

男女別で見ると、男女共に「家族や親戚」の数値が高い。「よく活動した」は、男性 48.2%、女性 67.1%である。次に、「男性」は、「地域」が高いが、「女性」は、「友人」と「地域」が同じくらいの割合である（図 7.1.3）。

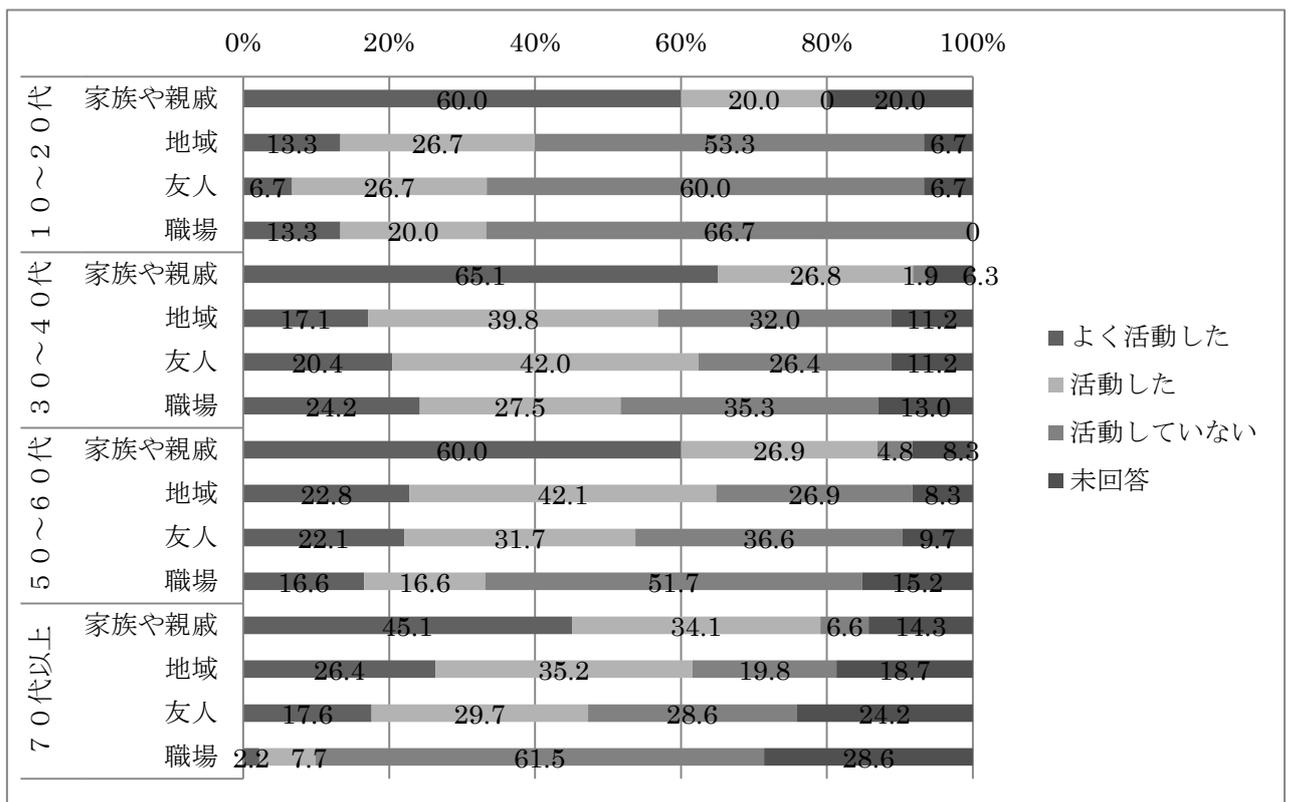


図 7.1.4 日常生活における助け合い・支え合い活動（年代別）

年代別で見ると、「家族や親戚」については、どの年代においても高い割合を示している。中でも、「よく活動した」と回答している「30~40代」65.1%が最も高い。活動している割合が比較的高いのは、「30~40代」と「50~60代」である。「30~40代」は、「職場」の割合が他の年代よりも高いのが特徴である。「50~60代」、「70代以上」は、「地域」「友人」「職場」の順で低くなっている（図 7.1.4）。

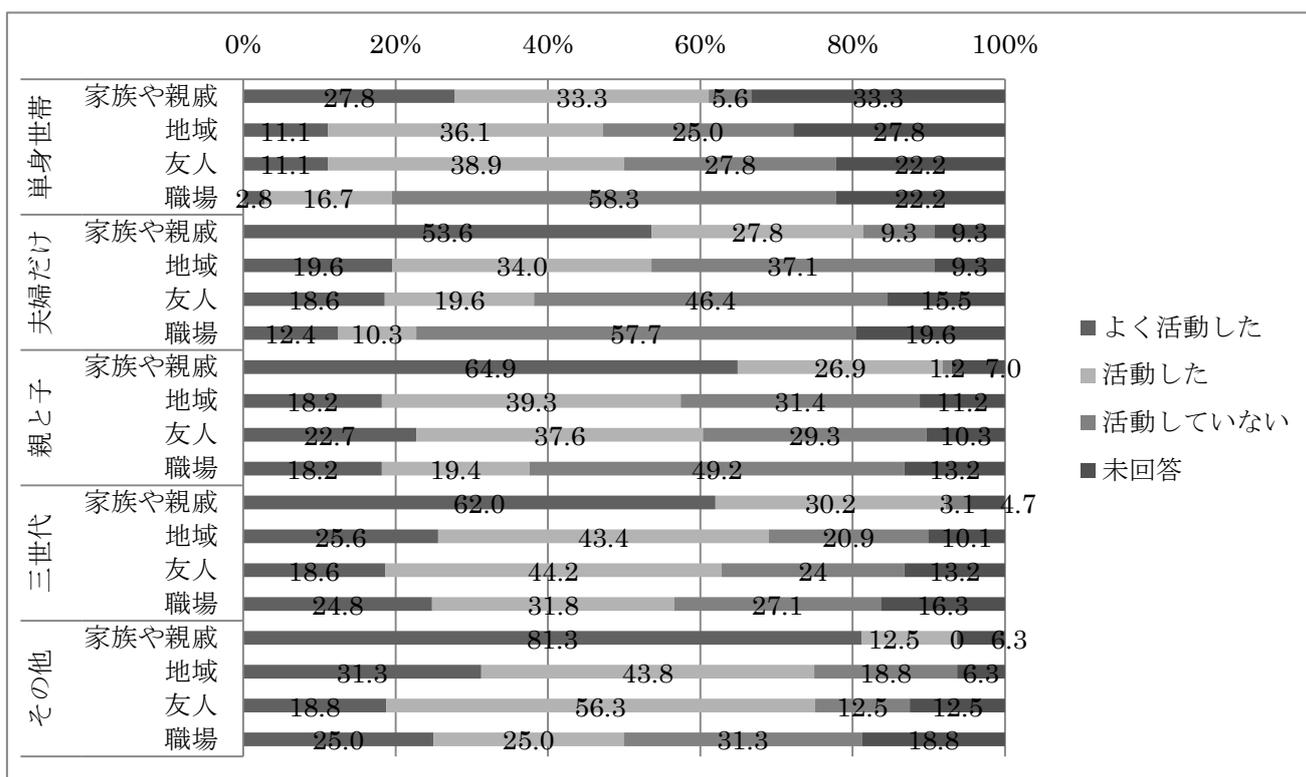


図 7.1.5 日常生活における助け合い・支え合い活動(家族構成別)

家族構成別でみると、「家族や親戚」は、「親と子(二世帯)」の「よく活動した」64.9%が最も高く、次に「三世帯」62.0%、「夫婦だけ(一世帯)」53.6%の順である。中でも、活動している割合が高いのは「三世帯」,「親と子(二世帯)」である。「三世帯」は、次に多いのは「地域」「職場」「友人」の順であるが、「二世帯」は、「友人」の割合が「地域」や「職場」よりもやや高い。単身世帯より二世帯,三世帯同居の方がよく活動できる(図 7.1.5)。

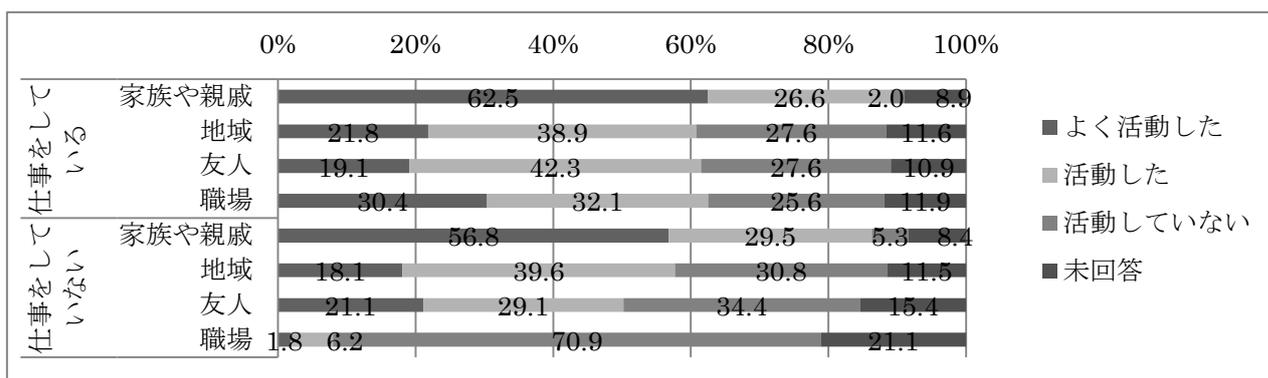


図 7.1.6 日常生活における助け合い・支え合い活動(就業状況別)

就業状況別でみると、「仕事をしていない」よりも「仕事をしている」方が、「家族や親戚」62.5%、「職場」30.4%で全体的に割合がやや高く、よく活動していることが分かる(図 7.1.6)。

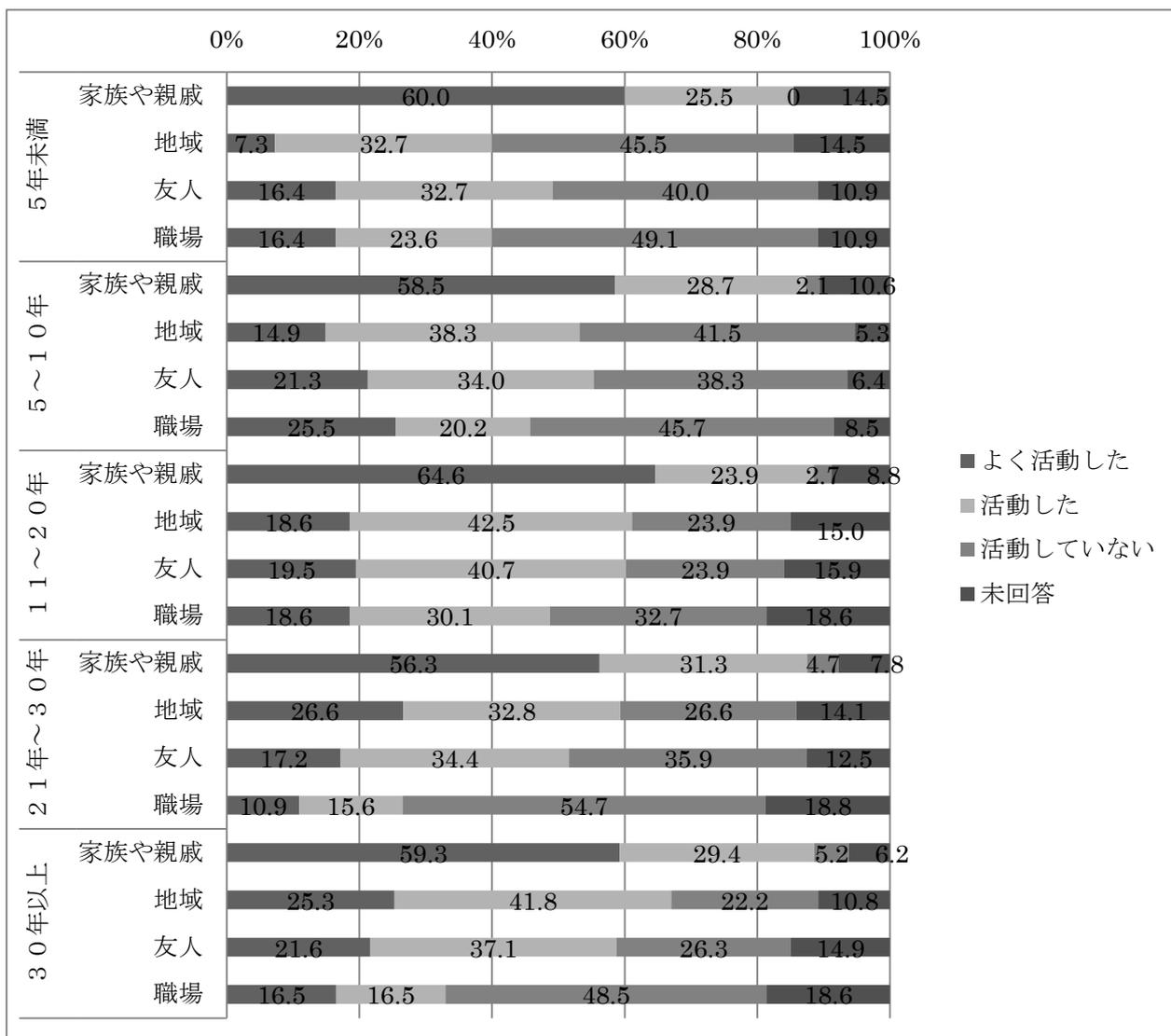


図 7.1.7 日常生活における助け合い・支え合い活動（居住年数別）

居住年数別で見ると、居住年数の長短にかかわらず、どの項目も「家族や親戚」の割合が高く約6割程になる。居住年数が短いと、「職場」が高く、「地域」が非常に低いですが、居住年数が長くなると「地域」に関わることが高くなっていることが分かる(図 7.1.7)。

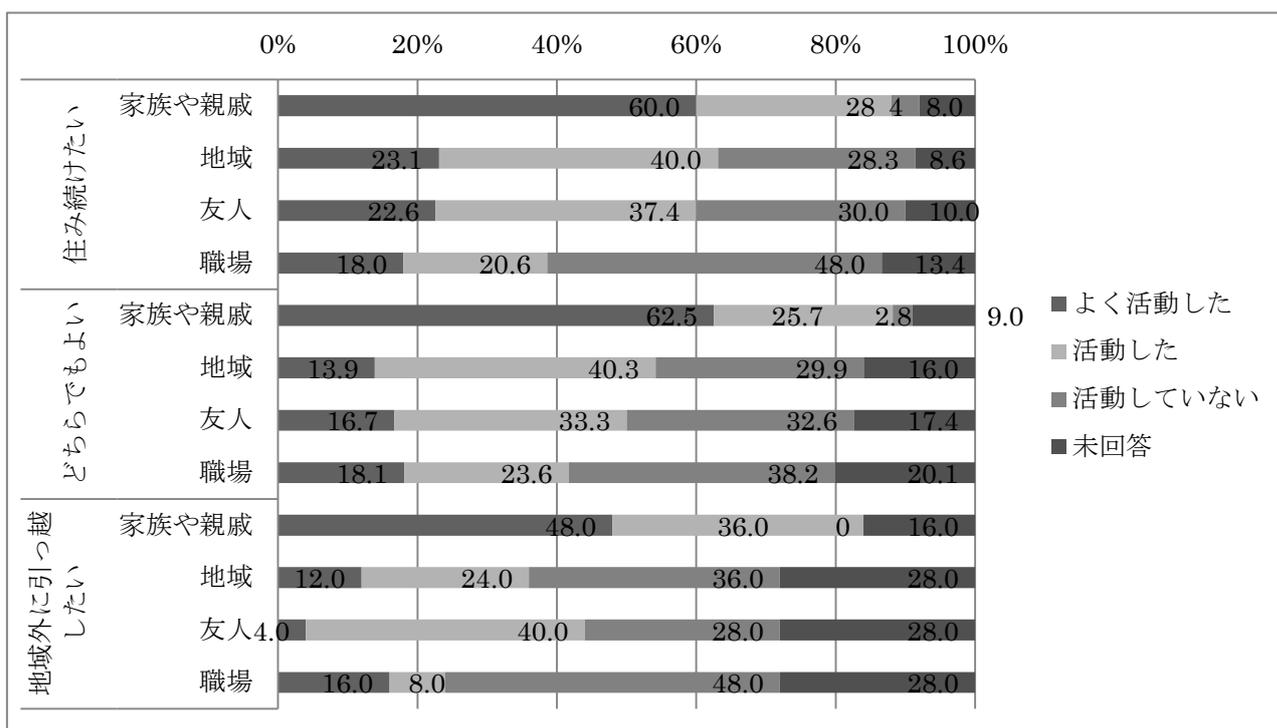


図 7.1.8 日常生活における助け合い・支え合い活動（定住意向別）

定住意向別にみると、「住み続けたい」は、「家族や親戚」をはじめ、どの縁の観点においても高い割合を示している。「どちらでもよい」、「地域外へ引っ越したい」についても、「家族や親戚」は高いが、「地域」「友人」「職場」は2割にも達していない。「地域外に引っ越したい」の「友人」は4.0%で非常に低い（図 7.1.8）。

イ 地域・まちづくりに関する活動について

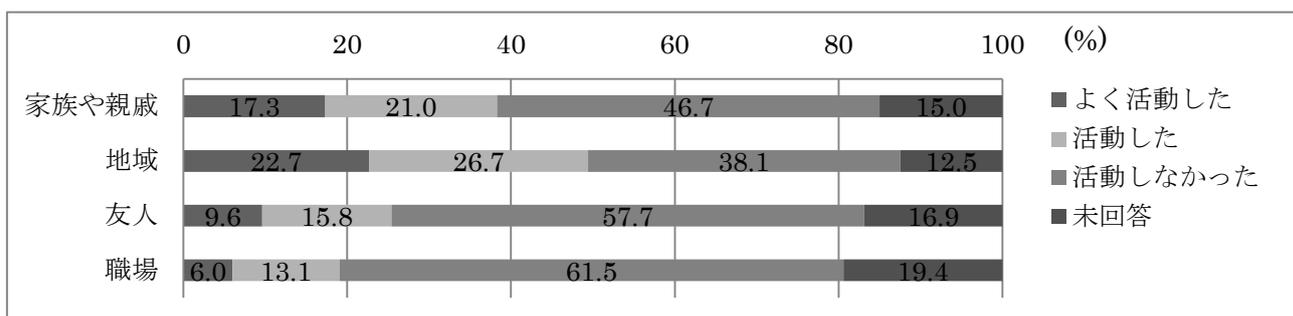


図 7.2.1 地域・まちづくりに関する活動（全体）

「地域」は、「よく活動した」22.7%と「活動した」26.7%を併せると約5割で、「家族や親戚」は、「よく活動した」17.3%と「活動した」21.0%を併せると約4割になる。地域・まちづくりに関する活動については、「家族や親戚」「地域」の割合が高い（図 7.2.1）。

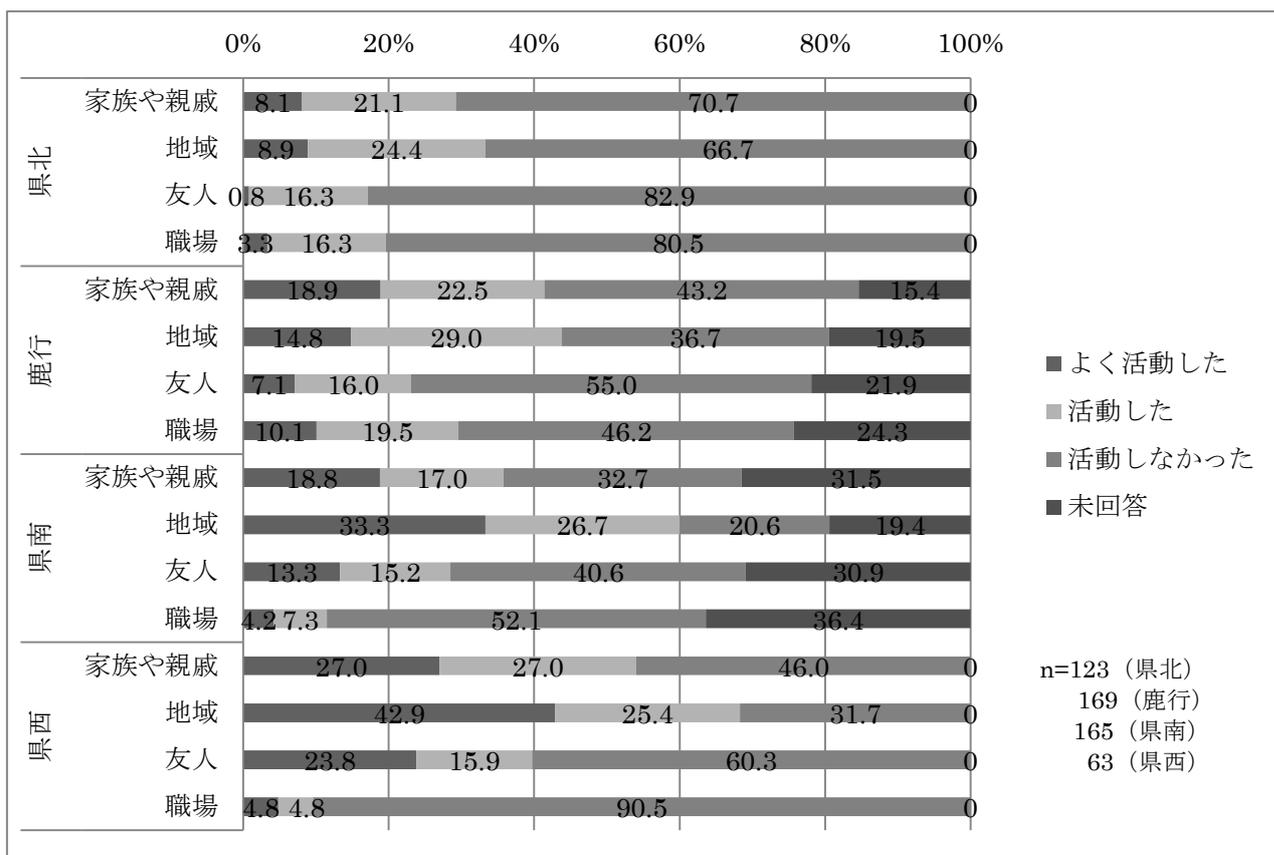


図 7.2.2 地域・まちづくりに関する活動（地域別）

地域別にみると、「県北」は、どの項目も低い。「鹿行」は、「県北」と同様に「友人」や「職場」の割合が低い。「県南」、「県西」は、「地域」の割合が高く、「よく活動した」が約4割程になりよく取り組んでいると言える。「職場」が非常に低いが、年齢や就業状況が影響していると考えられる（図 7.2.2）。

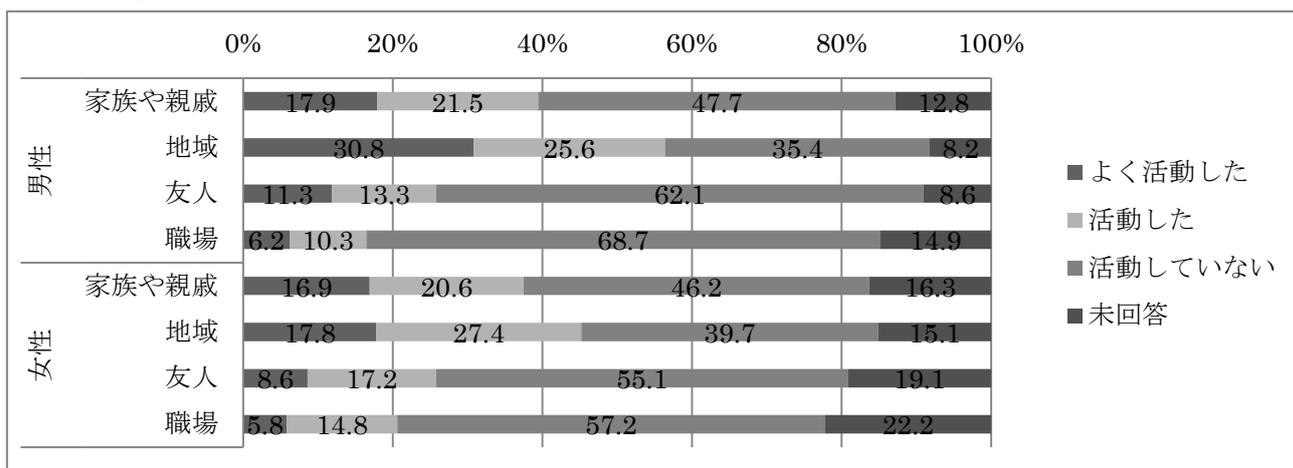


図 7.2.3 地域・まちづくりに関する活動（男女別）

男女別にみると、「地域」は、男性の方が活動している割合が高く、「よく活動した」は30.8%である。その他、「家族や親戚」「友人」「職場」は、男女共に同様の割合である（図 7.2.3）。

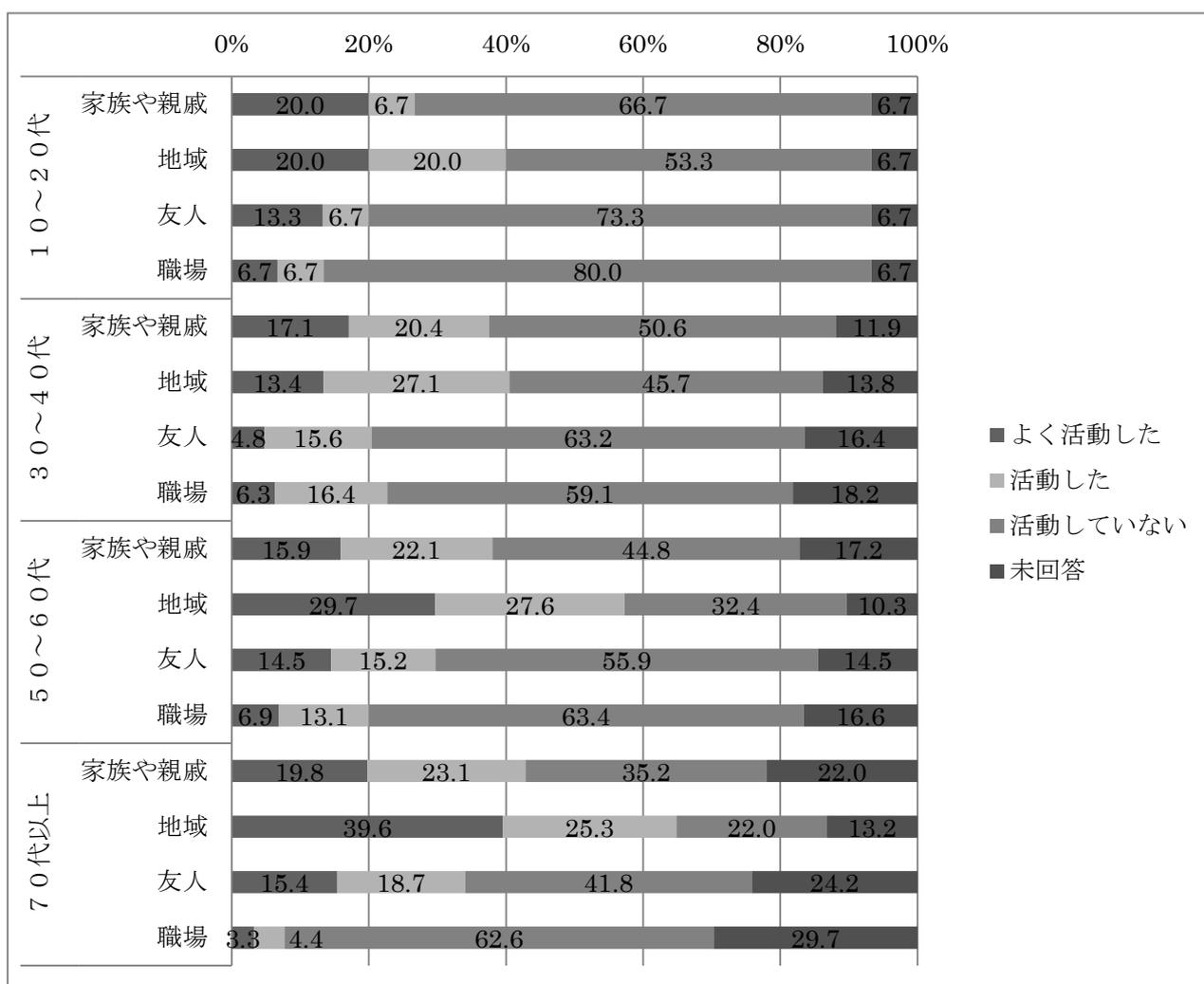


図 7.2.4 地域・まちづくりに関する活動（年代別）

年代別にみると、「70代以上」の「地域」の「よく活動した」の割合が高く39.6%である。次に、「50～60代」が29.7%であり、年代が高い方が地域に関わる活動を行っていることが分かる。また同様に、「友人」の割合が他と比較して高いのが特徴である(図 7.2.4)。

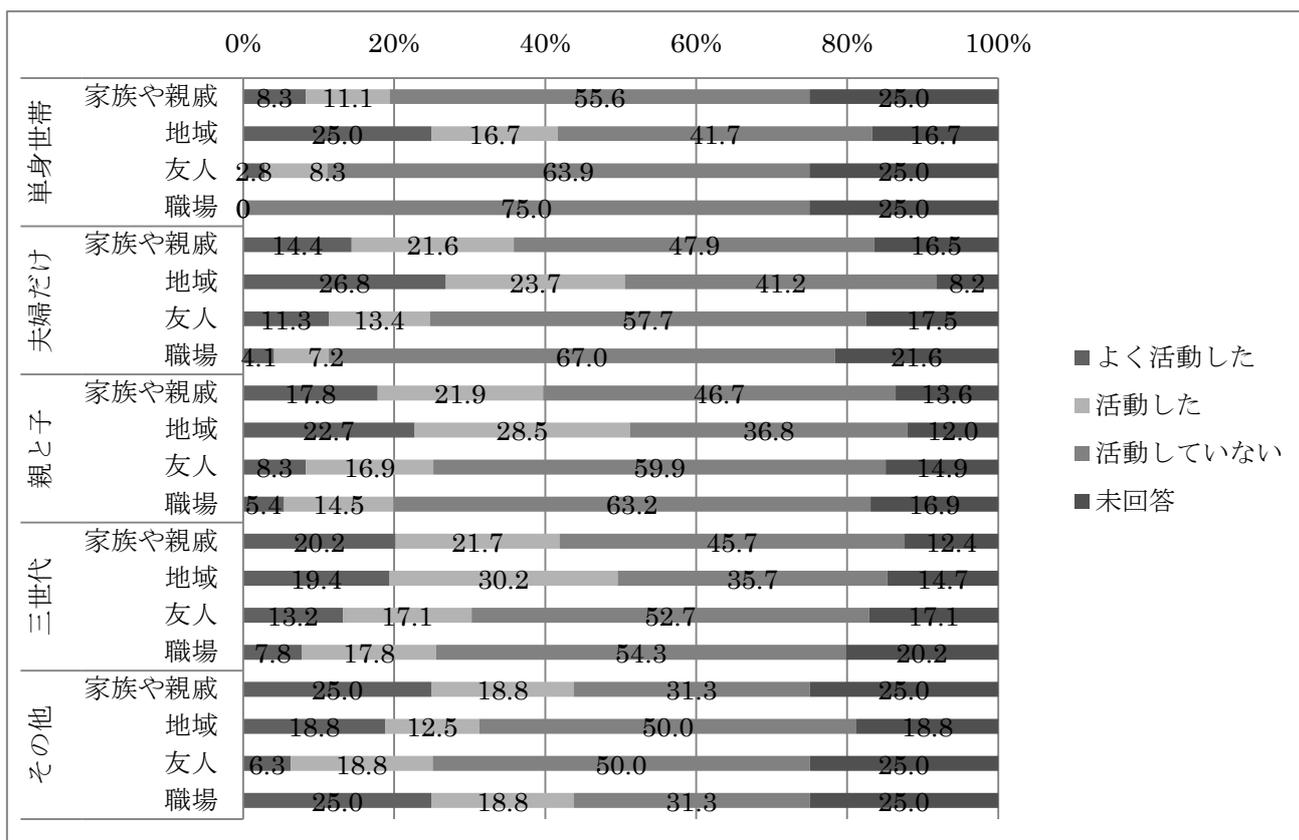


図 7.2.5 地域・まちづくりに関する活動（家族構成別）

地域・まちづくりに関する活動を家族構成別にみると、「三世代」が「家族や親戚」「友人」「職場」の「よく活動した」の割合が他よりも高く、全体的なバランスがよい。「地域」は、「夫婦だけ（一世代）」、「親と子（二世代）」、「三世代」が約5割で高く、よく活動していると言える。「単身世帯」は、「家族や親戚」「友人」「職場」の割合が非常に低く、あまり活動していない(図 7.2.5)。

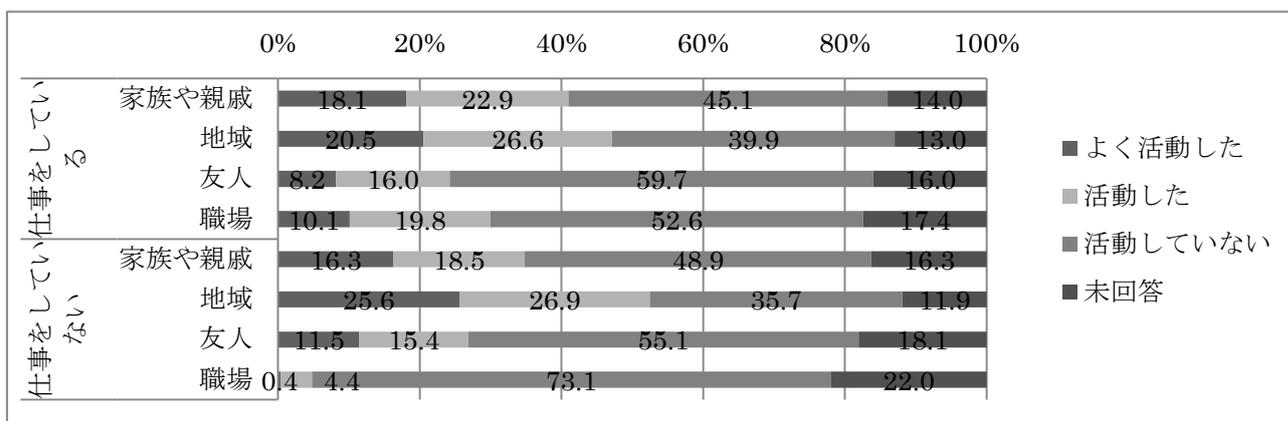


図 7.2.6 地域・まちづくりに関する活動（就業状況別）

就業状況別にみると、「仕事をしている」は、「家族や親戚」「地域」「職場」の割合がやや高く、「仕事をしていない」は、「地域」「家族や親戚」の割合が高い（図 7.2.6）。

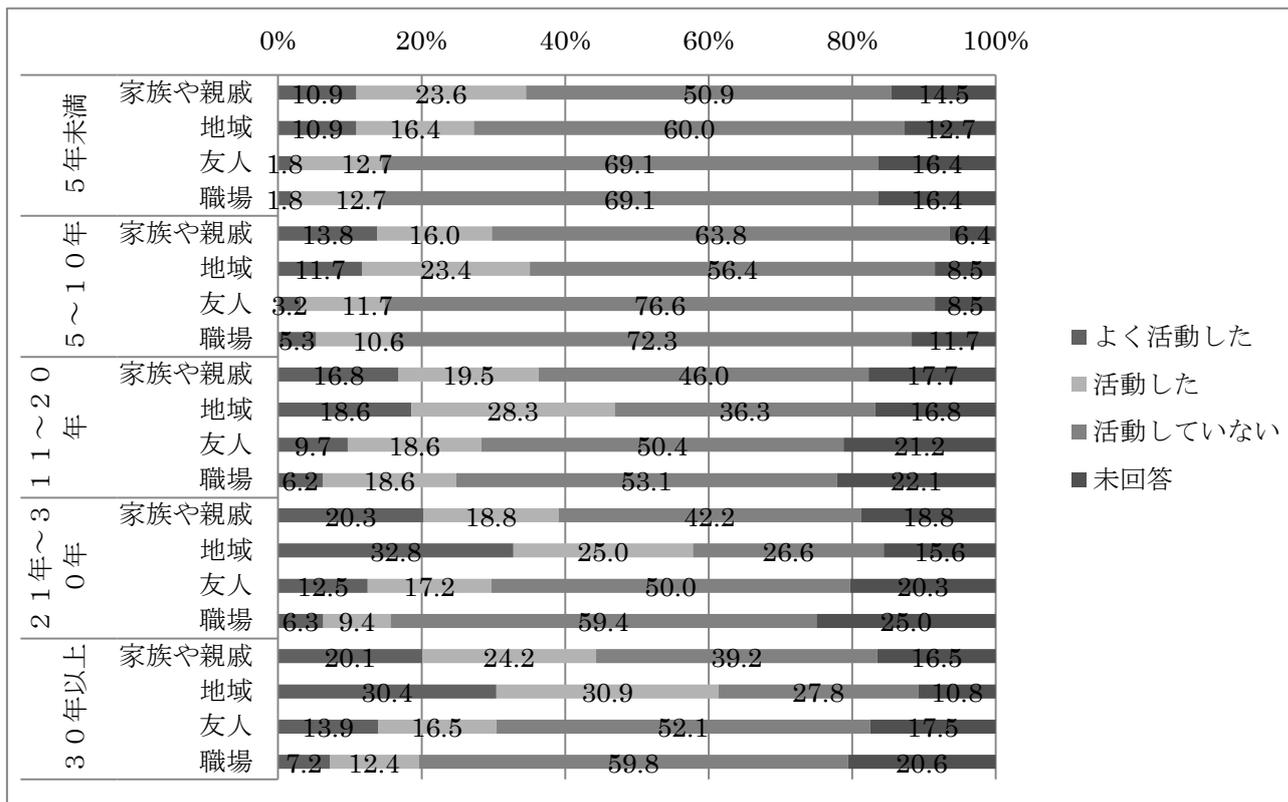


図 7.2.7 地域・まちづくりに関する活動（居住年数別）

居住年数別でみると、「21年～30年」の「家族や親戚」20.3%、「地域」が32.8%で高い。「30年以上」は、他と比べるとどの関わりも割合が高く、居住年数が高いほど地域やまちづくりの活動に参加していることが分かる（図 7.2.7）。

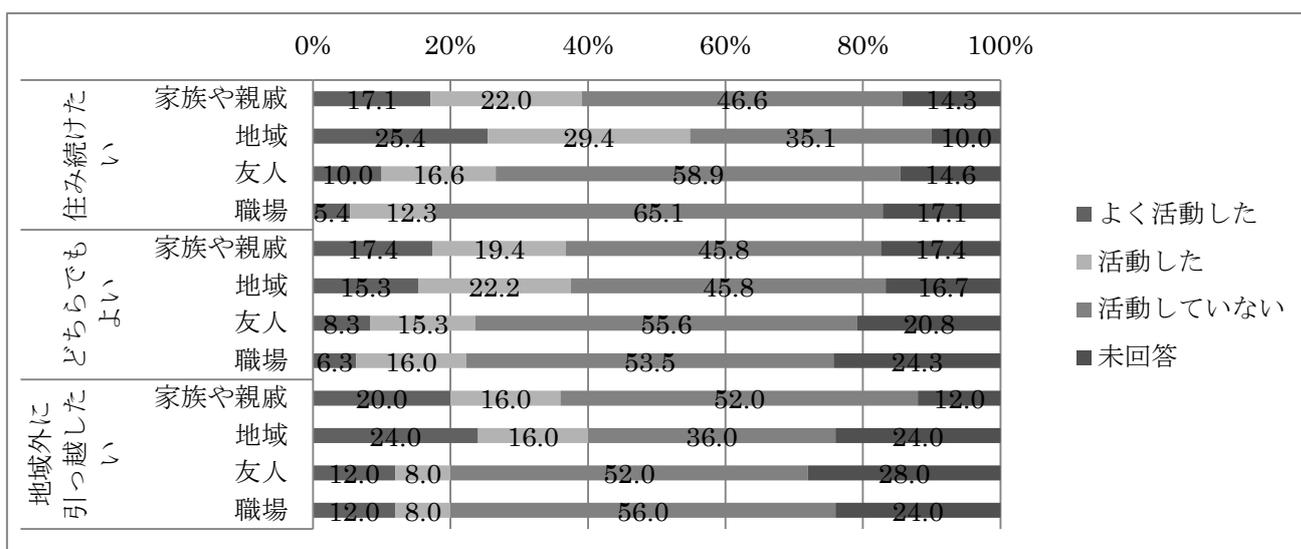


図 7.2.8 地域・まちづくりに関する活動（定住意向別）

定住意向別にみると、「住み続けたい」は、「地域」に関する割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割を超える。「地域外に引っ越したい」は、「友人」や「職場」の割合が他と比べるとやや高いことが分かる(図 7.2.8)。

ウ 学習会や体験活動について

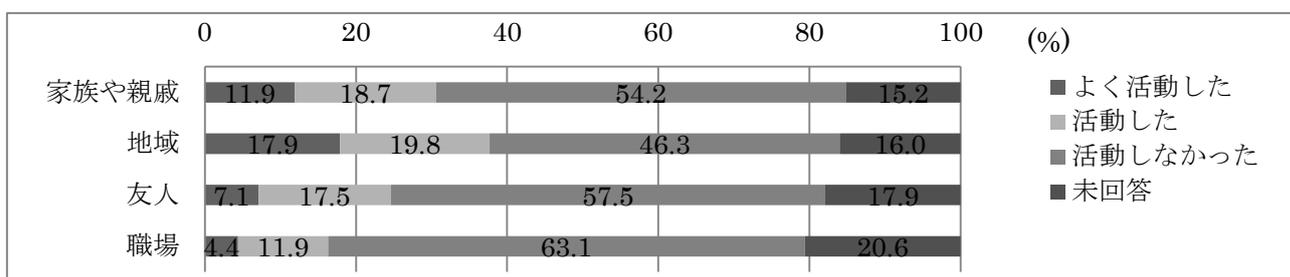


図 7.3.1 学習会や体験活動（全体）

「地域」は、「よく活動した」と「活動した」の割合を併せると約4割でやや高いが、「家族や親戚」が約3割、「友人」「職場」は3割に満たず低い(図 7.3.1)。

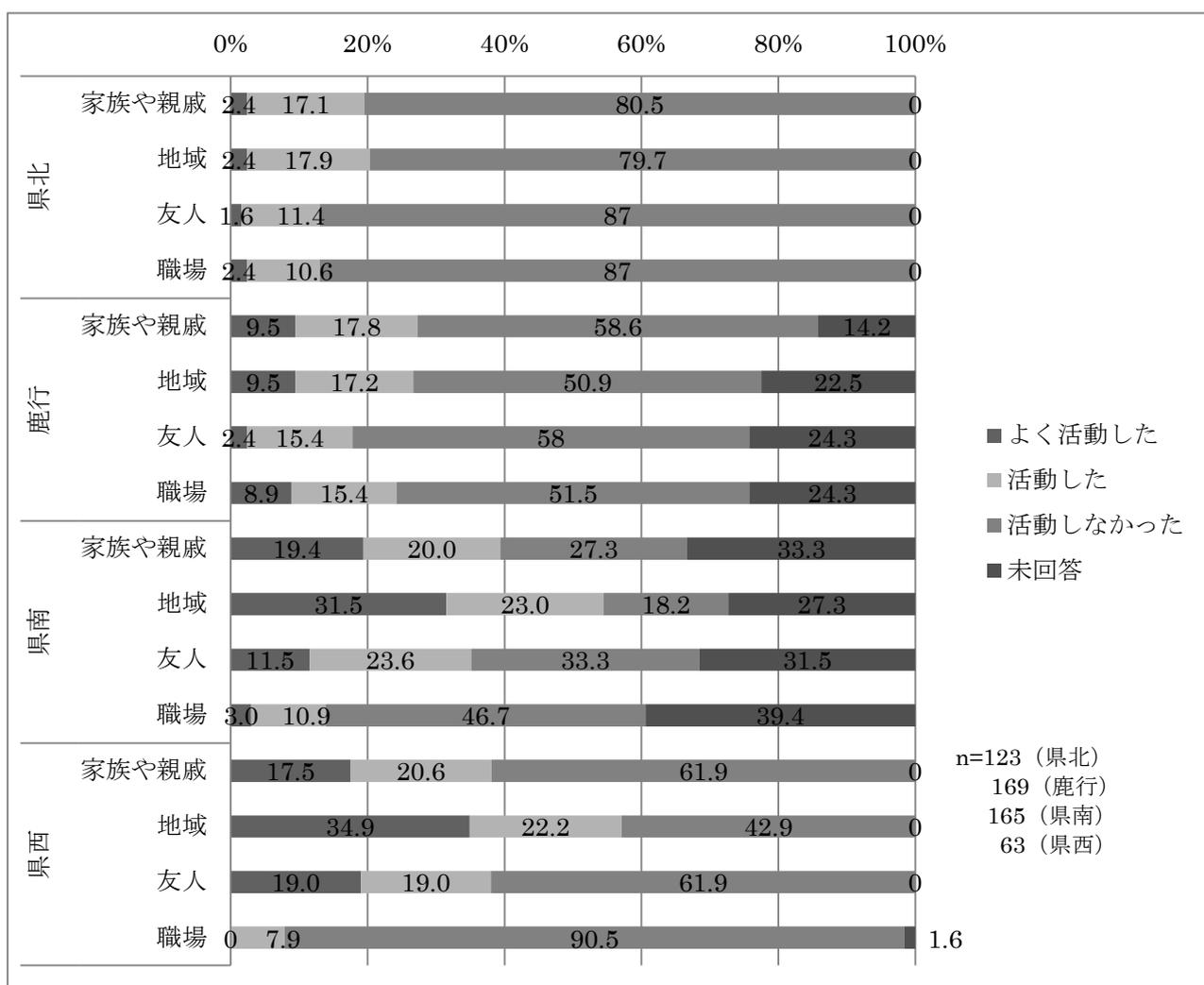


図 7.3.2 学習会や体験活動（地域別）

地域別にみると「県北」は、どの項目も非常に低い。「鹿行」は、「友人」に関する割合は低く、他も「よく活動した」は1割程である。「県南」、「県西」は、「地域」に関する割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割を超える。「家族や親戚」も同様に4割程になる。地域に関わりながら学習会や体験活動を行っていると言える（図 7.3.2）。

エ 青少年の健全育成に関する活動について

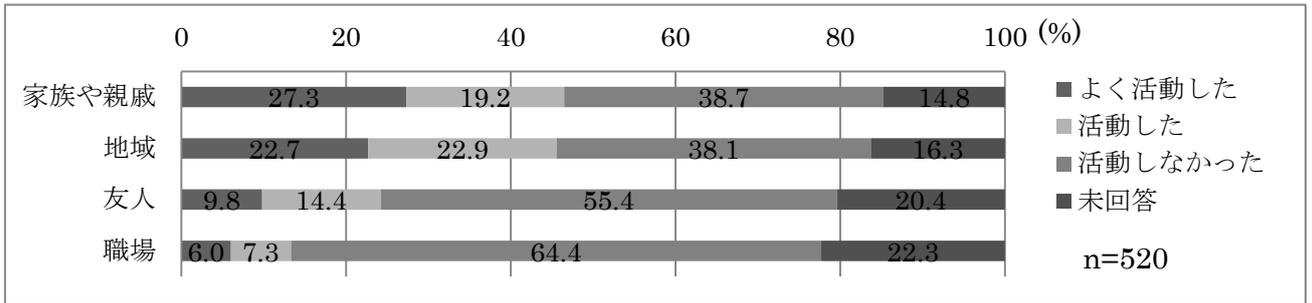


図 7.4.1 青少年の健全育成に関する活動（全体）

「家族や親戚」は、「よく活動した」27.3%と「活動した」19.2%を併せて約5割、同様に、「地域」も「よく活動した」22.7%と「活動した」22.9%を併せて約5割になる。青少年の健全育成に関する活動は、家族や親戚、地域において関わることの割合が高い（図 7.4.1）。

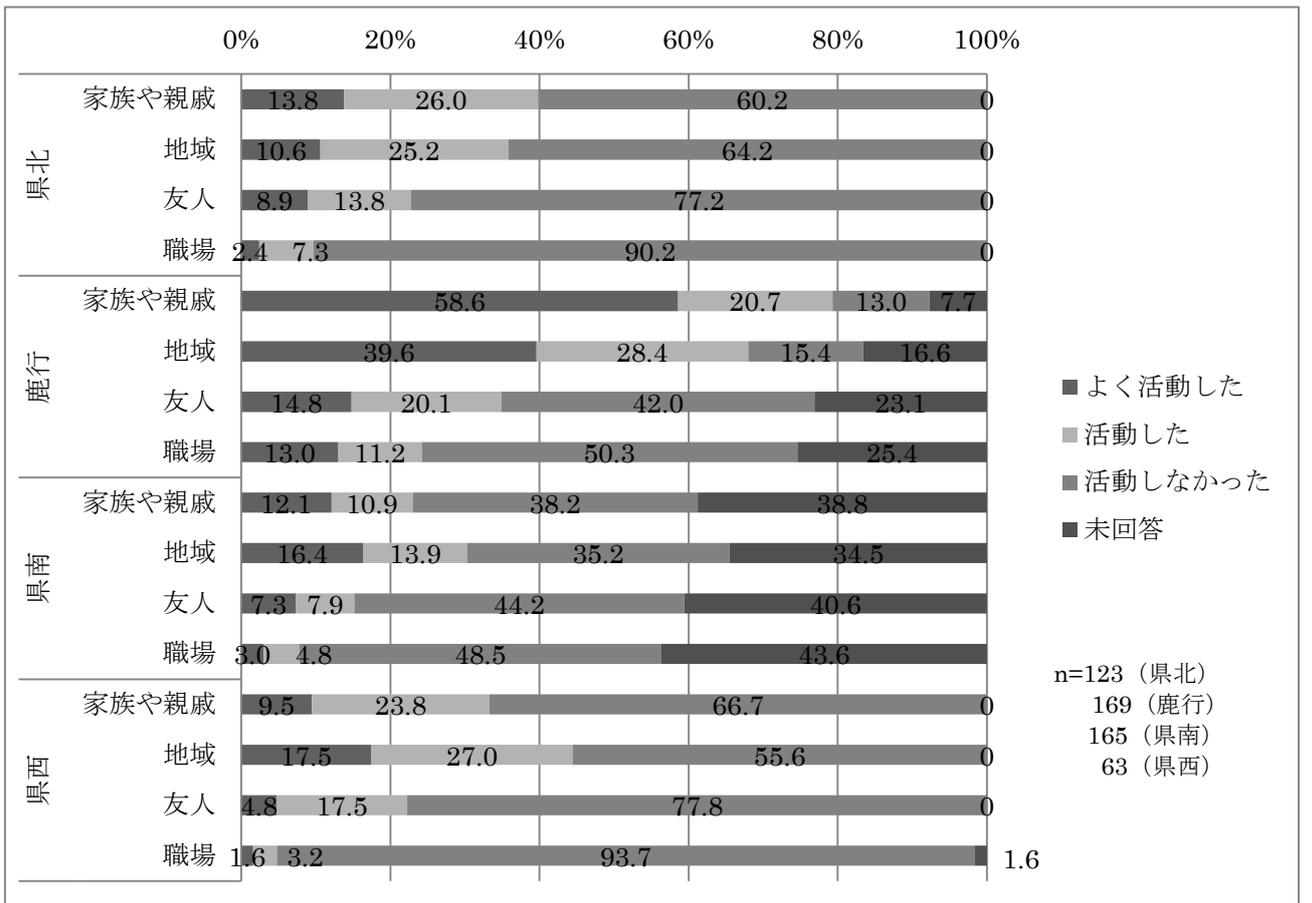


図 7.4.2 青少年の健全育成に関する活動（地域別）

地域別では、最も顕著なのは「鹿行」で、「家族や親戚」の「よく活動した」58.6%、「地域」は39.6%である。青少年の健全育成に関する活動に積極的に取り組んでいると言える。他の地域は、どの項目も2割に満たない。特に、「友人」「職場」は、どの地域も低くなっている（図 7.4.2）。

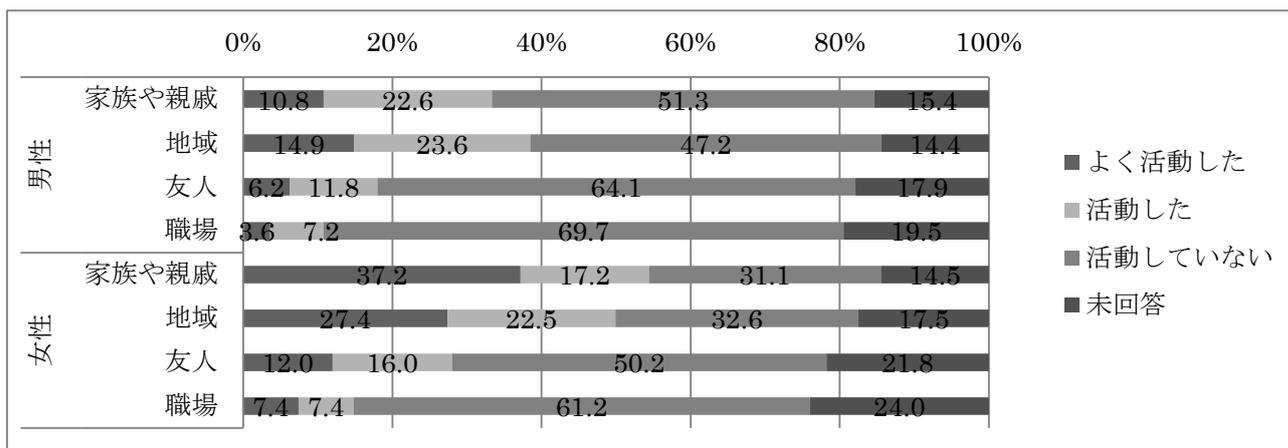


図 7.4.3 青少年の健全育成に関する活動（男女別）

男女別にみると、「女性」はどの縁によるつながりも高い割合を示している。特に、「男性」は「家族や親戚」の「よく活動した」の割合が 10.8%であるが、「女性」は 37.2%である。「地域」の割合も、「男性」が 14.9%であるのに対して「女性」は 27.4%で、よく活動している（図 7.4.3）。

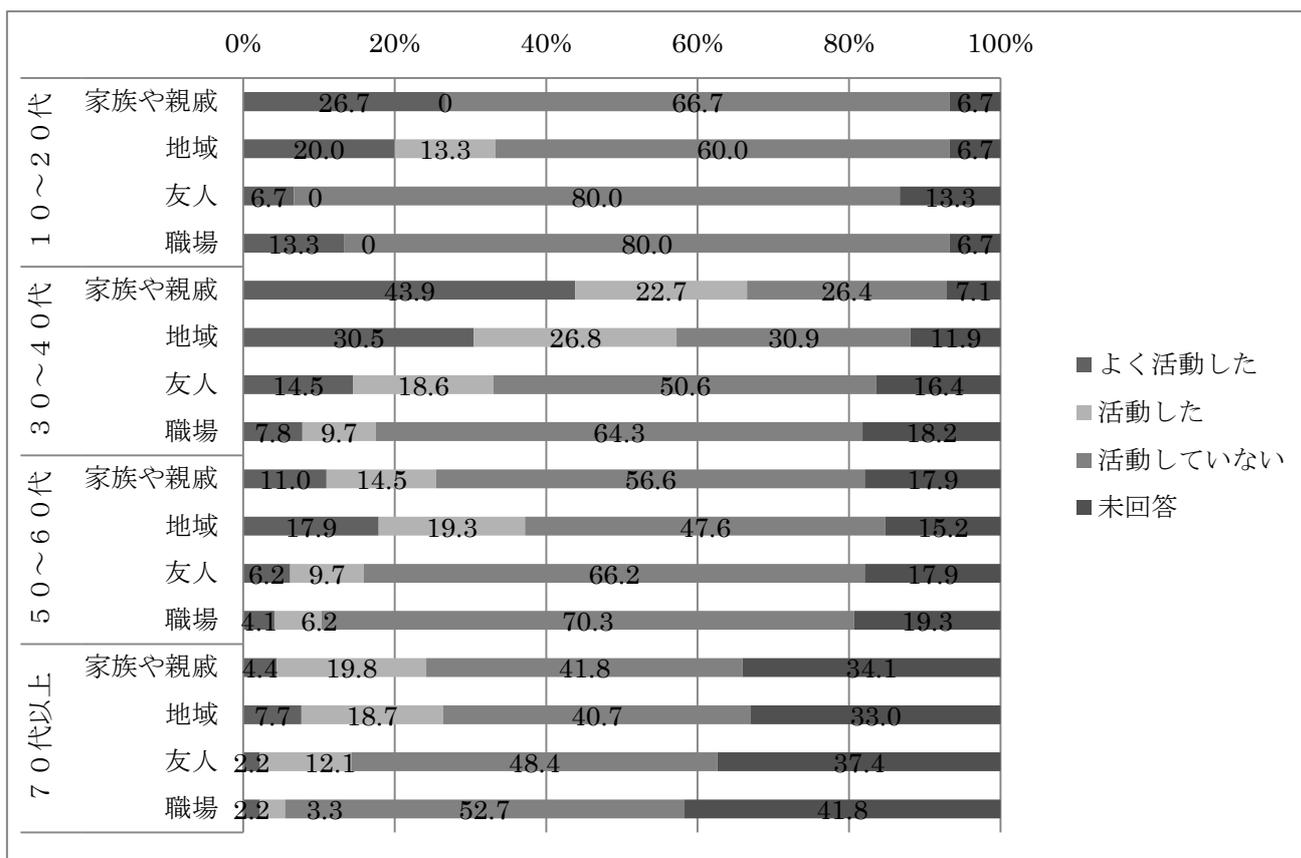


図 7.4.4 青少年の健全育成に関する活動（年代別）

年代別にみると、「30～40代」の「家族や親戚」の「よく活動した」が43.9%で最も高い。同様に、「地域」が30.5%で、どちらも「活動した」を併せると5割を超えている。「50～60代」、「70代以上」は、地域において青少年の健全育成に関する活動に参加する割合が高く、「友人」「職場」は、ほとんど活動を行っていない(図 7.4.4)。

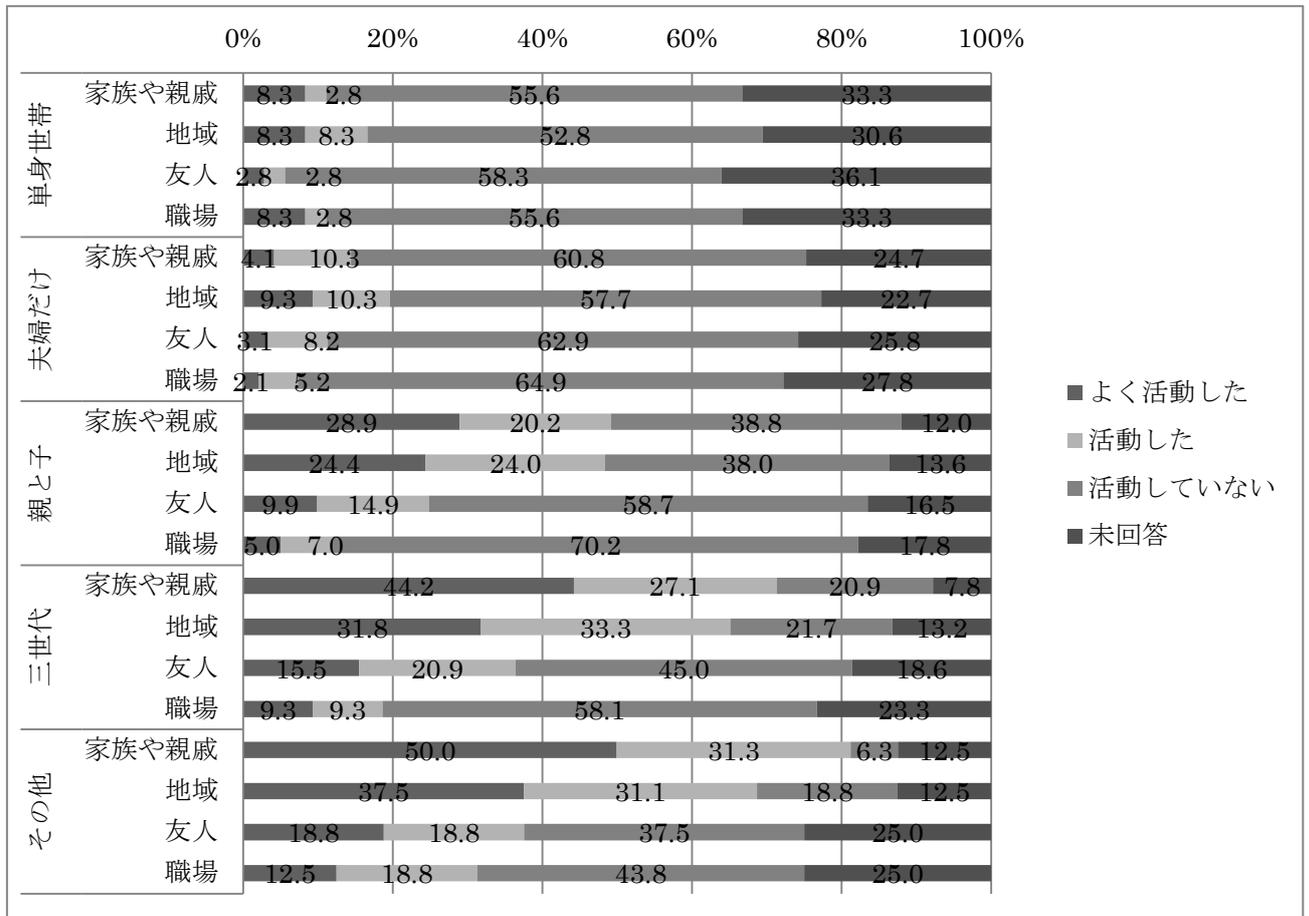


図 7.4.5 青少年の健全育成に関する活動(家族構成別)

家族構成別で見ると、「单身世帯」や「夫婦だけ(一世代)」は、ほとんど活動を行っていないことが分かる。「親と子(二世代)」、「三世代」は、「家族や親戚」「地域」で活動している割合が高い。特に、「三世代」の「家族や親戚」の「よく活動した」は44.2%、同様に「地域」は31.8%である(図7.4.5)。

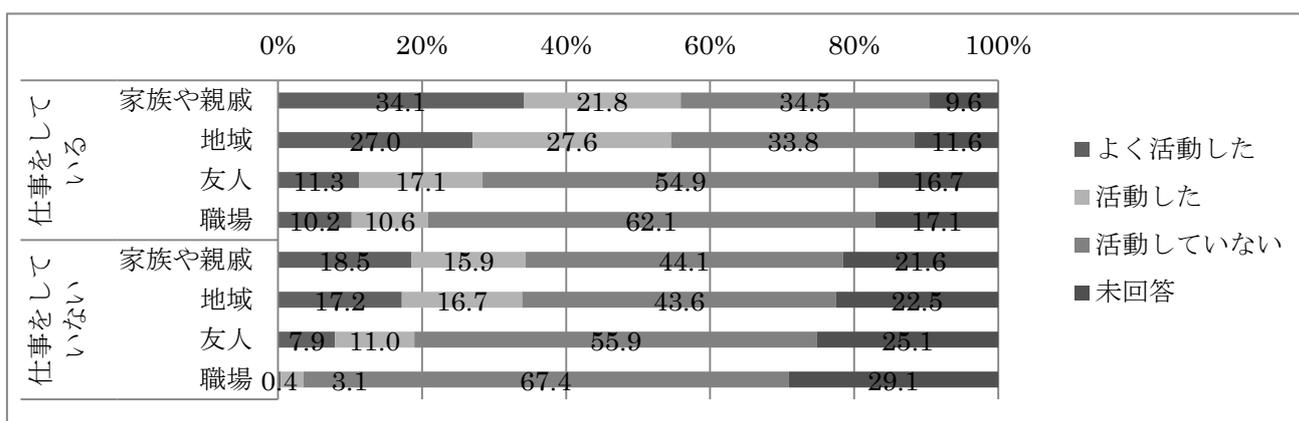


図 7.4.6 青少年の健全育成に関する活動（就業状況）

就業状況別にみると、「仕事をしている」方が、どの項目も割合が高い。「家族や親戚」の「よく活動した」は34.1%で、「活動した」と併せると約6割である(図7.4.6)。

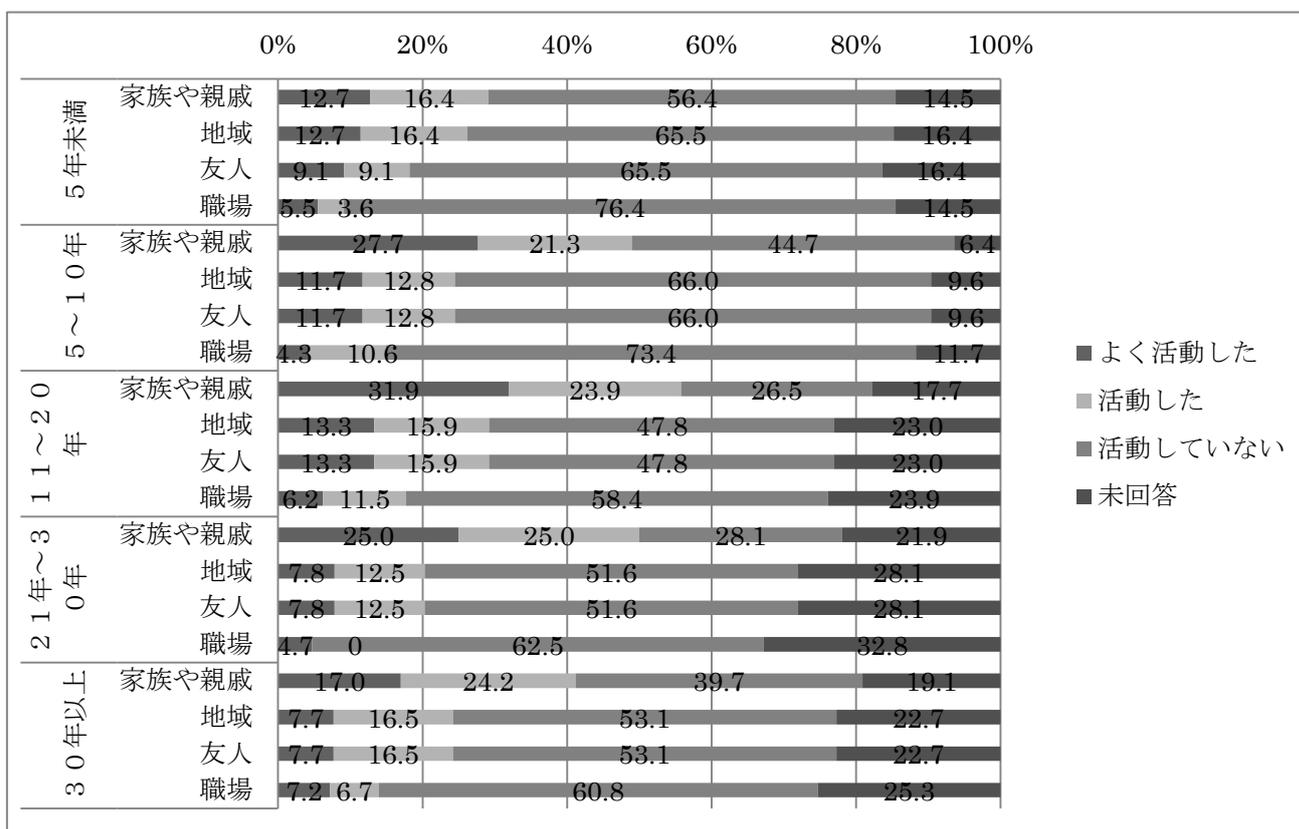


図 7.4.7 青少年の健全育成に関する活動（居住年数別）

居住年数別にみると、「5～10年」、「11～20年」、「21～30年」の項目は、「家族や親戚」の「よく活動した」と「活動した」を併せると約5割に達する。他は全体的に低い割合である(図7.4.7)。

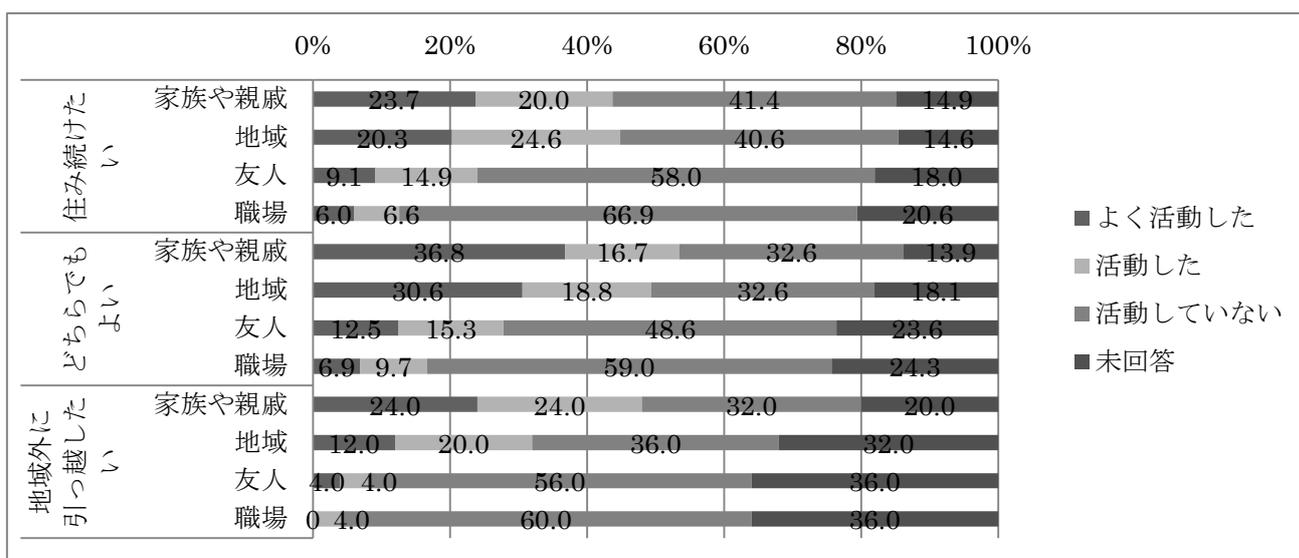


図 7.4.8 青少年の健全育成に関する活動（定住意向別）

定住意向別にみると、「どちらでもよい」がどの縁のつながり方においても割合が高い。特に、「家族や親戚」の「よく活動した」36.8%で、同様に、「地域」は30.6%である。青少年の健全育成に関する活動は、定住意向とは大きな相関はないと言える（図 7.4.8）。

オ 非常災害時に協力や支援をする活動について

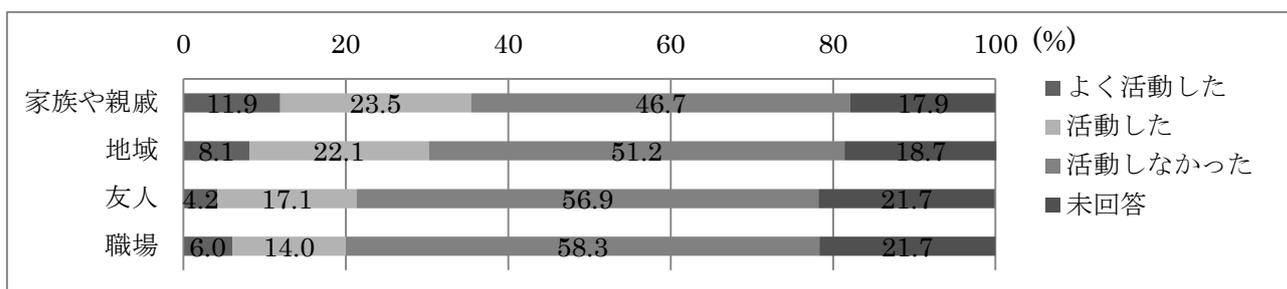


図 7.5.1 非常災害時に協力や支援をする活動（全体）

全体的にどの項目も割合が低くなっている。「よく活動した」、「活動した」を併せても約2割から3割で、非常災害時に協力や支援をする活動については、あまり取り組んでいないことが分かる（図 7.5.1）。

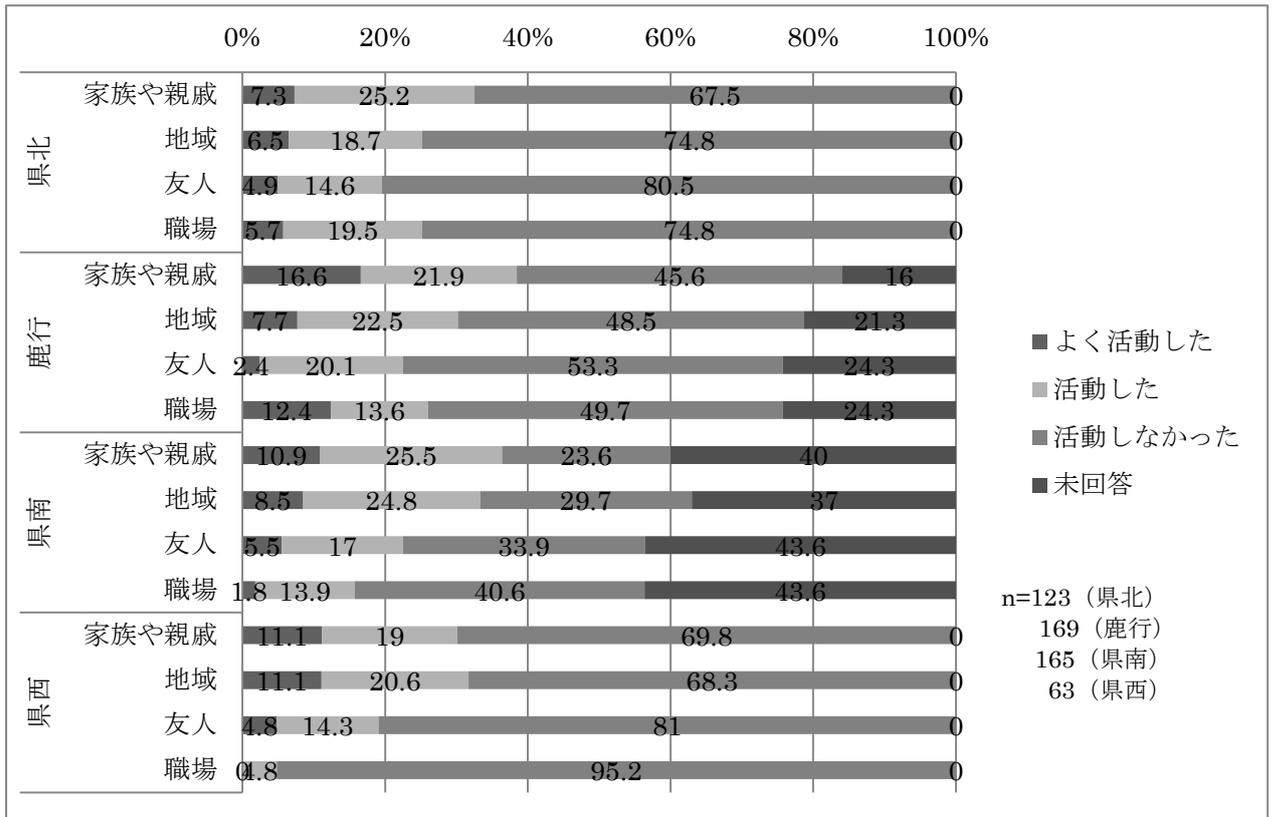


図 7.5.2 非常災害時に協力や支援をする活動（地域別）

どの地域も全体的に低い割合で、「よく活動した」は2割に満たない。これらのことから、非常災害時に協力や支援をする活動に積極的に取り組んでいるとは言えない（図 7.5.2）。

カ 環境の保全を図る活動について

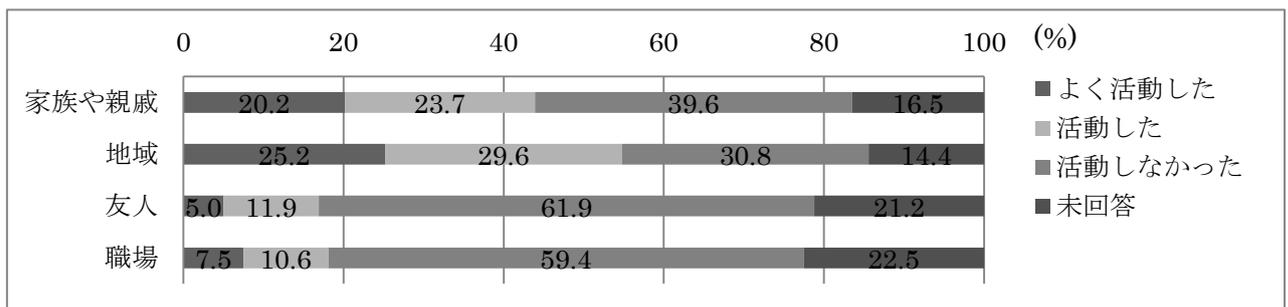


図 7.6.1 環境の保全を図る活動（全体）

「地域」が最も高く、「よく活動した」25.2%と「活動した」29.6%を併せると約5割を超える。次に、「家族や親戚」が高く、活動した割合を併せると約4割を超える。「友人」「職場」は約2割と低い。高い割合と低い割合の差がはっきりとしている（図 7.6.1）。

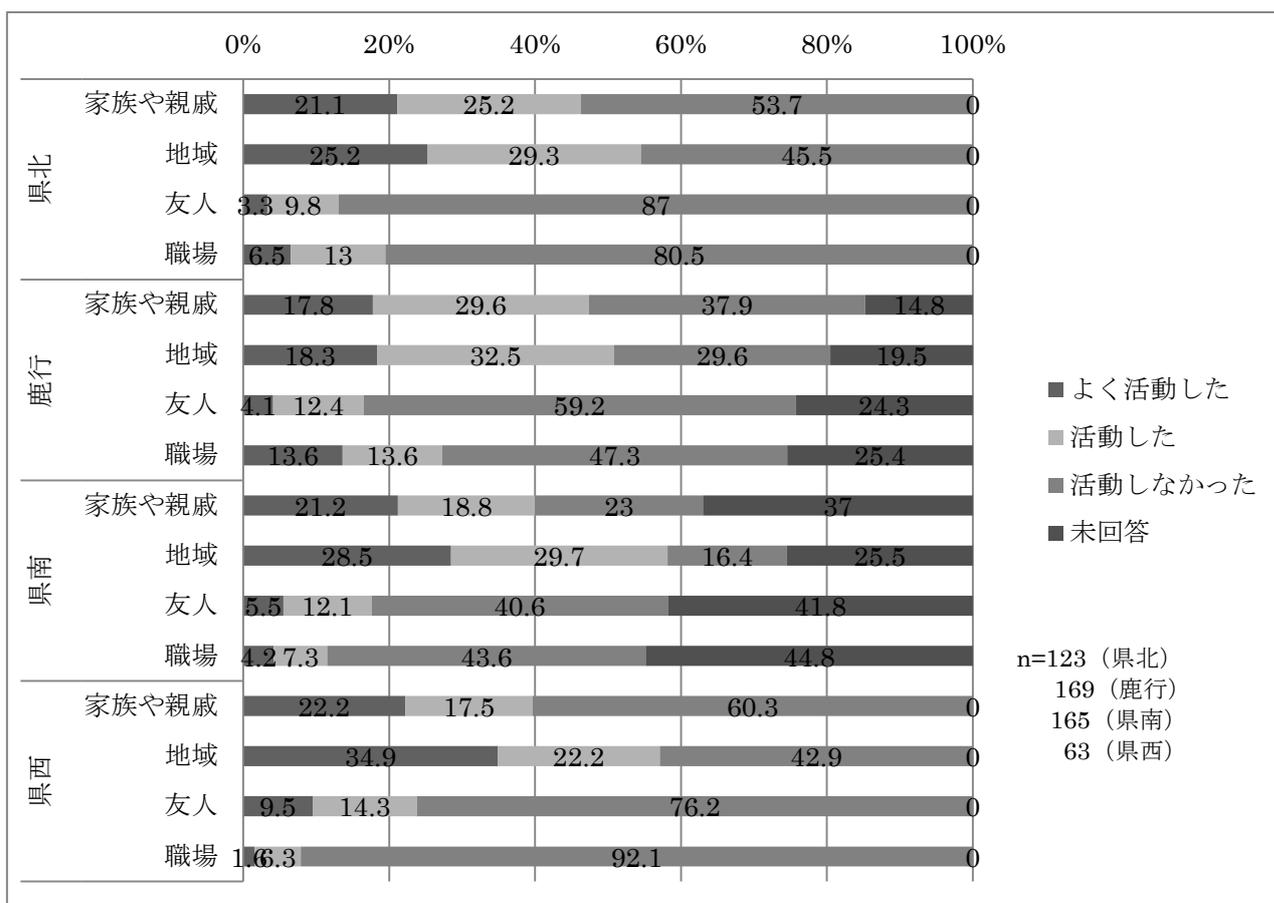


図 7.6.2 環境の保全を図る活動（地域別）

地域別にみると、どの地域も、地域または家族や親戚との関わりの中で行っている割合が高い。「地域」の「よく活動した」は、「県西」34.9%、「県南」28.5%、「県北」25.2%で、「活動した」と併せると、どの地域も5割を超える。環境の保全を図る活動は、どの地域においてもよく取り組んでいると言える（図 7.6.2）。

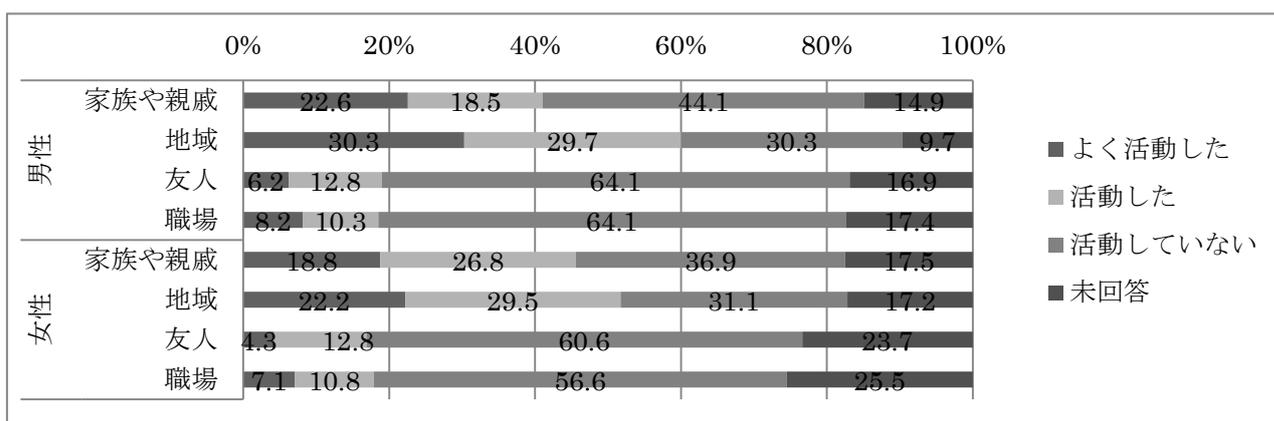


図 7.6.3 環境の保全を図る活動（男女別）

男女別にみると、どちらも「家族や親戚」「地域」の割合が高い。「家族や親戚」の「よく活動した」と「活動した」を併せると、男女共に4割を超え、ほぼ同じくらいの割合である。「地域」は、男性では「よく活動した」30.3%、「活動した」29.7%で、併せると約6割になり、女性では「よく活動した」22.2%、「活動した」29.5%で、併せると5割を超える。地域に関わる活動は、男性の方がよく活動しているといえる。「友人」「職場」は、どちらも低い(図 7.6.3)。

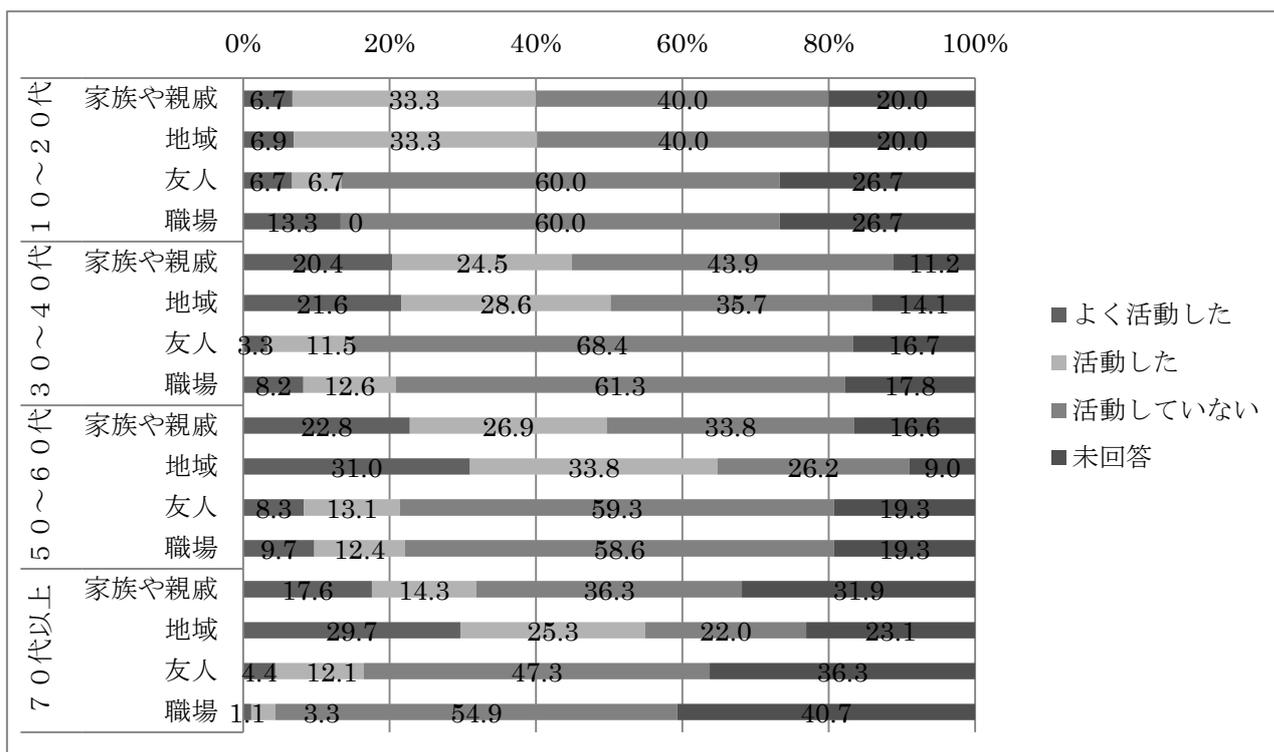


図 7.6.4 環境の保全を図る活動（年代別）

年代別にみると、「30～40代」、「50～60代」、「70代以上」では地域で関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割から6割になる。また、「30～40代」、「50～60代」は、家族や親戚で関わることも高く、同様に「30～40代」44.9%、「50～60代」49.7%である。「友人」「職場」の項目は、全体的に割合が低い(図 7.6.4)。

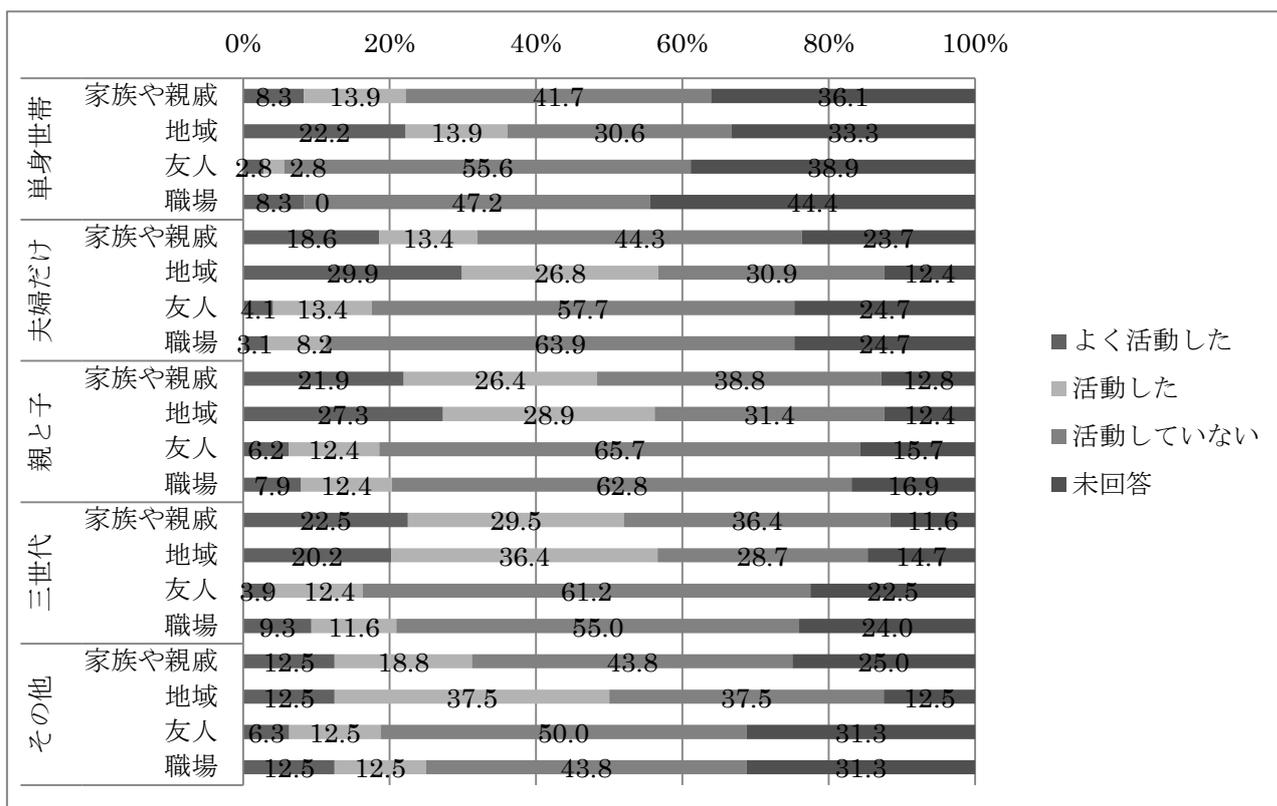


図 7.6.5 環境の保全を図る活動（家族構成別）

家族構成別でみると、「夫婦だけ（一世代）」、「親と子（二世代）」「三世代」では地域で関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると約6割になる。同様に、「親と子（二世代）」、「三世代」の「家族や親戚」をみると約5割になる。「友人」「職場」は、全体的に低い割合である(図 7.6.5)。

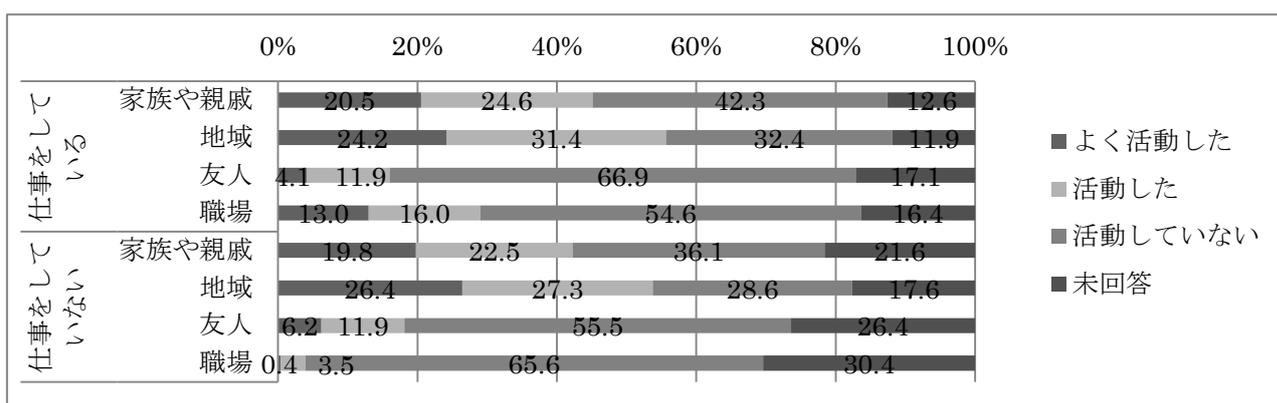


図 7.6.6 環境の保全を図る活動（就業状況別）

就業状況別でみると、どちらも「家族や親戚」「地域」の割合が高く、ほぼ同様の割合である。「地域」は、「よく活動した」、「活動した」を併せると5割を超える。「仕事をしている」、「仕事をしていない」にかかわらず、よく活動していることが分かる。「仕事をしている」方が、「職場」の割合がやや高い(図 7.6.6)

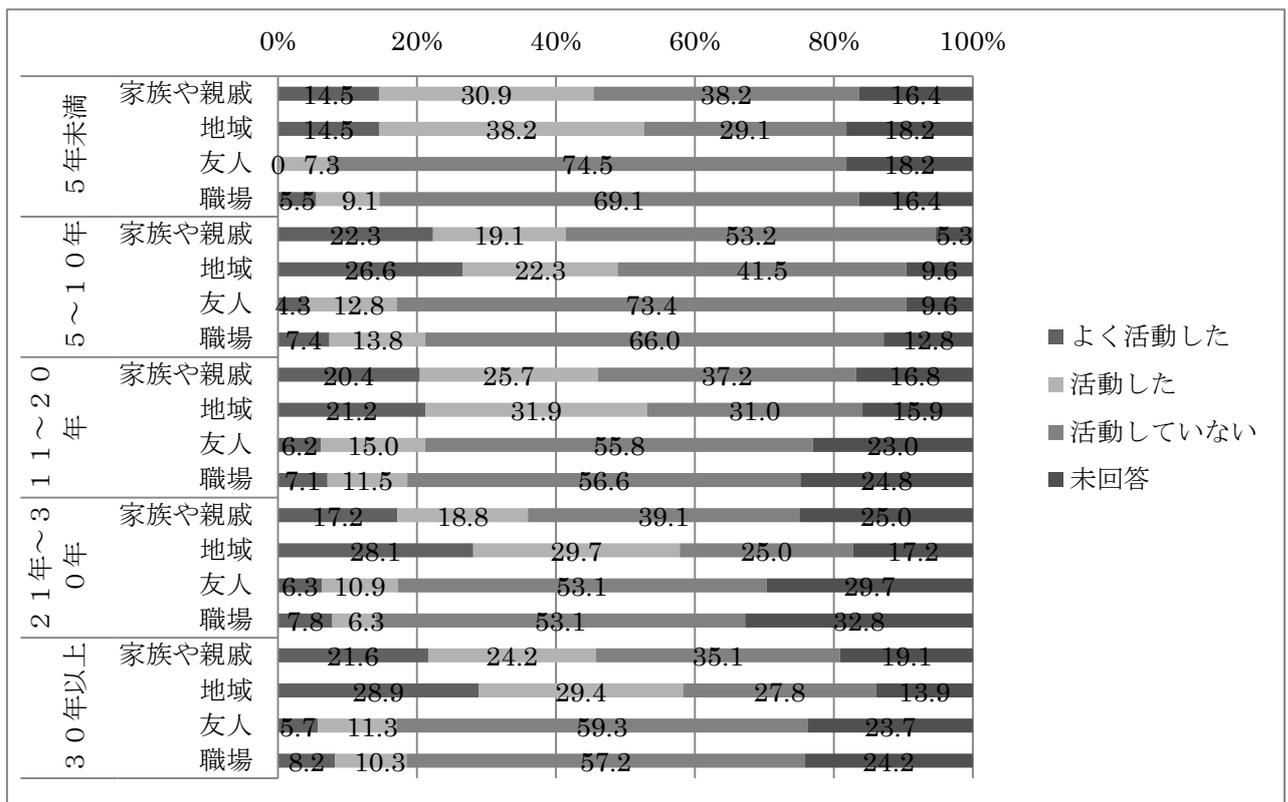


図 7.6.7 環境の保全を図る活動（居住年数別）

居住年数別にみると、居住年数の長短に関わらず、「地域」の割合が高く、「よく活動した」、「活動した」を併せると約5割から6割になる。特に、「21～30年」57.8%、「30年以上」58.3%でより高くなる。また、「家族や親戚」についても、それぞれ高く、「11～20年」、「30年以上」で約5割になる（図7.6.7）。

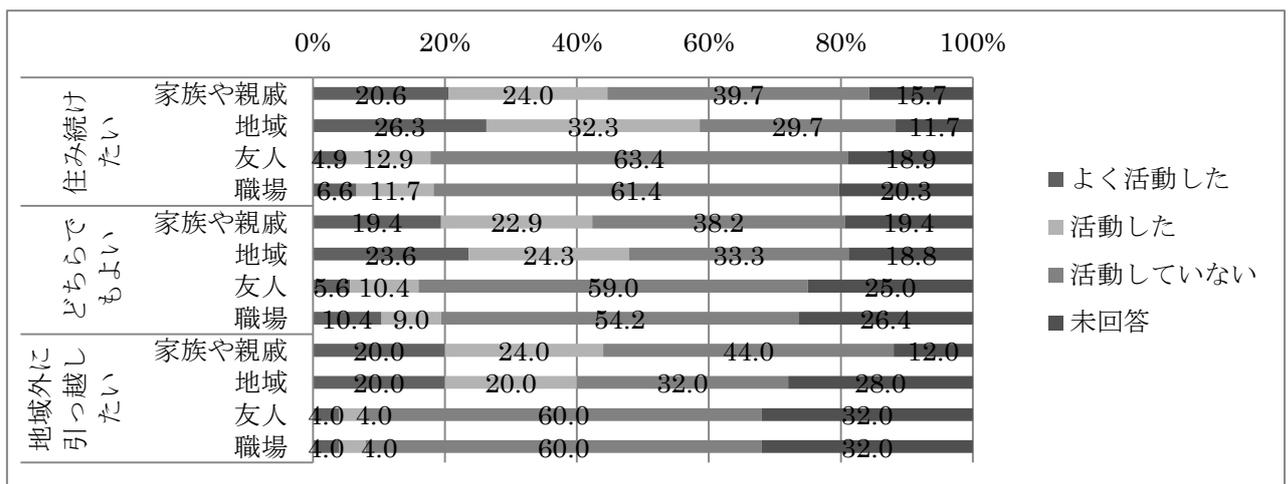


図 7.6.8 環境の保全を図る活動（定住意向別）

定住意向別にみると、「住み続けたい」、「地域外に引っ越したい」にかかわらず、「地域」「家族や親戚」の割合が高い。中でも、「住み続けたい」の「地域」の割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると約6割になる（図7.6.8）。

キ 安全を守る活動について

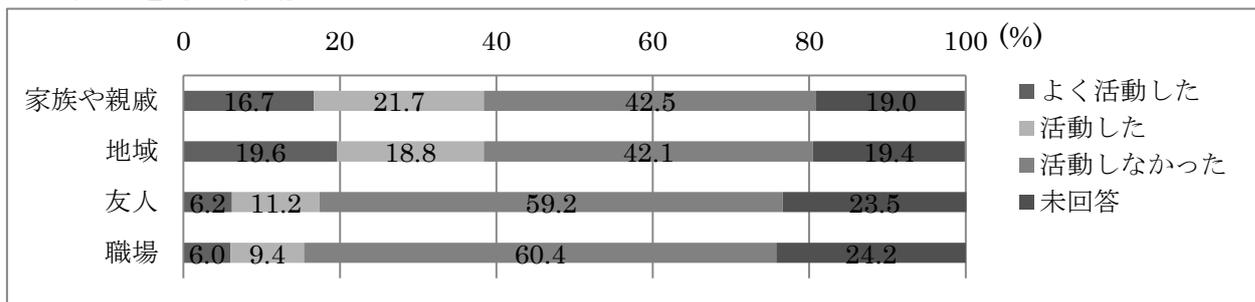


図 7.7.1 安全を守る活動（全体）

「よく活動した」と「活動した」を併せると、「家族や親戚」「地域」の割合はどちらも約4割で比較的高い。「友人」「職場」は約2割程で非常に低い。安全を守る活動は、「家族や親戚」「地域」で行っていることが分かる（図 7.7.1）。

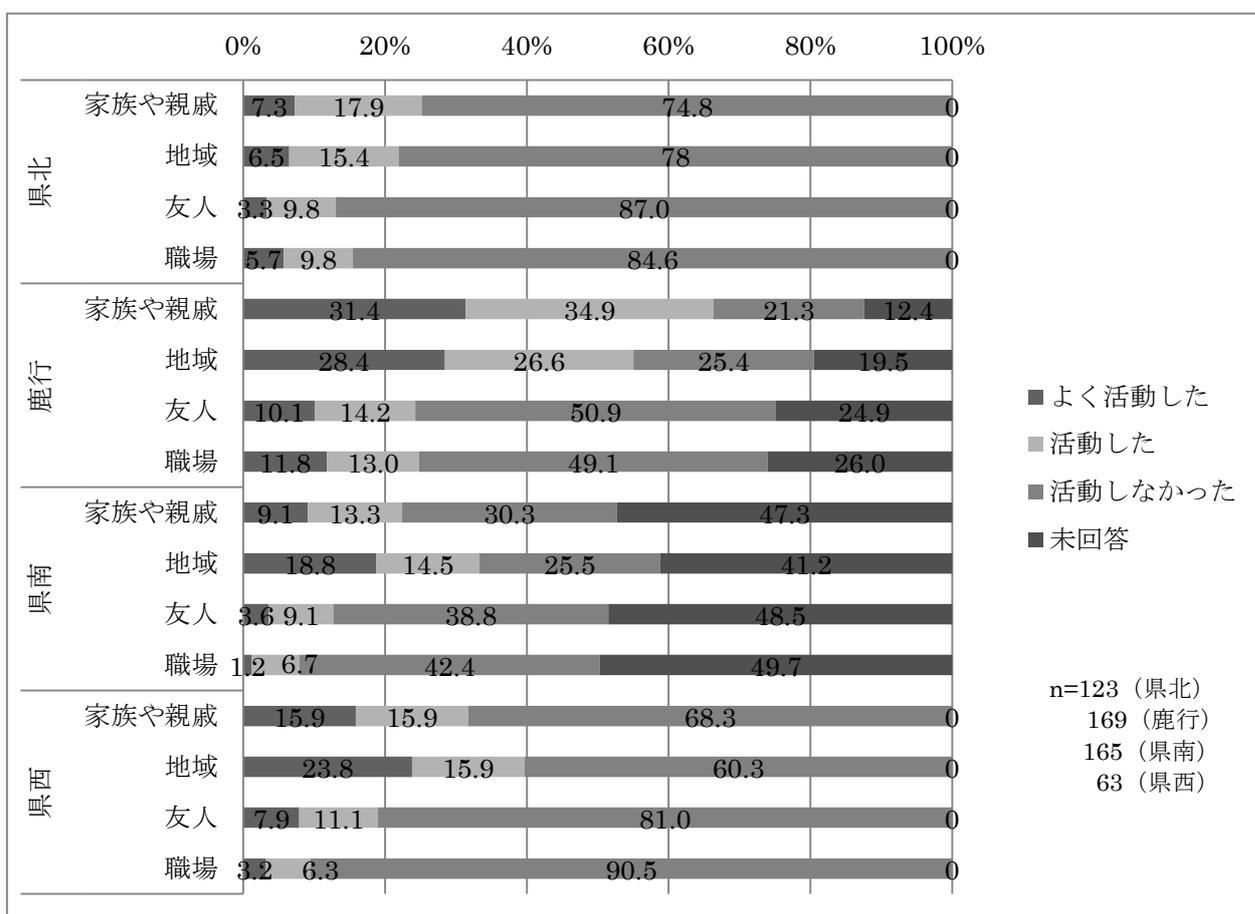


図 7.7.2 安全を守る活動（地域別）

地域別にみると、「鹿行」の「家族や親戚」の「よく活動した」と「活動した」を併せると、6割を超え、最も高い割合を示している。「地域」も同様に、5割を超えている。他の地域では、「県西」と「県南」の「地域」の割合が、3割から4割でやや高い。「友人」「職場」に関する割合は非常に低い（図 7.7.2）。

ク 高齢者や障がい者の支援活動について

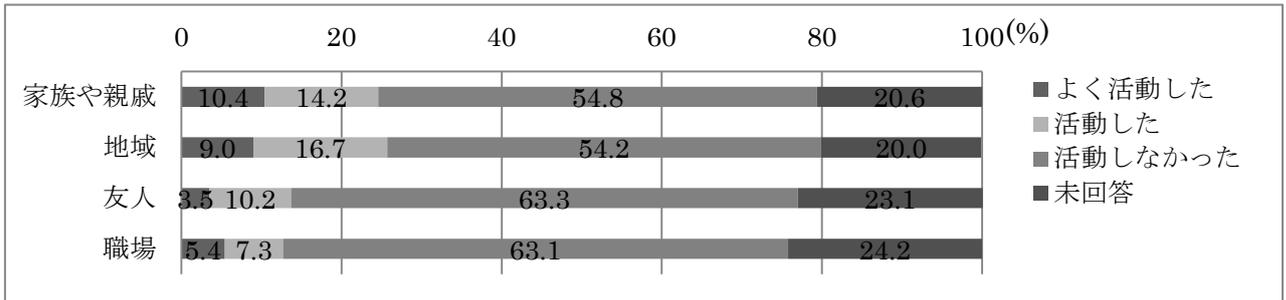


図 7.8.1 高齢者や障がい者の支援活動（全体）

どの項目による関わりも、「よく活動した」と「活動した」を併せても3割に満たず全体的に低く、あまり取り組んでいないことが分かる(図 7.8.1)。

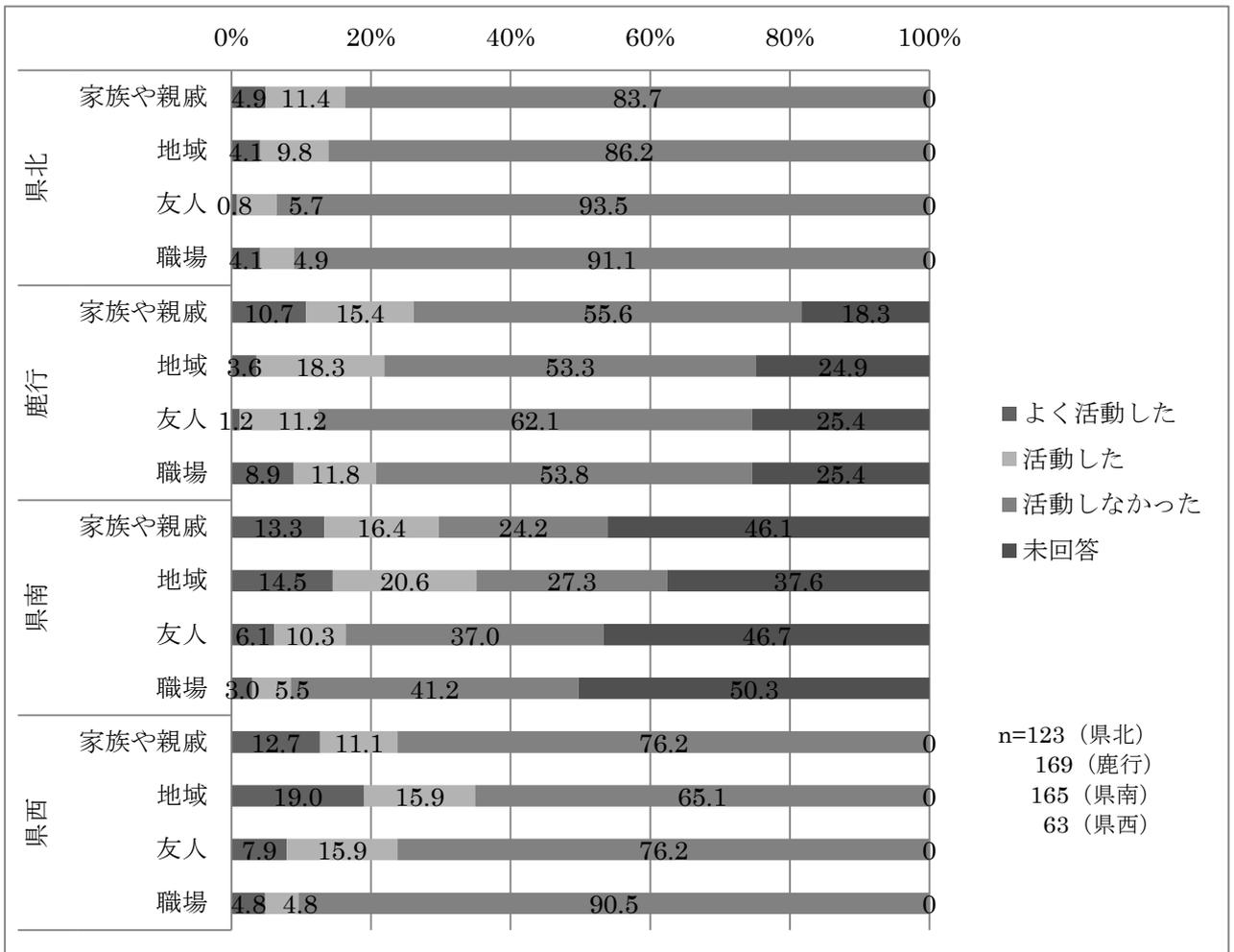


図 7.8.2 高齢者や障がい者の支援活動（全体）

全体的にどの地域においても、各項目とも高い割合ではない。中でも、「県南」の「地域」の「よく活動した」と「活動した」を併せると35.1%で、同様に、「県西」は34.9%である。高齢者や障がい者の支援活動への取り組みは、まだそれほど行われていないと言える(図 7.8.2)。

ケ 芸術、文化、スポーツに関する活動について

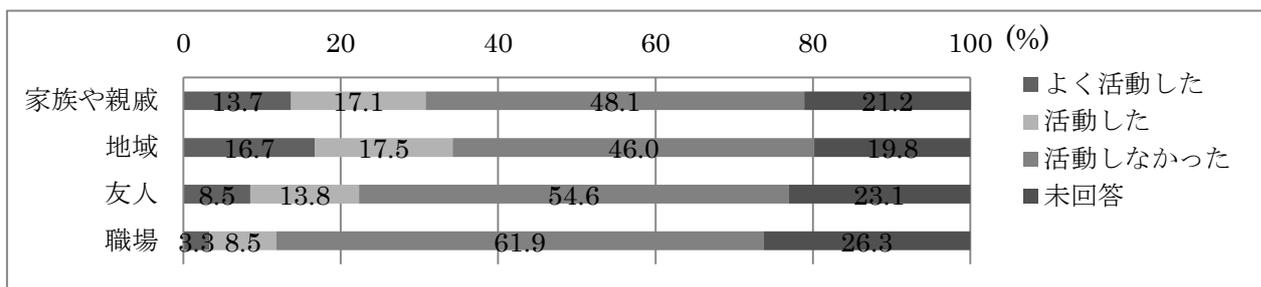


図 7.9.1 芸術、文化、スポーツに関する活動（全体）

「よく活動した」と「活動した」を併せると、「地域」に関する割合が 34.2%、「家族や親戚」に関する割合が 30.8%、「友人」に関する割合が 22.3%で、「地域」「家族や親戚」に関する割合が他と比較して高くなっている（図 7.9.1）。

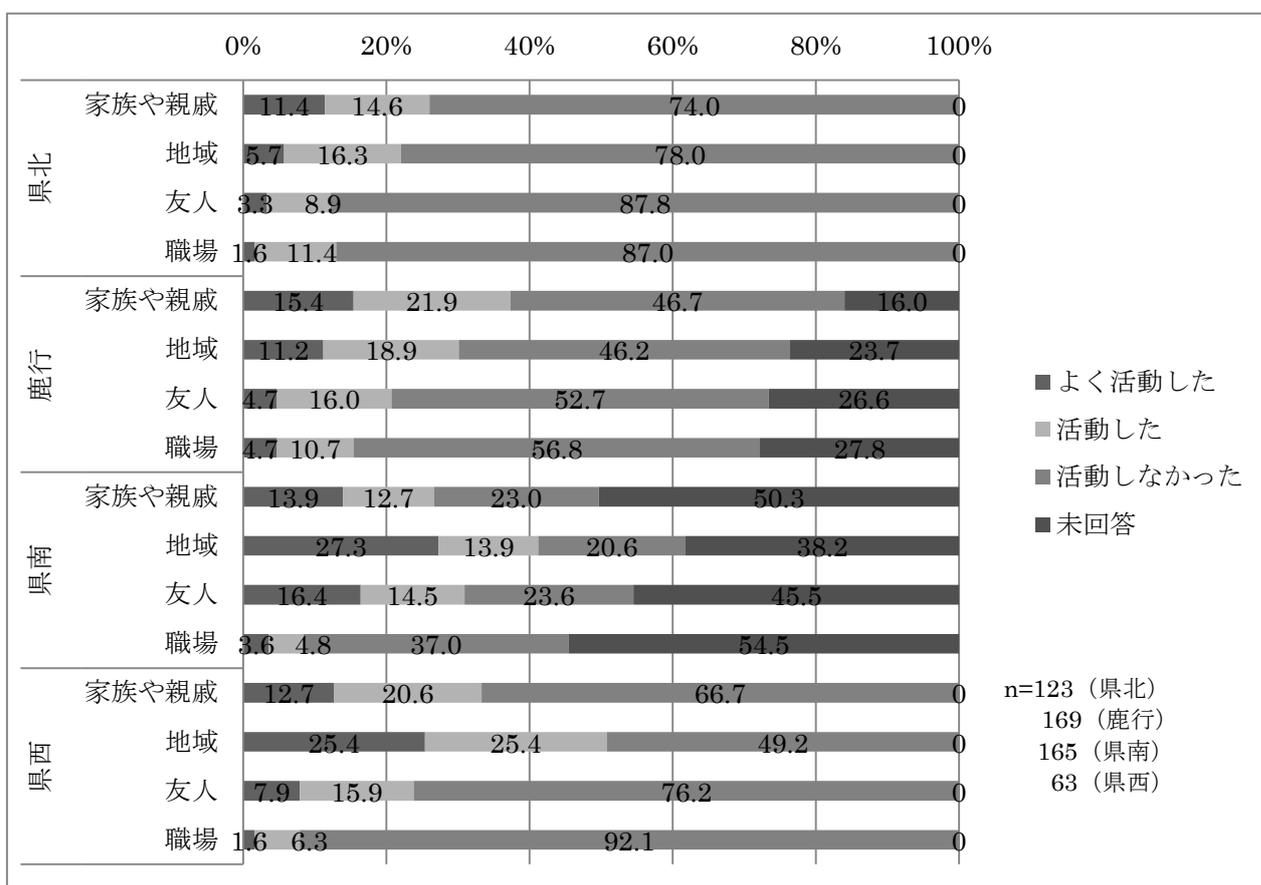


図 7.9.2 芸術、文化、スポーツに関する活動（地域別）

地域別にみると「県西」の「地域」に関する割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割を超える。次に「県南」で41.2%である。「県南」は「友人」に関する割合も3割を超えている。「鹿行」や「県北」は、「家族や親戚」に関する割合の方が「地域」よりも高い（図 7.9.2）。

コ 文化の保存，伝統行事の継承活動について

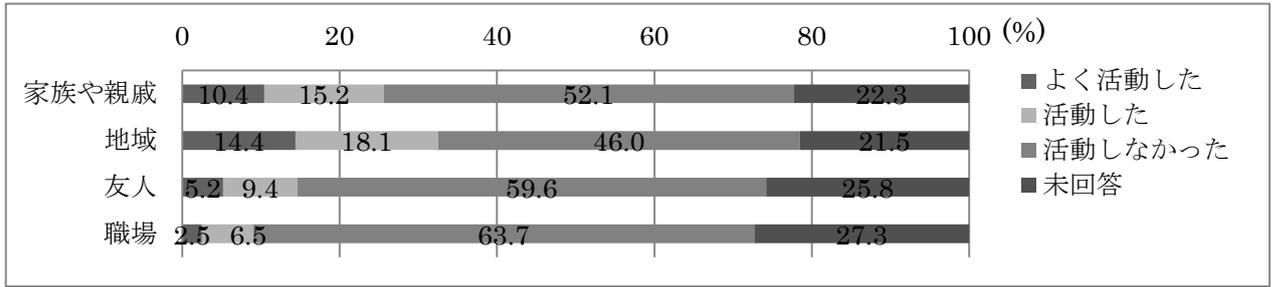


図 7.10.1 文化の保存，伝統行事の継承活動（全体）

「地域」に関する割合が最も高いが、「よく活動した」14.4%と「活動した」18.1%を併せると約3割程である。「家族や親戚」については2割を超えるが、「友人」「職場」に関する割合も非常に低い(図 7.10.1)。

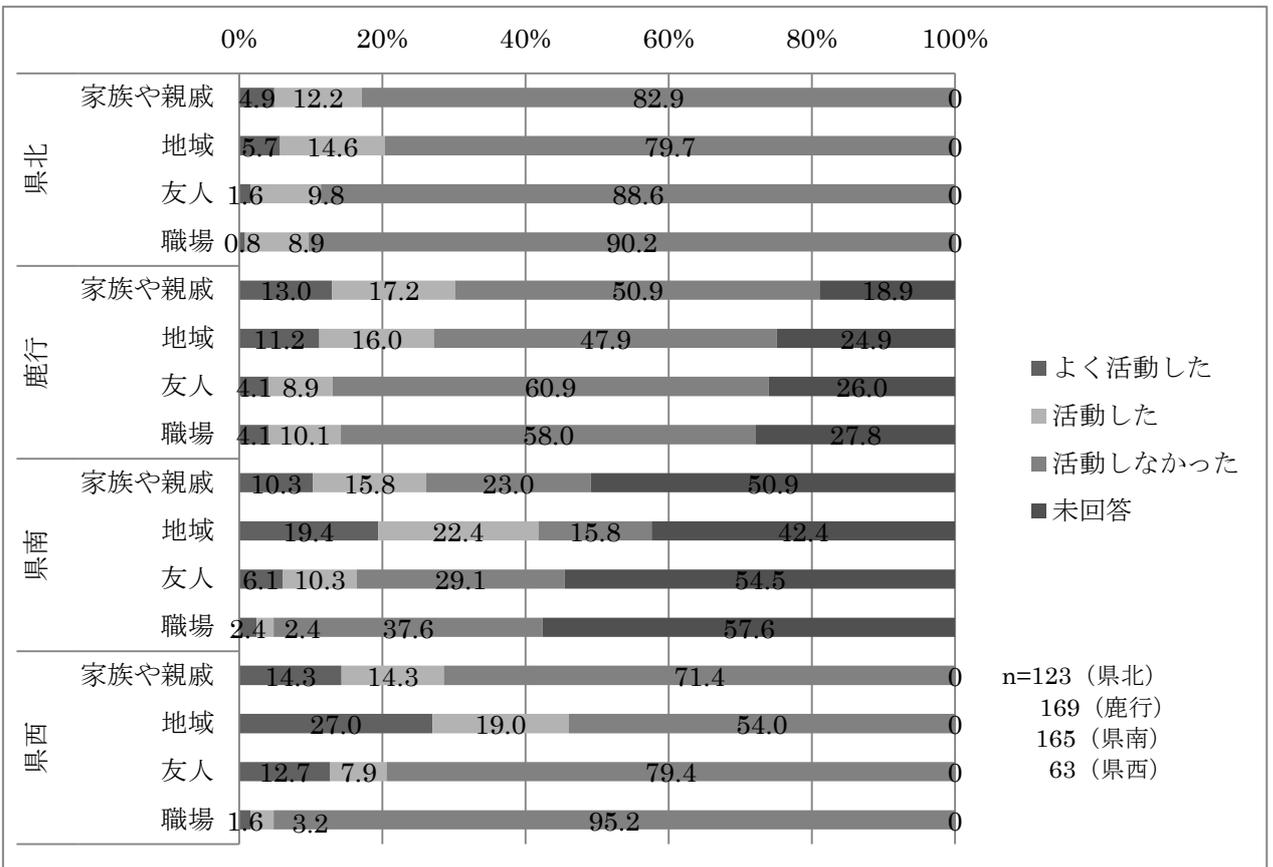


図 7.10.2 文化の保存，伝統行事の継承活動（地域別）

地域別にみると「県西」と「県南」は「地域」に関する割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると、「県西」46.0%、「県南」41.8%である。「鹿行」は、「地域」よりも「家族や親戚」に関する割合の方がやや高く3割程である。「鹿行」は三世帯同居という家族構成が影響していると思われる(図 7.10.2)。

サ 国際協力・在日外国人支援に関する活動について

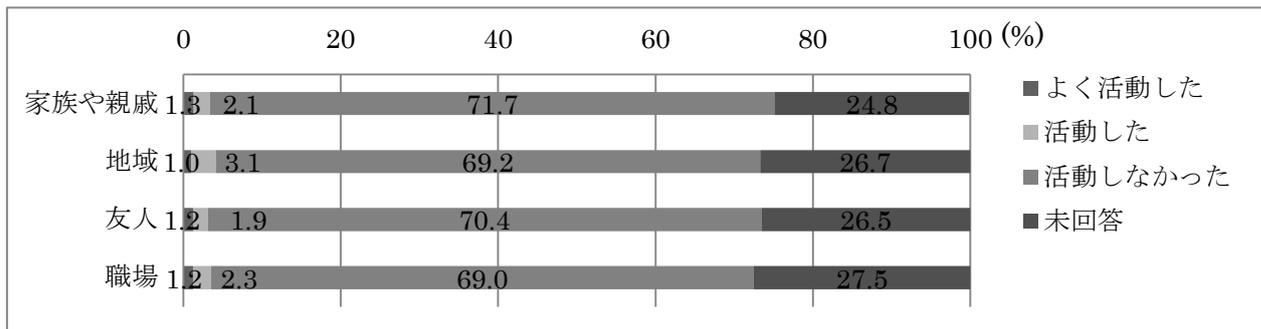


図 7.11.1 国際協力・在日外国人支援に関する活動（全体）
全ての項目において低い割合である（図 7.11.1）。

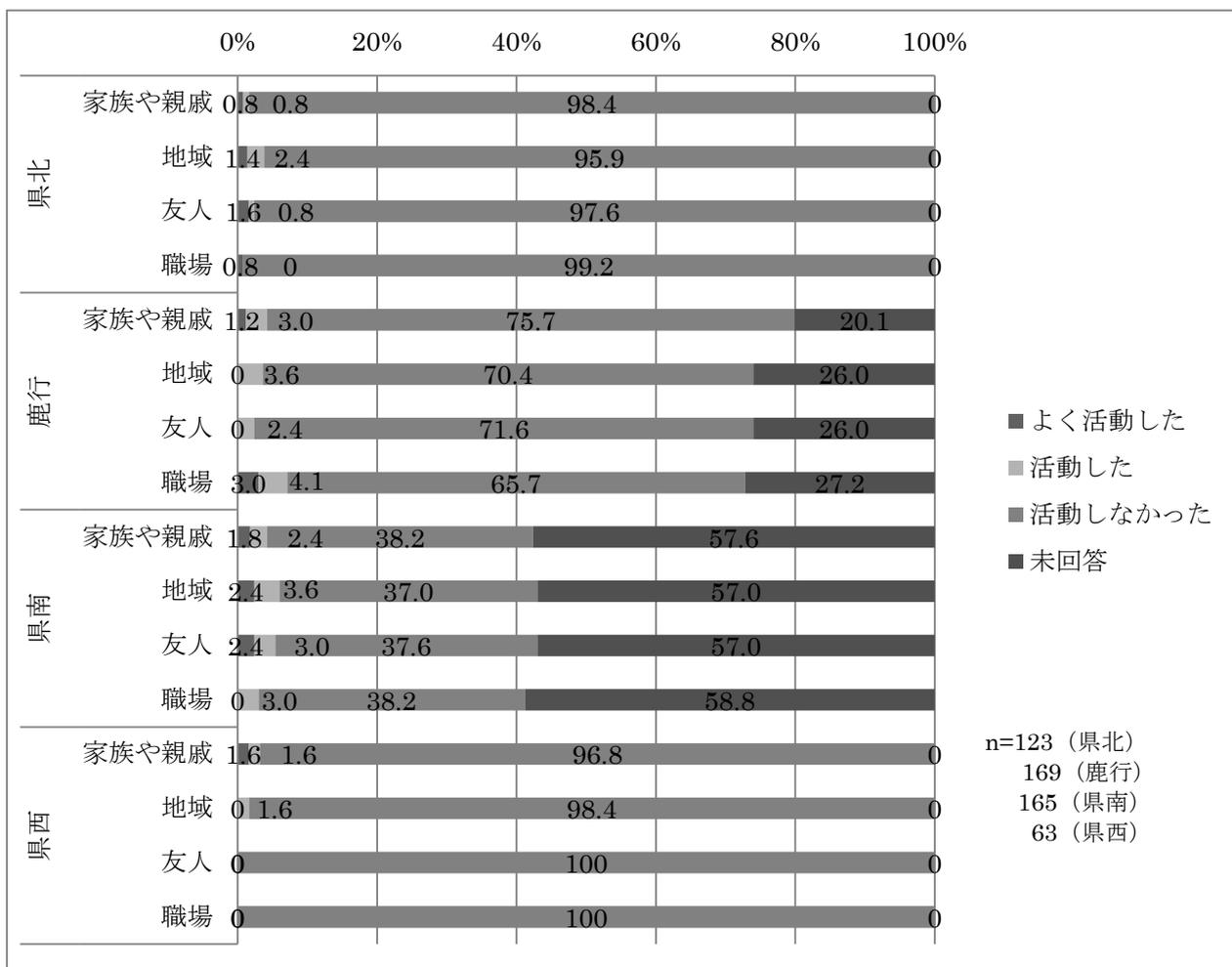


図 7.11.2 国際協力・在日外国人支援に関する活動（地域別）
どの地域においても非常に割合が低く、ほとんど行われていない。取り組みがみられるのは「鹿行」と「県南」である（図 7.11.2）。

7-② 活動状況（4つの縁別）
ア 家族や親戚による活動【血縁】

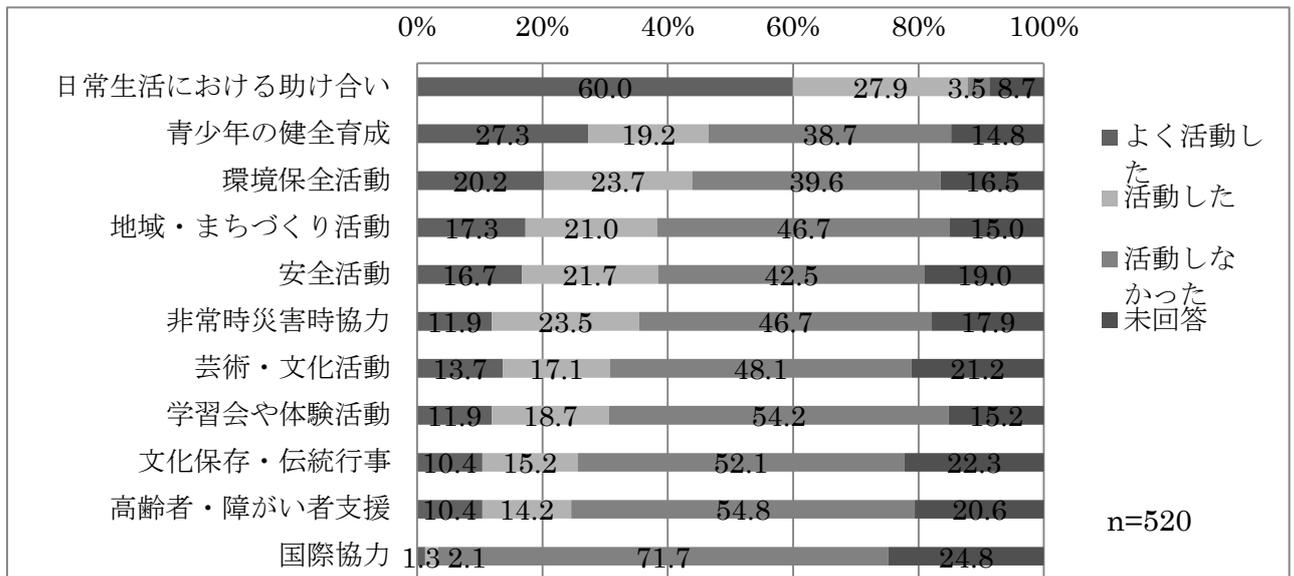


図 7.12.1 家族や親戚による活動【血縁】（全体）

最も高いのが、「日常生活における助け合い・支え合い活動」87.9%（「よく活動した」と「活動した」の合計。以下同様とする。）、続いて、「青少年の健全育成に関する活動」46.5%、「環境の保全を図る活動」43.7%となっており、地域に関わる活動がみられる。日常生活や子どもに関わる活動内容が上位で、社会的少数者に関わる活動内容は下位である（図 7.12.1）。

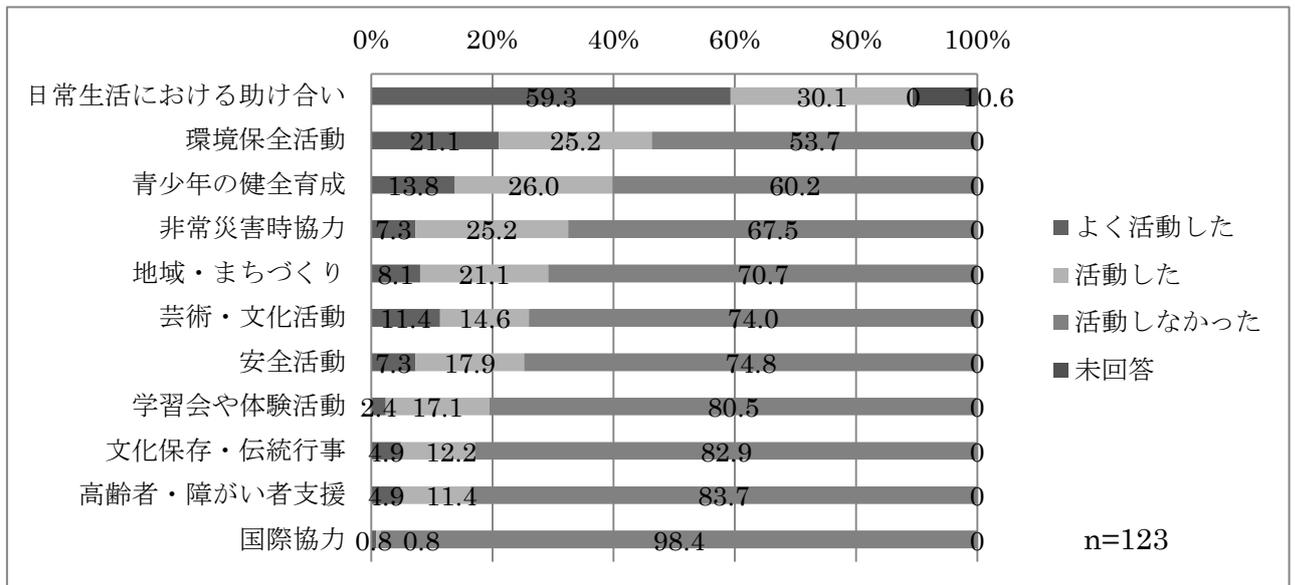


図 7.12.2 家族や親戚による活動【血縁】（県北）

「県北」地区は、最も高いのが「日常生活における助け合い・支え合い活動」89.4%で、次に「環境の保全を図る活動」46.3%、「青少年の健全育成に関する活動」39.8%の順である。日常生活や子どもに関する活動が多い（図 7.12.2）。

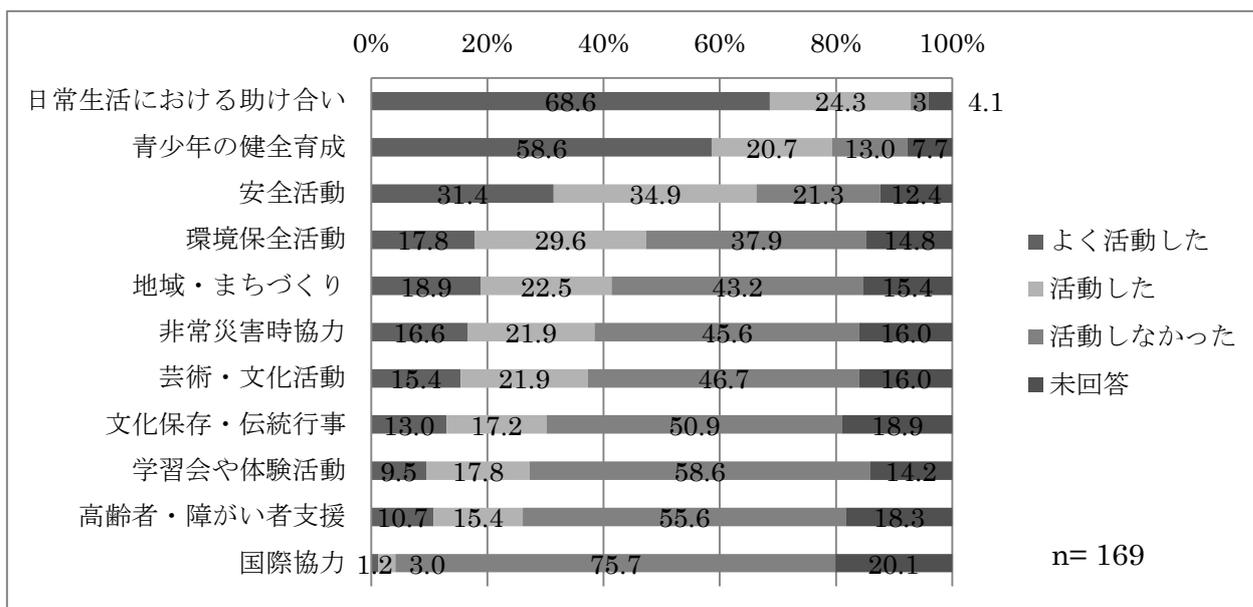


図 7.12.3 家族や親戚による活動【血縁】(鹿行)

「鹿行」地区は、上位の項目の割合が非常に高いのが特徴である。「日常生活における助け合い・支え合い活動」は92.9%、「青少年の健全育成に関する活動」79.3%、「安全を守る活動」66.3%である。「環境の保全を図る活動」や「地域・まちづくり」に関する活動等も4割を超えている。家族や親戚と子どもや地域に関する活動に取り組んでいることが分かる(図7.12.3)。

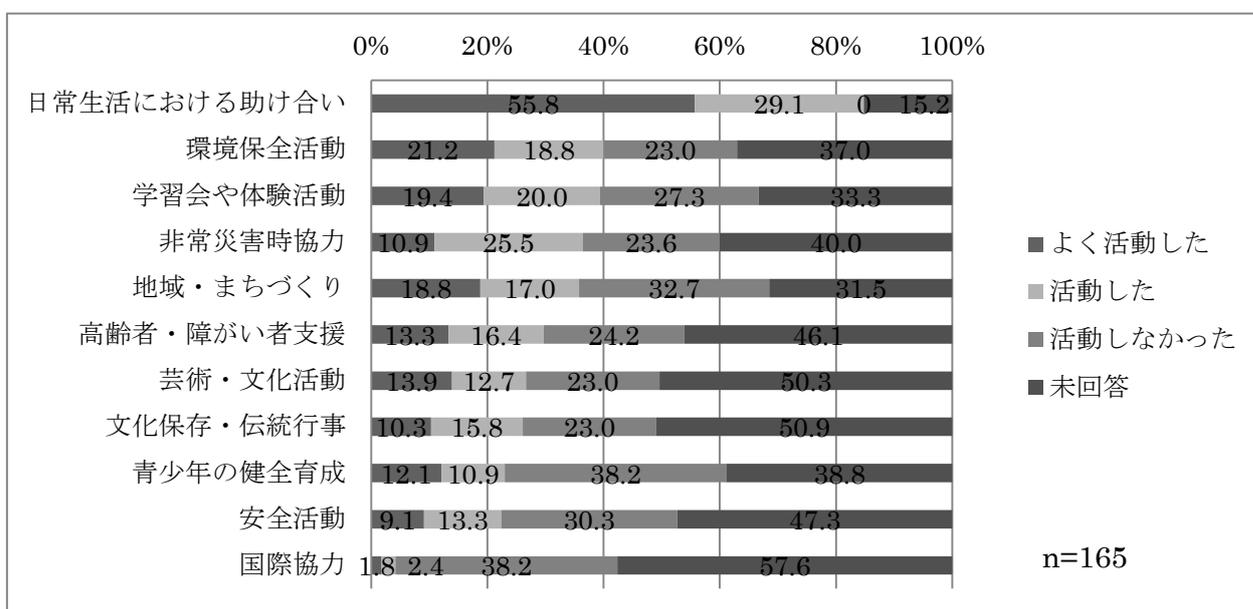


図 7.12.4 家族や親戚による活動【血縁】(県南)

「県南」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」84.9%、「環境の保全を図る活動」40.0%で、「学習会や体験活動」39.4%が上位に挙がっている。また、「高齢者や障がい者の支援活動」が他の地域と比べてもやや高く、家族や親戚という血縁関係の中で取り組んでいることが分かる(図7.12.4)。

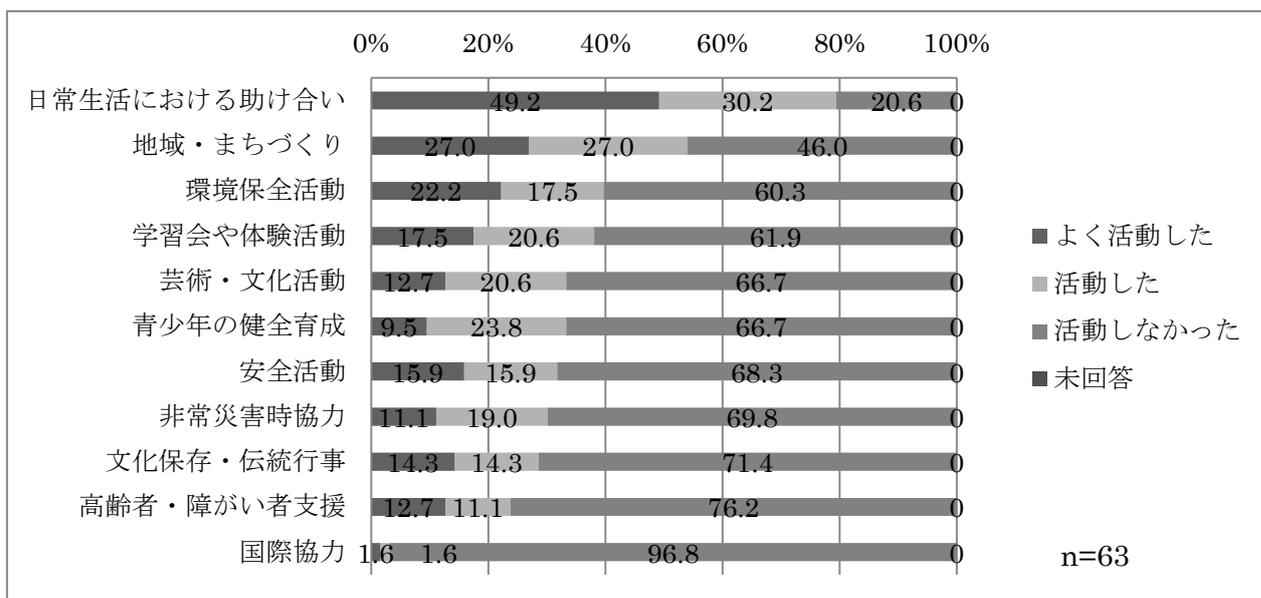


図 7.12.5 家族や親戚による活動【血縁】(県西)

「県西」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」79.4%が最も高く、次に「地域・まちづくりに関する活動」54.0%、「環境の保全を図る活動」39.7%で上位を占めている(図 7.12.5)。

イ 地域での活動【地縁】

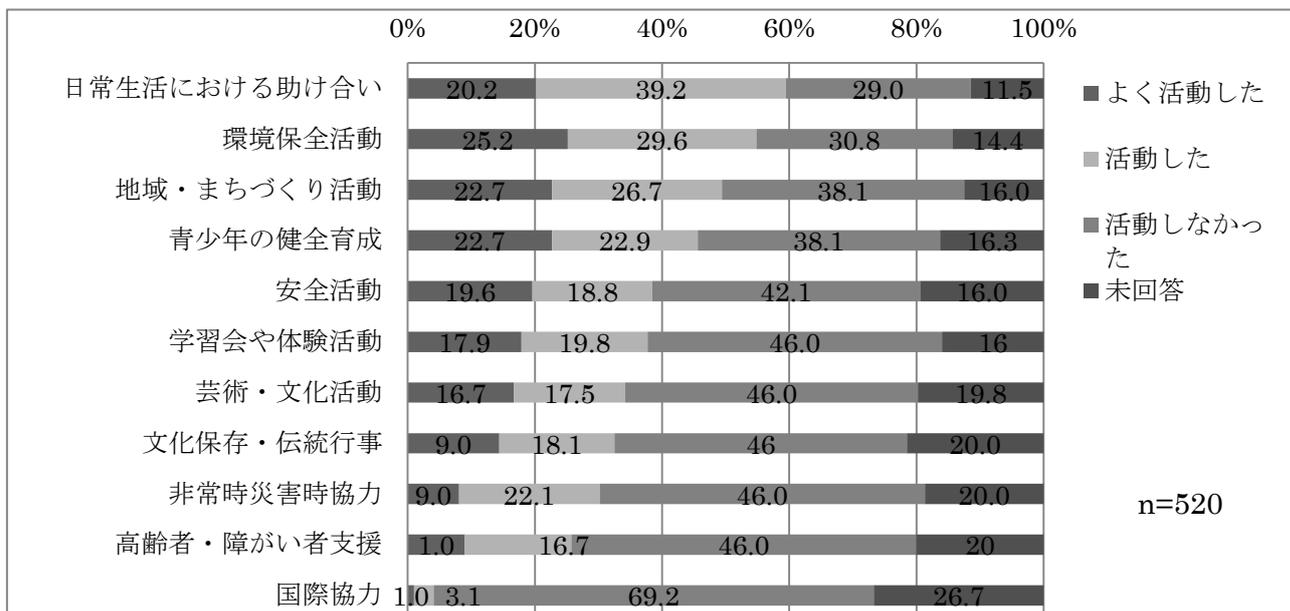


図 7.13.1 地域での活動【地縁】(全体)

最も高いのが「日常生活における助け合い・支え合い活動」59.4%であり、【血縁】のグラフと比較すると、3割程低い。続いて、「環境の保全を図る活動」54.8%、「地域・まちづくりに関する活動」49.4%、「青少年の健全育成に関する活動」45.6%である。地域に関する活動内容が上位に挙げられているが、「文化の保存、伝統行事の継承活動」や「非常災害時に協力や支援をする活動」の割合が低く、社会的少数者に関する活動内容に至っては下位である(図 7.13.1)。

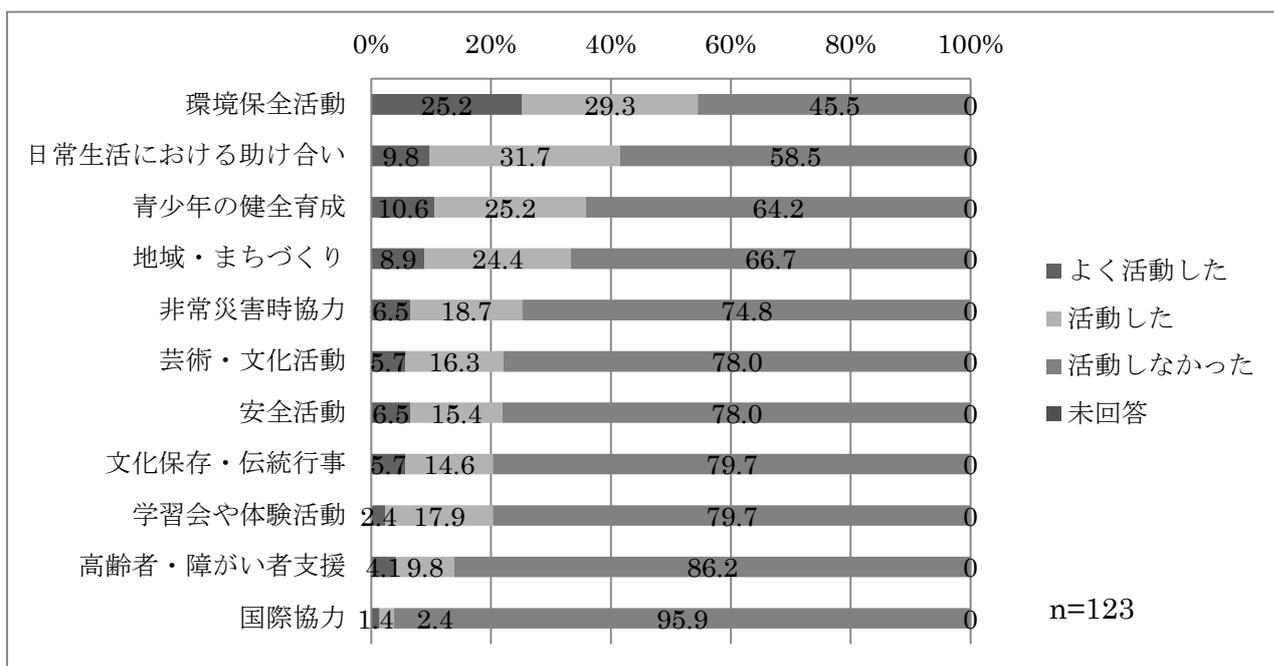


図 7.13.2 地域での活動【地縁】(県北)

「県北」地区は、「環境の保全を図る活動」54.5%、「日常生活における助け合い・支え合い活動」41.5%、「青少年の健全育成に関する活動」35.8%で、以下の項目は、どれも低い割合で、地縁による活動は活発とは言えない(図 7.13.2)。

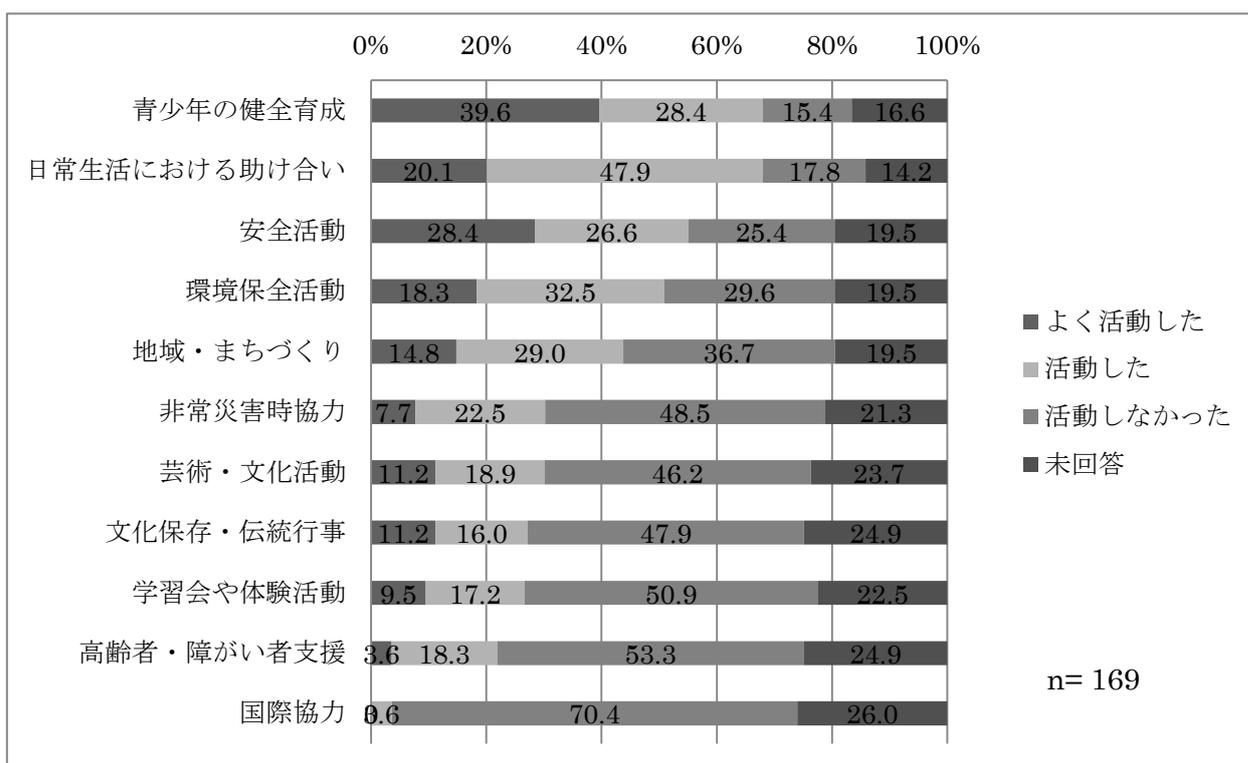


図 7.13.3 地域での活動【地縁】(鹿行)

「鹿行」地区は、「青少年の健全育成に関する活動」と「日常生活における助け合い・支え合い活動」がどちらも 68.0%で高い。次に、「安全を守る活動」55.0%、「環境の保全を図る活動」50.8%で、地域の人たちと日常生活や子どもに関する活動によく取り組んでいることが分かる(図 7.13.3)。

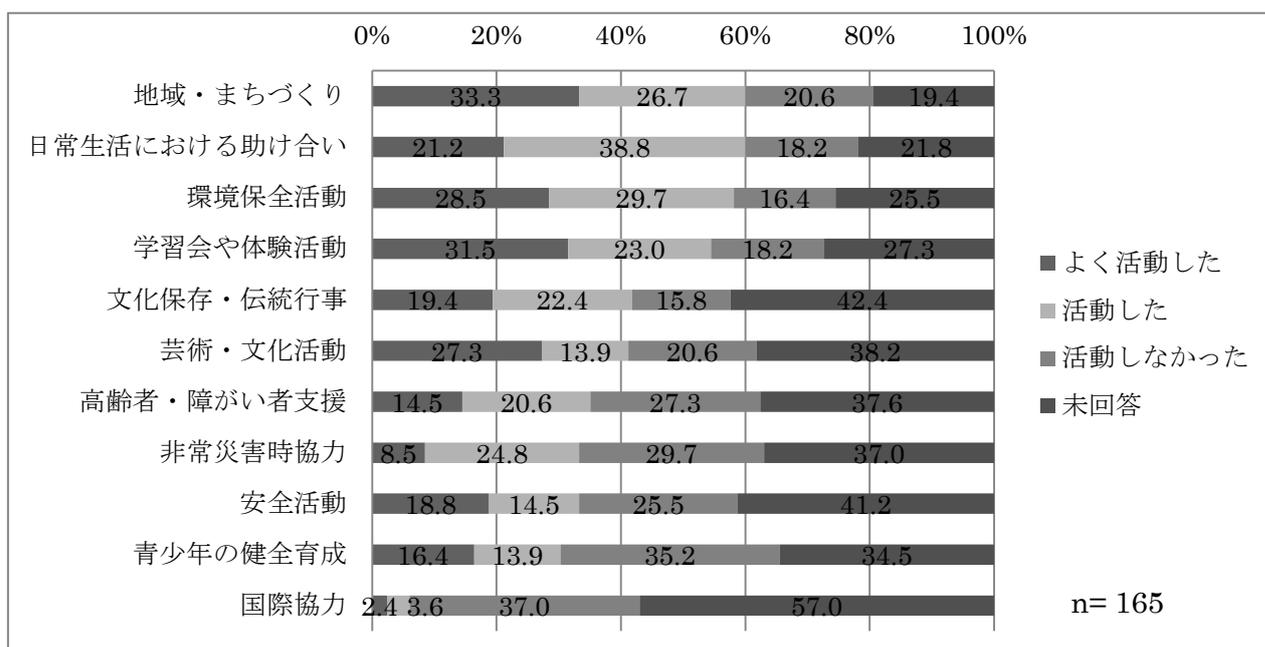


図 7.13.4 地域での活動【地縁】(県南)

「県南」地区は、「地域・まちづくりに関する活動」と「日常における助け合い・支え合い活動」がどちらも 60.0%、「環境の保全を図る活動」58.2%、「学習会や体験活動」54.5%で、地域の人たちと様々な活動によく取り組んでいると言える。どの活動においても「よく活動した」の割合が高く、積極的に参加していることが分かる。「青少年の健全育成に関する活動」の割合が低い(図 7.13.4)。

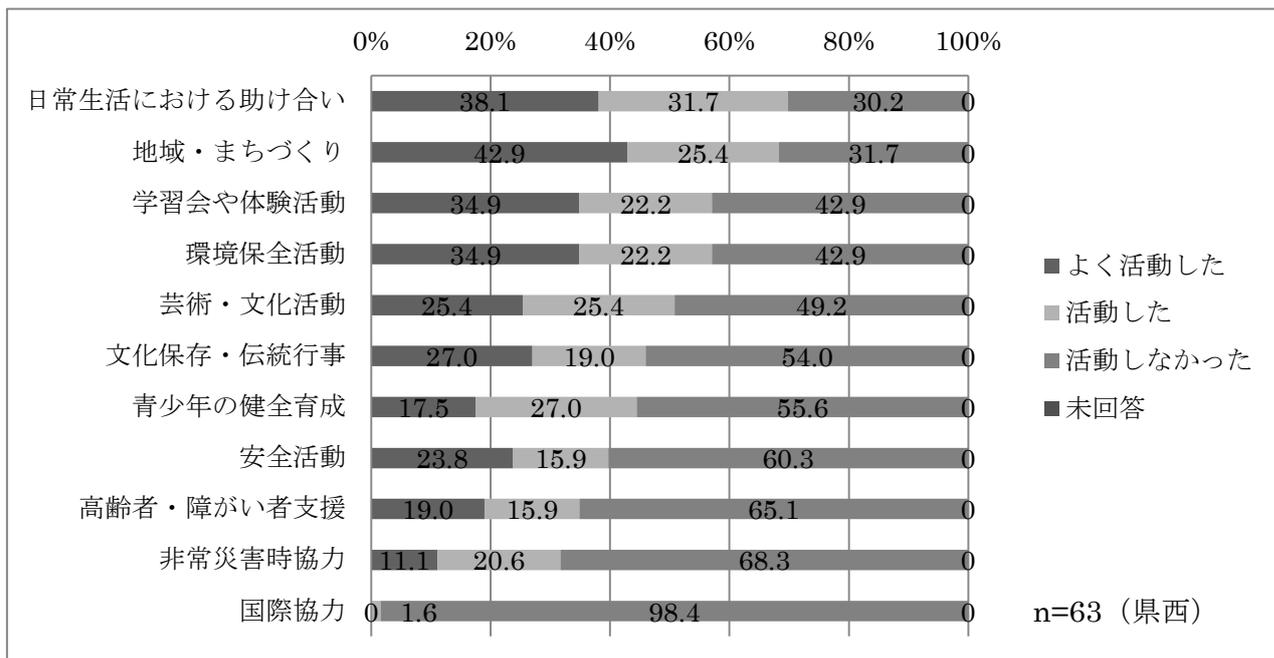


図 7.13.5 地域での活動【地縁】(県西)

「県西」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」69.8%、「地域・まちづくりに関する活動」68.3%、「学習会や体験活動」57.1%で、地域の人たちと日常生活や地域の様々な活動によく取り組んでいると言える。「非常災害時に協力や支援をする活動」の割合が低い(図 7.13.5)。

ウ 友人との活動【友縁】

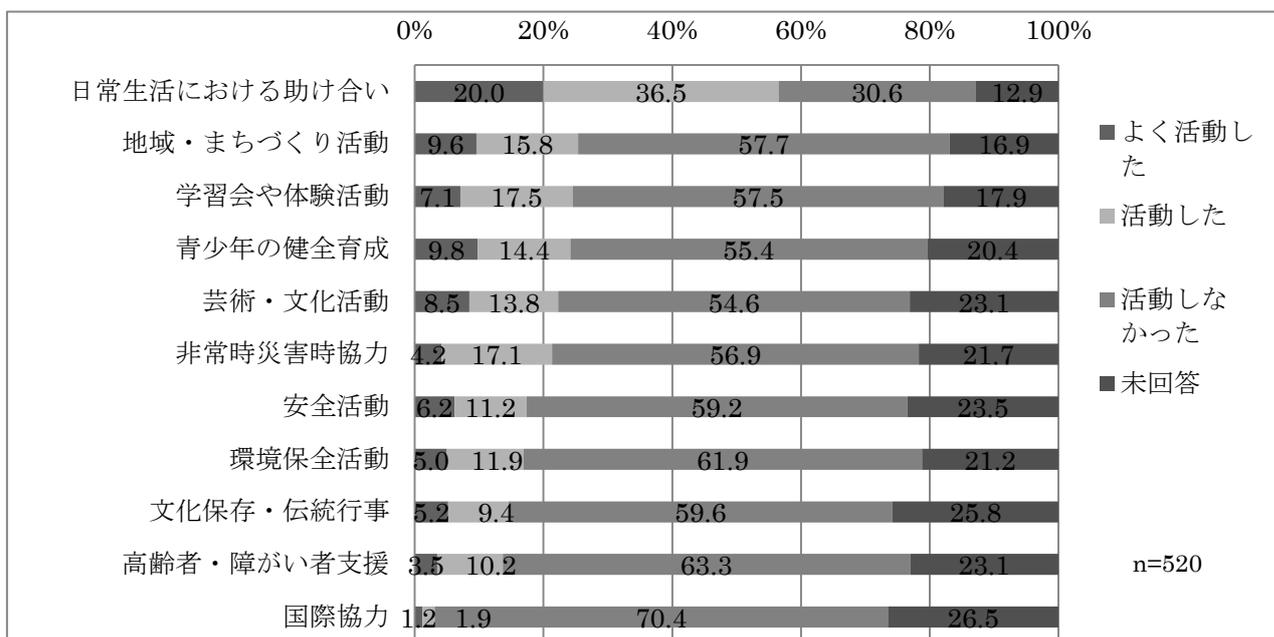


図 7.14.1 友人との活動【友縁】(全体)

最も高いのが「日常生活における助け合い・支え合い活動」56.5%，それ以外の活動内容は、かなり低い割合である。続いて、「地域・まちづくり活動」「学習会や体験活動」「青少年の健全育成」の順となっている。【血縁】、【地縁】のグラフで上位に挙がっている「環境の保全を図る活動」等は下位である(図 7.14.1)。

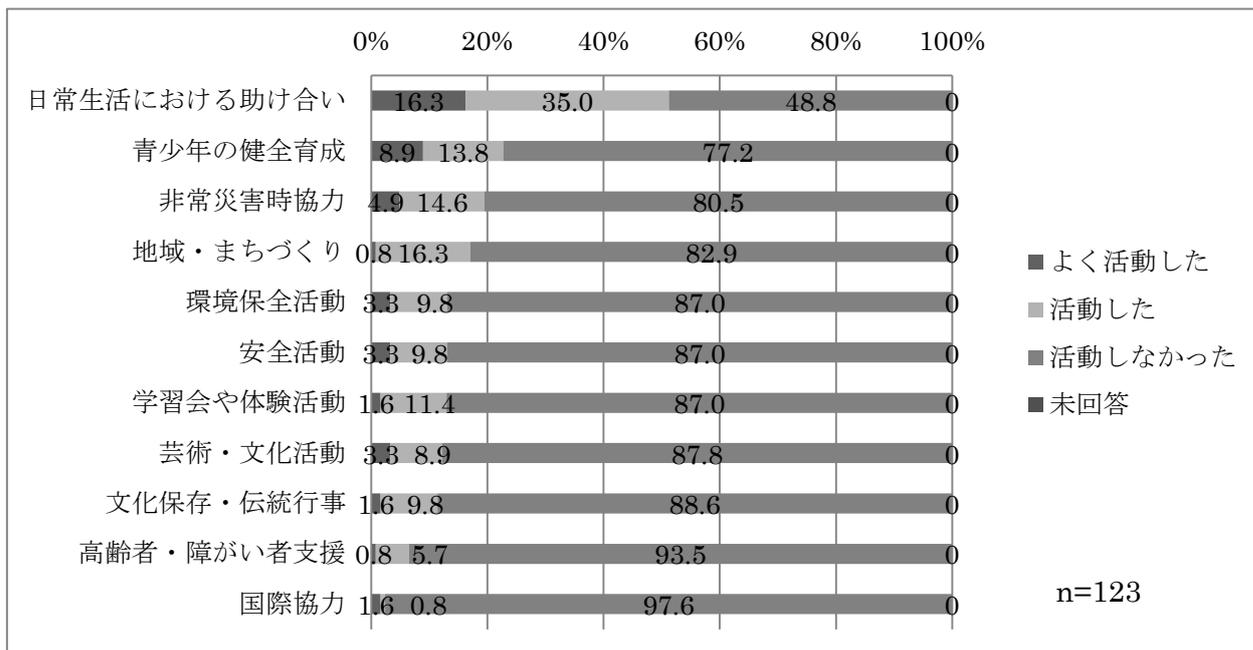


図 7.14.2 友人との活動【友縁】(県北)

「県北」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」51.3%で、それ以外の活動内容はどれも低い割合である。友縁による活動は、主に日常生活に関わることが中心になっている(図 7.14.2)。

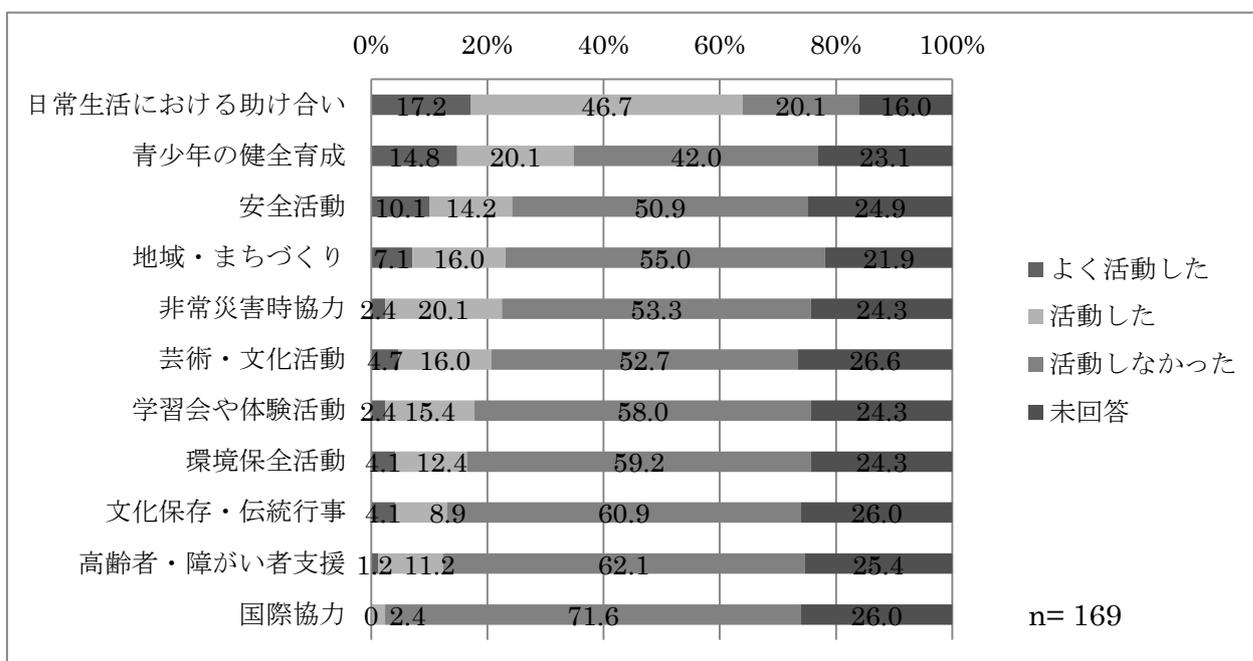


図 7.14.3 友人との活動【友縁】(鹿行)

「鹿行」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」63.9%、「青少年の健全育成に関する活動」34.9%で、それ以外の活動内容は、どれも低い割合である。友縁による活動としては、日常生活や子どもに関わることが中心となっている(図 7.14.3)。

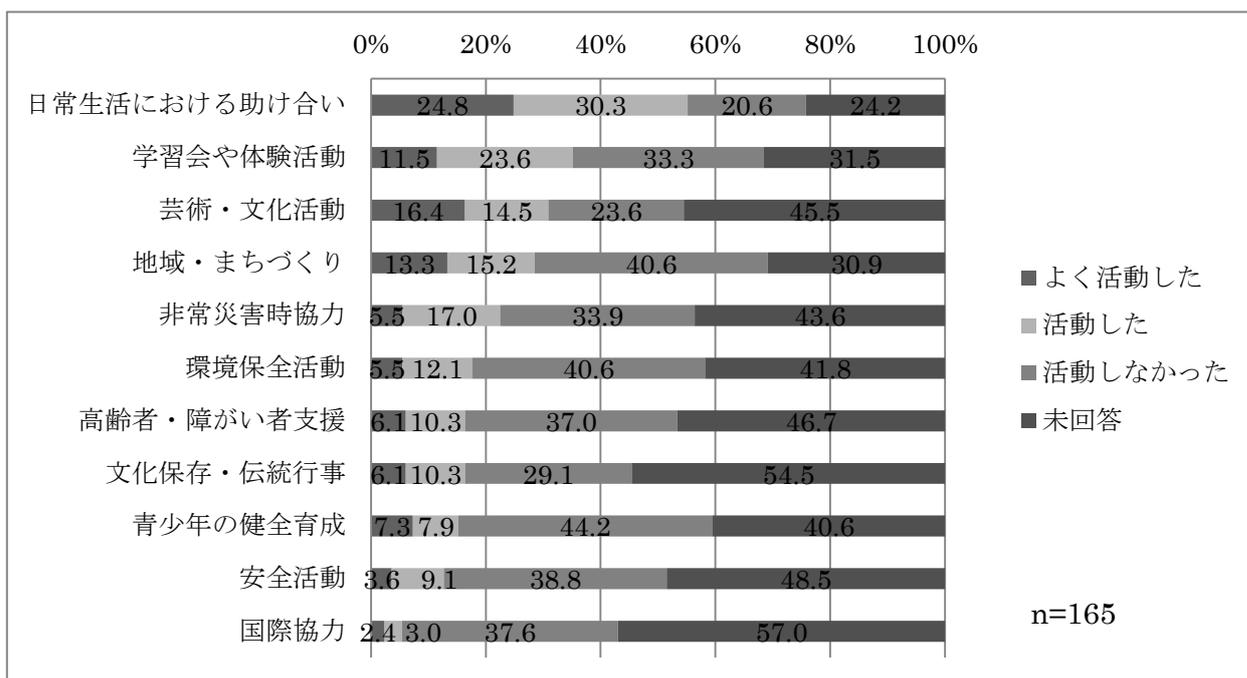


図 7.14.4 友人との活動【友縁】(県南)

「県南」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」55.1%で、他の地域と比べて高い割合を示している。次に、「学習会や体験活動」35.1%、「芸術、文化、スポーツに関する活動」30.9%で、日常生活以外に趣味や教養に関する活動も友人と行っていることが分かる(図 7.14.4)。

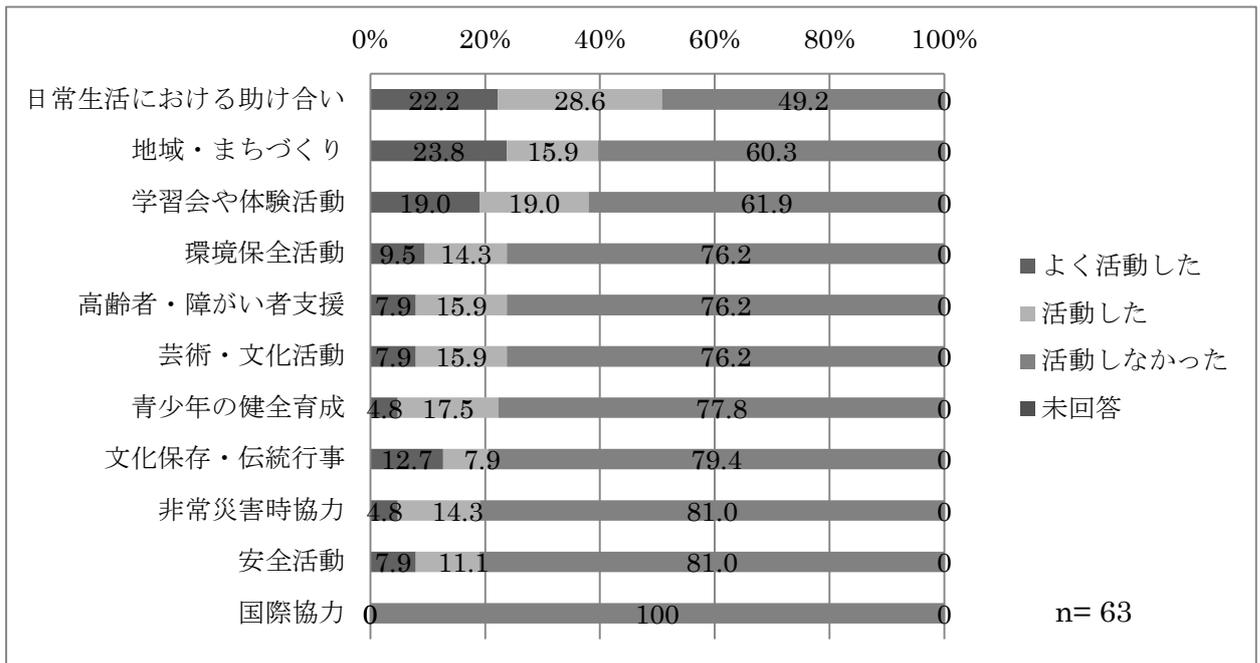
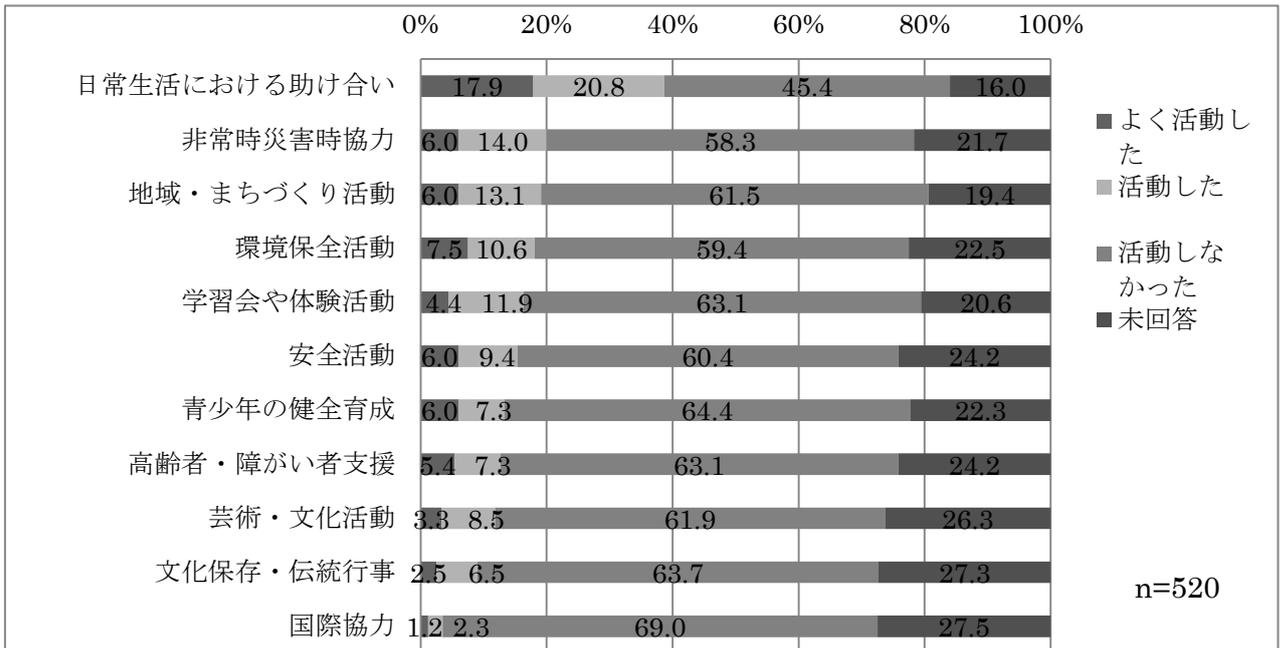


図 7.14.5 友人との活動【友縁】(県西)

「県西」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」50.8%、「地域・まちづくりに関する活動」39.7%、「学習会や体験活動」38.0%で、友人と日常生活や地域に関する活動を行っていることが分かる(図 7.14.5)。

エ 職場関係の活動【職縁】



7.15.1 職場関係による活動【職縁】(全体)

最も高いのが「日常生活における助け合い・支え合い活動」38.7%であるが、それ以外の活動内容は、全て低い割合である。他の縁別グラフと比較すると、「非常災害時に協力や支援をする活動」や「高齢者や障がい者の支援活動」等の割合はやや高くなっている(図7.15.1)。

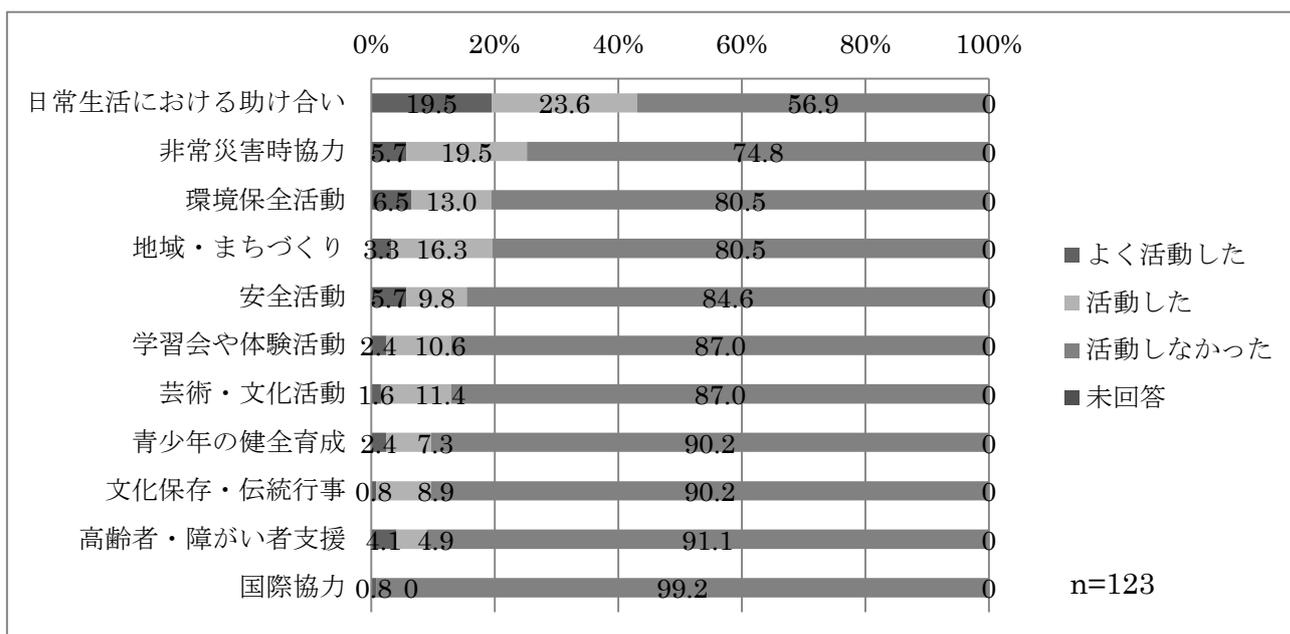


図 7.15.2 職場関係による活動【職縁】(県北)

「県北」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」43.1%で、それ以外の活動内容はどれも低い割合である。職場による活動としては、日常生活における助け合い活動が少し行われている(図 7.15.2)。

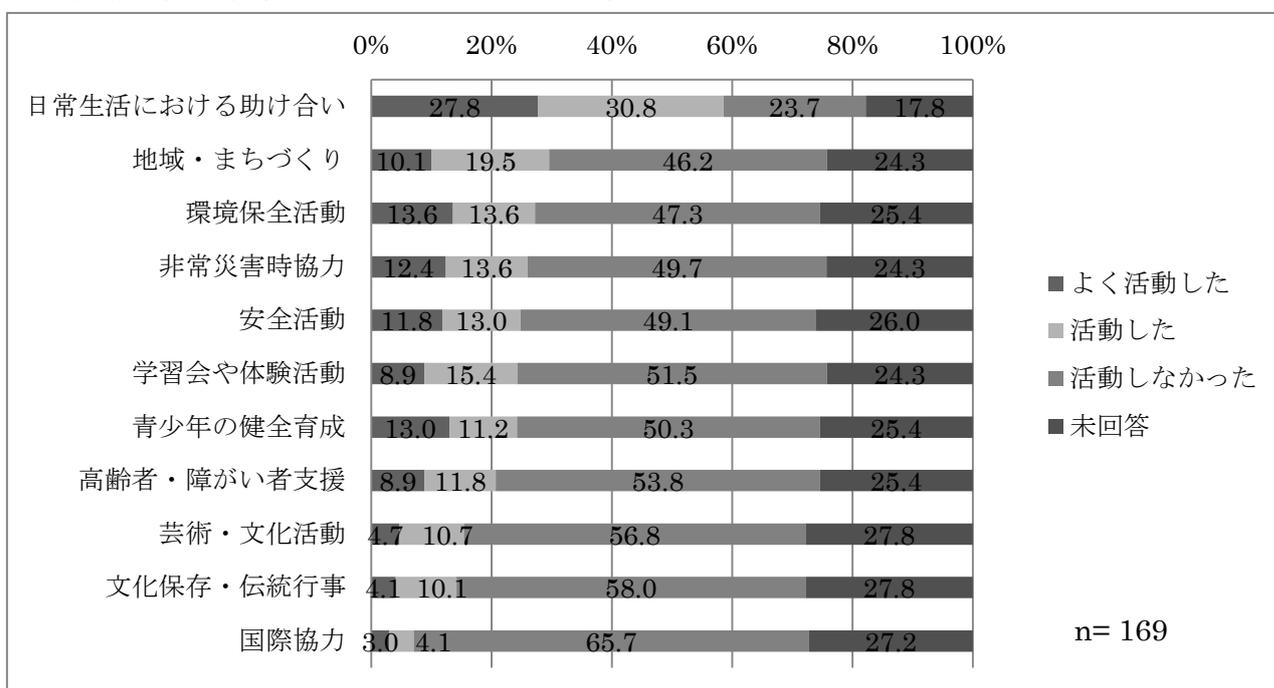


図 7.15.3 職場関係による活動【職縁】(鹿行)

「鹿行」地区は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」58.6%で、それ以外の活動内容はどれも低い割合であるが、全体的には、どの活動内容も他の地域よりも高くなっている。職縁による活動としては、日常生活や地域に関する内容に取り組みがみられる(図 7.15.3)。

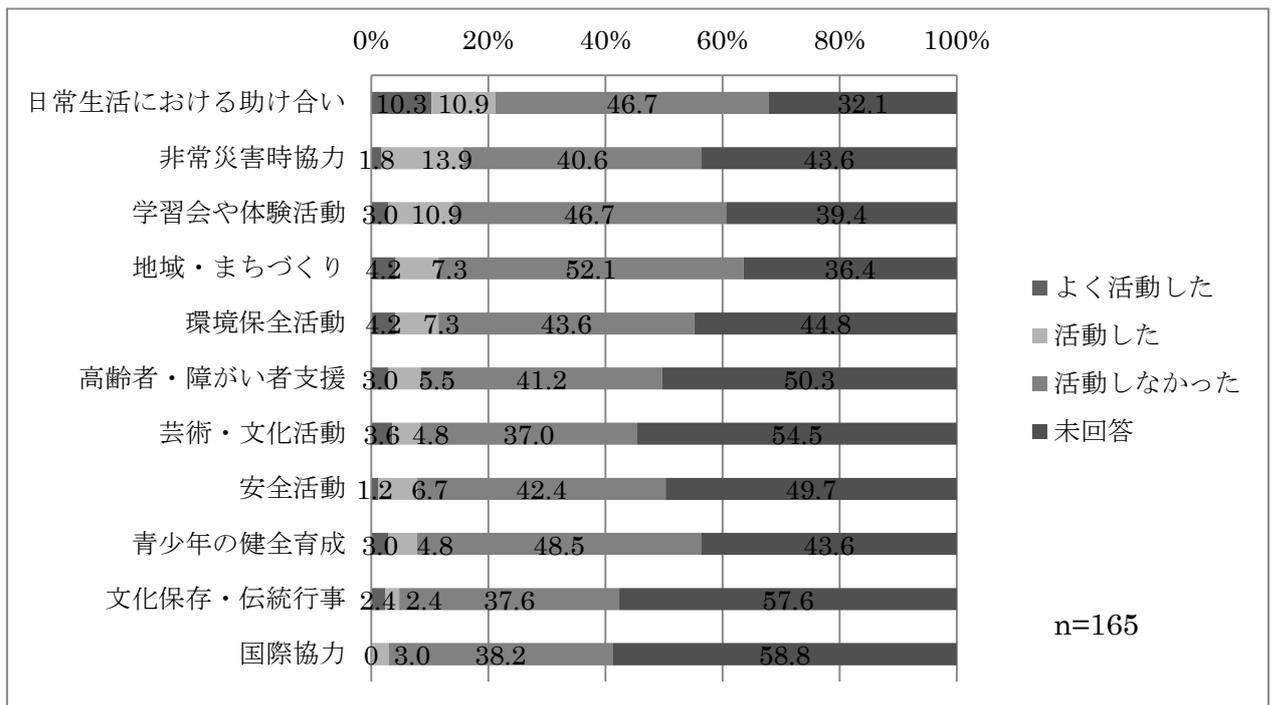


図 7.15.4 職場関係による活動【職縁】(県南)

「県南」地区は、全体的にどの活動内容も低い割合であり、職縁による活動をするとはあまりないと言える(図 7.15.4)。

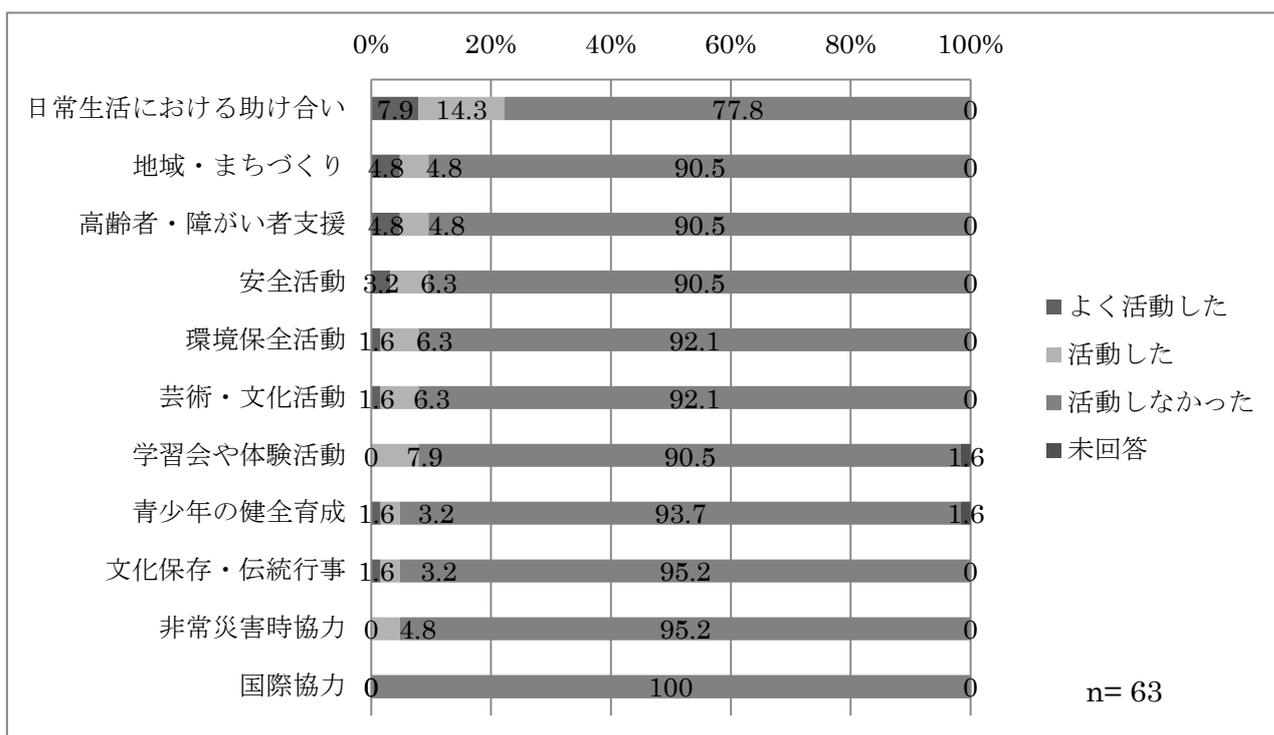


図 7.15.5 職場関係による活動【職縁】(県西)

「県西」地区は、全体的にどの活動内容も低い割合であり、職縁による活動をするとはあまりないと言える(図 7.15.5)。

5 考察

(1) 活動内容の実際

活動件数が顕著な①「日常生活における助け合い・支え合い活動」、②「地域・まちづくりに関する活動」、④「青少年の健全育成に関する活動」、⑥「環境の保全を図る活動」の4つの内容については、「性別」、「年代」、「家族構成」、「就業状況」、「居住年数」、「定住意向」について分析を行った。

ア 日常生活における助け合い・支え合い活動

全体でみると、家族や親戚に関わることが最も高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると約9割になる(図7.1.1)。

地域別でみると、どの地域も家族や親戚に関わることの割合が高く、「よく活動した」は「鹿行」68.6%、次に「県北」59.3%で、日常生活における助け合い・支え合い活動によく取り組んでいる。「県北」は、地域に関わるとは低いが、職場に関わることがやや高い。「鹿行」は、地域、友人よりも職場に関わることが「よく活動した」27.8%で高い。「県南」は、職場が非常に低く、他は比較的高い割合である。「県西」は、職場は低いが、地域に関わることの「よく活動した」38.1%で高い(図7.1.2)。

男女別でみると、男女共に家族や親戚に関わることの数値が高く、「よく活動した」は、男性48.2%、女性67.1%である(図7.1.3)。

年代別でみると、家族や親戚に関わることについては、どの年代においても高い割合を示している。中でも、「よく活動した」と回答している「30~40代」65.1%が最も高い(図7.1.4)。

家族構成別でみると、家族や親戚に関わるとは、「親と子(二世帯)」の「よく活動した」64.9%が最も高く、次に「三世帯」62.0%、「夫婦だけ(一世帯)」53.6%の順である。単身世帯からみていくと、二世帯、三世帯同居の方がよく活動できると言える(図7.1.5)。

就業状況別でみると、「仕事をしている」方が、家族や親戚に関わることの「よく活動した」62.5%、同様に、職場に関わること30.4%で全体的に割合がやや高く、よく活動していることが分かる(図7.1.6)。

居住年数別でみると、居住年数の長短に関わらずどの活動内容も、家族や親戚に関わることの割合が高く、「よく活動した」は約6割程になる。居住年数が長くなると、地域に関わることが高くなっていることが分かる(図7.1.7)。

定住意向別にみると、「住み続けたい」は、家族や親戚に関わること60.0%をはじめ、どの関わりも高い割合を示している(図7.1.8)。

イ 地域・まちづくりに関する活動

全体でみると、家族や親戚、地域に関わることの割合が高く、約4割から5割を占める(図7.2.1)。

地域別でみると、「県北」は、どの項目も低い。「鹿行」は、「県北」と同様に友人や職場に関わることの割合が低い。「県南」、「県西」は、地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」が約4割程になり、よく取り組んでいると言える。職場に関わるのが非常に低いが、年齢や就業状況が影響していると考えられる（図7.2.2）。

男女別にみると、地域に関わることは、男性の方が活動している割合が高く、「よく活動した」は30.8%である（図7.2.3）。

年代別にみると、「70代以上」の地域に関わることの「よく活動した」の割合が高く39.6%である。年代が高い方が地域に関わる活動を行っていることが分かる（図7.2.4）。

家族構成別にみると、「三世代」が家族や親戚、友人、職場に関わることの「よく活動した」の割合が他よりも高く、全体的なバランスがよい。（図7.2.5）。

就業状況別にみると、「仕事をしていない」方が、地域やまちづくりの活動に取り組んでいることが分かる（図7.2.6）。

居住年数別でみると、「21年～30年」の家族や親戚に関わることの「よく活動した」20.3%、同様に、地域に関わるのが32.8%で高い方である。「30年以上」は、他と比べるとどの関わりも割合が高く、居住年数が長いほど、地域やまちづくりの活動に参加していることが分かる（図7.2.7）。

定住意向別にみると、「住み続けたい」は、地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割を超える（図7.2.8）。

ウ 学習会や体験活動

中でも、地域に関わることは、「よく活動した」と「活動した」の割合を併せると約4割でやや高い（図7.3.1）。

地域別でみると、「県北」は、どの項目も非常に低い。「鹿行」は、友人に関わることは非常に低いが、他は「よく活動した」が1割程である。「県南」、「県西」は、地域に関わるのが高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割を超える。家族や親戚に関わることも、同様に見ると4割程になる。地域に関わりながら学習会や体験活動を行っていると言える（図7.3.2）。

エ 青少年の健全育成に関する活動

全体でみると、家族や親戚、地域に関わることは、どちらも「よく活動した」と「活動した」を併せて約5割になる（図7.4.1）。

地域別でみると、最も顕著なのは「鹿行」で、家族や親戚に関わることの「よく活動した」58.6%、地域に関わること39.6%である。青少年の健全育成に関する活動に積極的に取り組んでいると言える。他の地域は、

どの項目も2割に満たない。特に、友人と職場に関わることは、どの地域も低くなっている（図7.4.2）。

男女別にみると、「女性」はどの関わりも高い割合を示している。家族や親戚に関わることの「よく活動した」の割合が37.2%で、地域に関わることの割合も、「女性」は27.4%で、よく活動している（図7.4.3）。

年代別にみると、「30～40代」の家族や親戚に関わることの「よく活動した」が43.9%で最も高い。「50～60代」、「70代以上」は、地域に関わることの中で、青少年の健全育成に関わる活動に参加している（図7.4.4）。

家族構成別でみると、「三世代」の家族や親戚に関わることの「よく活動した」は44.2%、同様に地域に関わることは31.8%で高い（図7.4.5）。

就業状況別にみると、「仕事をしている」方が、どの関わりも割合が高い。家族や親戚に関わることの「よく活動した」は34.1%で、「活動した」と併せると約6割である（図7.4.6）。

居住年数別にみると、「5～10年」、「11～20年」、「21～30年」の家族や親戚に関わることの「よく活動した」と「活動した」を併せると、約5割に達する（図7.4.7）。

居住意向別にみると、「どちらでもよい」がどの関わりについても割合が高く、定住意向とは大きな関わりはないと言える（図7.4.8）。

オ 非常災害時に協力や支援をする活動

全体的に割合が低くなっている。「よく活動した」、「活動した」を併せても約2割から3割で、あまり取り組んでいないことが分かる（図7.5.1）。

地域別にみると、どの地域も全体的に低い割合で、「よく活動した」は2割に満たない。「活動した」まで併せると、「鹿行」、「県南」が家族や親戚に関わることの中で4割近く行っているが、「県北」、「県西」と大きな差はない。非常災害時に協力や支援をする活動に積極的に取り組んでいるとは言えない（図7.5.2）。

カ 環境保全活動

全体でみると、地域と関わるのが最も高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると約5割を超える。次に、家族や親戚に関わるのが高く、活動した割合を併せると約4割を超える（図7.6.1）。

地域別にみると、どの地域も、地域や家族や親戚に関わることの中で行っている。地域に関わることの「よく活動した」は、「県西」34.9%、「県南」28.5%、「県北」25.2%で、「活動した」と併せると、どの地域も5割を超える。環境の保全を図る活動は、どの地域においてもよく取り組んでいると言える（図7.6.2）。

男女別にみると、地域に関わることは、男性が「よく活動した」30.3%、

「活動した」29.7%で、併せると約6割になり、よく活動している(図7.6.3)。

年代別にみると、「30~40代」、「50~60代」、「70代以上」の地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると5割から6割になる。また、「30~40代」、「50~60代」は、家族や親戚に関わることも高い。(図7.6.4)。

家族構成別でみると、「夫婦だけ(一世代)」、「親と子(二世代)」、「三世代」の地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると、約6割になる。同様に、「親と子(二世代)」、「三世」の家族や親戚に関することも約5割になる(図7.6.5)。

就業状況別でみると、どちらも地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」、「活動した」を併せると5割を超える。「仕事をしている」、「仕事をしていない」に関わらず、よく活動していることが分かる(図7.6.6)

居住年数別にみると、居住年数の長短に関わらず、地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」、「活動した」を併せると、約5割から6割になる。特に、「21~30年」57.8%、「30年以上」58.3%でより高くなる。また、家族や親戚に関わることについても、それぞれ高い割合である(図7.6.7)。

定住意向別にみると、「住み続けたい」、「地域外に引っ越したい」に関わらず、地域、家族や親戚に関わることの割合が高い。中でも、「住み続けたい」の地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると約6割になる(図7.6.8)。

キ 安全を守る活動

家族や親戚・地域に関わることは、「よく活動した」と「活動した」を併せると、どちらも約4割で比較的高い(図7.7.1)。

地域別にみると、「鹿行」の家族や親戚に関わる活動の「よく活動した」と「活動した」を併せると、6割を超え、最も高い割合を示している。地域に関わる活動も同様にみると、5割を超えている。他の地域では、「県西」と「県南」の地域に関わることの割合が、3割から4割でやや高い。友人や職場に関わることは非常に低い(図7.7.2)。

ク 高齢者や障がい者の支援活動

どの関わりも、「よく活動した」と「活動した」を併せても3割に満たず、あまり取り組んでいないことが分かる(図7.8.1)。

地域別にみると、全体的にどの地域もそれほど高い割合ではない。中でも、「県南」の地域に関わることの「よく活動した」と「活動した」を併せると35.1%で、同様にみると、「県西」は34.9%である。高齢者や

障がい者の支援活動への取り組みは、まだそれほど行われていない
(図 7.8.2)

ケ 芸術、文化、スポーツに関する活動

地域に関わることが、「よく活動した」と「活動した」を併せると 34.2%、家族や親戚に関わることが 30.8%、友人に関わることが 22.3%で、地域、家族や親戚に関わることで行っていることが分かる(図 7.9.1)。

地域別にみると、「県西」の地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると 5割を超える。次に「県南」で 41.2%である。「県南」は友人に関わることの割合も 3割を超えている。「鹿行」や「県北」は、家族や親戚に関わることの方が地域に関わることよりも高い。

芸術、文化、スポーツに関する活動はそれぞれであり、年代や家族構成等で異なっていると考えられる(図 7.9.2)。

コ 文化の保存、伝統行事の継承活動

地域に関わることが最も多いが、「よく活動した」と「活動した」を併せると約 3割程である。家族や親戚、友人、職場に関わることのみでも非常に低い(図 7.10.1)。

地域別にみると、「県西」と「県南」の地域に関わることの割合が高く、「よく活動した」と「活動した」を併せると、「県西」46.0%、「県南」41.8%である。「鹿行」は、地域に関わることよりも家族や親戚に関わることの方がやや高く 3割程である。「鹿行」は三世同居という家族構成が影響していると言える。文化の保存、伝統行事の継承活動は、「県西」や「県南」の地域に関わることの中で行われている(図 7.10.2)。

サ 国際協力・在日外国人支援に関する活動

全ての関わりが同様に低い割合である(図 7.11.1)。

地域別にみると、どの地域においても非常に割合が低く、ほとんど行われていない。取り組みがみられるのは「鹿行」と「県南」である(図 7.11.2)。

(2) 4つの縁の実際

ア 家族や親戚に関わること【血縁】

どの活動内容も高い数値を示している。最も高いのが、「日常生活における話し合い」87.9%（「よく活動した」と「活動した」を合算。以下同様とする。）、続いて、「青少年の健全育成」46.5%、「環境保全活動」43.7%で、地域の活動がみられ、次の活動内容で趣味教養に関するものへと移行している(図 7.12.1)。

「県北」は、最も高いのが「日常生活における助け合い・支え合い活

動」89.4%で、次に「環境の保全を図る活動」46.3%、「青少年の健全育成に関する活動」39.8%の順である。日常生活や子どもに関する活動が多い（図7.12.2）。

「鹿行」は、上位の項目の割合が非常に高いのが特徴である。「日常生活における助け合い・支え合い活動」は92.9%、「青少年の健全育成に関する活動」79.3%、「安全を守る活動」66.3%である。「環境の保全を図る活動」や「地域・まちづくり」に関する活動等も4割を超えている。家族や親戚と子どもや地域に関する活動に取り組んでいることが分かる（図7.12.3）。

「県南」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」84.9%、「環境の保全を図る活動」40.0%で、「学習会や体験活動」39.4%が上位に挙げられている。また、「高齢者や障がい者の支援活動」が他の地域と比べてもやや高く、家族や親戚で取り組んでいることが分かる。以下の項目は、大きな差はみられない（図7.12.4）。

「県西」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」79.4%が最も高く、次に、「地域・まちづくりに関する活動」54.0%、「環境の保全を図る活動」39.7%である。家族や親戚と地域に関する活動を行っていることが分かる（図7.12.5）。

イ 地域に関わること【地縁】

最も高いのが「日常生活における助け合い」59.4%である。続いて、「環境保全活動」54.8%、「地域・まちづくり活動」49.4%、「青少年の健全育成」45.6%である（図7.13.1）。

「県北」は、「環境の保全を図る活動」54.5%、「日常生活における助け合い・支え合い活動」41.5%、「青少年の健全育成に関する活動」35.8%で、以下の項目は、どれも低い割合である（図7.13.2）。

「鹿行」は、「青少年の健全育成に関する活動」と「日常生活における助け合い・支え合い活動」がどちらも68.0%で高い。次に、「安全を守る活動」55.0%、「環境の保全を図る活動」50.8%で、地域の人たちと日常生活や子どもに関する活動によく取り組んでいることが分かる（図7.13.3）。

「県南」は、「地域・まちづくりに関する活動」と「日常における助け合い・支え合い活動」がどちらも60.0%、「環境の保全を図る活動」58.2%、「学習会や体験活動」54.5%で、地域の人たちと様々な活動によく取り組んでいると言える。どの活動においても「よく活動した」の割合が高く、積極的に参加していることが分かる。「青少年の健全育成に関する活動」の割合が低い（図7.13.4）。

「県西」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」69.8%、「地域・まちづくりに関する活動」68.3%、「学習会や体験活動」57.1%で、地域の人たちと日常生活や地域の様々な活動によく取り組んでいると

言える。

「非常災害時に協力や支援をする活動」の割合が低い（図 7.13.5）。

ウ 友人に関わること【友縁】

最も高いのが「日常生活における助け合い」56.5%，以下の活動内容は、かなり低い割合であるが、続いて、まちづくりや青少年の健全育成に関する活動内容と共に趣味教養に関する活動内容が挙げられている（図 7.14.1）。

「県北」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」51.3%で、以下の活動内容はどれも低い割合である。友人とは、主に日常生活に関わることで少し活動している（図 7.14.2）。

「鹿行」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」63.9%、「青少年の健全育成に関する活動」34.9%で、以下の活動内容はどれも低い割合である。友人とは、日常生活や子どもに関わることで少し活動している（図 7.14.3）。

「県南」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」55.1%で、他の地域と比べて高い割合を示している。次に、「学習会や体験活動」35.1%、「芸術、文化、スポーツに関する活動」30.9%で、日常生活以外に趣味や教養に関する活動も友人と行っていることが分かる（図 7.14.4）。

「県西」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」50.8%、「地域・まちづくりに関する活動」39.7%、「学習会や体験活動」38.0%で、友人と日常生活や地域に関する活動を行っていることが分かる（図 7.14.5）。

エ 職場に関わること【職縁】

最も高いのが「日常生活における助け合い」38.7%であるが、以下の活動内容は、全て同様に低い割合である（図 7.15.1）。

「県北」は、「日常における助け合い・支え合い活動」43.1%で、以下の活動内容はどれも低い割合である。職場の人とは、日常生活に関わることで少し活動している（図 7.15.2）。

「鹿行」は、「日常生活における助け合い・支え合い活動」58.6%で、以下の活動内容はどれも低い割合であるが、全体的には、どの活動内容も他の地域よりも高い。職場の人とは、日常生活や地域に関わることで少し活動している（図 7.15.3）。

「県南」は、全体的にどの活動内容も低い割合であり、職場の人と共に活動をすることはあまりないと言える（図 7.15.4）。

「県西」は、全体的にどの活動内容も低い割合であり、職場の人と共に活動をすることはあまりないと言える（図 7.15.5）。

4 資料

平成24年度生涯学習調査研究事業に係る 「活動人口」調査



平成24年〇月

〇〇地区の皆様へ

茨城県〇〇生涯学習センター所長（またはセンター長）

アンケート調査について

このアンケート調査は、茨城県内の5つの県生涯学習センターが茨城県教育委員会の委託を受けた生涯学習調査研究事業の一環として行うものです。

昨今、核家族化、一人世帯の増加、結婚に対する若者の意識の変化等、無縁社会が世代を超えて広がりを見せています。しかし、震災後、人と人との絆の大切さが叫ばれ、また、新しい公共を実現する上でも、地域などのコミュニティを通じたつながりはより大きな役割を担うものとなっています。

そこで、皆様方が家庭や地域、職場などで行っている様々な活動について調査をさせていただき、具体的な数値（1人あたりの活動数×定住人口＝活動人口）によって人と人とのつながりの強さを表すことを通して、今後のコミュニティの再生や地域のネットワーク形成などに役立てていきたいと考えております。

つきましては、お忙しいとは存じますが、趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、この調査結果は、統計的に処理しますので、この回答が外部に漏れたり、ご迷惑をおかけすることは決してありません。

【ご記入にあたってのお願い】

1 このアンケートは、1軒のお宅に1部ずつ配布させていただいております。
ご家族の中で代表1名の方（20歳以上の方）がご記入ください。
ご協力よろしくお願いいたします。

2 アンケートについてご不明な点などございましたら、担当までお問い合わせください。

平成24年度生涯学習調査研究事業に係る「活動人口」に関する調査

個人情報の取扱について

(目的) 平成24年度指定事業調査研究事業の資料

ご提供いただいた個人情報は、上記目的のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

あてはまる選択肢の記号を○で囲んでください。該当する選択肢がない場合は、その他の()内に具体的にご記入ください。

1 あなたの性別をお答えください。 n=520

- ア 男性 195(37.5%)
- イ 女性 325(62.5%)

2 あなたの満年齢に合う年代をお答えください。 n=520

- ア 10代~20代 15(2.9%)
- イ 30代~40代 269(51.7%)
- ウ 50代~60代 145(27.9%)
- エ 70歳以上 91(17.5%)

3 あなたの家族構成(同居している家族)をお答えください。 n=520

- ア 単身世帯 36(6.9%)
- イ 夫婦だけ(一世代) 97(18.7%)
- ウ 親と子(二世代) 242(46.5%)
- エ 親と子と孫(三世代) 129(24.8%)
- オ その他() 16(3.1%)

4 あなたは仕事をしていますか。 n=520

- ア 仕事をしている 293(56.3%)
- イ 仕事をしていない 227(43.7%)

5 あなたの現在の地域(市町村)での居住年数をお答えください。 n=520

- ア 5年未満 55(10.6%)
- イ 5~10年 94(18.1%)
- ウ 11~20年 113(21.7%)
- エ 21~30年 64(12.3%)
- オ 30年以上 194(37.3%)

6 あなたは現在住んでいる地域(市町村)に住み続けたいとお考えですか。 n=519 未回答1

- ア 住み続けたい 350(67.3%)
- イ どちらでもいい 144(27.7%)
- ウ 地域外に引っ越したい 25(4.8%)

7. あなたは過去1年間(平成23年4月から平成24年3月まで)に、日々の生活の中で、家族・地域・友人・職場等において 下記の活動をしましたか、あてはまるところに○印を付けてください。該当しないところは空欄で結構です。

※「よく活動した」・・・複数回または継続して活動した。「活動した」・・・1度でも活動している。また、「よく活動した」を2点、「活動した」を1点、「活動していない」を0点として合計の数を出してください。 n=520

活 動 内 容	ア 家族や親戚			イ 地域			ウ 友人			エ 職場		
	よく活動した 2	活動した 1	活動していない 0	よく活動した 2	活動した 1	活動していない 0	よく活動した2 1	活動した 1	活動していない 0	よく活動した 2	活動した 1	活動していない 0
① 日常生活における助け合い・支え合い活動 (家事, 育児, 介護, 慶弔事など)	312 (60.0%)	145 (27.9%)	18 (3.5%) 未回答 45 (8.7%)	105 (20.2%)	204 (39.2%)	151 (29.0%) 未回答 60 (11.5%)	104 (20.0%)	190 (36.5%)	159 (30.6%) 未回答 67 (12.9%)	93 (17.9%)	108 (20.8%)	236 (45.4%) 未回答 83 (16.0%)
② 地域・まちづくりに関する活動(商店街の活性化, 自治会, 町内会の役員など)	90 (17.3%)	109 (21.0%)	243 (46.7%) 未回答 78 (15.0%)	118 (22.7%)	139 (26.7%)	198 (38.1%) 未回答 65 (12.5%)	50 (9.6%)	82 (15.8%)	300 (57.7%) 未回答 88 (16.9%)	31 (6.0%)	68 (13.1%)	320 (61.5%) 未回答 101 (19.4%)
③ 学習会や体験活動(講座や講演会の企画や広報, PRなど)	62 (11.9%)	97 (18.7%)	282 (54.2%) 未回答 79 (15.2%)	93 (17.9%)	103 (19.8%)	241 (46.3%) 未回答 83 (16.0%)	37 (7.1%)	91 (17.5%)	299 (57.5%) 未回答 93 (17.9%)	23 (4.4%)	62 (11.9%)	328 (63.1%) 未回答 107 (20.6%)
④ 青少年の健全育成に関する活動(子ども会活, PTA活動, スポーツ少	142 (27.3%)	100 (19.2%)	201 (38.7%) 未回答 77 (14.8%)	118 (22.7%)	119 (22.9%)	198 (38.1%) 未回答 85 (16.3%)	51 (9.8%)	75 (14.4%)	288 (55.4%) 未回答 106 (20.4%)	31 (6.0%)	38 (7.3%)	335 (64.4%) 未回答 116 (22.3%)

年 団 活 動, 子育 て支援活 動など)												
⑤ 非常災害時 に協力や支 援をする活 動(災害救 済, 被災地支 援に関する 活動など)	62 (11.9%)	122 (23.5%)	243 (46.7%) 未回答 93 (17.9%)	42 (8.1%)	115 (22.1%)	266 (51.2%) 未回答 97 (18.7%)	22 (4.2%)	89 (17.1%)	296 (56.9%) 未回答 113 (21.7%)	31 (6.0%)	73 (14.0%)	303 (58.3%) 未回答 113 (21.7%)
⑥ 環境の保全 を図る活動 (地域清 掃, 花壇作 り, 森林ボ ランティア ア, 動物保 護など)	105 (20.2%)	123 (23.7%)	206 (39.6%) 未回答 86 (16.5%)	131 (25.2%)	154 (29.6%)	160 (30.8%) 未回答 75 (14.4%)	26 (5.0%)	62 (11.9%)	322 (61.9%) 未回答 110 (21.2%)	39 (7.5%)	55 (10.6%)	309 (59.4%) 未回答 117 (22.5%)
⑦ 安全を守る 活動 (消防団活 動, 自警団 活動, 地域 パトロー ル, 子どもの見守りな ど)	87 (16.7%)	113 (21.7%)	221 (42.5%) 未回答 99 (19.0%)	102 (19.6%)	98 (18.8%)	219 (42.1%) 未回答 101 (19.4%)	32 (6.2%)	58 (11.2%)	308 (59.2%) 未回答 122 (23.5%)	31 (6.0%)	49 (9.4%)	314 (60.4%) 未回答 126 (24.2%)
⑧ 高齢者や障 がい者の支 援活動(サ ロン活動の 支援, 見守 り・声かけ など)	54 (10.4%)	74 (14.2%)	285 (54.8%) 未回答 107 (20.6%)	47 (9.0%)	87 (16.7%)	282 (54.2%) 未回答 104 (20.0%)	18 (3.5%)	53 (10.2%)	329 (63.3%) 未回答 120 (23.1%)	28 (5.4%)	38 (7.3%)	328 (63.1%) 未回答 126 (24.2%)

⑨ 芸術、文化、スポーツに関する活動（少年団やサークルの指導者、世話役、役員など）	71 (13.7%)	89 (17.1%)	250 未回答 110 (21.2%)	87 (16.7%)	91 (17.5%)	239 未回答 103 (19.8%)	44 (8.5%)	72 (13.8%)	284 未回答 120 (23.1%)	17 (3.3%)	44 (8.5%)	322 未回答 137 (26.3%)
⑩ 文化の保存、伝統行事の継承活動（地域のお祭りなどの実行委員など）	54 (10.4%)	79 (15.2%)	271 未回答 116 (22.3%)	75 (14.4%)	94 (18.1%)	239 未回答 112 (21.5%)	27 (5.2%)	49 (9.4%)	310 未回答 134 (25.8%)	13 (2.5%)	34 (6.5%)	331 未回答 142 (27.3%)
⑪ 国際協力・在日外国人支援に関する活動（日本語教室の指導者、ホームステイの受け入れなど）	7 (1.3%)	11 (2.1%)	373 未回答 129 (24.8%)	5 (1.0%)	16 (3.1%)	360 未回答 139 (26.7%)	6 (1.2%)	10 (1.9%)	366 未回答 138 (26.5%)	6 (1.2%)	12 (2.3%)	359 未回答 143 (27.5%)

※ ア～サ以外にその他の活動などがあればお書きください。

・												
・												
・												
	アの合計			イの合計			ウの合計			エの合計		



総
数

8 この調査についてのご意見をご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。封筒に入れて切手を貼らずに投函してくださいますようお願いいたします。

※ 調査結果につきましては、平成25年4月から
「茨城の生涯学習」(<http://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/houkoku/tyousa.htm>)
よりご覧いただけます。(ダウンロード可)

第6章 今後の展開

1 モデルプログラム（コミュニティ版）の展開

各センターにおいてモデルプログラム（コミュニティ版）が開発され、それらを各センター区の第3次団体が展開していく。

各センターの役割は、これまでのモデルプログラム実践から得られた成果を整理（知識とスキルのファイリング）し、これをベースに、第3次団体が主体となり実践していくために以下のような環境整備に努める。

（1） 成果の整理

ア まちづくりや地域興しイベントの企画や運営方法、事業手法や評価をストックし、マニュアルとして整理する。

イ 事業で活躍した人や発掘・育成した人について“ひと”のデータベース化を進める。

ウ 地域の人材ネットワークの構築を図る。

（2） センター間での情報の共有化を推進

各センターのマニュアルやデータベースを活用し、知識や体験情報の交換を推進し、プログラムを実施するそれぞれのケースに対応できる人材や手法をコーディネートしていく機能の充実を図る。

（3） 第3次団体への支援

ア 第3次団体のモデルプログラムの進捗状況を確認し、適宜指導助言をする。

イ 第3次団体のモデルプログラムについて参考となる情報等を提供する。

ウ 第3次団体の数を増やす取り組みを充実させ、モデルプログラム（コミュニティ版）の広がりに努める。

水戸センターは、第3次団体を支援している各センターを支援するために、事業の方向性に対する確認や進捗状況を把握し事業拡大へ助言、併せて事業評価を踏まえた支援を実践する。

2 「活動人口」調査研究の展開

各センターは、モデルプログラム（コミュニティ版）を展開している対象地域において、地域住民の意識や行動様式にどのような変化が生じているかを平成24年度と比較するための調査を実施する。

水戸センターは、「活動人口」の算出に伴い、参考となるデータ収集のために、各センター実施とは異なる対象地域において、各センターと同一内容の調査を実施する。

3 新たな社会貢献の仕組みづくりの展開

平成24年度の調査研究事業により各センターは、「中間支援組織」としての実践を進め、それぞれの地域の特性に合ったセンター機能を発揮している。今後は、以下について機能強化に努めていきたい。

（1） 目的の明確化

ア 地域社会における人と人とのつながりに着目し、人材の発掘と育成に特

化した取り組みを推進する。

イ 人と人とのつながりが希薄になったコミュニティの補強と再生をめざし、地域の安全や安心を確保していく取り組みを推進する。

(2) 人材発掘と育成の手法

ア 小学校区を単位として、学校と地域社会との連携の仕組みのなかに地域を担う人材の発掘と育成するプログラムを取り入れる。

イ 講座やワークショップ、フォーラム等多彩なステージを用意し、より多くの地域住民とふれ合う機会を企画し、多種多様な考え方から地域課題や解決について、導き出す努力をする。

(3) 行政部門との連携

ア コミュニティーを支える人材に関わる事業についての理解と協力を、様々な行政セクションに訴え連携を図る。

イ 事業の目的が社会教育としての機能を重要視していることへの理解を促し、社会貢献は身近な活動であるとの通筋をつける。

以上を踏まえ、平成25年度のモデルプログラム(コミュニティ版)を、新たな知識とスキルを加え、無縁社会に立ち向かう、新たな社会貢献の仕組みづくりとして推進していきたい。

生涯学習調査研究委員会の委員構成

委員長	長谷川幸介	茨城大学准教授
委員	小林 長正	水戸市生涯学習課みと好文カレッジ所長
	小野瀬武康	NGO茨城の会事務局長
	増田 雅一	茨城県立水戸南高等学校教頭
	永井 泰子	茨城県県北生涯学習センター事業グループリーダー
	佐藤 利枝	茨城県県北生涯学習センターボランティアコーディネーター
	大和田政博	茨城県鹿行生涯学習センター社会教育主事
	風間奈保美	茨城県鹿行生涯学習センター生涯学習ボランティアコーディネーター
	松岡 祐美	茨城県県南生涯学習センター社会教育推進委員
	片山 妙子	茨城県県南生涯学習センター社会教育推進委員
	安達 利明	茨城県県西生涯学習センター生涯学習指導相談員
	稲葉かおり	茨城県県西生涯学習センター事業担当
	赤津 剛義	茨城県水戸生涯学習センター施設ボランティア
	澤田紀代子	茨城県水戸生涯学習センター施設ボランティア
	平塚 寿夫	茨城県水戸生涯学習センター企画振興課長
	篠崎 昌子	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	熊谷 智仁	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	田山 善堂	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	寺門 義典	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事
	伊藤まゆみ	茨城県水戸生涯学習センター生涯学習推進員

平成24年度 生涯学習調査研究事業

「無縁社会に立ち向かう」新たな社会貢献の仕組みづくり についての調査研究実践事例報告書

平成25年3月発行

編集・発行 茨城県水戸生涯学習センター

〒310-0011

茨城県水戸市三の丸1-5-38（茨城県三の丸庁舎3F）

TEL 029-228-1313

FAX 029-228-1633

URL <http://www.mito.gakusyu.ibk.ed.jp/>

E-mail gakusyu@gakusyu.ibaraki.ed.jp